(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和6年6月21日

千葉県知事

熊谷 俊人 殿

提出者 162-0822

住 所 東京都新宿区下宮比町2-1-5F

法人名 株式会社ガイアート 首都圏支店

代表者 筧 幹雄

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 03-5261-9311

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

	事業場の名称	株式会社ガイ	アート首都圏支	店 千葉県内作	業所		
	事業場の所在地	千葉県内					
	計画期間	令和6年	4月1日	から	令和7年3月31日		
当該	変事業場において現に行っ	っている事業に関	する事項				
	①事業の種類	大分類:	建設業	中分類:	総合工事業		
	②事業の規模	エリア内完成	工事高 400	百万円			
	③従業員数	エリア内 10	人				
	④産業廃棄物の 一連の処理の工程	汚泥 固化	ク類 破砕・圧				

(日本産業規格 A列4番)

産業	産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項 						
	(管理体制図)						
	別添						
産業	É廃棄物の排出の抑制	削に関する事項					
		【前年度(令和5年度)実統	責】				
		産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥			
		排出量	1461.72 t	33.6 t			
	①現状	(これまでに実施した取組					
		令和5年度においては、事業	業所毎に排出抑制計画を事	前に立案し、実施した。			
		【目標】					
		産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥			
		排出量	1000 t	30 t			
	②計画	(今後実施する予定の取組	()				
		工事の内容により、工法変低減を図るとともに事業所	更等を発注者と協議し出来	そる限り廃棄物の発生の マウェス			
		仏楓を凶るとともに尹未別	一番の併口抑制計画を事制に	- 丛条りる。			
産業	・ É廃棄物の分別に関す	トる事項					
		(分別している産業廃棄物	の種類及び分別に関する頃	· 文組)			
		令和5年度の工事は、がれる	き類他を直接中間処理場へ	搬出し再生資源化を図っ			
	①現状	た。					
		(今後分別する予定の産業層	 廃棄物の種類及び分別に関	 する取組)			
		工事により、建設混合廃棄	物が発生する可能性がある	るので、各種類ごとに分			
	②計画	別し、再生資源化工場へ搬	出し再生資源化させるよう) 教育及び指導する。			

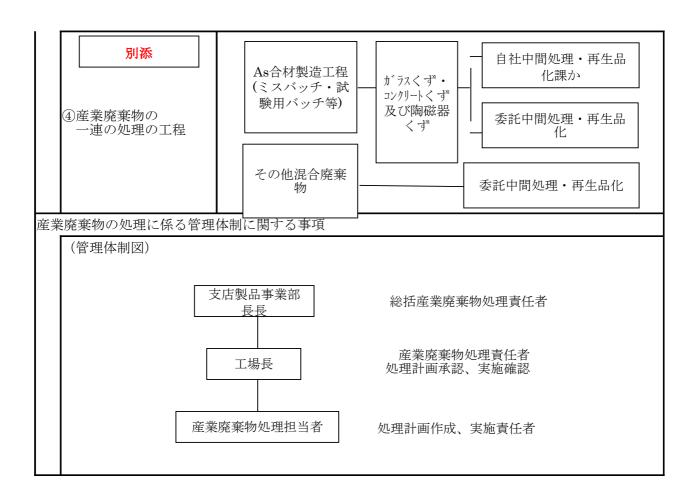
	っ行う産業廃棄物の再	F生利用に関する事項		
		【前年度(令和5年度)実績】		
		産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥
		自ら再生利用を行った産業廃棄 物の量	t	t
	①現状	(これまでに実施した取組)		
		【目標】		
		産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥
		自ら再生利用を行う産業廃棄物 の量	t	t
	②計画	(今後実施する予定の取組)		
白色	 たら	┃ ┣間処理に関する事項		
)	【前年度(令和5年度)実績】		
		産業廃棄物の種類	がれき類	 汚泥
		自ら熱回収を行った産業廃棄物 の量		
			t	t
		目り甲間処埋により減量した産	_	_
	①現状	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	①現状	第5年間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	①現状	業廃棄物の量	t	t
	①現状	業廃棄物の量	t	t
	①現状	業廃棄物の量	t	t
	①現状	業廃棄物の量 (これまでに実施した取組)	t がれき類	t 汚泥
	①現状	業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) 【目標】 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行う産業廃棄物の		
		業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) 【目標】 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行う産業廃棄物の 量 自ら中間処理により減量する産	がれき類	汚泥
	①現状 ②計画	業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) 【目標】 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行う産業廃棄物の 量	がれき類 t	汚泥 t
		業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) 【目標】 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行う産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	がれき類 t	汚泥 t
		業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) 【目標】 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行う産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	がれき類 t	汚泥 t

o仃り座兼廃果 「	物の埋立処分又は海洋投入処分に関す	- 3 事項	
	【前年度(令和5年度)実績】	<u>, </u>	
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥
	自ら埋立処分又は海洋投入処分 を行った産業廃棄物の量	t	1
①現状	(これまでに実施した取組)		
	【目標】 産業廃棄物の種類	 がれき類	
	生来用来物の種類 自ら埋立処分又は海洋投入処分 を行う産業廃棄物の量	ル・41 しさ 独 t	1776
②計画	を行う産業廃棄物の量 (今後実施する予定の取組)	· ·	
	の季託に関する事項		
 	の委託に関する事項		
英産乗物の処理	の委託に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥
廃棄物の処理	【前年度(令和5年度)実績】	がれき類 1461.72 t	
廃棄物の処理	【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への処理		33.6
を廃棄物の処理	【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 全 処 理 委 託 量 優良認定処理業者への処理 委託量 再生利用業者への処理委託	1461.72 t	33.6
	【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 全 処 理 委 託 量 優良認定処理業者への処理 委託量	1461.72 t	33.6
美廃棄物の処理 ①現状	【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 全 処 理 委 託 量 優良認定処理業者への処理 委託量 再生利用業者への処理委託 量 認定熱回収業者への処理委	1461.72 t t 1461.72 t	汚泥 33.6 m 33.6 m
	【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 全 処 理 委 託 量 優良認定処理業者への処理 委託量 再生利用業者への処理委託 量 認定熱回収業者への処理委託 記定熱回収業者以外の熱回 収を行う業者への処理委託	1461.72 t t 1461.72 t t	33.6

(第5面)

	【目標】	【目標】				
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥			
	全処理委託量	1000 t	30 t			
	優良認定処理業者への処理 委託量	t	t			
	再生利用業者への処理委託 量	1000 t	30 t			
②計画	認定熱回収業者への処理委 託量	t	t			
	認定熱回収業者以外の熱回 収を行う業者への処理委託 量	t	t			
	(今後実施する予定の取組)					
	工事の種別・内容により産業により再生利用業者(中間処今後も収集運搬・処理業者の正処理を確実に実施する。	廃棄物の発生種類・数量 理施設)への100%搬入る 登録業者及び新規登録業	等が増減されるが分別 を実施していく。 者の確認を徹底し、適			
※事務処理欄						

- 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 当該年度の6月30日までに提出すること。 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
- (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。 (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前 年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の 実績を記入すること。
- (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理
- の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行う に際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量
- した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当す
- が、その内級として、後民誌足処理業者、廃棄物の処理及び信捕に関する法律施刊や第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- ※欄は記入しないこと。



(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和6年6月21日

千葉県知事

熊谷 俊人 殿

提出者 162-0822

住 所 東京都新宿区下宮比町2-1-5F

法人名 株式会社ガイアート 首都圏支店

代表者 執行役員支店長 筧 幹雄

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 03-5261-9311

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

	事業場の名称	株式会社ガイアート首都圏支店 野田合材工場						
	事業場の所在地	千葉県野田市	目吹2498					
	計画期間	令和6年	4月1日		から	令和7年3	月31日	
当該	亥事業場において現に行っ	っている事業に関	する事項	Ĩ				
	①事業の種類	大分類:	製造	き業	中分類:	5油製品・	石炭製品製造業	
	②事業の規模	昨年度の製造は	出荷額	545,	400千円			
	③従業員数	10人						
		別添						
	④産業廃棄物の 一連の処理の工程							

(日本産業規格 A列4番)

産業	 芝廃棄物の処理に係	 る管理体制に関する事項					
·	(管理体制図)						
	別添						
産弟	芝廃棄物の排出の抑	制に関する事項 					
		【前年度(令和5年度)実	· · -				
		産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及 び陶磁器くず	その他混合 廃棄物			
		排出量	4263 t	2 t			
	①現状	(これまでに実施した取組	<u>.</u> 且)				
		ミスバッチ等の低減を図り)、搬出抑制をおこなってレ	いる。			
		【目標】	【目標】				
		産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁 器くず	その他混合 廃棄物			
		排出量	4000 t	0 t			
	②計画	(今後実施する予定の取組	且)				
			ウ、施設の点検・監視体制を	を強化してミスバッチ等			
		による搬出を抑制していく	、 o				
産弟	芝廃棄物の分別に関	する事項					
		(分別している産業廃棄物	かの種類及び分別に関する耳	文組)			
	①現状	廃棄物集積場への他物の指 の発生を防止した。	晃入を完全に防止し、100%	再生化を図り混合廃棄物			
	一	の発生を例正した。					
		(今後分別する予定の産業)	廃棄物の種類及び分別に関	する取組)			
	②計画 ②計画	廃棄物集積場への他物の温 尚 その他混合廃棄物が発	₹入を完全に防止する。 ₹生しないよう分別箱を設置	登している			
		间、 (*) 區民日					

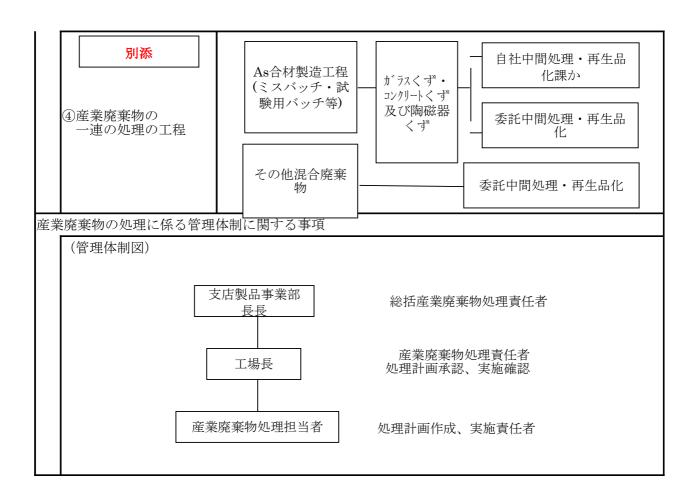
	【前年度(令和5年度)実統	績】	
	産業廃棄物の種類	が ラスくず・コンクリートくず及び陶磁 器くず	その他混合 廃棄物
	自ら再生利用を行った産業廃棄 物の量	900 t	0
①現状	(これまでに実施した取組	1)	
	出来る限り当社中間処理エ	工場へ搬出し、再生利用してい	いる。
	【目標】		
		ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁 器くず	その他混合 廃棄物
	自ら再生利用を行う産業廃棄物 の量	500 t	0
②計画	(今後実施する予定の取組	<u>l</u> .	
		・ 引工場へ搬入し、再生骨材の製	製造を行う。
■ ○行う産業廃棄	物の中間処理に関する事項 【前年度(令和5年度)実施	績】	
」 5行う産業廃棄 	物の中間処理に関する事項 【前年度(令和5年度)実施 産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁	その他混合 廃棄物
ら行う産業廃棄 -	【前年度(令和5年度)実統		その他混合 廃棄物
	【前年度(令和5年度)実施 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行った産業廃棄物	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁 器くず	その他混合 廃棄物
う行う産業廃棄 ①現状	【前年度(令和5年度)実施産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行った産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した産	が ラスくず・コンクリートくず及び陶磁 器くず t	その他混合 廃棄物
	【前年度(令和5年度)実施 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行った産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	が ラスくず・コンクリートくず及び陶磁 器くず t	その他混合 廃棄物
	【前年度(令和5年度)実施 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行った産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	が ラスくず・コンクリートくず及び陶磁 器くず t	その他混合 廃棄物
	【前年度(令和5年度)実施 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行った産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	が ラスくず・コンクリートくず及び陶磁 器くず t t	その他混合 廃棄物
	【前年度(令和5年度)実施産業廃棄物の種類自ら熱回収を行った産業廃棄物の量自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量(これまでに実施した取組工具を関する。	が ラスくず・コンクリートくず及び陶磁 器くず t	その他混合 廃棄物
	【前年度(令和5年度)実施産業廃棄物の種類自ら熱回収を行った産業廃棄物の量自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量(これまでに実施した取組を発棄物の量を業廃棄物の種類自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	が ラスくず・コンクリートくず及び陶磁 器くず t t	
	【前年度(令和5年度)実施産業廃棄物の種類自ら熱回収を行った産業廃棄物の量自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量(これまでに実施した取組を業廃棄物の種類自ら熱回収を行う産業廃棄物の	# jaxくず・コンクリートくず及び陶磁 器くず t t	その他混合 廃棄物
①現状	【前年度(令和5年度)実施産業廃棄物の種類自ら熱回収を行った産業廃棄物の量自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量(これまでに実施した取組産業廃棄物の種類自ら熱回収を行う産業廃棄物の量自ら中間処理により減量する産	が ラスく ず・コンクリートく ず及び陶磁 器くず t t	その他混合 廃棄物

	物の埋立処分又は海洋投入処分に	で関する事項	
ラロッ型水ル木	【前年度(令和5年度)実		
	産業廃棄物の種類	が ラスくず・コンクリートくず及び陶磁 器くず	その他混合 廃棄物
	自ら埋立処分又は海洋投入処分 を行った産業廃棄物の量	-	t
①現状	(これまでに実施した取約	且)	
	【目標】		
	産業廃棄物の種類	が ラスくず・コンクリートくず及び陶磁 器くず	その他混合 廃棄物
	自ら埋立処分又は海洋投入処分 を行う産業廃棄物の量	t	t
②計画	(今後実施する予定の取約	且)	
業廃棄物の処理	の禾��に関する東佰		
	【前年度(令和5年度)実	<u> </u>	
		績】 ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁 器くず	その他混合 廃棄物
	【前年度(令和5年度)実 産業廃棄物の種類 全処理委託量	カ [*] ラスくず・コンクリートくず及び陶磁 器くず 3363 t	その他混合 廃棄物 2 t
	【前年度(令和5年度)実産業廃棄物の種類全処理委託量	カ [*] ラスくず・コンクリートくず及び陶磁 器くず 3363 t	
	【前年度(令和5年度)実産業廃棄物の種類全処理委託量	カ [*] ラスくず・コンクリートくず及び陶磁 器くず 3363 t	2 t
①現状	【前年度(令和5年度)実産業廃棄物の種類全処理委託量 優良認定処理業者への処理委託量 再生利用業者への処理委託	か うスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	2 t t 2 t
①現状	【前年度(令和5年度)実産業廃棄物の種類全処理委託量 再生利用業者への処理委託量 認定熱回収業者への処理委託	カ [*] ラスくず・コンクリートくず及び陶磁 器くず 3363 t t t 3363 t	2 t
①現状	【前年度(令和5年度)実産業廃棄物の種類全処理委託量 優良認定処理業者への処理委託量 再生利用業者への処理委託量 認定熱回収業者への処理委託量 認定熱回収業者への処理委託	カ [*] ラスくず・コンクリートくず及び陶磁 器くず 3363 t t t t t	2 t t 2 t

(第5面)

	【目標】				
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁 器くず	その他混合 廃棄物		
	全処理委託量	3500 t	0 t		
	優良認定処理業者への処理 委託量	t	t		
	再生利用業者への処理委託 量	3500 t	0 t		
②計画	認定熱回収業者への処理委 託量	t	t		
	認定熱回収業者以外の熱回 収を行う業者への処理委託 量	t	t		
	(今後実施する予定の取組)				
	収集運搬業者・処理施設 (度工場責任者又は担当者が 及び要員に対し年次教育を	(中間処理工場) は、支店登 現地等確認し、適正処理を 実施する。	録業者であると共に都 実施すると共に担当者		
※事務処理欄					

- 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 当該年度の6月30日までに提出すること。 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
- (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。 (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前 年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の 実績を記入すること。
- (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理
- の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行う に際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量
- した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当す
- が、その内級として、後民誌足処理業者、廃棄物の処理及び信捕に関する法律施刊や第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- ※欄は記入しないこと。



(第1面)

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和6年6月19日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

提出者 162-0822

住所 東京都新宿区下宮比町2-1-5F

法人名株式会社ガイアート首都圏支店

代表者 筧 幹雄

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 03-5261-9311

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和 5 年度の産業廃棄 物処理計画の実施状況を報告します。

事	:業場の名称	株式会社ガイアート首都圏支店 野田合材工場					
事	「業場の所在地 「業場の所を地	千葉県野田市目の	·····································				
事	事業の種類	大分類 製造	造業 中分類 若流	由製品•石炭製品製造			
	廃棄物処理計画にお 計画期間	令和5年4月1日	から	令和6年3月31日			
産	業廃棄物処理計画にお	おける目標値					
	項目	目標値	項目	目標値			
	排出量	4200 t	全処理委託量	3600 t			
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	600 t	優良認定処理業者 への処理委託量	0 t			
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	再生利用業者への 処理委託量	3600 t			
	自ら中間処理により減 量する産業廃棄物の 量	0 t	認定熱回収業者へ の処理委託量	0 t			
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	認定熱回収業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0 t			

(日本産業規格 A列4番)

N0.1 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: ガラス・コンクリート・**陶磁器**くず)

	有償	物量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量		8自ら中間処理した後再生 利用した量	
等				900.0 t	
星星	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
	4263.0t				
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	⑫ ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	4263.0 t	900.0 t	900.0 t		3363.0 t
②+⑧自ら再生利用 を行った量	900.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			3363.0 t	
⑩全処理委託量	3363.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
⑩優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
⑩再生利用業者への 処理委託量	3363.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
④熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t				

N0.2 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: その他混合廃棄物)

	有償物	勿量	
不要物等発生量	1481	②自ら直接再生利 用した量	⑧自ら中間処理した後再生 利用した量
量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量	
	2.0t	(6) 自己	9自ら中間処理した後自ら ② ⑩のうち再生 初田業者 2 の加
項目	実績値	④自ら中間処理した した後	短い 単立処分又は 利用業者への処 海洋投入処分した量 理委託量 理委託量
①排出量	2.0 t		2.0 t
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t		
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t		ら中間処理 減量した量 切のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t ⑩直接及び自ら中間処理した後の処理委託量
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t		2.0 t
⑩全処理委託量	2.0 t		● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●
⑩優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t		業者への処理委 託量
⑫再生利用業者への 処理委託量	2.0 t		① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t		
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t		

N0.3 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生利用した量	
生 量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回収認定業者への処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う
⑩優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
^⑬ 熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				_

N0.4 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

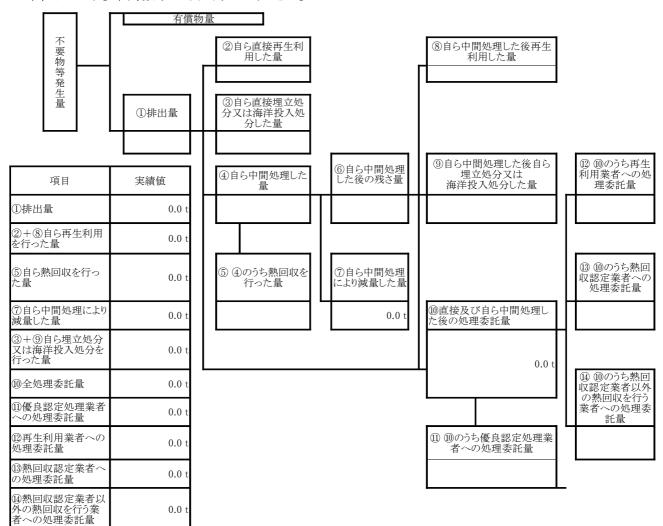
	有償物	勿量			
不要物		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
不要物等発生量					
量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
<u> </u>					
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				⑭ ⑩のうち熱回 収認定業者以外 の熱回収を行う
⑩優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				

N0.5 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)



N0.6 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
^⑬ 熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				

N0.7 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
⑫再生利用業者への 処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
^⑬ 熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				

N0.8 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
⑫再生利用業者への 処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
^⑬ 熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				

N0.9 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

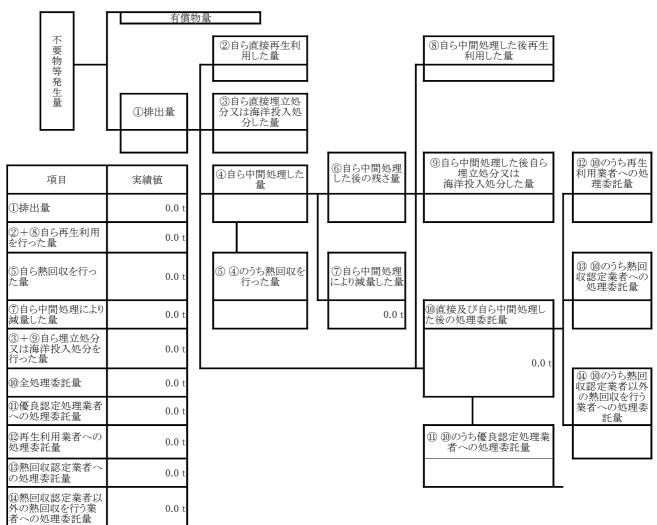
	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
⑫再生利用業者への 処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
^⑬ 熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				

N0.10 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

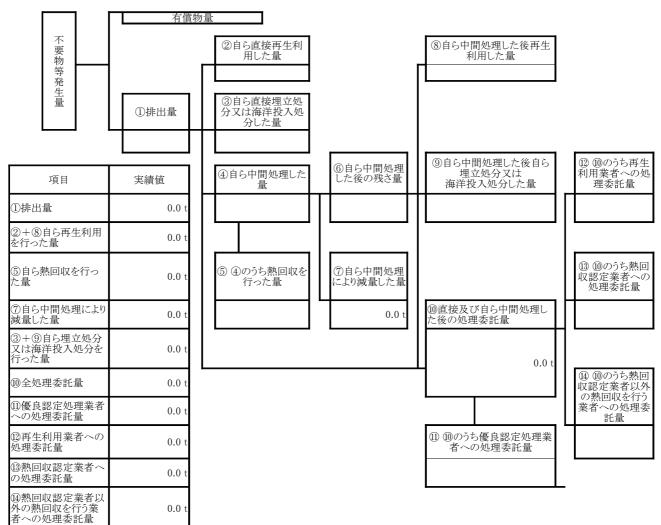


N0.11 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

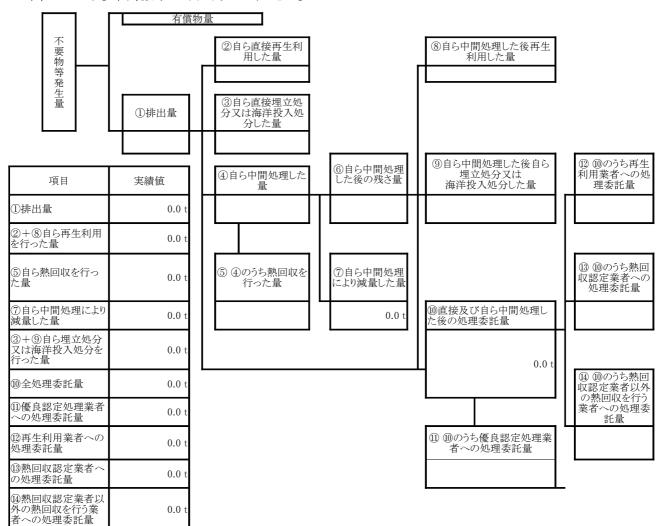


N0.12 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)



N0.13 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

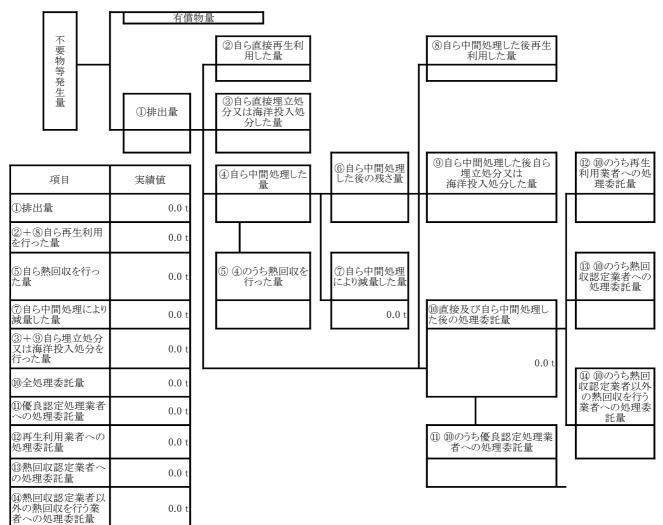
	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
· 発生 生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+8自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				-

N0.14 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

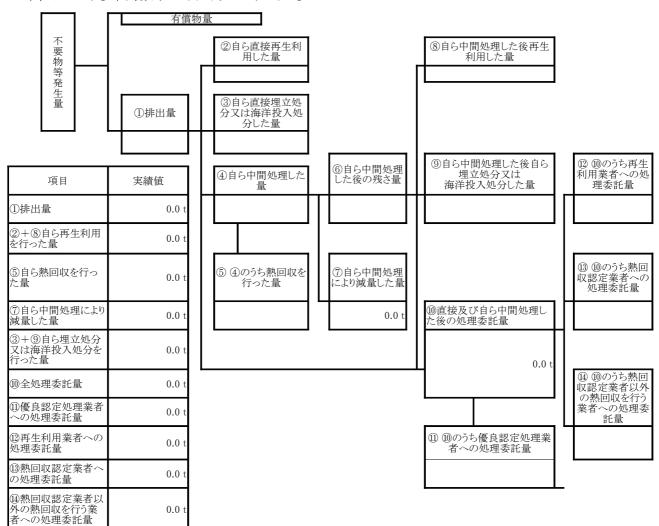


N0.15 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

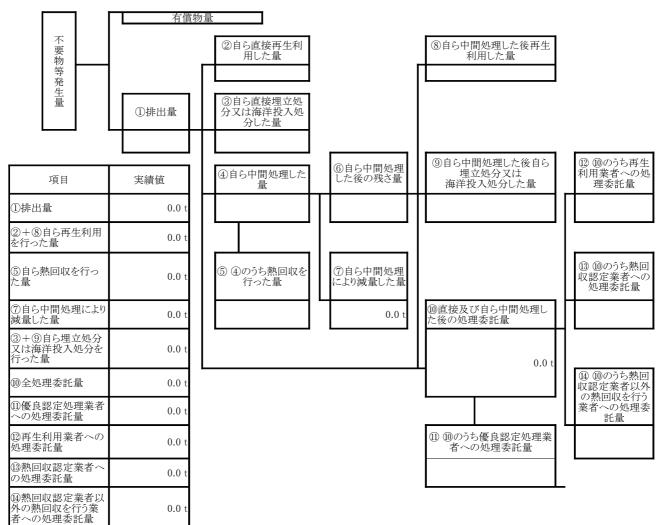


N0.16 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)



N0.17 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

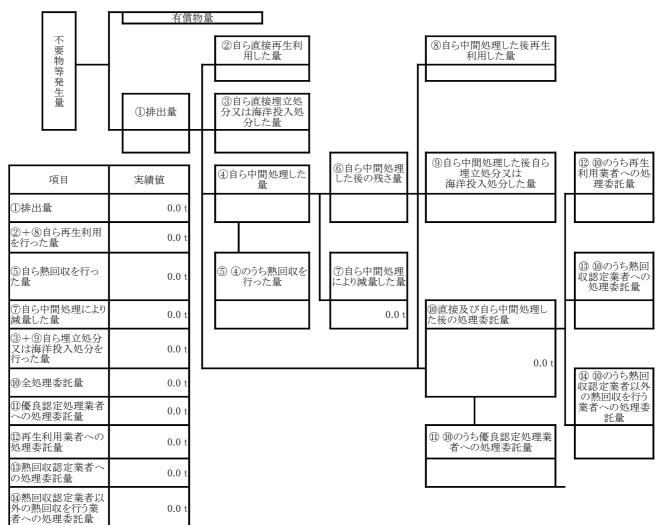
	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
姓 生 量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外 の熱回収を行う
①優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				-

N0.18 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

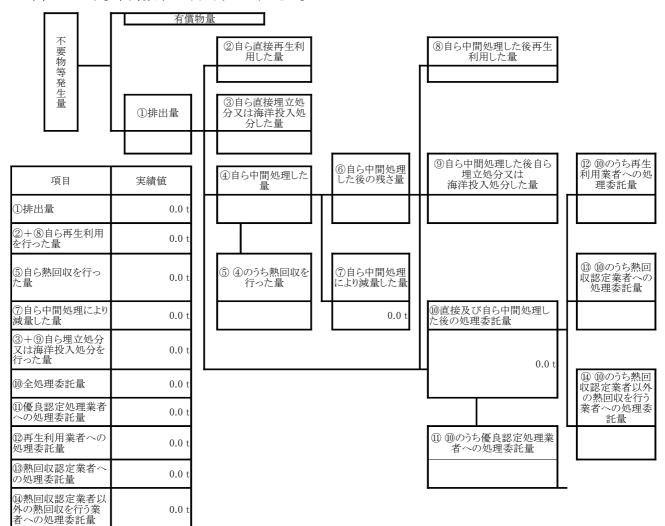


N0.19 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)



N0.20 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利用した量		⑧自ら中間処理した後再生利用した量	
星	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				

備考

- 翌年度の6月30日までに提出すること。 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物処理に関して、①~⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入する
- (1)
- (2)
- ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量 (3)
- ④欄(1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量 (4)
- (4)の量のうち、熱回収を行った量 (5)⑤欄
- (6)⑥欄 自ら中間処理をした後の量
- (4)の量から(6)の量を差し引いた量 ⑦欄 (7)
- ⑧欄(6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量 ⑨欄(6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量 (8)
- (9)
- (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量 (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に 該当する者)への処理委託量
- (12) ⑫欄(10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量 (13) ⑬欄(10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の 認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量

- 配定を支げた有りてめるた理来有、シルベルで生安に重 (14) ඛ欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実 施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和6年 6月5日

千葉県知事

熊谷 俊人

殿



提出者 〒272-0011

住 所 千葉県市川市高谷新町3番地

氏 名 ガルバテックス株式会社

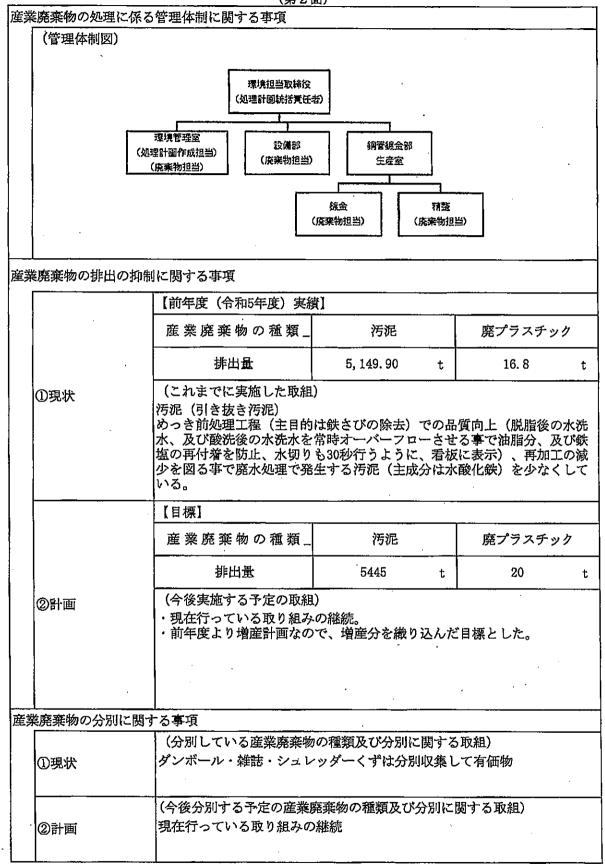
代表取締役社長 金子 智弘

電話番号 047-328-1171

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その 処理に関する計画を作成したので、提出します。

	事	 業 場	ま の	名			ガルバテックス株式会社 高谷工場
		 柴 場					千葉県 市川市 高谷新町3番地
-	計	画		期	間		令和6年4月1日から令和7年3月31日まで
当該	亥事	業場に	こおり	ハて	現に	行つ	ている事業に関する事項
	①	事	業	の	種	類	E24-金属製品製造業
	2	事	業	の	規	模	前年度の製造品出荷額 18.38億円
	3	— 従	3	类	員	数	155人
	4	産一連	業り	究 到	乗物	の発	別紙1参照

(日本産業規格 A列4番)



ら行う産業廃棄物	物の再生利用に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】			<u> </u>	
		>>==>		廃プラスチッ	
	産業廃棄物の種類」	汚泥		焼ノノヘノン	-
	自ら再生利用を行った 産 業 廃 棄 物 の 量	0	t	0	t
①現状	(これまでに実施した取組)				
				,	
	【目標】		-		
	産業廃棄物の種類_	汚泥	`	廃プラスチ	ック
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0	t	0	t
②計画	(今後実施する予定の取組)		,		
と 4つと 対応性 (協議)	 物の中間処理に関する 事 項	1			
り11 7 座来廃来	【前年度(令和5年度)実績】				
	産業廃棄物の種類」	 汚泥		廃プラスチ	ック
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0	t	0	t
①現状	自ら中間処理により波量した 遊業廃棄物の量	4, 425. 6	t	0	1
,	(これまでに実施した取組)				
	脱水機の脱水フィルターの定 脱水機の保守・点検	期的洗浄			
	יייייייייייייייייייייייייייייייייייייי				
	【目標】		· · · · · ·		
	産業廃棄物の種類_	汚泥		廃プラスチ	ック
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	. 0	t	0	
②計画	自ら中間処理により減量する 産 業 廃 棄 物 の 量	4, 675	t.	0	
	(今後実施する予定の取組)	,			
	脱水機の脱水フィルターの気	と期的洗浄の継紙	売		
	脱水機の劣化部品の更新、神	菲修			

.

				·		•
	(第4面)				-	
自ら行う産業廃棄物	の埋立処分又は海洋投入処分に関す	する事項				
	【前年度(令和5年度)実績】			-		
	産業廃棄物の種類」	汚泥	İ	廃プラスチッ	ック	
	自 ら 埋 立 処 分 又 は 海洋投入処分を行った 産 業 廃 棄 物 の 量	0	t	0	t	
①現状	(これまでに実施した取組) これまでに、自社で埋立処分割	または海洋投入	処分を行	 jったことはない	,	
						•
	【目標】					•
	産業廃棄物の種類	汚泥	.	廃プラスチッ	10	
②計画	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0	t	0	, t	
産業廃棄物の処理の	委託に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】					
	産業廃棄物の種類」	汚泥		廃プラスチッ	ック	
	全処理委託量_	724. 3	t	16. 8	t	
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	724. 3	t	16. 8	t	
	再生利用業者への	•		. 0	t	
	処 理 委 託 虽	0	t			
①現状	認定熱回収業者への 処理 委託 量	0	t	0	t	
①現状	認定熱回収業者への	·		,		
①現状	認定熱回収業者への 処理 委託 量 認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への	0	t	0	t	

(第5面)

	(現る阻)		
	【目標】		
	産業廃棄物の種類_	汚泥	廃プラスチック
	全処理委託量_	770 t	20 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	770 t	20 t
	再生利用業者への 処理 委託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理 委託 量	0 t	0 t
②計画	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理 委託 量	0 t	0 t
() () () () () () () () () ()	(今後実施する予定の取組) 現在行っている取り組みの継	続実施	
			· ·
		•	
			•
※事務処理欄			,

備考

- 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入するこ Ł.

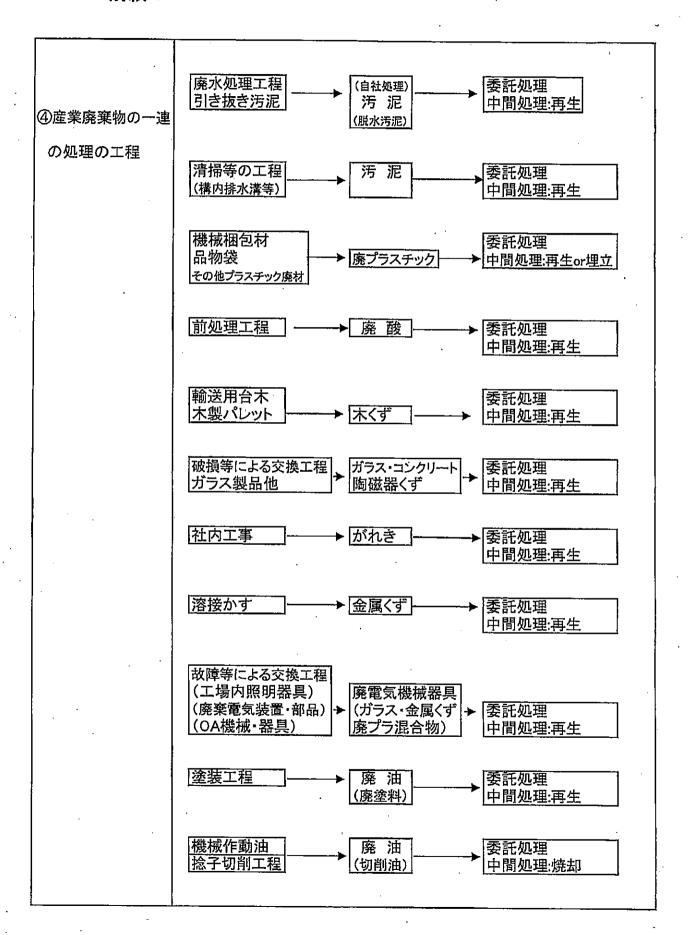
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。 (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元諸 完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ 事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するま -連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中 間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間 処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収 施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)であ る処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者へ の焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のと おり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の 種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入 すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないとき は、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

						·				
業廃棄物(の排出の抑制に関する事									
	【前年度(令和5年度)					T	· -	···		
①現状	産業廃棄物の種類	木くず 	がラス・コンクリート・胸壁器くず	金属くず	廃油 ————	度取気機械数具は「53くす・会員 くず・夏ブラの配合物」	がれき 	廃酸		
	排出量	4.5 t	0.1 t	0 t	0 t	1 t	0 t	0.1	t	· t
	【目標】		 			広中が出場90円 (V-51/)* . A.E.				
②計画	産業廃棄物の種類	・木くず 	ガラス・コンクタート・胸磁器くず	金属くず	廃油 ————————————————————————————————————	応載気温を設具(3°73くず・金属 くず・成プラの混合物)	がれき	廃 酸		
	排出量	5 t	1 t	0 t	3 t	2 t	5 t	0-1	t	- t
ら行う産乳	を廃棄物の再生利用に限 【前年度(令和5年度)							<u></u>		
0.7.15	産業廃棄物の種類	<u>- 大阪 1</u> - 木くず	カ*ラス・コンタタート・胸斑器くず	金属くず・	廃油	死亡気権被疑兵(3*5xくず・金属 くず・死プラの混合物)	がれき	廃酸		 -
①現状	自ら再生利用を行った	0 t	0 t	0 t	0 t		0 t		t	t
	産業廃棄物の量 【目標】							0		
②計画	産業廃棄物の種類	木くず	カ゚ラス・コンナタート・胸証器くず	金属くず	廃油	度電気機能雑具(3・3スペナ・金属 ペオ・森ブラの混合物)	がれき	廃骸		
(A) 11 Eq.	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t'	0	t	t
ら行う産業	業廃棄物の中間処理に関									
	【前年度(令和5年度)					京の反映地域の (パミッノン・人間)			- 1	· <u>-</u>
	産業廃棄物の種類	木くず 	ガラス・コンタリート・胸磁器くず	金属くず	廃油 ———	皮型気液量が手具(3°5xくず・金馬 くで・飛ブラの混合物)	がれき	廃政_		
①現状	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0	t ·	t
	自5中間処理により減量した 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	v	t	·t
	【目標】									
	産業廃棄物の種類	木くず	カ゚ラス・コンクタート・胸証数くず	金属くず	廃油	売電気機械雑具(5*5xくず・金馬 くず・成プラの統合物)	がれき	麂酸		
②計画	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0	t	t
ŀ	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	D	t	t
<u> </u>	屋 未泥水 III						-		•	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •
		•			•	•			ě	
					•				•.•	

ら行う産業	英廃棄物の埋立処分又(は海洋投入処分	こ関する事項							
	【前年度(令和5年度)実績】					· .			
①現状	産業廃棄物の種類	木くず	ガラス・コンクサート・胸症器くず	金属くず	廃油	京電気機械器具(**)53くず・食馬 くず・腕ブラの混合物)	がれき	廃廃		
(D-504)	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0	t	
	【目標】									
②計画	産業廃棄物の種類	木くず	カ*ラス・コンクリート・胸磁器くず	金属くず	. 廃油	展電気機械器具(#*ラスくず・食具 くず・夏ブラの混合物)	がれき	廃廠		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の貴	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0	t	رين
类廃棄物の	の処理の委託に関する		_ .							
	【前年度(令和5年度		· · ·			I	<u> </u>	_		
	産業廃棄物の種類	木くず	ガラス、コンクタート・胸磁器くず*	金属くず	廃油 ———	良電気機能製具は"5以くず・金属 くず・度ブラの混合物)	がれき	廃酸		· .
	全処理委託量	4.5 t	.0.1 t	0 t	0 t	1 t	0 t	0-/	t	_
Dec.11	使成認定処理業者への 処理委託量	4.5 t	0.1 t	0 t	0 t	1 t	. 0 t	0-1	t	•
①現状	再生利用業者への 処理委託 量	0 t	0 t	0 t	. 0 t	0 t	0 t	. 0	t	
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0	t	
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0	t	
_	【目標】				· · ·	· -				
	産業廃棄物の種類	木くず	ガラス・コンクサート・胸磁器くず	金属くず	廃油	京和知識被罪其(1*734くず・金馬 くず・変プラの混合物)	がれき	廃骸		
	全処理委託量	5 t	1 t	0 t	3 t	2 t	. 5 t	0-1	t	
केश सम	優良器定処理業者への 処理委託量	5 t	1 t	0 t	3 t	2 t	5 t	0-1	t	
②計画	再生利用業者への 処理委託量	0 t	. 0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0	t	•
	部定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0	t	
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0	t	

.

•



産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和 6年 6月10日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿



提出者

住 所 千葉県市川市高谷新町3番地 氏 名 ガルバテックス株式会社 代表取締役社長 金子 智弘 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 047-328-1171

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和8年度の産業廃棄物

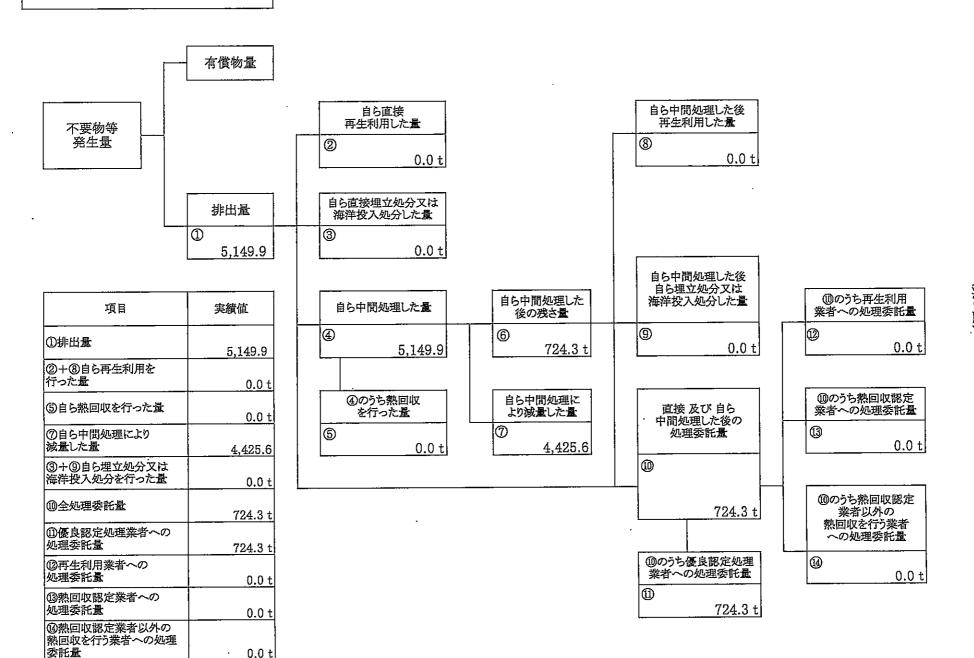
処理計画の実施状況を報告します。

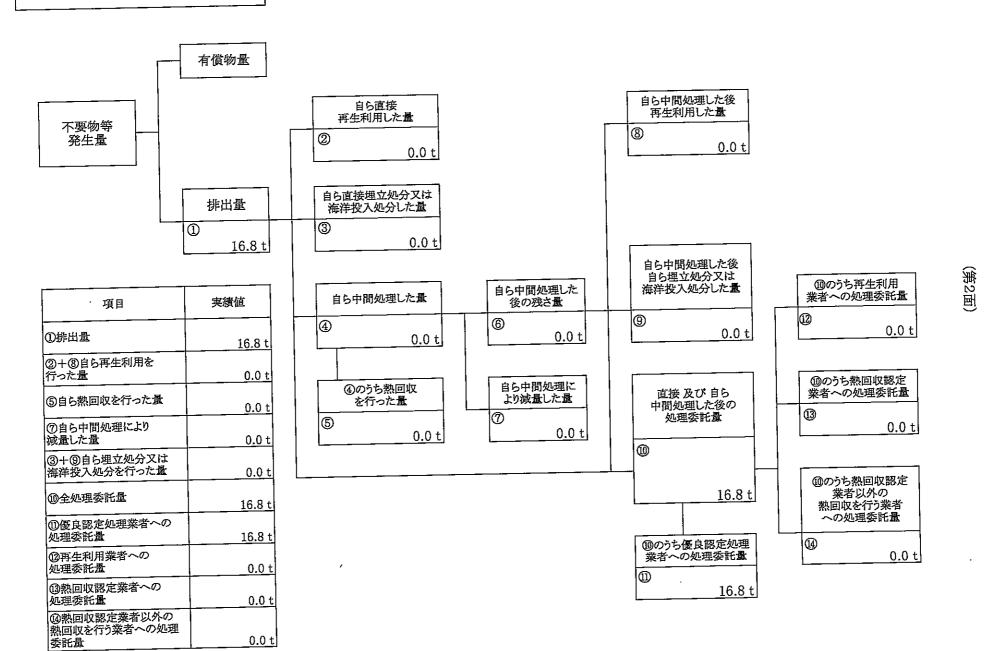
事業場の名称	ガルバテックス株式会社 高谷工場
事業場の所在地	千葉県市川市高谷新町3番地
事業の種類	大分類:製造業 中分類:金属製品製造業
産業廃棄物処理計画における 計 画 期 間	令和5年4月~令和6年3月

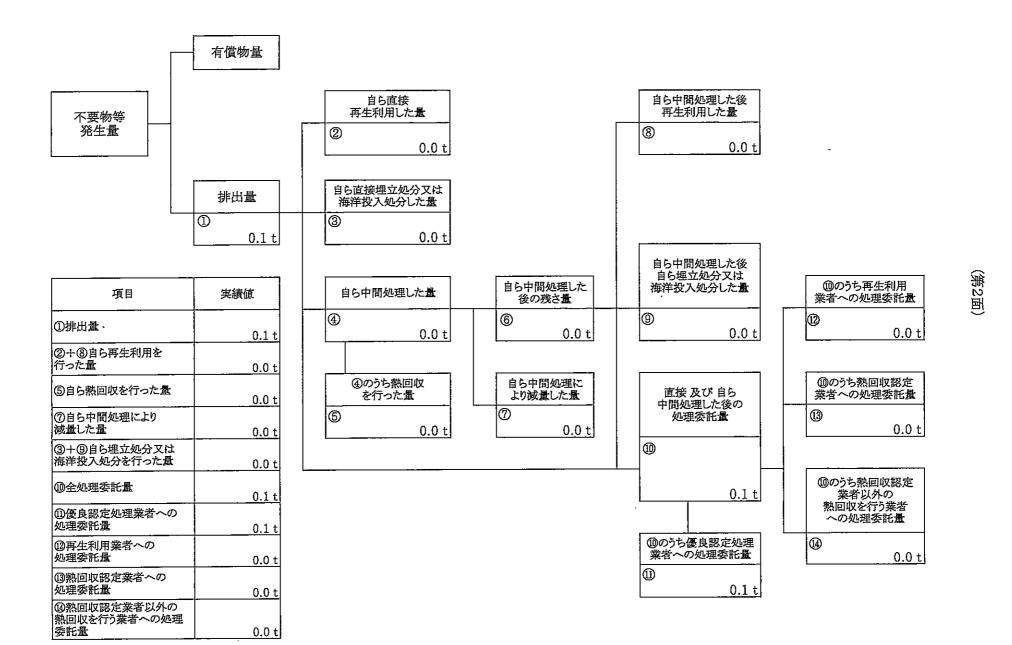
産業廃棄物処理計画における目標値

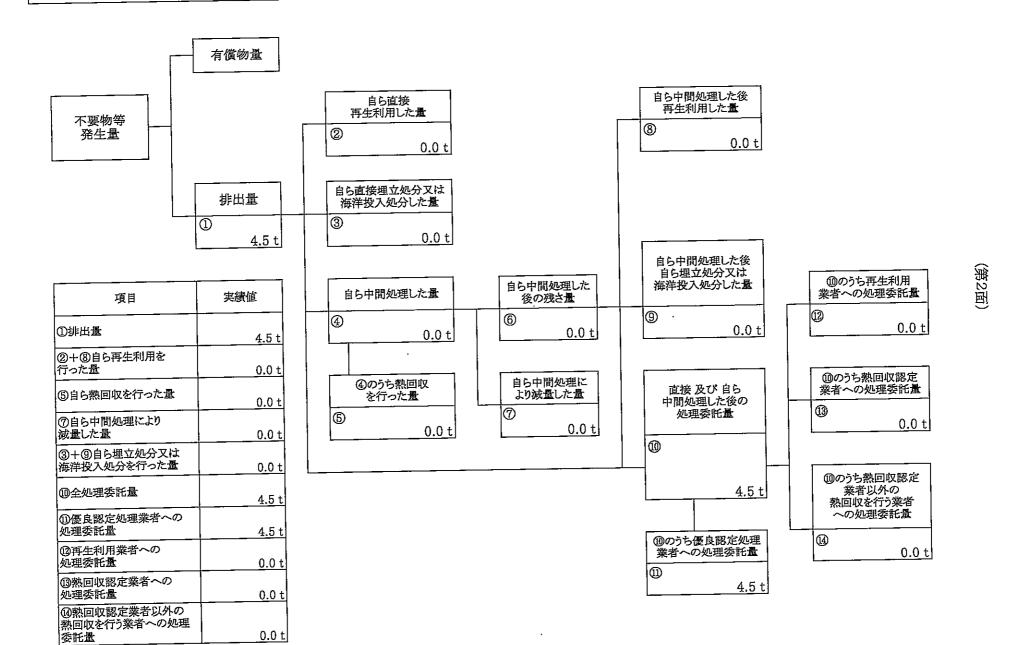
	項目		目標値	項目	目標値
排	出	量	6 ,909. 0 <i>6747.0</i>	全 処 理 委 託 量	809: 0 t <i>74 </i>
自ら産業		行う の 量	0.0 t	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	80 9.0 t
ーー 自ら 産 第	熱回収を 終 乗 物 (行 う の 量	0.0 t	再生利用業者への 処理 委託 量	0.0 t
	コ間処理により減ご 養 廃 乗 物 (量する の 量	6,100 .0 6 <i>00</i> 0. 0	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0.0 t
	投入処分を	又 は 行う の 量	0.9 t	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0.0 t
※事務:	処理欄				

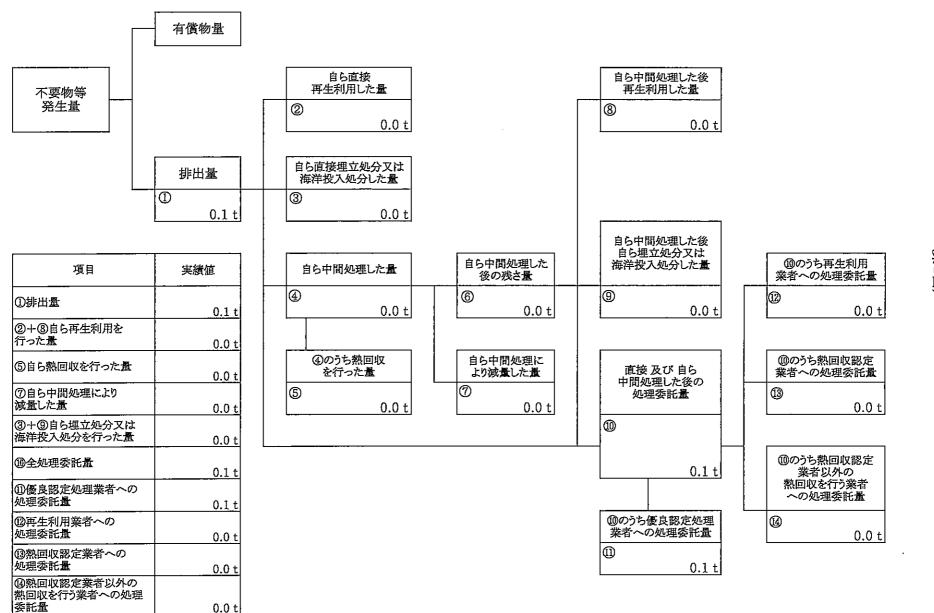
(日本工業規格 A列4番)





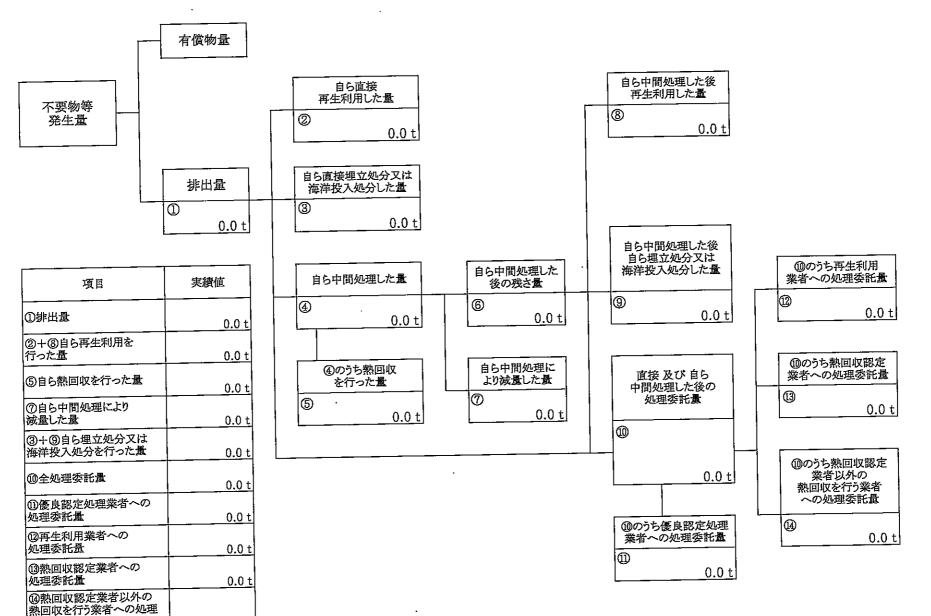






0.0 t

委託量



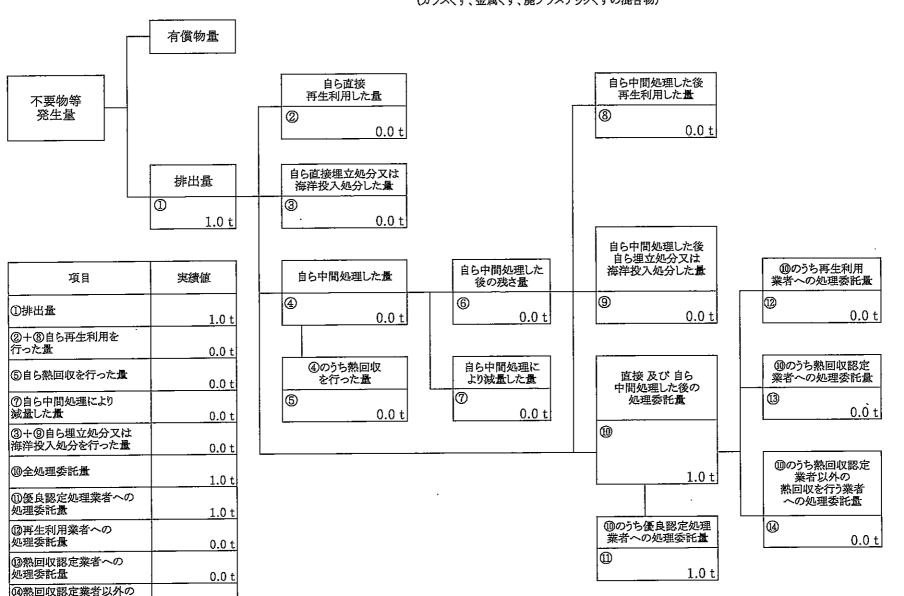
(第2面)

熱回収を行う業者への処理

0.0 t

委託量

(ガラスくず、金属くず、廃プラスチックくずの混合物)

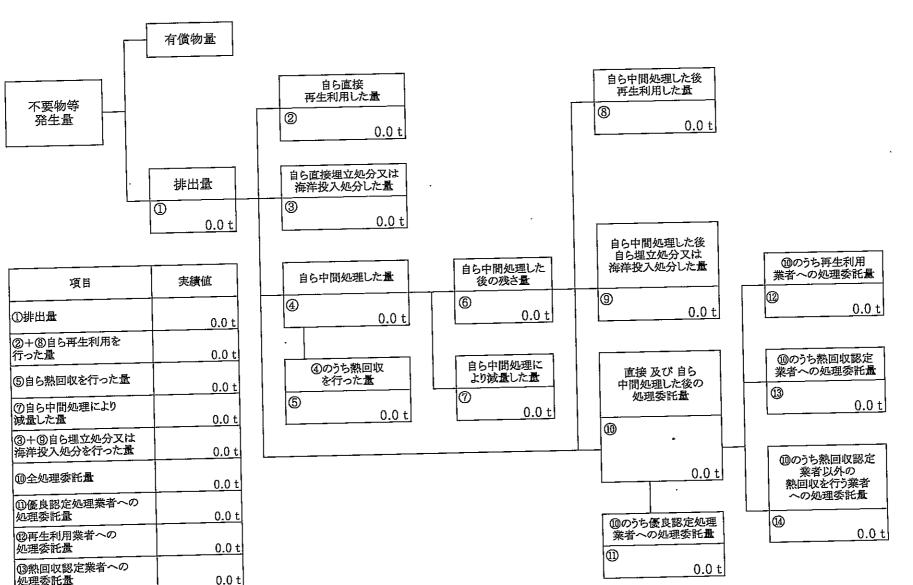


@熱回収認定業者以外の 熱回収を行う業者への処理

委託量

0.0 t

廃油

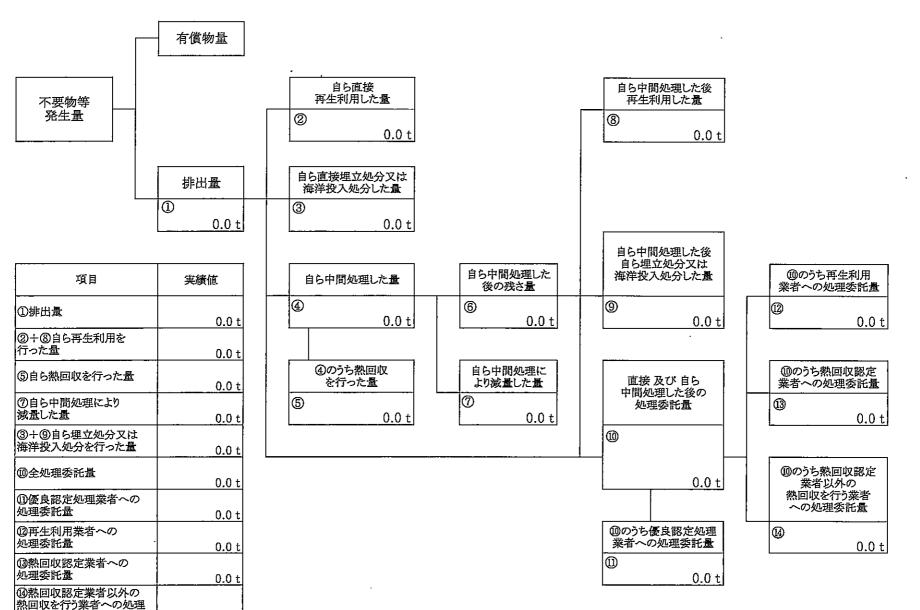


(第2面)

委託量

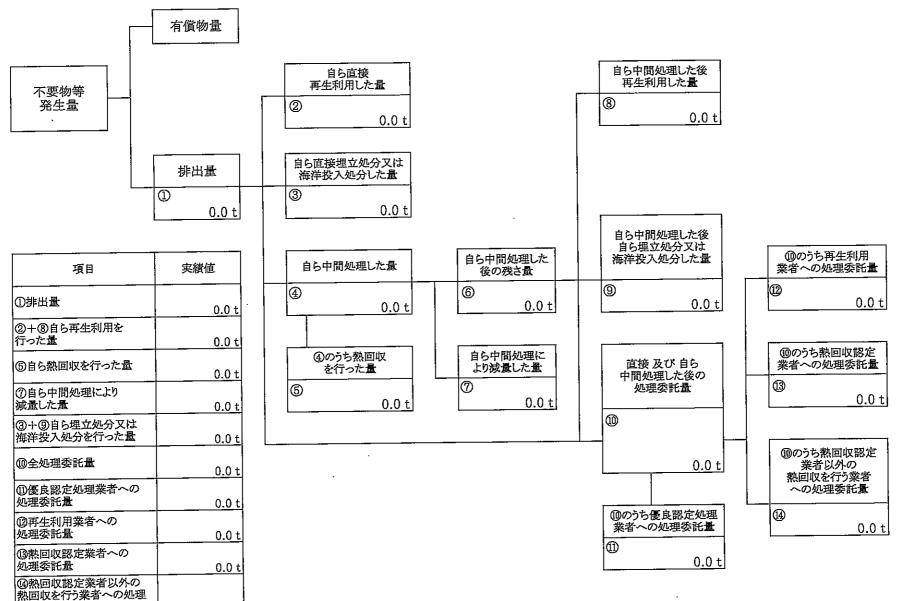
0.0 t

(第2面)



委託量

0.0 t



廃アルカリ

備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載 した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物処理に関して、①~⑩の欄のそれぞれに、(1)から(14) に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄(4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄(4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄(6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄(6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令 第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ⑩欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律 第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑩欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への 焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和 6年 6月 5日

千葉県知事 熊谷 俊人

殿

提出者〒272-0011

住 所 千葉県市川市高谷新町3

氏 名 ガルバテックス株式会社 代表取締役社長 金子 智弘

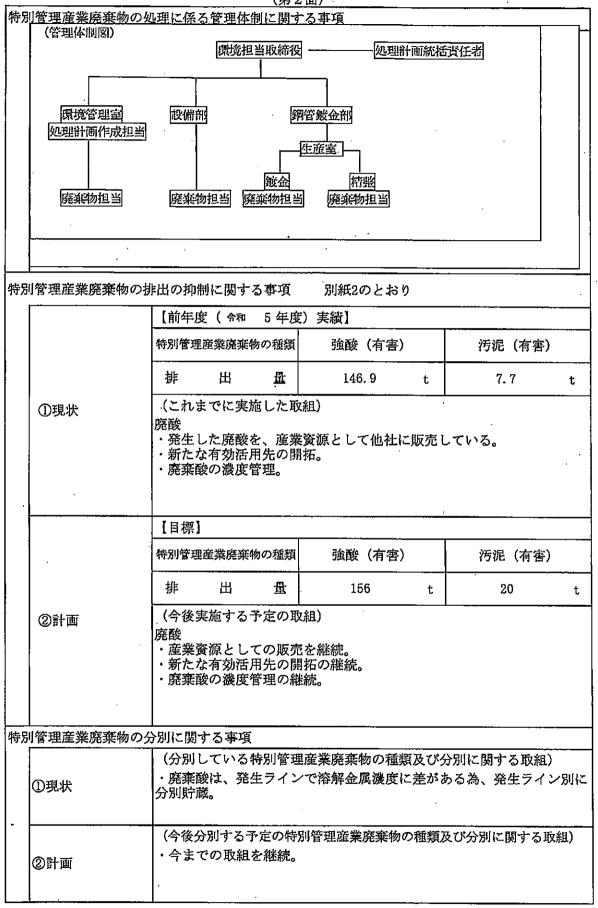
電話番+047-328-1171



廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の 減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

	事業場の名称	ブルパテックス材	株式会社 髙谷工場		
	事業場の所在地				
	計画期間	· 	令和7年3月31日		
当	該事業場において現に行	ている事業に関	引する事項		
	①事業の種類	大分類:製造	b業 中分類:金属製品製造業		
	②事業の規模	前年度の製造	造品出荷額 18.38億円		
	③ 従 業 員 数	155人			
	④ 特別管理産業廃棄物 の一連の処理の工利	・別紙1参照			

(日本工業規格 A列4番)



(第3面)

ら行う特別管理産業	(房30円 発廃棄物の再生利用に関する 項			
	【前年度(命和 5年度)	実績】	·	
·	特別管理産業廃棄物の種類	強酸(有害)	汚泥(有害)	
	自ら再生利用を行った 特別管理産業廃棄物の量	0 ' t	0	t
①現状	(これまでに実施した取組・廃酸を排水処理用凝集者		3.	
		·		
	【目標】			
	特別管理産業廃棄物の種類	強酸(有害)	汚泥(有害)	l
	自 ら 再 生 利 用 を 行 う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0	t
②計画	(今後実施する予定の取組 ・今までの取組を継続。	L)		
 ら行う特別管理産業	 ※廃棄物の中間処理に関する。	事項 該当なし		
	【前年度(命和 5年度)	実績】	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	-
	特別管理産業廃棄物の種類	強酸 (有害)	污泥(有害) .
	自 ら 熱 回 収 を 行 っ た 特別管理産業廃棄物の量	0 t	. 0 .	t
①現状	自ら中間処理により波量した 特別 管理 産業 廃 新 物 の 量	0 t	0	t
	(これまでに実施した取締	A)	,	
		·		
	【目標】			
	特別管理産業廃棄物の種類	強酸(有害)	汚泥(有害	<u>) </u>
,	自 ら 熱 回 収 を 行 う特別管理産業廃棄物の量	0 t		t
 ②計画	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	0 t	0	t
, .	(今後実施する予定の取締	組)		

立処分に関する (令和 5年度) 産業廃棄物の種類 埋 立 処 分 た 産業廃棄物の量	実績】 強酸(有害)		汚泥(有害)	·
産業廃棄物の種類 埋 立 処 分	強酸(有害)		汚泥 (有害)	·
・った	^			
型系形形物の工	. 0 ,	t	. 0	t
でに実施した取締	俎)			
·			•	
•				
<u> </u>	<u> </u>	-		
金業廃薬物の種類	強酸(有害)		汚泥 (有害)	
埋 立 処 分 行 う 産業廃棄物の最	0	t	0	t
施する予定の取	組)			
毛に関する事項		•		•
<u> </u>)実績】			
産業廃棄物の種類	強酸 (有害)		汚泥 (有害)	
理委託量	146. 9	1	7. 7	t
	146. 9	t	7.7	t
	0	t	0 `	t
	0	t	. 0	t
		t	0	t
			••	
のおける処理業者	に処理を委託・			
•				
			•	
	産施 で	型 立 処 分 の	理 立 処 分う量 (有	埋立 処 分 行産業廃棄物の配 0 t 0

(第5面)

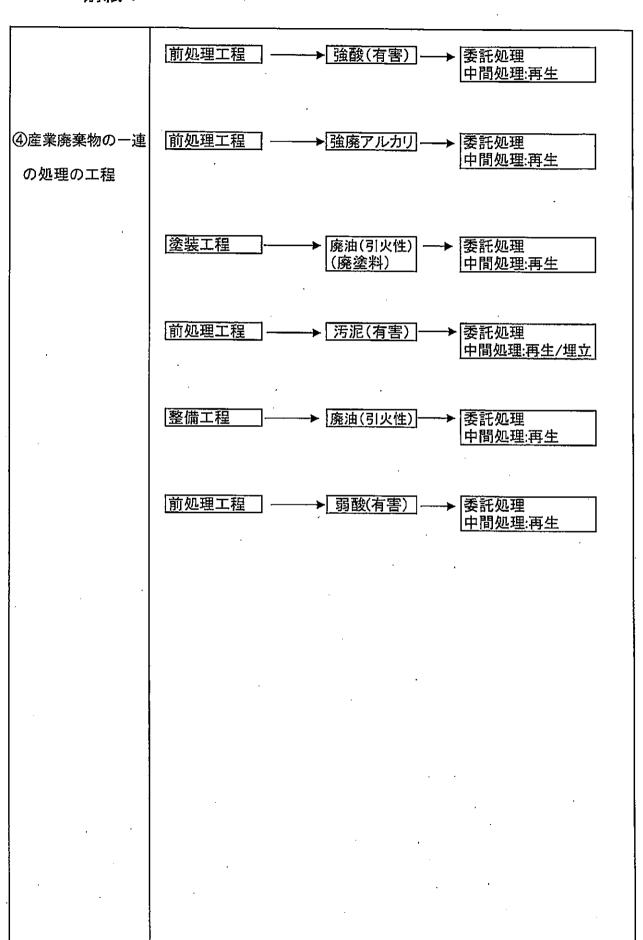
	(第5	(面)			
	【目標】		١		
	特別管理産業廃棄物の種類	· 強酸(有害))	汚泥(有害	F)
	全 処 理 委 託 量	156	t	20	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 <u>最</u>	156	t	20	t
· ·	再生利用業者への 処 理 委 託 量	0	t	0	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0	t	0	t
 	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理 委託 量	0	t	0	t
	・今までの取組を継続。				
電子情報処理組織の使用 に関する 事 項	【前年度(令和 5年度 特別管理産業 排出 (ポリ塩化ビフェニル廃棄 (今後実施する予定の取 ・H22年8月より現在まで	照 葉 物 量 (物を除く。) (組等)	ストで運	163 用。今後も継続	t
 ※事務処理欄				, 100 L O WELLY	
244 - 424 424 - 17 IMA	<u></u>	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
- (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請 完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ 事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
- (3) ④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了 するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入するこ と。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の 種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管 理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、 目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の 種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業 廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入するこ と。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令(以下「令」という。)第6条の14第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量(ポリ塩化ビフェニル廃棄物(令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。)を除く。)を記入すること。その量が50トン以上の者にあっては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等(情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。)について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。

	業廃棄物の排出の抑制 【前年度(令和 5			· · ·	·····		···	 			
①現状	特別管理産業廃棄物の種類	<u>年度)美順」)</u> 強7約り	引火性廃油	弱酸(有害)	PCB (有害)						
105th	排出量	0 t	0 t	8.4 t	2.7 t	t	t	t	t		
	[目標]										
②計画	特別管理産業廃棄物の積額	強アルカリ	引火性廃油	弱酸 (有害)	PCB (有害)	•					
	排出量	0 t	1 t	7 t	0 t	t	t	t	t		
ら行う特	別管理産業廃棄物の再		耳			<u></u>	·				
		年度)実績】)		<u> </u>	· · · · · ·		r		-		
①現状	特別管理産業廃棄物の種類	強アルカリ	引火性廃油 ——	弱酸(有害)	PCB (有害)						
	自ら再生利用を行った 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t		
	【目標】										
②計画	特別管理産業廃棄物の種類	強アルカリ	引火性廃油	弱酸(有害)	PCB (有害)						
	自ら再生利用を行う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t		
ら行う特	別管理産業廃棄物の中	間処理に関する可	項								
	【前年度(令和 5	年度)実績】)						<u>,</u>			
]	特別管理産業廃棄物の種類	強了がり	引火性廃油	弱酸(有害)	PCB (有害)						
				0 t	0 t	t	t	, t	t		
①現状	自ら熱回収を行った 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	"							
①現状	特別管理産業廃棄物の量 自ら中川処理により被託した	0 t	0 t	0 t	0 t	t	. t	t	t		
①現状	特別管理産業廃棄物の量					-	. t	t	t		
①現状 	特別管理産業廃棄物の量 自ら中川処理により減止した 特別管理産業廃棄物の量					-	. t	t	t		
①現状 ②計画	特別管理産業廃棄物の品 自ら中門処理により就配した 特別管理産業廃棄物の品 【目標】	0 t	0 t	0 t	0 t	-	t t	t			

行う性	別管理産業廃棄物の埋込	サ加公立は海洋	<u> 四、加.公に関する</u>						
211 7 tax		年度) 実績】)	(八咫万 (二凤) ②	华·久		-			
	特別管理産業廃棄物の種類	強アルカリ	引火性廃油	弱酸 (有害)	PCB (有害)		ļ		
①現状	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 特別管理産業廃棄物の品	0 t	0 t		0 t	t	t	. t	t
	【目據】								
क्रिका क्र	特別管理産業廃棄物の種類	強アルカリ	引火性廃油	弱酸 (有害)	PCB (有害)				
②計画	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 特別管理産業廃棄物の無	0 t	, 0 t	0 t	. 0 t	t	t	t	t
<u> 刊管理産</u>	業廃棄物の処理の委託に								
-	【前年度(令和 5年	年度)実績】)		T	1	·	1		
	特別管理遊業廃棄物の種類	強71功リ	引火性廃油	弱酸(有害)	PCB (有害)			,	
	全処理委託量	0 t	0 t	8.4 t	2.7 t	t	t	t	t
少担作	MARSH MARKAN	0 t	. 0 t	8.4 t	2.7 t	t	t .	t	t
①現状	再生利用業者への 処理委託量		0 t	0 t	. 0 t	t	t	t	t
-	認定熱回収業者への 処理委託 <u>品</u>	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t.	t
ĺ	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t
	【目標】								
ĺ	特別管理産業廃棄物の種類	強アルカリ	引火性廃油	弱酸 (有害)	PCB (有害)				
l	全処理委託量	0 t	1 t	7 t	0 t	t	t	t	t
@#1 mi	優良設定処理業者への 処理委託量	0 t	1 t	7 t	0 t	t	t	t	t
②計画	再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t
1	部定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t	. t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t



特別管理産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和6年6月10日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿



提出者 〒272-0011

住 所 千葉県市川市高谷新町3

氏 名 ガルバテックス株式会社

代表取締役社長 金子 智弘

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 047-328-1171

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第11項の規定に基づき、令和季年度の特別管理 産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

事	業場	· の	名	称	ガルバテックス株式会社 高谷工場
事	業場	の所	在	地	千葉県市川市高谷新町3
事	———— 業	0	種	類	大分類:製造業 中分類:金属製品製造業
特別管理産業廃棄物処理計画に おける計画期間			処理	計画間	令和5年4月1日~令和6年3月31日

特別管理産業廃棄物処理計画における目標値

項目	,	目標値	項目	目標値	
排 出	盖	198 194:0 t	全 処 理 委 託 量	19.4 ±94.0 t	
·	用を行う	0.0 t	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	198 194 .0 t	
時別管理産業原 時別管理産業原	【を行うし	0.0 t	再生利用業者への処理委託量	0.0 t	
特別管理産業別 自ら中間処理によ 特別管理産業界	:り減量する	0.0 t	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0.0 t	
特別管理産業別 自 ら 埋 立 を 行 特別管理産業別	処分う	0.0 t	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0.0 t	

電子情報処理組織の使用に関する事項

和火型生活が火力で加えている。		-
特別管理産業廃棄物排出量	前々年度	192. 3t
(ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	前年度	163.0t /

(電子情報処理組織の使用に関して実施した取組)

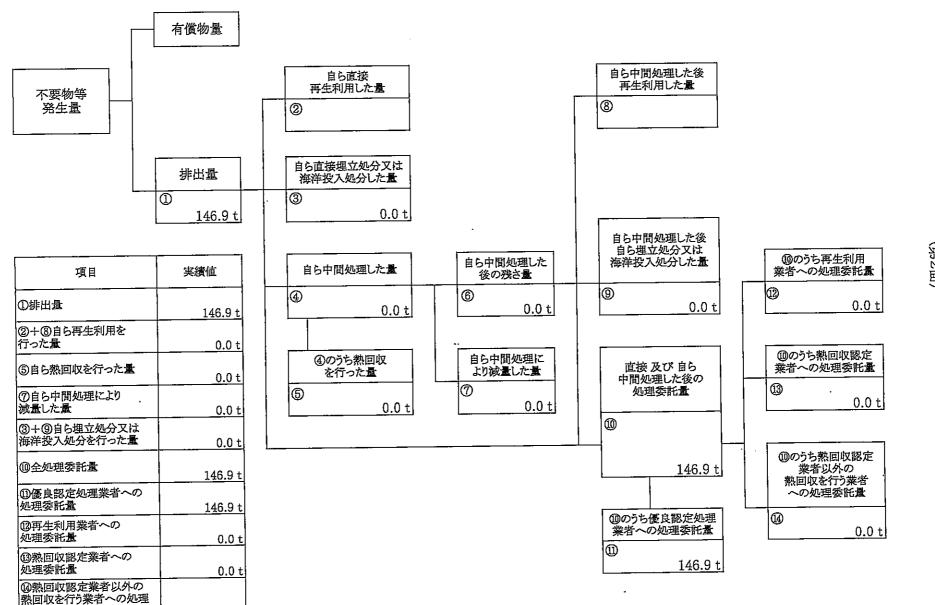
・H22年8月より現在まで、電子マニフェストを運用。今後も継続。

※事務処理欄

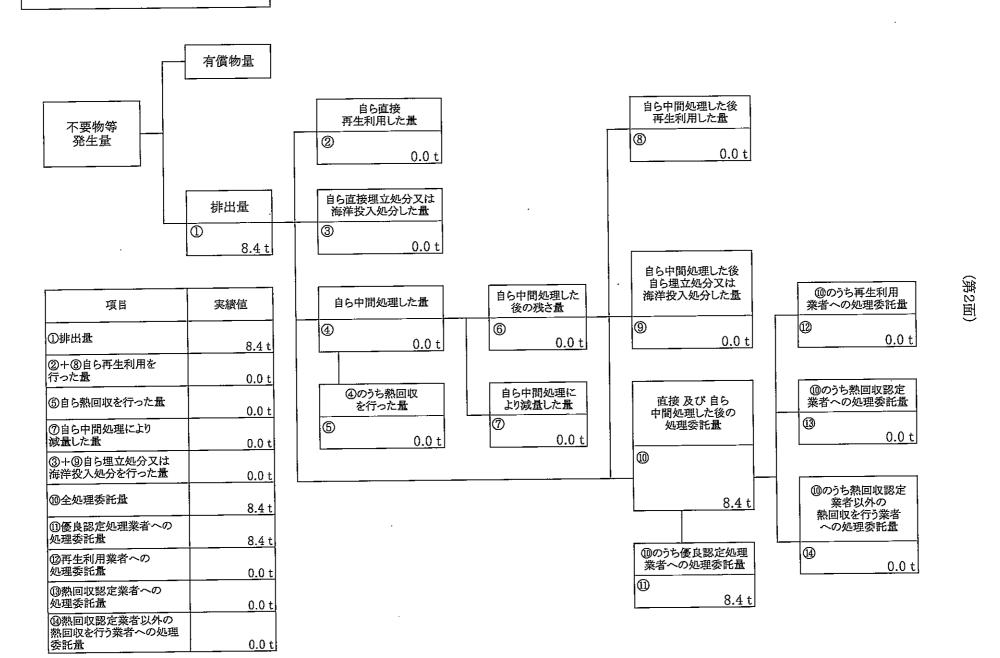
0.0 t

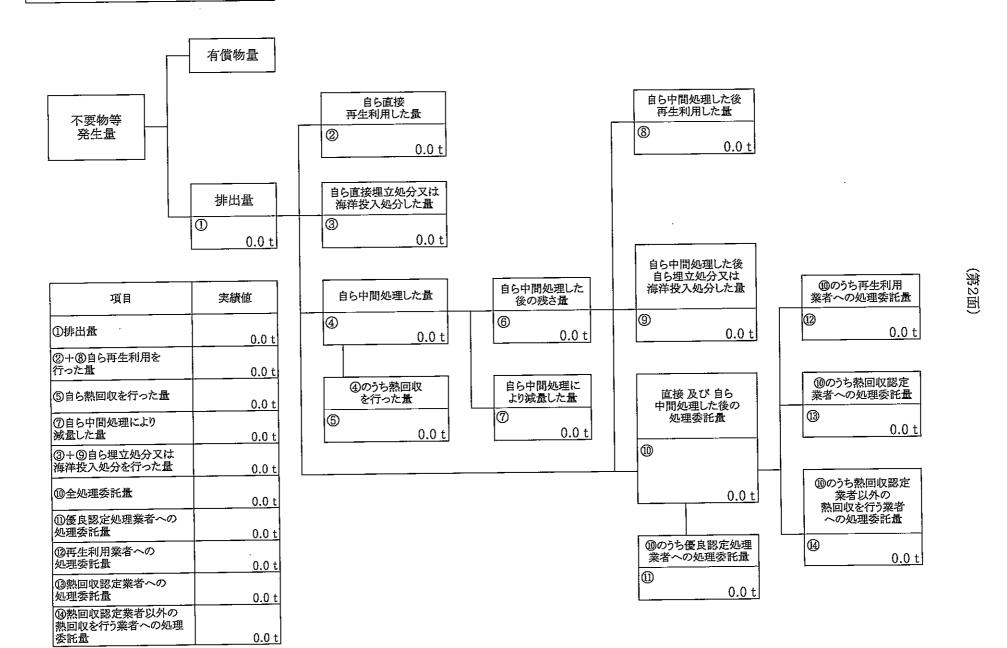
委託量





(第2面)

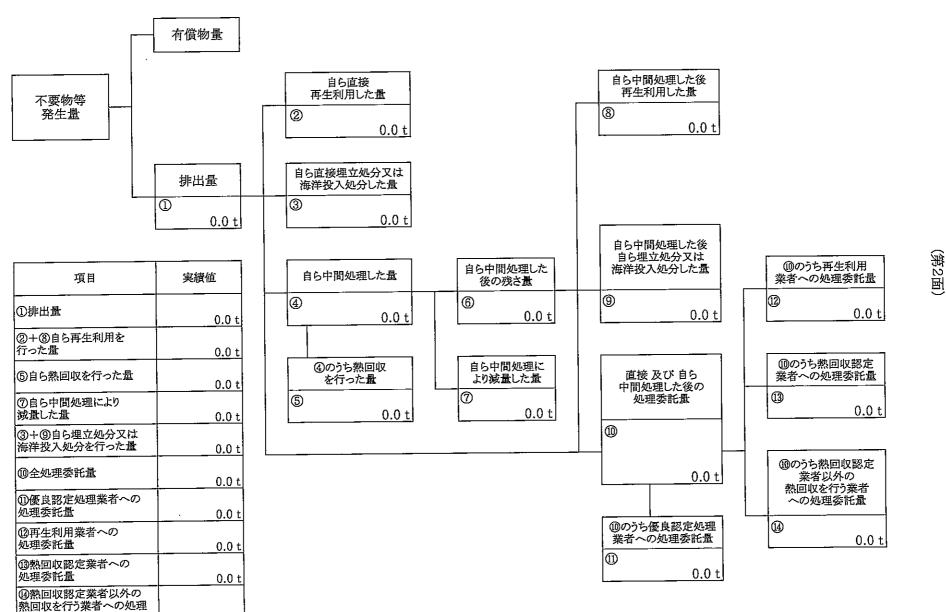


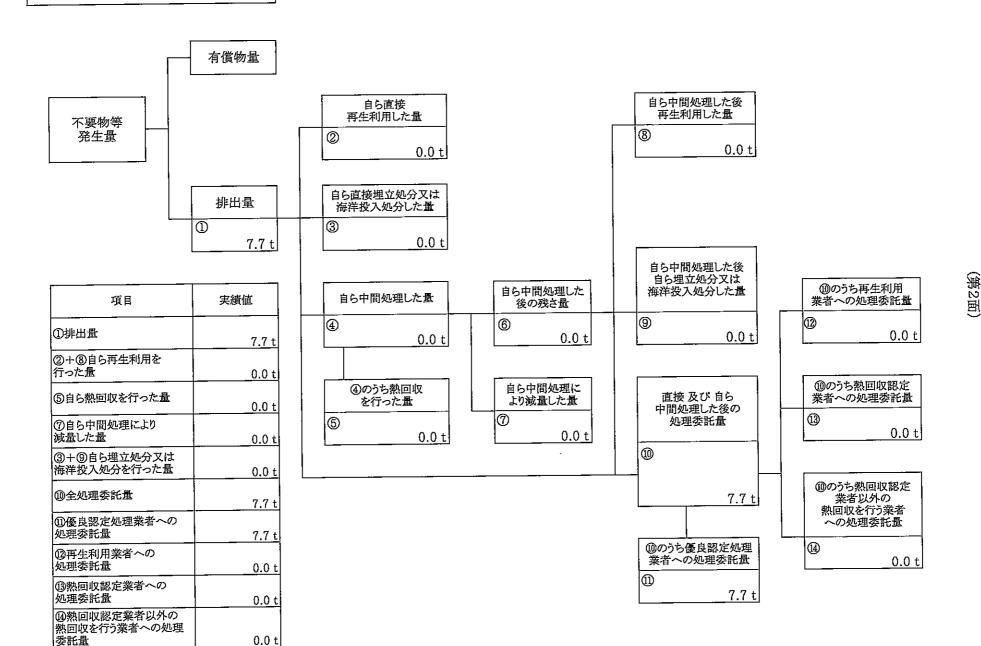


委託量

0.0 t



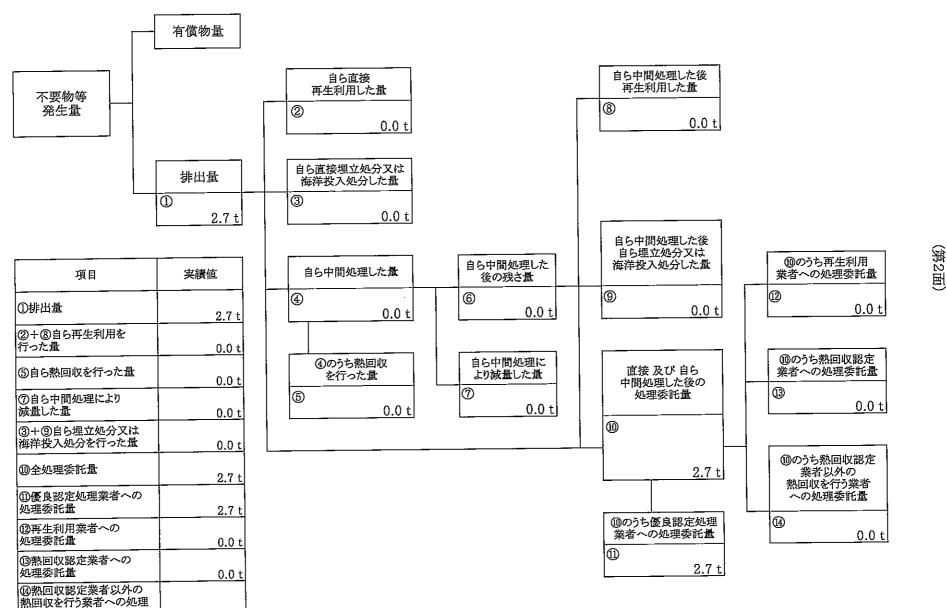


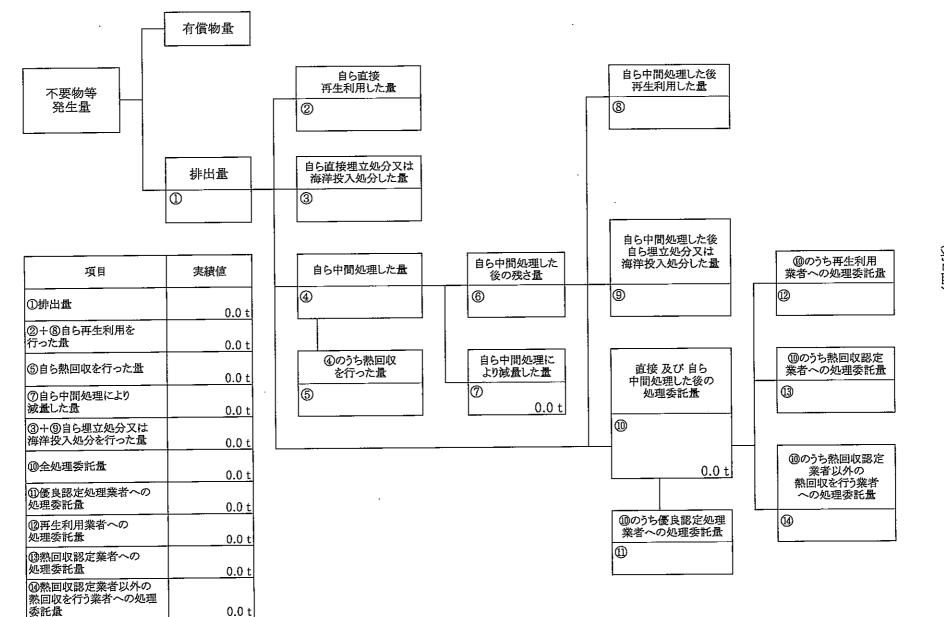


委託量

0.0 t



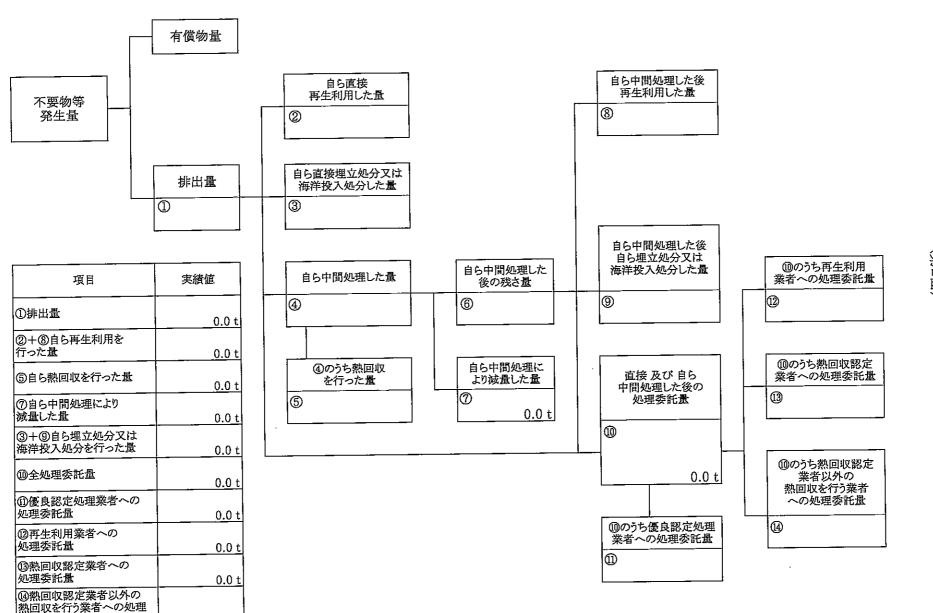


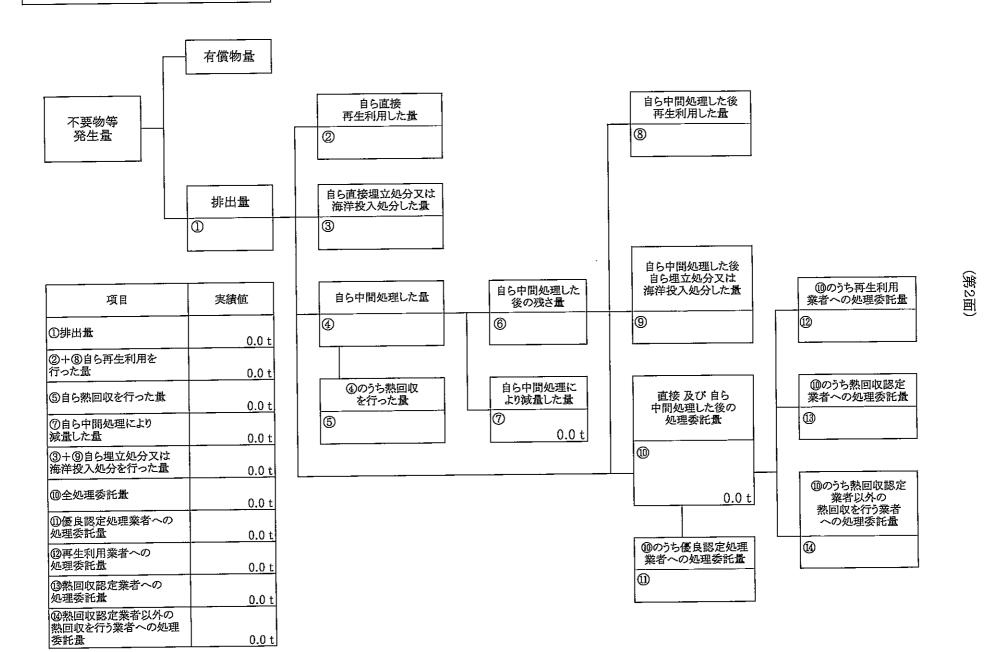


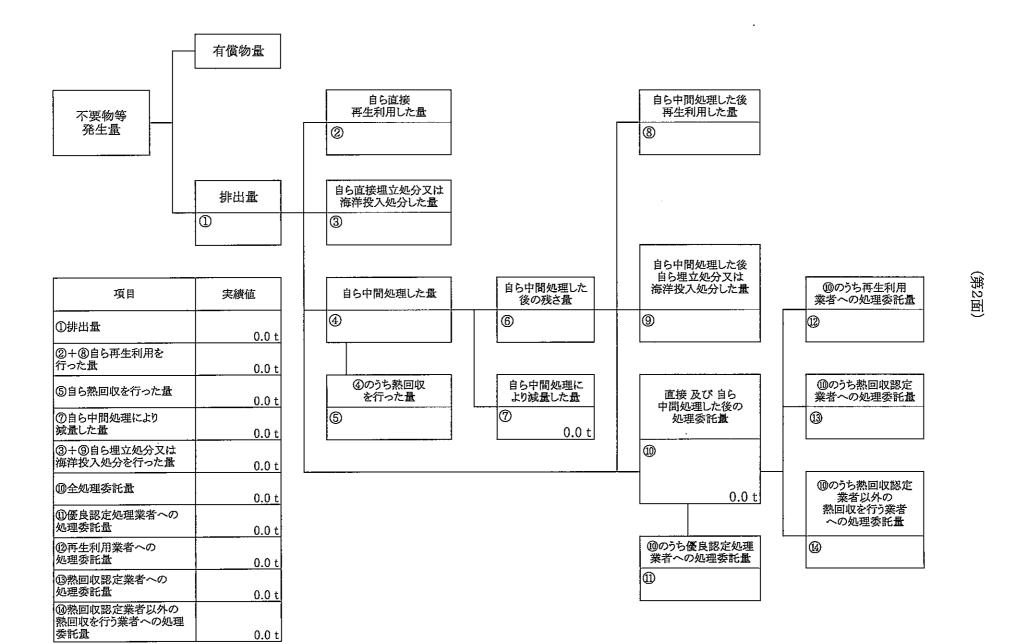
(第2面)

委託量

0.0 t







備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「特別管理産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、特別管理産業廃 棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の特別管理産業廃棄物の処理に関して、①~⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた特別管理産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした特別管理産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑩欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者 (廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令 (以下「令」という。)第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ③欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への 焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、特別管理産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 特別管理産業廃棄物の種類が2以上あるときは、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により特別管理産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前々年度及び前年度における特別管理産業廃棄物の排出量(ポリ塩化ビフェニル廃棄物(令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。)を除く。)並びに電子情報処理組織使用義務者にあっては前年度に実施した電子情報処理組織の使用に関する取組(情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当したときは、その旨及び理由を含む。)について記入すること。
- 8 ※欄は記入しないこと。

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和6年5月13日

千葉県知事

熊谷 俊人 殿

提出者 279-0002

住 所 千葉県浦安市北栄4-10-23

法人名 関東宇部コンクリート工業株式会社 浦安工場

代表者 田崎 勇介

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 047-352-5184

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	関東宇部コンクリート工業株式会社 浦安工場				
事業場の所在地	千葉県浦安市北栄四丁目10番23号				
計画期間	令和6年	4月1日	から	令和7年3月31日	
変事業場において現に行って	っている事業に関	する事項			
①事業の種類	大分類:	製造業	中分類	i: 窯業・土石製品製造業	
②事業の規模	前年度の製造品	品出荷額 10.	8億円		
③従業員数	12人				
④産業廃棄物の 一連の処理の工程	汚泥→脱水処理 上澄み水→練り 回収砂利+回収	里を行い、上巻) 混ぜ水及び汚砂+スラッジケ	登み水とスラッ 記浄水として使	・ジケーキに分離 E用	
	事業場の所在地 計画期間 事業場において現に行っ ①事業の種類 ②事業の規模 ③従業員数 ④産業廃棄物の	事業場の所在地 計画期間 令和6年 事業場において現に行っている事業に関 ①事業の種類 大分類: ②事業の規模 ③従業員数 12人 戻りコンクリー 汚泥→脱水処理の工程 一連の処理の工程 回収砂利+回収	事業場の所在地 千葉県浦安市北栄四丁目10番 計画期間 令和6年4月1日 (事業場において現に行っている事業に関する事項 (①事業の種類 大分類: 製造業 ②事業の規模 前年度の製造品出荷額 10.8 (③従業員数 12人 戻りコンクリート、残水等一 汚泥→脱水処理を行い、上海上澄み水→練り混ぜ水及び洗	 事業場の所在地 千葉県浦安市北栄四丁目10番23号 計画期間 令和6年4月1日 から 事業場において現に行っている事業に関する事項 ①事業の種類 大分類: 製造業 中分類 ②事業の規模 前年度の製造品出荷額 10.8億円 ③従業員数 12人 戻りコンクリート、残水等→分離→汚泥+1 ・ 一連の処理の工程	

(日本産業規格 A列4番)

業廃棄物の処理	に係る管理体制に関する事項		
(管理体制図)			
添付ファイルは	による		
業廃棄物の排出	の抑制に関する事項		
	【前年度(令和5年度)実	績】	
	産業廃棄物の種類	汚泥	鉄くず
	排出量	15440 t	5
①現状	(これまでに実施した取給	且)	1
	購入者や販売店に対し、多	発注数量及び追加数量の徹底	氏を要請し、残コン・原
	りコンの低減を図る。	を協組として実施、購入者に	(計) て低減に向けての
	強い意思を表示。	1. 励性として天旭、購入名に	
	•		
	【目標】		
	【目標】 産業廃棄物の種類	汚泥	鉄くず
		汚泥 14668 t	鉄くず 8
②計画	産業廃棄物の種類	14668 t	
②計画	産業廃棄物の種類 排出量 (今後実施する予定の取約	14668 t 乱)	8
②計画	産業廃棄物の種類 排出量 (今後実施する予定の取約	14668 t	8
②計画	産業廃棄物の種類 排出量 (今後実施する予定の取約	14668 t 乱)	8
②計画 ②計画 業廃棄物の分別	産業廃棄物の種類 排出量 (今後実施する予定の取約 残コン、戻りコン量はなれた。引き続き協組と共に値	14668 t 乱)	8
	産業廃棄物の種類 排出量 (今後実施する予定の取終 残コン、戻りコン量はなかた。引き続き協組と共に値	14668 t 乱)	8 量に対する比率は低減し とできるだけ抑制する
業廃棄物の分別	産業廃棄物の種類 排出量 (今後実施する予定の取約 残コン、戻りコン量はなかた。引き続き協組と共に値 に関する事項 (分別している産業廃棄物 回収設備で分集された砂と	14668 t E) かなか減少しないが、出荷量 送減に努め、全体の排出量を めの種類及び分別に関する取 と砕石は品質上問題ないが、	8 量に対する比率は低減し できるだけ抑制する 対組) 工場が標準化していた
	産業廃棄物の種類 排出量 (今後実施する予定の取約 残コン、戻りコン量はなかた。引き続き協組と共に値 に関する事項 (分別している産業廃棄物 回収設備で分集された砂と	14668 t E) かなか減少しないが、出荷量 気減に努め、全体の排出量を めの種類及び分別に関する取 と砕石は品質上問題ないが、 脱水した上澄み水は再利用	8 量に対する比率は低減し できるだけ抑制する 対組) 工場が標準化していた
業廃棄物の分別	産業廃棄物の種類 排出量 (今後実施する予定の取約 残コン、戻りコン量はなかた。引き続き協組と共に値 に関する事項 (分別している産業廃棄物 回収設備で分集された砂といため、使用不可となる。	14668 t E) かなか減少しないが、出荷量 気減に努め、全体の排出量を めの種類及び分別に関する取 と砕石は品質上問題ないが、 脱水した上澄み水は再利用	8 量に対する比率は低減し できるだけ抑制する 対組) 工場が標準化していた
業廃棄物の分別	産業廃棄物の種類 排出量 (今後実施する予定の取約 残コン、戻りコン量はなかた。引き続き協組と共に低い た。引き続き協組と共に低い に関する事項 (分別している産業廃棄物 回収設備で分集された砂といため、使用不可となる。 置場を区分して管理してい	14668 t E) かなか減少しないが、出荷量 気減に努め、全体の排出量を めの種類及び分別に関する取 と砕石は品質上問題ないが、 脱水した上澄み水は再利用	を と できるだけ抑制する を な は は は は は は は は は は は は は は は は は な は
業廃棄物の分別 ①現状	産業廃棄物の種類 排出量 (今後実施する予定の取終 残コン、戻りコン量はななた。引き続き協組と共に値 に関する事項 (分別している産業廃棄物 回収設備で分集された砂といため、使用不可となる。置場を区分して管理してい (今後分別する予定の産業 回収設備で分集された砕る。	14668 t E) かなか減少しないが、出荷量 気減に努め、全体の排出量を かの種類及び分別に関する取 と砕石は品質上問題ないが、 脱水した上澄み水は再利用 いる。 廃棄物の種類及び分別に関 「を使用できるように標準化	8 量に対する比率は低減し できるだけ抑制する 対組) 工場が標準化していた す。コンクリートくずに する取組) こを目指す。あとは、美
業廃棄物の分別	産業廃棄物の種類 排出量 (今後実施する予定の取終 残コン、戻りコン量はななた。引き続き協組と共に値 に関する事項 (分別している産業廃棄物 回収設備で分集された砂といため、使用不可となる。置場を区分して管理してい (今後分別する予定の産業 回収設備で分集された砕る。	14668 t E) かなか減少しないが、出荷量 気減に努め、全体の排出量を かの種類及び分別に関する 中石は品質上問題ないが、 脱水した上澄み水は再利用 いる。 廃棄物の種類及び分別に関	8 量に対する比率は低減し できるだけ抑制する 対組) 工場が標準化していた す。コンクリートくずに する取組) こを目指す。あとは、美

	【前年度(令和5年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	鉄くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄 物の量	0 t	0
①現状	(これまでに実施した取組)	<u>'</u>	
	残コン、戻りコン及びミキサ車 収骨材を標準化していないため		物を分離するも、匠
	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	鉄くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物 の量	0 t	0
②計画	(今後実施する予定の取組)	•	
	廃棄物低減のためにも回収骨材	の標準化を目指す。	
┗ っ行う産業廃棄 ┏	物の中間処理に関する事項		
1 っ行う産業廃棄	【前年度(令和5年度)実績】	汚泥	鉄く ず
■ 分行う産業廃棄	【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行った産業廃棄物	汚泥 0 t.	鉄くず
	【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行った産業廃棄物 の量 自ら中間処理により減量した産	汚泥 0 t 6359 t	0
1 5行う産業廃棄 1 ①現状	【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行った産業廃棄物 の量	0 t	0
	【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行った産業廃棄物 の量 自ら中間処理により減量した産 業廃棄物の量	0 t 6359 t	0
	【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行った産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) 脱水機の効率的な運用で、廃棄	0 t 6359 t	0
	【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行った産業廃棄物 の量 自ら中間処理により減量した産 業廃棄物の量 (これまでに実施した取組)	0 t 6359 t	0
	【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行った産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) 脱水機の効率的な運用で、廃棄・ 【目標】 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行う産業廃棄物の	0 t 6359 t 物の減量に努めた。	ひ : 0 : :
①現状	【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行った産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) 脱水機の効率的な運用で、廃棄・ 【目標】 産業廃棄物の種類	0 t 6359 t 物の減量に努めた。 汚泥	0
	【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行った産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) 脱水機の効率的な運用で、廃棄・ 【目標】 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行う産業廃棄物の 量 自ら中間処理により減量する産	0 t 6359 t 物の減量に努めた。 汚泥 0 t	の 0 数くず 0

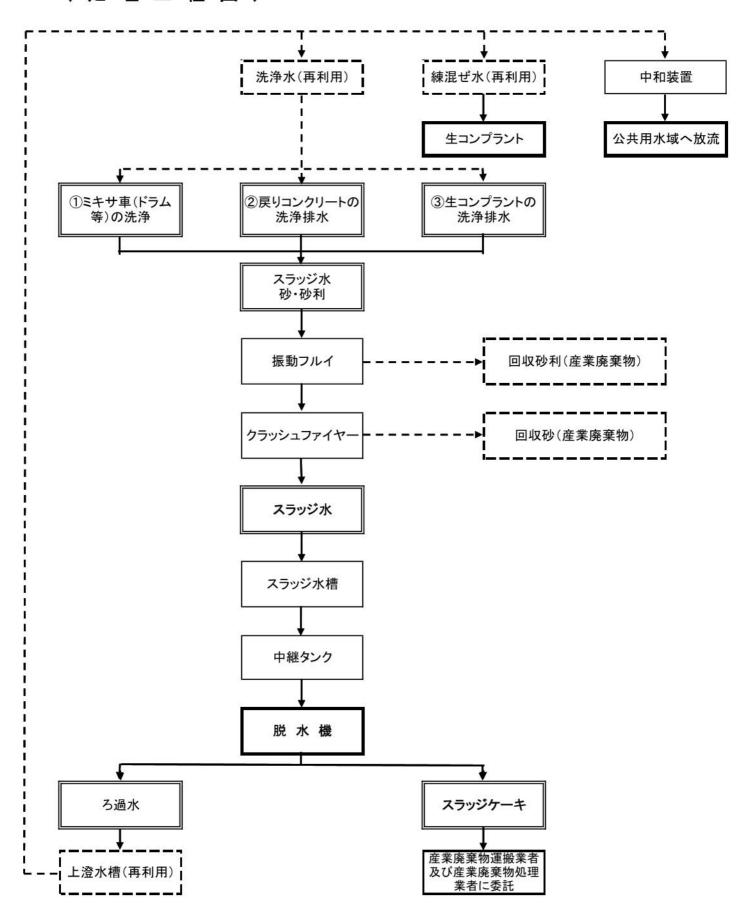
117) 生来焼果 	物の埋立処分又は海洋投入処分に関す		
	【前年度(令和5年度)実績】	_	
	産業廃棄物の種類	汚泥	鉄くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分 を行った産業廃棄物の量	0 t	0 1
①現状	(これまでに実施した取組)		
	自社での埋立処分又は海洋投入	処分はしていない。	
	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	 鉄くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分 を行う産業廃棄物の量	0 t	0 1
②計画	(今後実施する予定の取組) 今後も、自社での埋立処分又は	海洋投入処分はしない。	
②計画	(今後実施する予定の取組)	海洋投入処分はしない。	
	(今後実施する予定の取組) 今後も、自社での埋立処分又は	海洋投入処分はしない。	
	(今後実施する予定の取組) 今後も、自社での埋立処分又は の委託に関する事項	海洋投入処分はしない。	
	(今後実施する予定の取組) 今後も、自社での埋立処分又は の委託に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】		鉄くず
	(今後実施する予定の取組) 今後も、自社での埋立処分又は の委託に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類	汚泥	鉄くず 5.1
	(今後実施する予定の取組) 今後も、自社での埋立処分又は の委託に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への処理	汚泥 9081 t	5 1
	(今後実施する予定の取組) 今後も、自社での埋立処分又は の委託に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への処理 委託量 再生利用業者への処理委託	汚泥 9081 t t	5 t
を廃棄物の処理	(今後実施する予定の取組) 今後も、自社での埋立処分又は の委託に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 全処理委託量 原生利用業者への処理委託量 同生利用業者への処理委託 温 認定熱回収業者への処理委	汚泥 9081 t t 9081 t	5 t 5 t
	(今後実施する予定の取組) 今後も、自社での埋立処分又は の委託に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への処理 委託量 再生利用業者への処理委託 量認定熱回収業者への処理委託 記定熱回収業者への処理委託	汚泥 9081 t t	鉄〈ず 5 1 5 1 5 1
を廃棄物の処理 	(今後実施する予定の取組) 今後も、自社での埋立処分又は の委託に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 全処理委託量 原生利用業者への処理委託量 同生利用業者への処理委託 温 認定熱回収業者への処理委	汚泥 9081 t t 9081 t	5 t 5 t
を廃棄物の処理 	(今後実施する予定の取組) 今後も、自社での埋立処分又は の委託に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への処理委託量 再生利用業者への処理委託量 認定熱回収業者への処理委託量 認定熱回収業者への処理委託	汚泥 9081 t t 9081 t t	5 t 5 t 1

(第5面)

	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	鉄くず
	全処理委託量	8627 t	8 t
	優良認定処理業者への処理 委託量	t	8 t
	再生利用業者への処理委託 量	8627 t	8 t
②計画	認定熱回収業者への処理委 託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回 収を行う業者への処理委託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組	l)	
	今後も、産業廃棄物の有効 委託業者に処理を依頼する 廃棄量低減のためにも、回		材として再利用できる
※事務処理欄			

- 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 当該年度の6月30日までに提出すること。 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
- (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。 (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前 年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の 実績を記入すること。
- (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理
- の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行う に際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量
- した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当す
- が、その内級として、後民誌足処理業者、廃棄物の処理及び信捕に関する法律施刊や第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- ※欄は記入しないこと。

(処理工程図)



(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 6年 5月 13日

千葉県知事

熊谷 俊人 殿

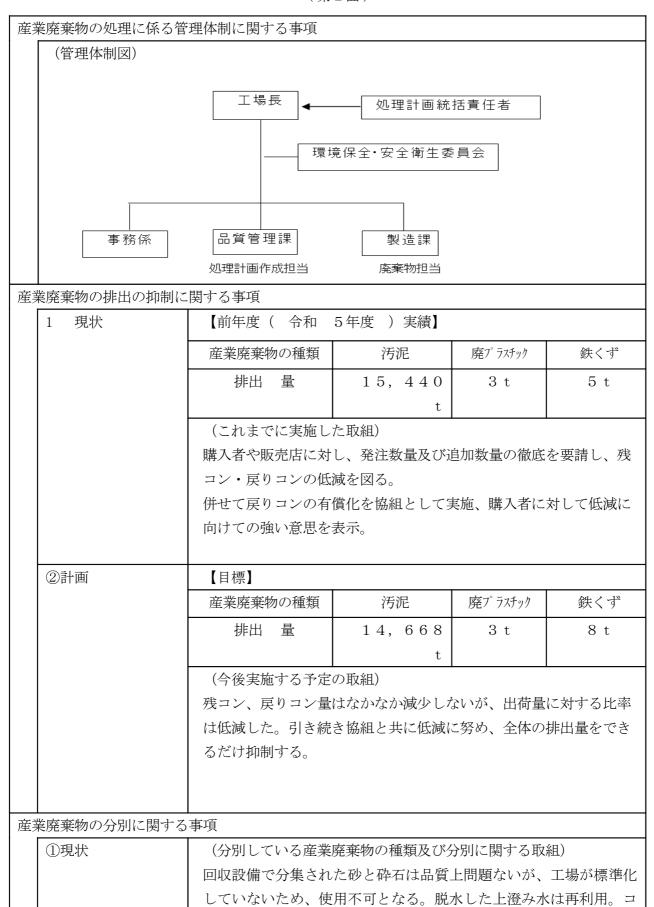
提出者 〒 279-0002

住所 千葉県浦安市北栄四丁目10番23号 氏名 関東宇部コンクリート工業株式会社 浦安工場 工場長代理 田﨑 勇 介

電話番号 047-352-5184

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条第 9 項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他 その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名 称	関東宇部コンクリート工業株式会社 浦安工場
事業場の所在 地	千葉県浦安市北栄四丁目10番23号
計画期 間	令和 6年 4月 1日~令和 7年 3月31日
当該事業場において現に行	テっている事業に関する事項
①事業の種 類	大分類:製造業中分類:窒業・土石製品製造業
②事業の規 模	前年度の製造品出荷額 10.8億円
③従業員 数	1 2人
④産業廃棄物の一連 の処理の工程	別紙による



	ンクリートくずは置場を区分して管理している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 回収設備で分集された砕石を使用できるように標準化を目指す。あ とは、業界全体と一緒になりで残コン、戻りコン低減に努める。

	(第3	面)					
自ら行う産業廃棄物の	の再生利用に関する事項						
1 現状	【前年度(令和 5	【前年度(令和 5年度)実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	鉄くず			
	自ら再生利用を行った	0 t	0 t	0 t			
	産業廃棄物の量						
	(これまでに実施した	取組)					
	残コン、戻りコン及び						
	るも、回収骨材を標準	化していないため	使用不可能である	5。			
@#J ##	T to task						
②計画	【目標】	\\		All 3 20			
	産業廃棄物の種類	汚泥 ——————	廃プラスチック	<u>鉄くず</u>			
	自ら再生利用を行う	O t	0 t	0 t			
	産業廃棄物の量	T (41)					
	(今後実施する予定の		46.				
	廃棄物低減のためにも	回収骨材の標準化	を目指す。				
 自ら行う産業廃棄物の	 の中間処理に関する事項						
1 現状	【前年度(令和 5	年度)実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	鉄くず			
	自ら熱回収を行った	0 t	0 t	0 t			
	産業廃棄物の量						
	自ら中間処理により減量した	6, 359 t	0 t	0 t			
	産業廃棄物の量						
	(これまでに実施した	取組)					
	脱水機の効率的な運用	で、廃棄物の減量	に努めた。				
②計画	【目標】						

産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	鉄くず
自ら熱回収を行う	0 t	0 t	0 t
産業廃棄物の量			
自ら中間処理により減量する	6, 041 t	0 t	0 t
産業廃棄物の量			
(今後実施する予定	の取組)		
例年通り脱水機の効	率的な運用で、廃棄	物の減量に努め	る。

(第4面)

1 現状	【前年度(令和 ;	5年度)実績】		
	産業廃棄物の種類		廃プラスチッ	鉄くす
			<i>¹</i>	
	自ら埋立処分又は	0 t	0 t	0
	海洋投入処分を行った			
	産業廃棄物の量			
	(これまでに実施した	た取組)		
	自社での埋立処分又に	は海洋投入処分はしてい	ない。	
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	鉄
	I I		l	
				ず
	自ら埋立処分又は	0 t	0 t	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う	0 t	O t	
		0 t	O t	
	海洋投入処分を行う		O t	
	海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量 (今後実施する予定の			
	海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量 (今後実施する予定の	の取組)		
	海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量 (今後実施する予定の	の取組)		
業廃棄物の処理の委	海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量 (今後実施する予定の 今後も、自社での埋立	の取組)		
業廃棄物の処理の委 1 現状	海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量 (今後実施する予定の 今後も、自社での埋立	の取組) 立処分又は海洋投入処分		
	海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量 (今後実施する予定の 今後も、自社での埋立 託に関する事項	の取組) 立処分又は海洋投入処分		ず 0 鉄くす

優良認定処理業者へ	0 t	3 t	5 t
0			
処理委託 量			
再生利用業者へ	9, 081 t	3 t	5 t
0			
処理委託 量			
認定熱回収業者へ	0 t	0 t	0 t
の処理委託 量			
認定熱回収業者以外	0 t	0 t	O t
の熱回収を行う業者			
への処理委託 量			

(これまでに実施した取組)

産業廃棄物の有効利用を図るべく、再生路盤材として再利用できる 委託業者に処理を依頼している。

(第5面)

②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	鉄くず
	全処理委託量	8, 627 t	3 t	8 t
	優良認定処理業者への処	0 t	3 t	8 t
	理委託量			
	再生利用業者への	8, 627 t	3 t	8 t
	処理委託 量			
	認定熱回収業者への	0 t	0 t	0 t
	処理委託 量			
	認定熱回収業者以外の熱	0 t	0 t	0 t
	回収を行う業者への処			
	理委託量			

	(今後実施する予定の取組) 今後も、産業廃棄物の有効利用を図るべく、再生路盤材として再利用できる委託業者に処理を依頼する。 廃棄量低減のためにも、回収砂利の標準化を目指す。
※事務処理欄	

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)② 欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請 完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ 事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④ 欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
 - 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
 - 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
 - 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
 - 7 ※欄は記入しないこと。

(第1面)

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和6年5月13日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

提出者 279-0002

住所 千葉県浦安市北栄4-10-23

法人名 関東宇部コンクリート工業株式会社 浦安工場

代表者 田崎 勇介

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 047-352-5184

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和 5 年度の産業廃棄 物処理計画の実施状況を報告します。

事	業場の名称 関東宇部コンクリート工業株式会社 浦安工場					
事	業場の所在地	千葉県浦安市北郊	关四丁目10番23号			
事	業 の 種 類	大分類 製造	b業 中分類 窯茅	*· 土石製品製造業		
産業廃棄物処理計画にお 令和5年4月1日 から 令和6年3月31日						
産	業廃棄物処理計画にお	らける目標値				
	項目	目標値	項目	目標値		
	排出量	13706 t	全処理委託量	8246 t		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0 t	優良認定処理業者 への処理委託量	11 t		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	再生利用業者への 処理委託量	8246 t		
自ら中間処理により減 量する産業廃棄物の 量		5460 t	認定熱回収業者へ の処理委託量	0 t		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	認定熱回収業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0 t		

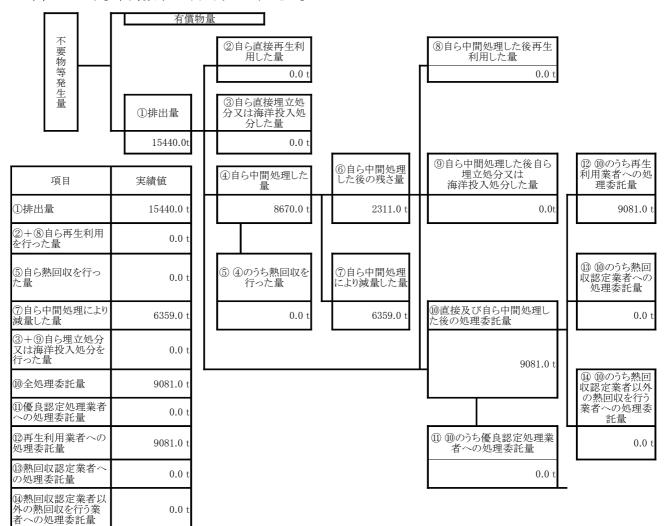
(日本産業規格 A列4番)

N₀.1 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

汚泥)



N0.2 (第2面)

計画の実施状況 (産業廃棄物の種類:

(産業廃棄物の種類: 廃プラスチック類)

, ,,,	1 / 1 / 2/200	, ,, <u>,</u> = – u			
	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		② 白 〉 本 校 畑			
重	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
	3.0t				0.0-21-71
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	⑫ ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	3.0 t				3.0 t
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t	0.0 t	0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			3.0 t	
⑩全処理委託量	3.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外 の熱回収を行う
□優良認定処理業者 への処理委託量	3.0 t				業者への処理委託量
⑫再生利用業者への 処理委託量	3.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t			3.0 t	
④熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t				

N0.3 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

鉄くず

)

	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
生 量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
	5.0t			②白と中間知(押) を巡古と	@ @ o > + F 4
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	⑫ ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	5.0 t				5.0 t
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t	0.0 t	0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			5.0 t	
⑩全処理委託量	5.0 t				個 ⑩のうち熱回 収認定業者以外 の熱回収を行う
⑩優良認定処理業者への処理委託量	5.0 t				が然回収を行り 業者への処理委 託量
②再生利用業者への処理委託量	5.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t			5.0 t	
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				_

N0.4 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

	有償物	勿量			
不要物		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
不要物等発生量					
量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
<u> </u>					
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				⑭ ⑩のうち熱回 収認定業者以外 の熱回収を行う
⑩優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				

N0.5 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う
⑩優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
⑫再生利用業者への 処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
^⑬ 熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑩熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				_

N0.6 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う
⑩優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
⑫再生利用業者への 処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
^⑬ 熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑩熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				_

N0.7 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
^⑬ 熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				

N0.8 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
^⑬ 熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				

N0.9 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

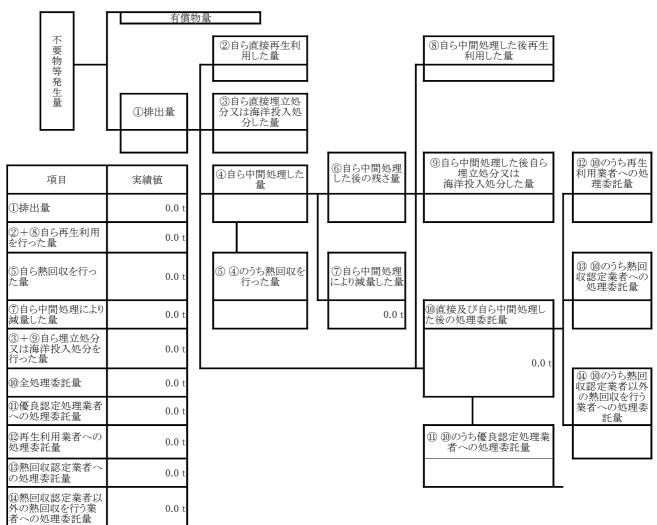
	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
^⑬ 熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				

N0.10 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

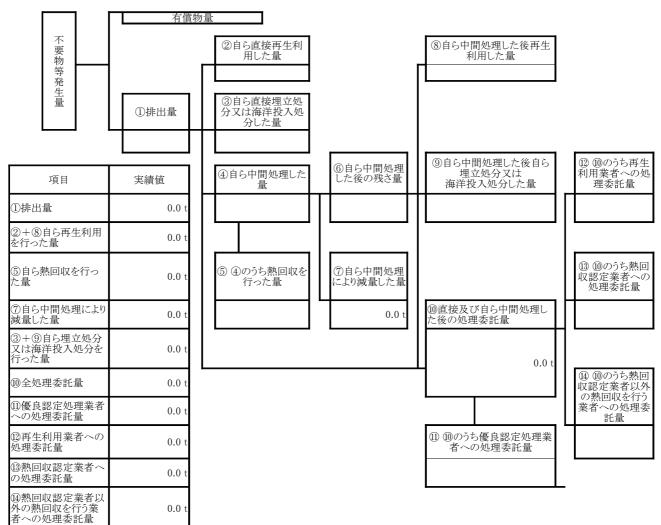


N0.11 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

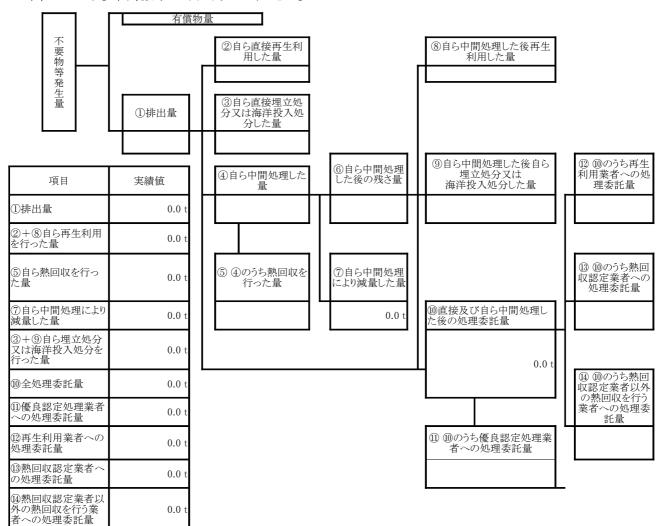


N0.12 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)



N0.13 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

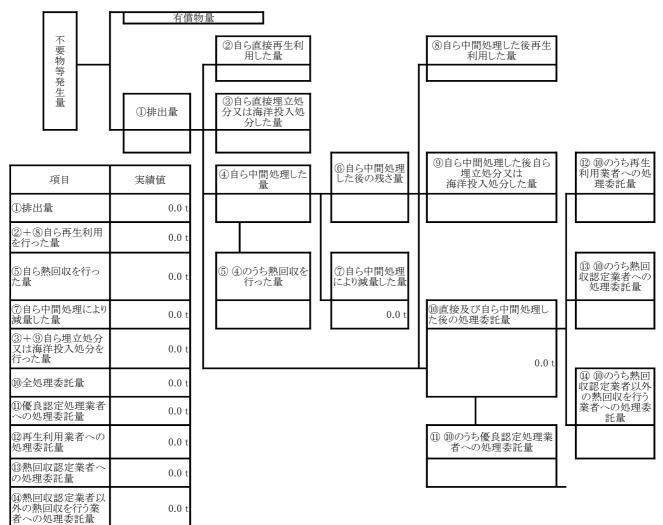
	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
· 発生 生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+8自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				-

N0.14 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

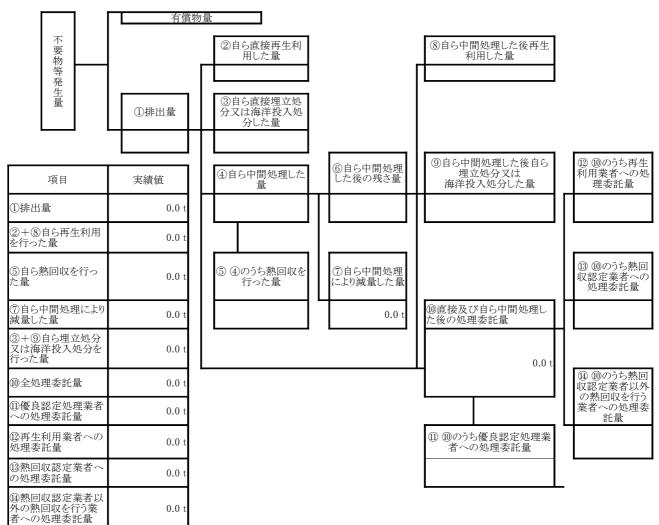


N0.15 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

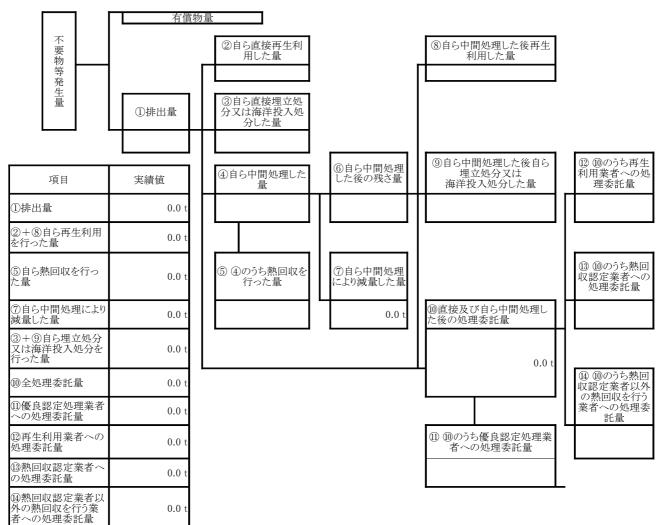


N0.16 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)



N0.17 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

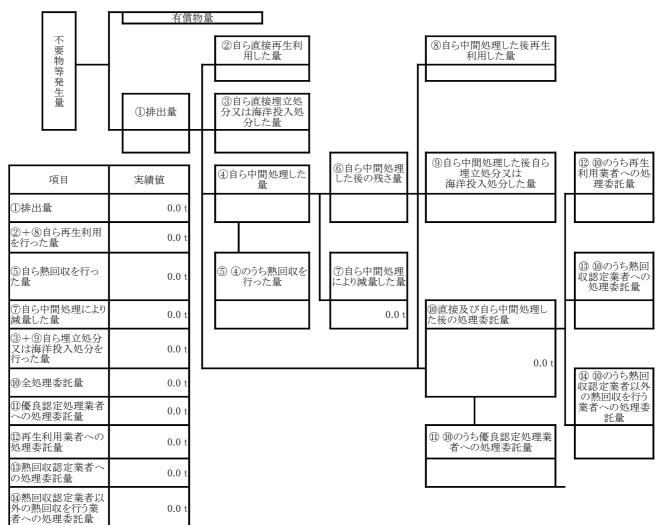
	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
· 発生 生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+8自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				-

N0.18 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

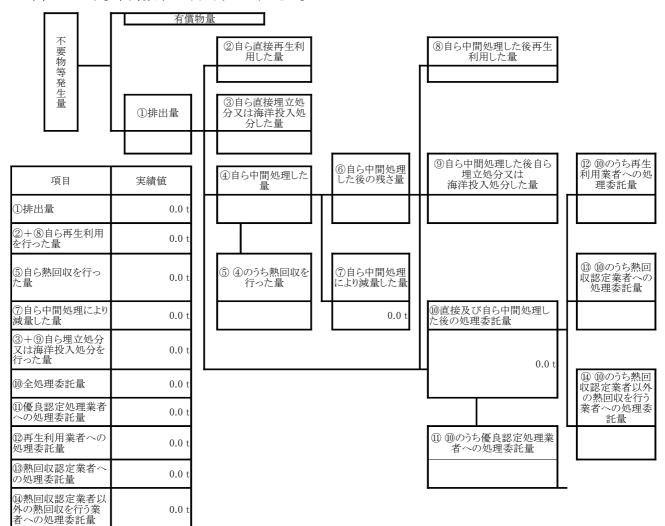


N0.19 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

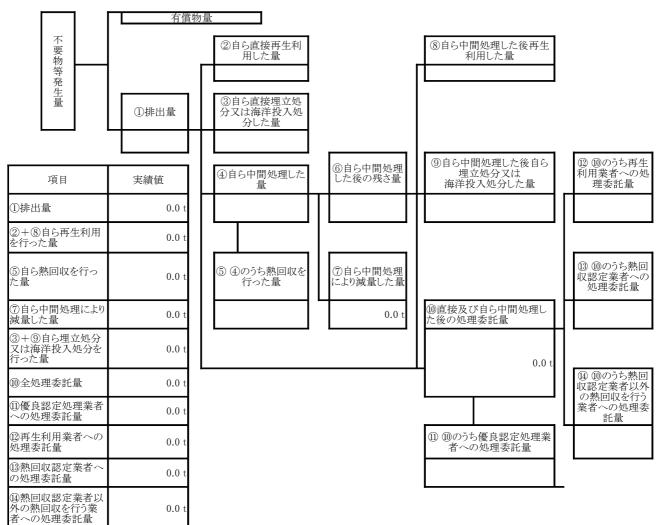


N0.20 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)



備考

- 翌年度の6月30日までに提出すること。 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物処理に関して、①~⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入する
- (1)
- (2)
- ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量 (3)
- ④欄(1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量 (4)
- (4)の量のうち、熱回収を行った量 (5)⑤欄
- (6)6)欄 自ら中間処理をした後の量
- (4)の量から(6)の量を差し引いた量 ⑦欄 (7)
- (8)
- ⑧欄(6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量 ⑨欄(6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量 (9)
- (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量 (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に 該当する者)への処理委託量
- (12) ⑫欄(10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量 (13) ⑬欄(10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の 認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量

- 配定を支げた有りてめるた理来有、シルベルで生安に重 (14) ඛ欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実 施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和6年6月26日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿



提出者

住 所 千葉県野田市野田110番地 氏 名 キッコーマン食品株式会社 野田工場 執行役員野田工場長 春日 正史 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 04-7123-5134

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他 その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事	業場の名称	キッコーマン食品株式会社 野田工場
事	業場の所在地	千葉県野田市野田110番地
計	画 期 間	令和6年4月1日~令和7年3月31日
当記	亥事業場において現に行	っている事業に関する事項
	①事業の種類	大分類:製造業 中分類:食料品製造業
	②事業の規模	前年度製造品出荷額 25.153億円
	③従 業 員 数	192名(正社員:181名、嘱託社員:7名、パート社員:4名)
	(A) 亲类	
	④産業廃棄物の一連 の処理の工程	別紙4~6のとおり

(日本工業規格 A列4番)



ら行う産業廃棄物の	再生利用に関する事項		
	【前年度(令和5年)	度)実績】	
	産業廃棄物の種類	廃油	_
① 現状	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	9 3 6 .t	_
	(これまでに実施し)製造工程で発生する	た取組) しょうゆ油を自社ボイラ-	一燃料に再利用。
	【目標】	24 .	
	産業廃棄物の種類	廃油	_
② 計画	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	950t	_
	(今後実施する予定の 今後も継続してしょ CO₂削減を図る。	の取組) うゆ油を自社ボイラーの燃	燃料に再利用 し、併せ
ら行う産業廃棄物の	中間処理に関する事項		
	【前年度(令和5年	度)実績】	_
	産業廃棄物の種類	汚泥	_
-	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	_
① 現状	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	96, 707 t	- 4
	(これまでに実施した 排水処理及び汚泥脱た 低減を図る。	を取組) 水機の適正な運転管理によ	より、汚泥含水率の
	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	E
②計画	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	91, 600 t	100
Ü	(今後実施する予定の 継続して汚泥含水率の 電気浸透式脱水機追加	の低減を図る。(凝集剤の	効果的使用・選定等。

	【前年度(令和5年度)	実績】	
	産業廃棄物の種類	_	_
① 現状	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	_	_
	(これまでに実施した) 埋立て処分・海洋投入外		V _o
	【目標】		
	産業廃棄物の種類		_
②計画	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量		<u> </u>
学長を持ちり1770	(今後実施する予定の町埋立て処分・海洋投入処	• •	/o
民発来物の処理の	委託に関する事項 【前年度(令和5年度)	 実績】 「別紙2の	トおり!
		をプラスチック類	汚泥
-	全処理委託量	3 8 t	3, 238
2	優良認定処理業者への 処理委託量	3 8 t	3, 238
	再生利用業者への 処理委託量	3 8 t	3, 238
① 現状	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0
	認定熱回収業者以外の	0.4	0
0: >	熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	

	【目標】 「別紙:	3のとおり」	
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	汚泥
	全処理委託量	40 t	3, 400 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	40 t	3, 400 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	40 t .	3, 400 t
② 計画	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
	り処理委託量(廃棄 汚泥について		
※事務処理欄	1 -	=	

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
- (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成 工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規 模が分かるような前年度の実績を記入すること。
- (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙1

	【前年度(令和5年度)	実績】			
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃油	木くず	-
① 現状	排出量	3 4 5 t	978t	1 t	
		するしょうゆ油を自社内ボイ 5の木製パレットは、有償			
	【目標】				
	【目標】	動植物性残さ	廃油	木くず	24
② 計画		動植物性残さ 350 t	廃油 960t	木くず 1 t	16

別紙2

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度(令和5年度)実績】

① 現状

産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃油	木くず	
全処理委託量	3 4 5 t	4 2 t	1 t	_
優良認定処理業者への 処理委託量	3 2 8 t	0 t	1 t	-
再生利用業者への 処理委託量	3 2 8 t	4 2 t	1 t	
認定熱回収業者への 処理委託量	O t	0 t	0 t	_
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	17 t	O t	0 t	_

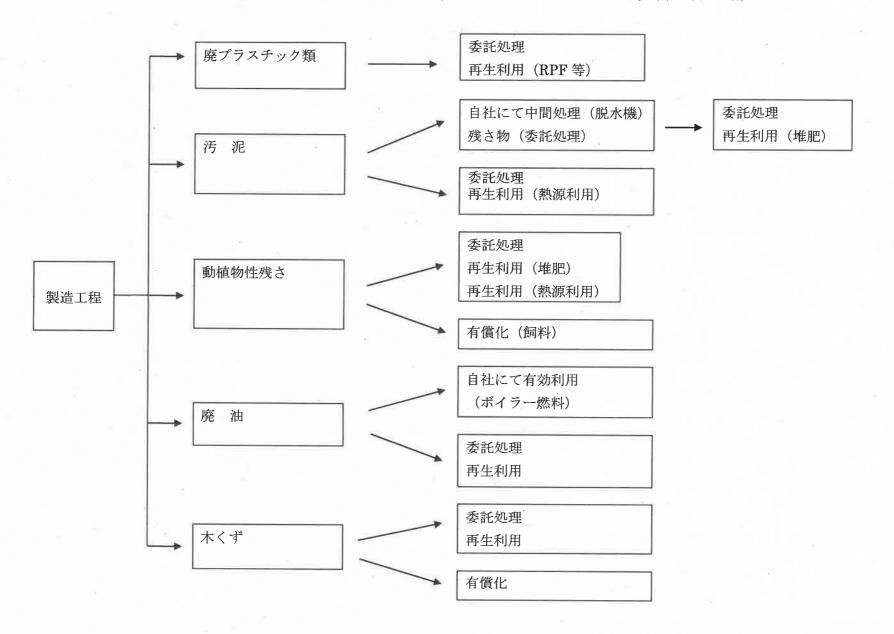
(これまでに実施した取組)

動植物性残さ:分別を徹底し、有価物にならないものは中間処理業者によって堆肥化を図る。

廃油:新清澄設備の導入により、効率的なしょうゆ油の分離を図る。 木くず:再生利用業者と新規の委託契約締結(優良認定処理業者)

別紙3

	立光皮を掘り往れ	動は脚を除る	i∌⊗ ýrh	+14	
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃油 	木くず	
	全処理委託量	3 5 0 t	1 O t	1 t	
	優良認定処理業者への 処理委託量	3 2 0 t	O t	1 t	_
	再生利用業者への 処理委託量	3 2 0 t	1 0 t	1 t	
-	認定熱回収業者への処 理委託量	O t	0 t	O t	
②計画	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	3 0 t	O t	O t	_
	(今後実施する予定の取組) 動植物性残さ:令和5年8 排出量を削え 廃油:植物系廃油について、 木くず:引き続き排出量削え	月に設置した脱水機の適〕 咸する。 ' 、澱(オリ)や水分が混入!			率低減を図り



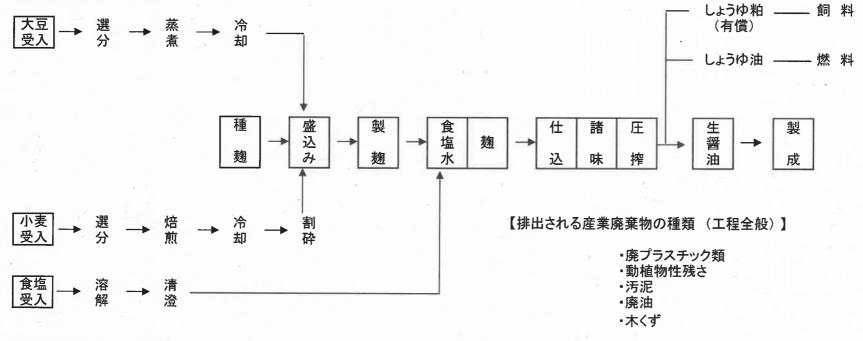
別紙5

事業工程図

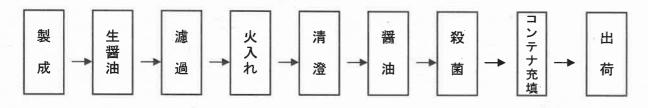
[キッコーマン食品(株) 野田工場]

しょうゆ製造工程図

(原料処理工程~製麹~仕込~圧搾・製成)

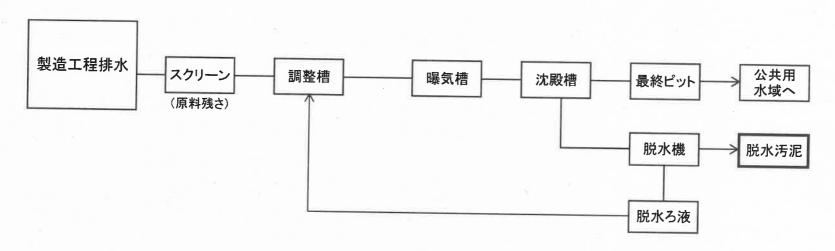


(製成工程~詰•包装工程~出荷)



排水処理工程図

〔キッコーマン食品㈱ 野田工場〕



【排出される産業廃棄物の種類】

- •汚泥
- ・動植物性残さ

(第1面)

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和6年6月26日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿



提出者

住所 千葉県野田市野田110番地 氏名 キッコーマン食品株式会社 野田工場 執行役員 野田工場長 春日 正史 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 04-7123-5134

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和5年度の産業廃棄物 処理計画の実施状況を報告します。

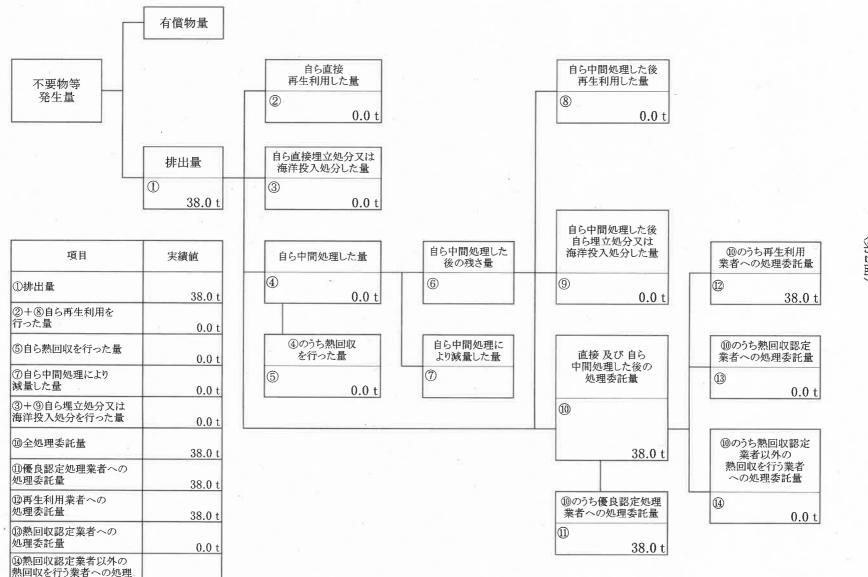
事	業場の	名	称	キッコーマン食品株式会社 野田工場
事	業場の原	近	地	千葉県野田市野田110番地
事	業の	種	類	大分類:製造業 中分類:食料品製造業
産業計	美廃棄物処理計 画 与		る 間	令和5年4月1日~令和6年3月31日

産業廃棄物処理計画における目標値

項目	目標値	項目	目標値
排出量	91351.0 t	全処理委託量	3801.0 t
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	950.0 t	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	3761.0 t
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0.0 t	再生利用業者への処理 委託 量	3771.0 t
自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	86600.0 t	認定熱回収業者への処理 委託 量	= 0.0 t
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0.0 t	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理 委託 量	30.0 t
※事務処理欄			

(日本工業規格 A列4番)

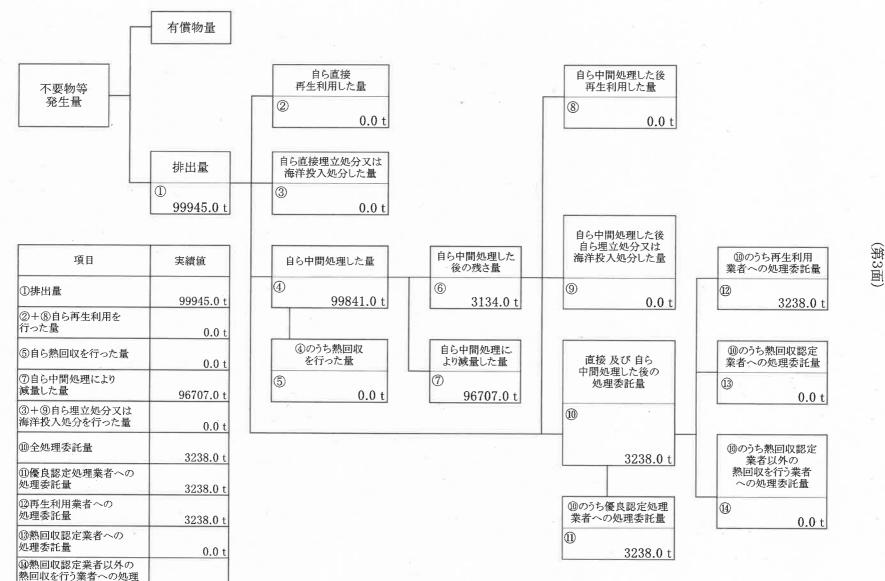
0.0 t



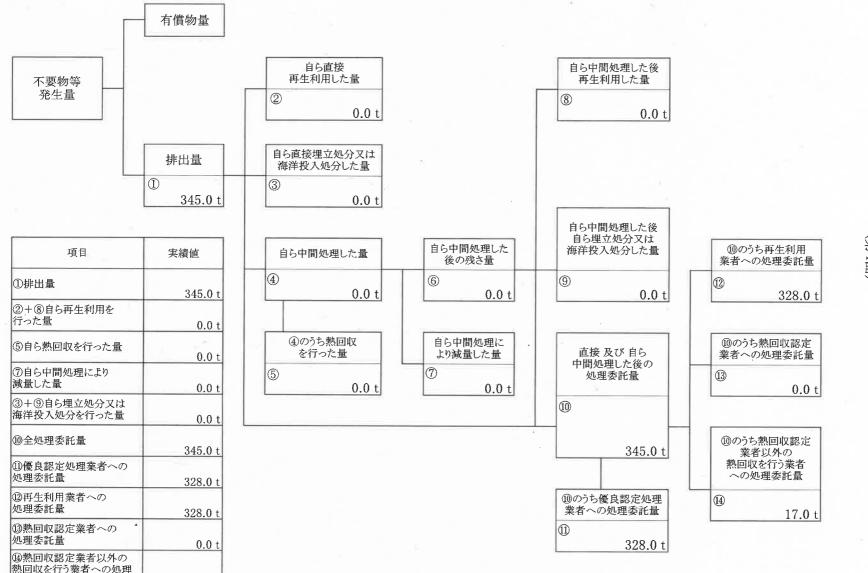
(第2面)

0.0 t





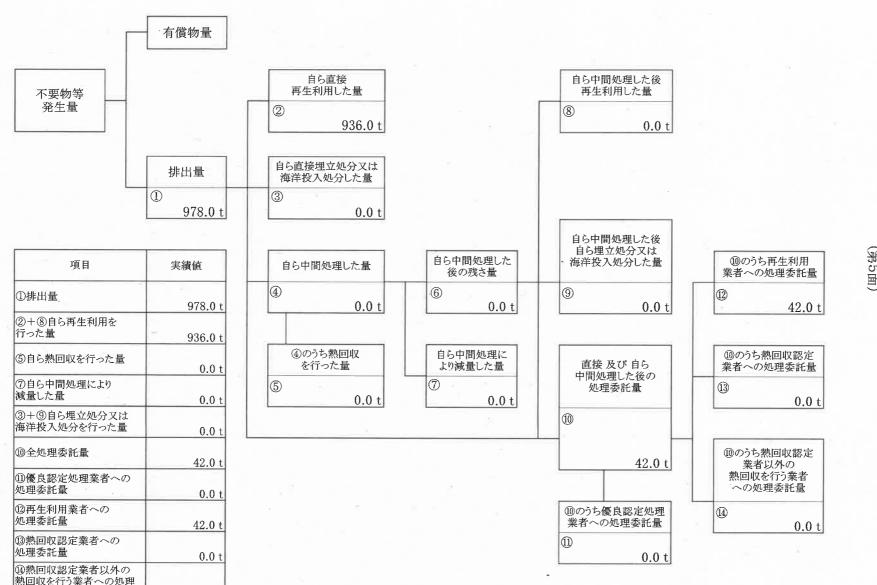
17.0 t



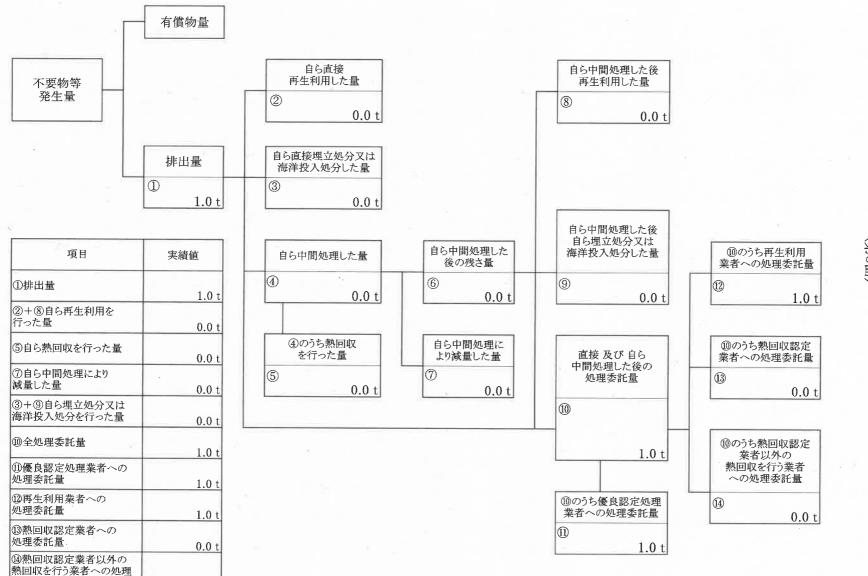
(第4面)

0.0 t





0.0 t



(第6面)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和6年5月18日

千葉県知事

熊谷 俊人 殿



提出者 〒270-0135

住 所 流山市野々下5丁目1062番地の2

氏 名 共立生コンクリート株式会社 代表取締役 斉藤 淳一

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 04-7146-1901

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その 処理に関する計画を作成したので、提出します。

	事	業場	易の	名	称		共立生コンクリート株式会社 柏工場
	事	業 場	の j	听 右	E地		千葉県流山市野々下5丁目1062番地の2
	計	画	ļ	期	間		令和6年4月1日から令和7年3月31日まで
当龍	亥事美	業場は	こおり	いて	現に	行っ	ている事業に関する事項
	1	事	業	の	種	類	E21-窯業・土石製品製造業
	2	事	業	の	規	模	前年度の製造品出荷額 816,000千円
	3	従	¥	É	員	数	10名
		産					購入者 (荷卸し現場) (本コンクリート汚泥 (本コンクリート残ぎ物) (中間処理: 園化・破除) (本田が見: 園化・破除) コンクリートくず (中間処理: 破砕)

(日本産業規格 A列4番)



ウングスを楽点を	(第3面)	
目ら行つ産業廃棄物	物の再生利用に関する事項	
	【前年度(令和5年度)実績】	
	産業廃棄物の種類_汚泥(生コンクリート汚泥) コンクリー	・トくず
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量 0 t 0	t
①現状	(これまでに実施した取組)	
	これまでに、自社で産業廃棄物の再生利用を行ったことはない	
	【目標】	
	産業廃棄物の種類_汚泥(生コンクリート汚泥) コンクリー	・トくず
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量 0 t 0	t
②計画	(今後実施する予定の取組)	
	今後も、自社で産業廃棄物の再生利用を行う予定はない	
	25	
 自ら行う産業廃棄集	 物の中間処理に関する事項	
	【前年度(令和5年度)実績】	
	産業廃棄物の種類」汚泥(生コンクリート汚泥) コンクリー	トくず
	自ら熱回収を行った	t
①現状	度 兼 焼 栗 物 の 重 自ら中間処理により減量した 0 + 0	t
少先扒		
	(これまでに実施した取組) これまでに、自社で熱回収による中間処理を行ったことはない	
	これよくに、日代と然四状による中間処理を行うだことはない	
	【目標】	
	産業廃棄物の種類_汚泥(生コンクリート汚泥) コンクリー	トくず
	自 ら 熱 回 収 を 行 う 産 業 廃 棄 物 の 量 0 t 0	t
②計画	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量 0 t 0	t
	(今後実施する予定の取組)	
	今後も、自社で熱回収による中間処理を行う予定はない	

	物の埋立処分又は海洋投入処分に	関ナス重百						
717 月 産業廃業	一 【前年度(令和5年度)実績							
	産業廃棄物の種類」	汚泥(生コンクリー	ト汚泥)	コンクリート	くず			
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0	t	0				
①現状	(これまでに実施した取組)							
	これまでに、自社で埋立	これまでに、自社で埋立処分又は海洋投入処分を行ったことはない						
	7	THE / Hand St. A. M.	1 7570		2 18			
	産業廃棄物の種類	汚泥(生コンクリー	ト汚泥)	コンクリート	くす			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う	0	t	0				
②計画	産業廃棄物の量)						
	引き続き埋立処分又は海		う予定はた	~ U\				
	JI CINIC LEEK MY MAIN) 1 VC100.0	~ v				
業廃棄物の処理	の委託に関する事項							
					_			
	【前年度(令和5年度)実績	貴 】						
	【則年度(令和5年度)実績 産業廃棄物の種類_		ト汚泥)	コンクリート	くず			
			ト汚泥) t	コンクリート 1,702	くず			
	産業廃棄物の種類_	汚泥(生コンクリー			くず			
	産業廃棄物の種類_ 全処理委託量_ 優良認定処理業者への 処理委託量	汚泥(生コンクリー 1,309 0	t	1,702	くす			
	産業廃棄物の種類_ 全処理委託量_ 優良認定処理業者への	汚泥(生コンクリー1,309	t	1, 702	くず			
①現状	産業廃棄物の種類_ 全処理委託量_ 優良認定処理業者への処理委託量 再生利用業者への処理委託量 認定熱回収業者への	汚泥(生コンクリー 1,309 0 1,309	t t	1, 702 0 1, 702	くず			
①現状	産業廃棄物の種類_ 全処理委託量_ 優良認定処理業者への処理委託量 再生利用業者への処理委託	汚泥(生コンクリー 1,309 0	t	1,702	くず			
①現状	産業廃棄物の種類_ 全処理委託量_ 優良認定処理業者への処理委託量 再生利用業者への処理委託量 認定熱回収業者への	汚泥(生コンクリー 1,309 0 1,309	t t	1, 702 0 1, 702	くず			
①現状	産業廃棄物の種類_ 全処理委託量_ 全処理委託者こ 優良認理業託へ量 再生理用委業者にの量 取定理のの量 認定理のの量 認定理のの量 認定対象のの量 認定対象のの量 認定対象のの数回収を行う業者へのの数回収を行う	汚泥(生コンクリー 1,309 0 1,309 0	t t	1, 702 0 1, 702	くず			
①現状	産業廃棄物の種類_ 全処理委託量_ 優良理 委託者託へ量 の処理 業託者託へ量 取型 単型 型型	汚泥 (生コンクリー 1,309 0 1,309 0	t t t	1, 702 0 1, 702	くず			
①現状	産業廃棄物の種類 _ 全処理委託量 _ 優良理 委託者 へ 量 の処理 業託へ の量 再生理 用委 業託 へ 量 認定 要業 者託 へ 量 認定 理 収 業 者託 へ 量 認定 理 収 業 者 説 外 の 量 認定 製 回収 業 者 説 外 の の 処理 要 業 業 託 した 取組 (これまでに実施した取組	汚泥 (生コンクリー 1,309 0 1,309 0	t t t	1, 702 0 1, 702	くず			
①現状	産業廃棄物の種類 _ 全処理委託量 _ 優良理 委託者 へ 量 の処理 業託へ の量 再生理 用委 業託 へ 量 認定 要業 者託 へ 量 認定 理 収 業 者託 へ 量 認定 理 収 業 者 説 外 の 量 認定 製 回収 業 者 説 外 の の 処理 要 業 業 託 した 取組 (これまでに実施した取組	汚泥 (生コンクリー 1,309 0 1,309 0	t t t	1, 702 0 1, 702	くず			
①現状	産業廃棄物の種類 _ 全処理委託量 _ 優良理 委託者 へ 量 の処理 業託へ の量 再生理 用委 業託 へ 量 認定 要業 者託 へ 量 認定 理 収 業 者託 へ 量 認定 理 収 業 者 説 外 の 量 認定 製 回収 業 者 説 外 の の 処理 要 業 業 託 した 取組 (これまでに実施した取組	汚泥 (生コンクリー 1,309 0 1,309 0	t t t	1, 702 0 1, 702	くず			

(第5面)

		17				
	【目標】					
	産業廃棄物の種類_汚	テ泥(生コンクリー	>汚泥)	コンクリートく	ず	
	全処理委託量_	1, 300	t	1, 700	t	
	優良認定処理業者への 処理 委託 量	0	t	0	t	
	再生利用業者への 処理 委託 量	1, 300	t	1, 700	t	
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0	t	0	t	
②計画	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理 委託 量	0	t	0	t	
	(今後実施する予定の取組) 引き続き路盤材への再生利	J用ができる処分	業者へ	委託		
 ※事務処理欄						

備考

- 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入するこ

 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。 (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請 完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ 事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するま での一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中 間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間 処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量 を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行 令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収 施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)であ る処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者へ の焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のと おり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の 種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入 すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないとき は、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

(第1面)

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和6年5月18日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿



提出者 〒270-0135 住 所 千葉県流山市野々下5丁目1062番地の2 氏 名 共立生コンクリート株式会社 代表取締役 斉藤 淳一 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 04-7146-1901

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和 5 年度の産業廃棄物 処理計画の実施状況を報告します。

事	業場の	名	称	共立生コンクリート株式会社 柏工場
事	業場の	 在	地	千葉県流山市野々下5丁目1062番地の2
事	業の	種	類	E21-窯業·土石製品製造業
産業廃棄物処理計画における 計 画 期 間				令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

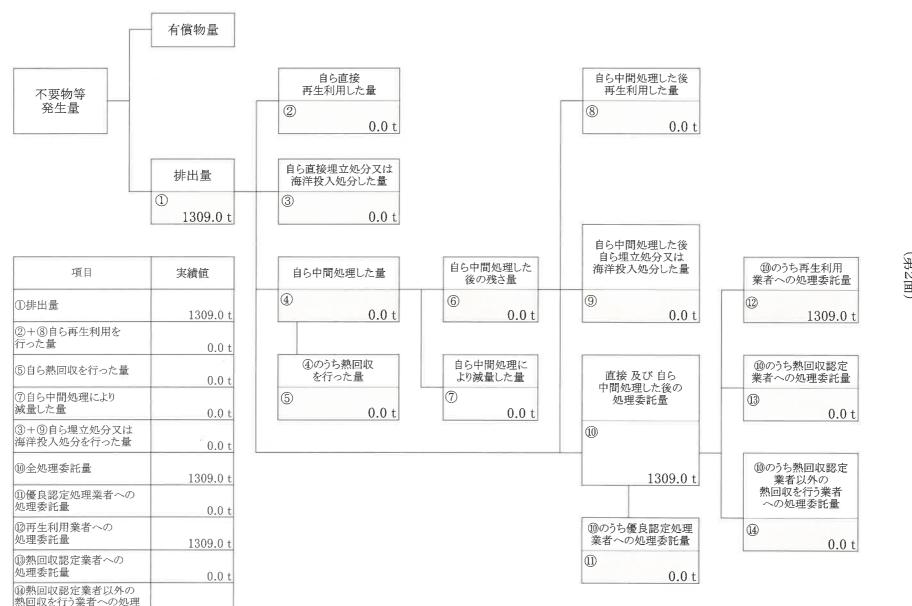
産業廃棄物処理計画における目標値

項目		目標値	項目	目標値	
排	出	星	4600.0 t	全 処 理 委 託 量	4600.0 t
	再生利用を 廃棄物の			優良認定処理業者への 処理 委託 量	
	熱回収を行 廃棄物の			再生利用業者への処理 委託 量	4600.0 t
	間処理により減量 廃 棄 物 の			認定熱回収業者への処理 委託 量	
海洋	埋 立 処 分 又 投 入 処 分 を 廃 棄 物 の	行う		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理 委託 量	
※事務処	理欄				

(日本産業規格 A列4番)

0.0 t

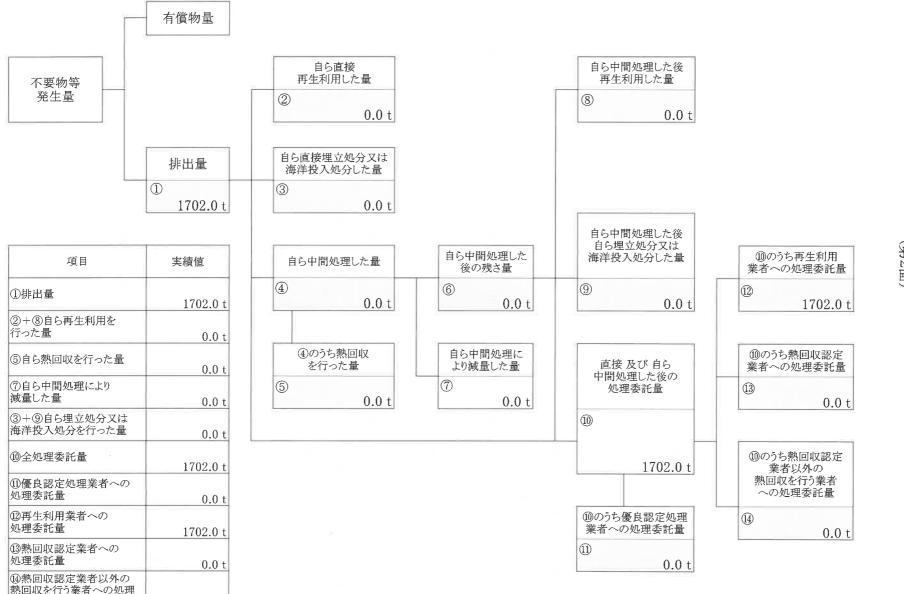




0.0 t

(産業廃棄物の種類:

ガラス・コンクリート・陶磁器くず



(第2面)

備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載 した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物処理に関して、①~⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14) に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄(1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄(4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令 第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律 第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への 焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和6年6月11日

千葉県知事

熊谷 俊人 殿

提出者 670-0964

住 所 兵庫県姫路市豊沢町156番地姫路アド バンスビル

法人名 キンキサイン株式会社

代表者 山口 祖廣

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0478-58-3100

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称		キンキサイン株式会社千葉工場						
事業場の所在地		千葉県香取市与倉812番地7						
	計画期間	令和6年4月1日 から		から	令和7年3月31日			
当該	当該事業場において現に行っている事業に関する事項							
	①事業の種類	大分類:	製造業	中分類:	飲料たばこ飼料製造業			
	②事業の規模	74.33億円						
	③従業員数	66人						
		汚泥→脱水→発酵→堆肥化再利用						
	④産業廃棄物の	動植物性残さ→脱水→飼料・敷床として再利用						
	一連の処理の工程	廃プラ→粉砕	溶解→資材原	料として再利用				

(日本産業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項 (管理体制図) 工場長 品質保証課 施設・ユーティリティ 製造課 生産業務 • 産業廃棄物処理計画 · 産業廃棄物処理責任者 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 動植物性残さ 汚泥 排出量 1087 t 1303.3 t ①現状 (これまでに実施した取組) ラインの効率化を図り廃棄物の含水率を低減して排出量の抑制を行っていま す。 【目標】 産業廃棄物の種類 動植物性残さ 汚泥 排出量 1200 t 1300 t ②計画 (今後実施する予定の取組) 動植物性残さと汚泥の含水率を低下させ排出量を更に抑制します。 産業廃棄物の分別に関する事項 (分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 動植物性残→豚や牛の敷床や飼料として再利用しています。 ①現状 汚泥・動植物性残さ→発酵処理後に堆肥化して主に農場で再利用しています (今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 動植物性残さを全て有価にて再利用させる取り組みをしています。 ②計画 汚泥は含水率を下げる努力をしています。

自身	っ行う産業廃棄物の再	写生利用に関する事項		
		【前年度(令和5年度)実績】]	
		産業廃棄物の種類	動植物性残さ	汚泥
		自ら再生利用を行った産業廃棄 物の量	0 t	0 t
	①現状	(これまでに実施した取組)		
		【目標】		
		産業廃棄物の種類	動植物性残さ	汚泥
		自ら再生利用を行う産業廃棄物 の量	0 t	0 t
	②計画	(今後実施する予定の取組)		
<u></u>	たこ女坐成を集の日	7明407四次明上フまで		
	つけり座業廃業物の日	□間処理に関する事項 ̄ 【☆ケケ (☆ 555 年度) よぼ	•	
		【前年度(令和5年度)実績】		
		産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行った産業廃棄物	動植物性残さ	汚泥
		の量 自ら中間処理により減量した産	t	t
	①現状	業廃棄物の量	t	t
		(これまでに実施した取組)		
		<u>┃</u> 【目標】		
		産業廃棄物の種類	 動植物性残さ	汚泥
		自ら熱回収を行う産業廃棄物の		
		量 自ら中間処理により減量する産	t	t
	②計画	業廃棄物の量	t	t
		(今後実施する予定の取組)		
1		I		

	【前年度(令和5年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	汚泥
	自ら埋立処分又は海洋投入処分 を行った産業廃棄物の量	t	1
①現状	(これまでに実施した取組)		
	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	汚泥
	自ら埋立処分又は海洋投入処分 を行う産業廃棄物の量	t	1
②計画			
⊕ F1 E4	(今後実施する予定の取組)		
	(今後美施する予定の取組) の委託に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】		
	の委託に関する事項	動植物性残さ	汚泥
	の委託に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 全処理委託量	動植物性残さ 1087 t	
	の委託に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 全 処 理 委 託 量 優良認定処理業者への処理 委託量		汚泥 1303. 3 1 269. 4 1
	の委託に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 全 処 理 委 託 量 優良認定処理業者への処理 委託量 再生利用業者への処理委託 量	1087 t	1303.3 1
	の委託に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 全 処 理 委 託 量 優良認定処理業者への処理 委託量 再生利用業者への処理委託	1087 t 0 t	1303. 3 1 269. 4 1
廃棄物の処理	の委託に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 全 処 理 委 託 量 優良認定処理業者への処理 委託量 再生利用業者への処理委託 量 認定熱回収業者への処理委	1087 t 0 t 1087 t	1303. 3 1 269. 4 1 1303. 3 1
廃棄物の処理	の委託に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 全 処 理 委 託 量 優良認定処理業者への処理 委託量 再生利用業者への処理委託 副記定熱回収業者への処理委託 認定熱回収業者への処理委託	1087 t 0 t 1087 t t	1303. 3 1 269. 4 1 1303. 3 1

(第5面)

	【目標】	【目標】						
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	汚泥					
	全処理委託量	1200 t	1300 t					
	優良認定処理業者への処理 委託量	0 t	250 t					
	再生利用業者への処理委託 量	1200 t	1050 t					
②計画	認定熱回収業者への処理委 託量	t	t					
	認定熱回収業者以外の熱回 収を行う業者への処理委託 量	t	t					
	(今後実施する予定の取組) 廃棄物の含水率を押さえて数	マ量の低減に努力します。						

- 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 当該年度の6月30日までに提出すること。 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
- (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。 (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前 年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の 実績を記入すること。
- (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理
- の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行う に際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量
- した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当す
- が、その内級として、後民誌足処理業者、廃棄物の処理及び信捕に関する法律施刊や第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の	排出の抑制に関する事項								
	【前年度(令和5年度)	実績】							
①現状	産業廃棄物の種類	廃プラ							
	排 出 量	2.3 t	t	t	t	t	t	t	t
	【目標】								
②計画	産業廃棄物の種類	廃プラ							
	排出量	2 t	t	t	t	t	t	t	t
ら行う産業	廃棄物の再生利用に関す								
	【前年度(令和5年度)	実績】							
①現状	産業廃棄物の種類	廃プラ							
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0 t	t	t	t	t	t	t	t
	【目標】								
②計画	産業廃棄物の種類	廃プラ							
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0 t	t	t	t	t	t	t	t
ら行う産業	廃棄物の中間処理に関す								
	【前年度(令和5年度)	実績】					T		T
	産業廃棄物の種類	廃プラ							
①現状	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	t	t	t	t	t	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	0 t	t	t	t	t	t	t	t
	//NE//R //	<u> </u>							
	産業廃棄物の種類	廃プラ							
②計画	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	t	t	t	t	t	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	0 t	t	t	t	t	t	t	t

	廃棄物の埋立処分又は海 【前年度(令和5年度)		ン プ · ス						
						1	Ι	ı	
①現状	産業廃棄物の種類	廃プラ							
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	t	t	t	t	t	t	t
	【目標】								
⊘∌.⊯	産業廃棄物の種類	廃プラ							
②計画	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	t	t	t	t	t	t	t
き廃棄物の:	処理の委託に関する事項								
	【前年度(令和5年度)					1	Γ	I	
	産業廃棄物の種類	廃プラ							
	全処理委託量	2.3 t	t	t	t	t	t	t	t
OTH 4L	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	t	t	t	t	t	t	t
①現状	再生利用業者への 処理委託量	2.3 t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	t	t	t	t	t	t	t
	【目標】								
	産業廃棄物の種類	廃プラ							
	全処理委託量	2 t	t	t	t	t	t	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	t	t	t	t	t	t	t
②計画	再生利用業者への 処理委託量	2 t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	t	t	t	t	t	t	t

(第1面)

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和6年6月6日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

提出者 670-0964

住所 兵庫県姫路市豊沢町156番地姫路アドバンス

法人名キンキサイン株式会社

代表者 山口 祖廣

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0478-58-3100

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和 5 年度の産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

事	業	場(か 名	称	キンキサ	テンキサイン株式会社千葉工場					
事	1 業 場	景の	所在	土地	千葉県香	葉県香取市与倉812番地7					
事	業	の	種	類	大分類	大分類 製造業 中分類 飲料たばこ飼料製造業					
産業廃棄物処理計画にお ける計画期間			画にお	令和	5年4月1日	4月1日 から 令和6年3月31日					
産	業廃棄	物处	1理計	・画にま	3ける目標	軽値					
	項目				目标	票値	項目		目標値	目標値	
	排出	量				2502 t	全処理委託量			2502	t
	自らす産業原					t	優良認定への処理	処理業者 委託量		250	t
	自ら熱産業原	外回り 発棄	又を行 物の量	う 量		t	再生利用 処理委託	業者への 量		2252	t
自ら中間処理により減 量する産業廃棄物の 量			t	認定熱回 の処理委		t					
	自ら地海洋 海洋 産業原	殳入:	処分を	を行う		t	認定熱回 外の熱回 者への処	収を行う業			t

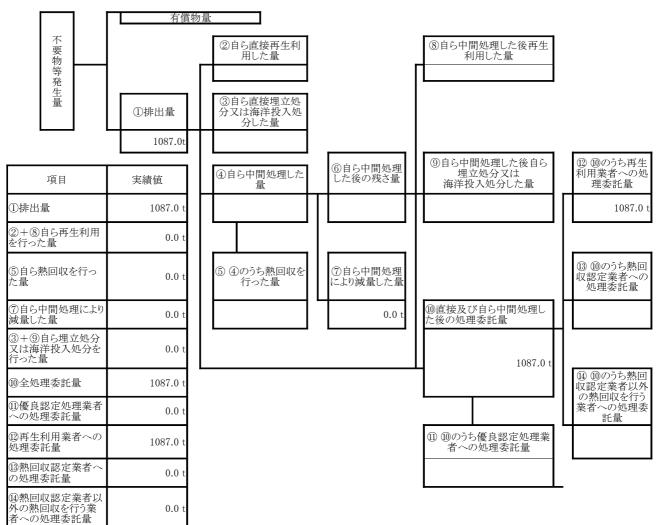
(日本産業規格 A列4番)

N0.1 (第2面)

計画の実施状況 (産業廃棄物の種類:

動植物性残さ

)



N0.2 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

) 汚泥

	有償物	初量	
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量 8自ら中間処理 利用し	里した後再生 た量
星	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量	
	1303.3t		
項目	実績値	①自ら中間処理した 量	対スは 利用業者への処
①排出量	1303.3 t		1303.3 t
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t		
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量 ⑦自ら中間処理 により減量した量	⑬ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t	0.0 t ⑩直接及び自ら た後の処理委割	中間処理しまします。
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t		1303.3 t
⑩全処理委託量	1303.3 t		(4) ⑩のうち熱回収認定はおより
⑩優良認定処理業者への処理委託量	269.4 t		の熱回収を行う 業者への処理委 託量
②再生利用業者への処理委託量	1303.3 t	① ⑩のうち優良者への処理	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t		269.4 t
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0.0 t		

N0.3 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 廃プラスチック類)

/八十三年13600 / 10	1 / 1 300 1 *2 */	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			
	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
等 発 米 生					
量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
	2.3t				0.0-21-71
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	① ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	2.3 t				2.3 t
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		⑬ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			2.3 t	
⑩全処理委託量	2.3 t				④ ⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う
⑩優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
⑫再生利用業者への 処理委託量	2.3 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				

N0.4 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
^⑬ 熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				

N0.5 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
^⑬ 熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				

N0.6 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

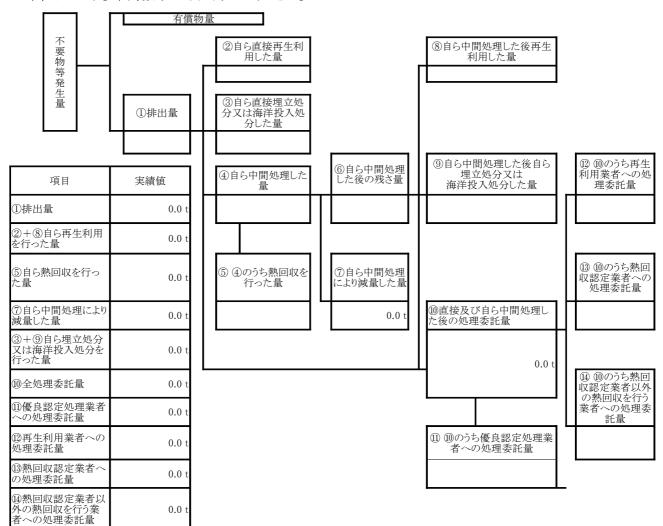
	有償物	勿量			
不 要 物		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
不要物等発生量					
量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
				() 스스 스 HB (III 전II) 그 /// 스스	0 0 0 1 ± ± 4
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外 の熱回収を行う
⑩優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				

N0.7 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)



N0.8 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

	有償物	勿量			
不要物		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
不要物等発生量					
量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
<u> </u>					
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				⑭ ⑩のうち熱回 収認定業者以外 の熱回収を行う
⑩優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				

N0.9 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

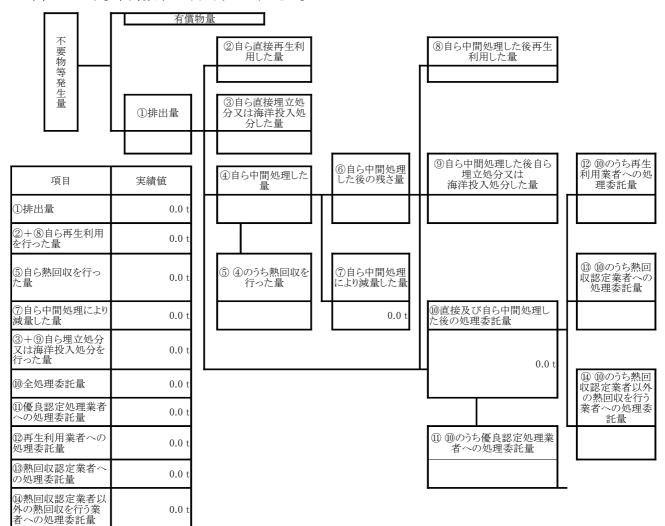
	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
⑫再生利用業者への 処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
^⑬ 熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				

N0.10 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

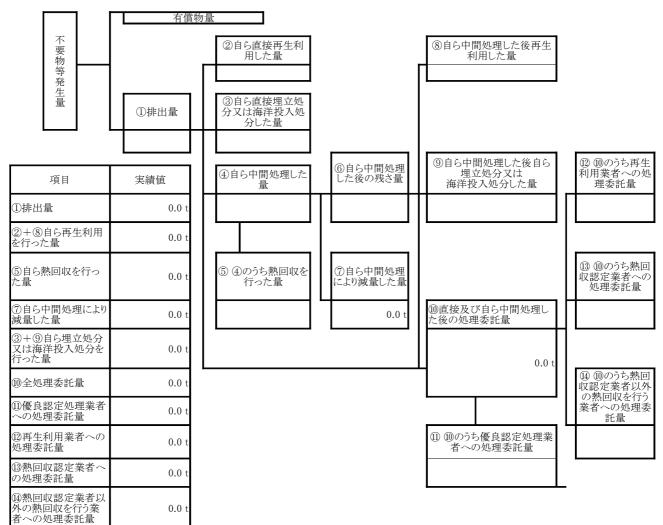


N0.11 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

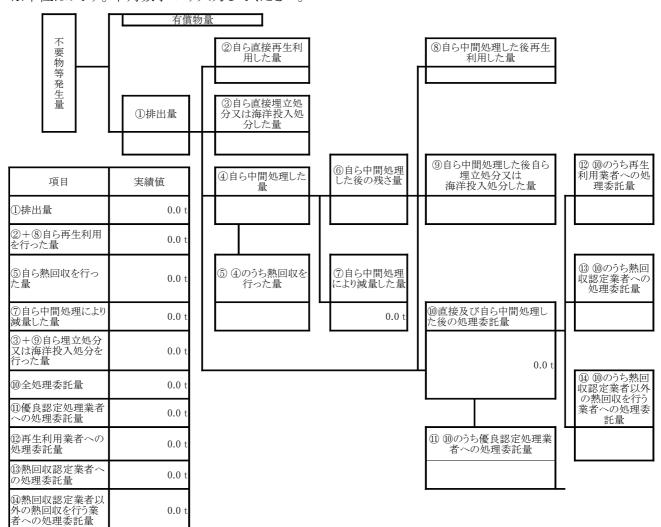


N0.12 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)



N0.13 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

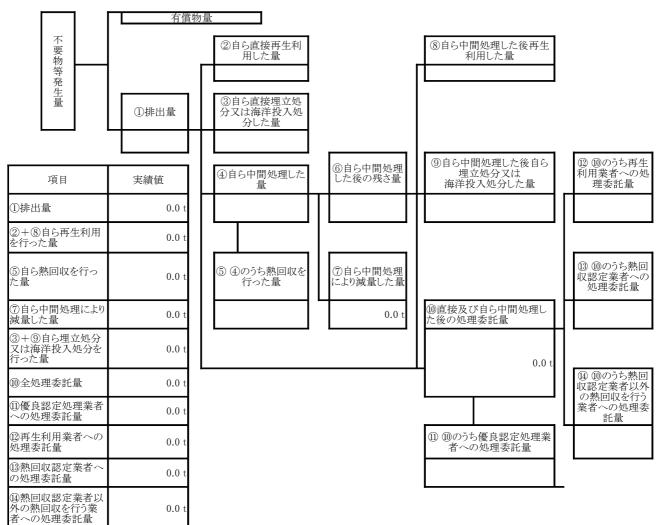
	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
· 発生 生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+8自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				-

N0.14 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

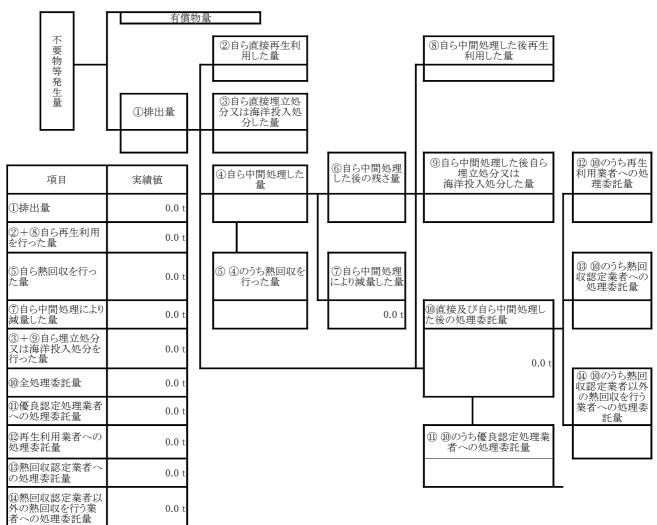


N0.15 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

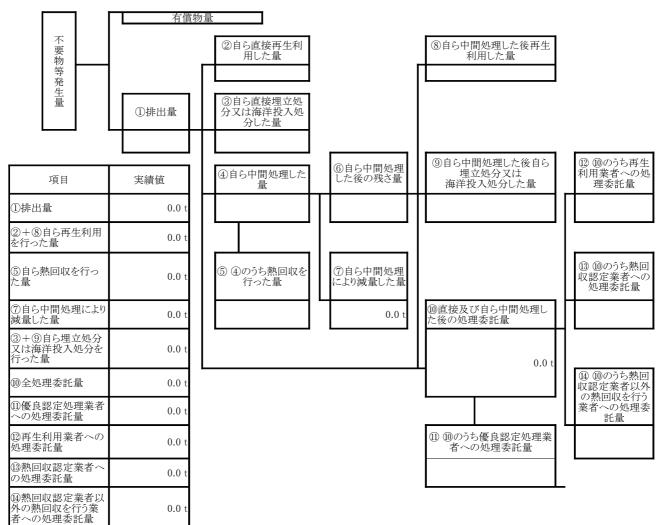


N0.16 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)



N0.17 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

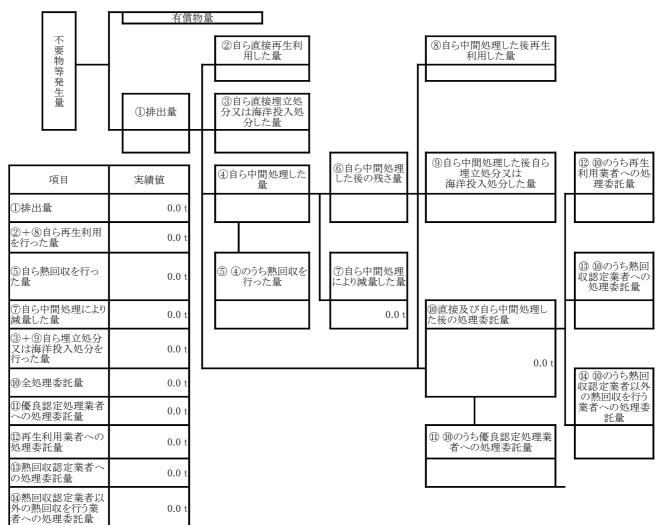
	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
· 発生 生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+8自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理した後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				-

N0.18 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

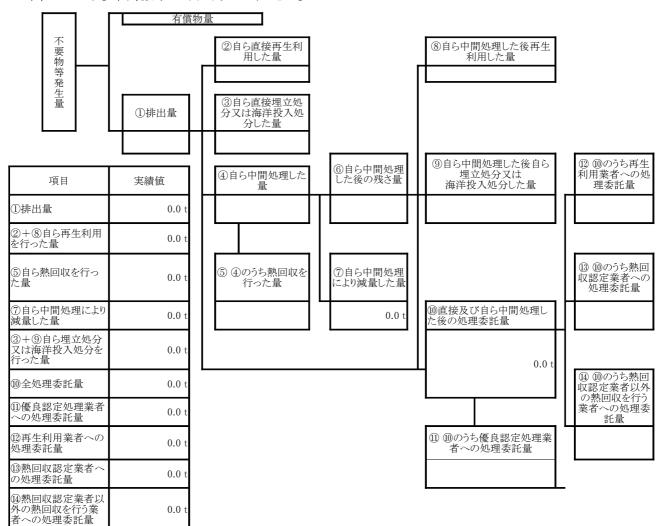


N0.19 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)



N0.20 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利用した量		⑧自ら中間処理した後再生利用した量	
星	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				

備考

- 翌年度の6月30日までに提出すること。 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物処理に関して、①~⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入する
- (1)
- (2)
- ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量 (3)
- ④欄(1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量 (4)
- (4)の量のうち、熱回収を行った量 (5)⑤欄
- (6)6)欄 自ら中間処理をした後の量
- (4)の量から(6)の量を差し引いた量 ⑦欄 (7)
- ⑧欄(6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量 ⑨欄(6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量 (8)
- (9)
- (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量 (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に 該当する者)への処理委託量
- (12) ⑫欄(10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量 (13) ⑬欄(10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の 認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量

- 記述を受けた有りてめるた理来有、シルムのと生安に重 (14) ඛ欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実 施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

2024 年 6月 14日

千葉県知事

熊谷 俊人

様



提出者

住 所 千葉県野田市蕃昌新田字溜台10番地 氏 名 パリコマニュファクチャリングジャパン株式会社 旧社名 グリコ千葉アイスクリーム株式会社

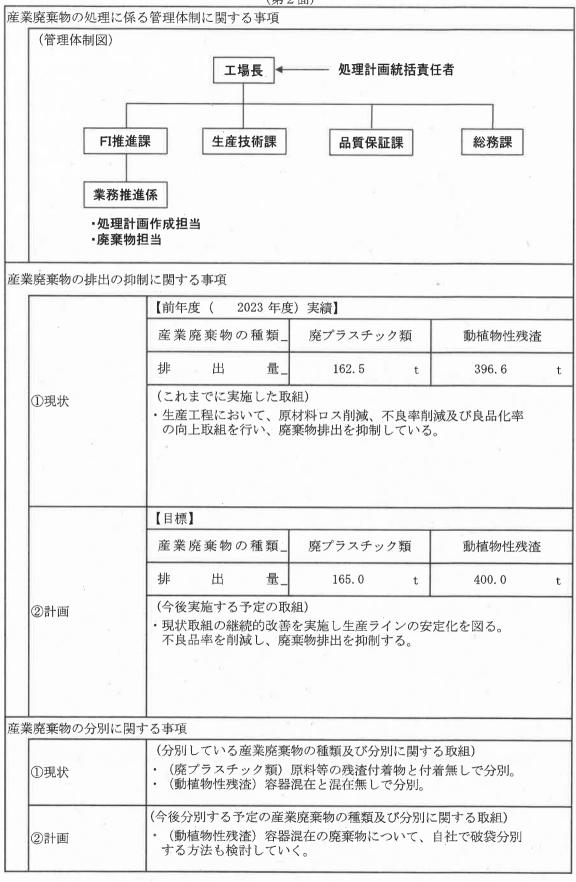
千葉工場 工場長 杉本 将弘

電話番号 04-7129-2138

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事	業場	易の) 名	称		グリコ	マニュ	ファクチュ	ァリングジャパン株式	会社 千葉工場
事	業場	の	所右	E地			:	千葉県野田	市蕃昌新田字溜台10	番地
計	迪	Ī ;	期	間			- 20	24年4月	1日~2025年3	月31日
該事	業場は	こおり	いて	現に	行っ	ている事業	能に関す	する事項		
1	事	業	の	種	類	4.	大	分類:製造	業 中分類:食料品類	製造業
2	事	業	の.	規	模		前	方年度の生産	医金額 183億9千	-万円
3	従	*	É	員	数	3 :	15人	(正社員	127名、その他	200名)
	産					産業廃棄物 処理工程 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	70-8	魔プラスチック類 動植物性残凌 汚泥	要託処理 (中間処理: 再生利用及び機却) 要託処理 (中間処理: 再生利用及び機却) 自社中間処理: 再生利用及び機利)	委託処理 (再生利用業者にて肥料化
							L.,	液体污泥	委託処理 (中間処理: 脱水処理)	委託処理 (再生利用業者にて肥料化)

(日本工業規格 A列4番)



	,				
			v.		
印制に関する	多事項				
【前年度	 E(2023 年度)実績】			_
				海休汚泥	
/ / / /		1776		11X 141 776	
排	出 量_	4157. 5	t	31. 1	
(これま	 でに実施した取	 組)			
			水処理	場への負荷軽減	
を図り、	余剰汚泥の排出	を抑制している。			
【目標】					
	産棄物の種類 _	汚泥		液体汚泥	
産業原			t		
産業別	出 量	4002. 0	t	液体汚泥 0.0	
産業原排(今後実	出 量_	4002.0		0.0	
産業 原排 (今後実・現状取	出 量	4002.0 組) 節水につながる影		0.0	
産業 原排 (今後実・現状取	出 量 _ 尾施する予定の取済 対組の継続実施と	4002.0 組) 節水につながる影		0.0	
産業 原排 (今後実・現状取	出 量 _ 尾施する予定の取済 対組の継続実施と	4002.0 組) 節水につながる影		0.0	
産業 原排 (今後実・現状取	出 量 _ 尾施する予定の取済 対組の継続実施と	4002.0 組) 節水につながる影		0.0	
産業 原排 (今後実・現状取	出 量 _ 尾施する予定の取済 対組の継続実施と	4002.0 組) 節水につながる影		0.0	
産業廃 排 (今後実 ・現び運	出 量 _ 尾施する予定の取済 対組の継続実施と	4002.0 組) 節水につながる記 PR等啓蒙活動ま	设備改善 送施。	の検討実施	
産業 別 (今後)	出 量_ 民施する予定の取対 対組の継続実施と行 国用改善取組への	4002.0 組) 節水につながる記 PR等啓蒙活動ま	设備改善 送施。	の検討実施	
産業 別 (今後)	出 量_ 尾施する予定の取納 対組の継続実施とは 運用改善取組への	4002.0 組) 節水につながる記 PR等啓蒙活動ま	设備改善 送施。	の検討実施	
産業廃する実際では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	出 量 _ 民施する予定の取 対組の継続実施と行 運用改善取組への こている産業廃棄な こついては分別等の	4002.0 組) 節水につながる説 PR等啓蒙活動実 物の種類及び分別 の取組は無し。	は備改善と施。	0.0の検討実施	
産業廃する実際では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	出 量_ 尾施する予定の取納 対組の継続実施とは 運用改善取組への	4002.0 組) 節水につながる説 PR等啓蒙活動実 物の種類及び分別 の取組は無し。	は備改善と施。	0.0の検討実施	
	【前年度産業房排 ・生産エ	産業廃棄物の種類_排 出 量_ (これまでに実施した取)・生産工程の安定化や節を図り、余剰汚泥の排出	【前年度 (2023 年度) 実績】 産業廃棄物の種類_ 汚泥 排 出 量_ 4157.5 (これまでに実施した取組) ・生産工程の安定化や節水取組により、規を図り、余剰汚泥の排出を抑制している。	【前年度 (2023 年度) 実績】 産業廃棄物の種類_ 汚泥 排 出 量_ 4157.5 t (これまでに実施した取組) ・生産工程の安定化や節水取組により、排水処理を図り、余剰汚泥の排出を抑制している。	【前年度 (2023 年度) 実績】 産業廃棄物の種類 - 汚泥 液体汚泥 排 出 量 - 4157.5 t 31.1 (これまでに実施した取組) ・生産工程の安定化や節水取組により、排水処理場への負荷軽減を図り、余剰汚泥の排出を抑制している。

	【前年度 (2023 年度		9	
	産業廃棄物の種類」	廃プラスチック類	動植物性殖	生汰.
	自ら再生利用を行った	0 t	(D) (単元) (単元) (日元) (日元) (日元) (日元) (日元) (日元) (日元) (日	X (E .
OTE AL	産業廃棄物の量			
①現状	(これまでに実施した取 ・自社での再生利用実績			
		,		
	【目標】			
	産業廃棄物の種類_	廃プラスチック類	動植物性別	浅渣
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	· 0 t	0	
②計画	(今後実施する予定の取			
	・自社での再生利用実績	は無し。		
う行う産業廃棄物	の中間処理に関する事項			
	【前年度 (2023 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類_)実績】 	動植物性残	—— 美渣
			動植物性鸡	<u></u>
① 現状	産業廃棄物の種類_ 自ら熱回収を行った	廃プラスチック類		 浅渣
①現状	産業廃棄物の種類_ 自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量 (これまでに実施した取	廃プラスチック類 0 t 0 t	0	<u>養</u>
①現状	産業廃棄物の種類_ 自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量 ^{自ら中間処理により減量した} 産業廃棄物の量	廃プラスチック類 0 t 0 t	0	美 渣
①現状 ·	産業廃棄物の種類_ 自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量 (これまでに実施した取	廃プラスチック類 0 t 0 t	0	養渣
①現状 ·	産業廃棄物の種類_ 自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量 (これまでに実施した取	廃プラスチック類 0 t 0 t	0	達 渣
①現状 ·	産業廃棄物の種類_ 自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量 (これまでに実施した取	廃プラスチック類 0 t 0 t	0	遠
①現状 ·	産業廃棄物の種類」 自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量 (これまでに実施した取)・自社での実績は無し。	廃プラスチック類 0 t 0 t	0	
①現状 ·	産業廃棄物の種類_ 自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量 (これまでに実施した取・自社での実績は無し。	廃プラスチック類 0 t 0 t 組)	0	
①現状 ②計画	産業廃棄物の種類_ 自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量 (これまでに実施した取)・自社での実績は無し。	廃プラスチック類 0 t 0 t 組)	動植物性残	
	産業廃棄物の種類_ 自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した産業でに実施した取ら ・自社での実績は無し。 【目標】 産業廃棄物の種類_ 自産業廃棄物の種類_ 自産業廃棄物の種類_ 自ら中間処理により減量する	廃プラスチック類 0 t 0 t 組) 廃プラスチック類 0 t 0 t	動植物性残	
	産業廃棄物の種類_ 自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量 自産業物のした (これまでに実施した取)・自社での実績は無し。 【目標】 産業廃棄物の種類_ 自産業廃棄物の種類_ 自産業廃棄物の種類_ 自産業のの量の量のである。	廃プラスチック類 0 t 0 t 組) 廃プラスチック類 0 t 0 t	動植物性残	
	産業廃棄物の種類_ 自ら熱回収を行った 意業 廃棄 物の量 自を業 廃棄 物 の した 意業 でに実施した取 ・自社での実績は無し。 【目標】 産業 廃棄 物の種類 _ 自産業 廃棄 物の量 自産業 廃棄 物の量 自産業 物の重量 自産業 物の重量 自産業 物のの量 自産業 物のの量 自産 業 をの 自産 業 をの 自産 業 をの 自産 業 物のの量 自産 業 物のの量 のの 自産 業 をの 自産 まり をの 自産 をの 自産 をの も をの 自産 をの 自産 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	廃プラスチック類 0 t 0 t 組) 廃プラスチック類 0 t 0 t	動植物性残	

	【前年度 (2023 年度)	実績】		
	産業廃棄物の種類_	汚泥	液体汚泥	
	自ら再生利用を行った 産業廃乗物の量	0 t	Ó	
①現状	(これまでに実施した取組			
	・自社での再生利用実績は	無し。		
	,			
	【目標】			
	産業廃棄物の種類_	汚泥	液体污泥	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 - t	0	Ī
②計画	(今後実施する予定の取組)		
	・自社での再生利用実績は	無し。		
っ行う産業廃棄	物の中間処理に関する事項			
	【前年度 (2023 年度)	実績】		
1		汚泥	液体汚泥	
	産業廃棄物の種類_	1.74	11217171	
	産業廃棄物の種類_ 自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	0	
①現状	自ら熱回収を行った			
①現状	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t 3679.7 t	0 -	
①現状	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組・排水処理場で発生する余	0 t 3679.7 t) 剰汚泥を処理負荷に応	0 -	
①現状	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組	0 t 3679.7 t) 剰汚泥を処理負荷に応	0 -	
①現状	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組・排水処理場で発生する余	0 t 3679.7 t) 剰汚泥を処理負荷に応	0 -	
①現状	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組・排水処理場で発生する余	0 t 3679.7 t) 剰汚泥を処理負荷に応	0 -	
①現状	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組・排水処理場で発生する余 系外に汚泥引抜きを行い	0 t 3679.7 t) 剰汚泥を処理負荷に応	0 -	
①現状	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組・排水処理場で発生する余 系外に汚泥引抜きを行い	0 t 3679.7 t) 剰汚泥を処理負荷に応 、脱水処理を実施し減	0 0 じて、 量している。	
①現状 ②計画	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組・排水処理場で発生する余系外に汚泥引抜きを行い 【目標】 産業廃棄物の種類_ 自ら熱回収を行う	0 t 3679.7 t) 剰汚泥を処理負荷に応 、脱水処理を実施し減 汚泥	0 0 じて、 量している。 液体汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組・排水処理場で発生する余系外に汚泥引抜きを行い 【目標】 産業廃棄物の種類_ 自ら熱回収を行う産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量する	0 t 3679.7 t) 剰汚泥を処理負荷に応 、脱水処理を実施し減 汚泥 0 t 3542 t	0 0 じて、 量している。 液体汚泥 0	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量 自ら熱原産業物の量 により減量した産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組・排水処理場で発生する余系外に汚泥引抜きを行い 【目標】 産業廃棄物の種類 _ 自ら業廃棄物の量 自ら業廃棄物の量 自ら業廃棄物の量 自ら業廃棄物の量	0 t 3679.7 t) 剰汚泥を処理負荷に応 、脱水処理を実施し減 汚泥 0 t 3542 t	0 0 じて、 量している。 液体汚泥 0	

)埋立処分又は海洋投入処分	(-IX) 0 7 X	
	【前年度(2023 年度	E)実績】	
	産業廃棄物の種類_	廃プラスチック類	動植物性残渣
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 - t	0
①現状	(これまでに実施した取・これまでに、自社で埋	組) 立処分又は海洋投入処分	した事例なし。
7.	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	動植物性残渣
②計画	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	0
 	新に関する事項 【前年度 (2023 年度	三	
	1017/2 (2020 7/2		
,	産業廃棄物の種類_	廃プラスチック類	動植物性残渣
	産業廃棄物の種類_		動植物性残渣 396.6
	,	廃プラスチック類	
	全処理委託量_ 優良認定処理業者への	廃プラスチック類 162.5 t	396.6
①現状	全処理委託量_ 優良認定処理業者への 処理委託量 再生利用業者への 処理委託量 認定熱回収業者への 処理委託量	廃プラスチック類 162.5 t 0 t	396.6
① 現 状	全 処 理 委 託 量_ 優良認定処理業者への 処 理 委 託 量 再生利用業者への 処 理 委 託 量 認定熱回収業者への	廃プラスチック類 162.5 t 0 t 162.5 t	396, 6 0 385, 4
① 現 状	全処理委託量_ 優良認定処理業者に受処理業務にの関連を対して、 の量を対して、 の量を対して、 の量を対して、 のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	廃プラスチック類 162.5 t 0 t 162.5 t 0 t 0 t 0 t	396.6 0 385.4 11.2 0

	【前年度(2023 年度)	実績】			
	産業廃棄物の種類_	汚泥		液体汚泥	1
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	.0	t	0	
①現状	(これまでに実施した取組)			
	・これまでに、自社で埋立	処分又は海洋的	と入処分し	た事例なし。	
	5				
	I				
					_
	産業廃棄物の種類	海	3	<i>注</i> 4-2-20	
		汚泥 ——————		液体汚泥	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0	t	0	
②計画	(今後実施する予定の取組)			
	・これまでに、自社で埋立	処分又は海洋投	と入処分し	た事例なし。	
1				- 3	
	1				
 	の委託に関する事項			-	
 	の委託に関する事項 【前年度 (2023 年度)	実績】			
 		実績】		液体汚泥	
美廃棄物の処理	【前年度(2023 年度)		t	液体汚泥	
美廃棄物の処理	【前年度 (2023 年度) 産業廃棄物の種類_	汚泥	t		
美廃棄物の処理	【前年度(2023 年度) 産業廃棄物の種類_ 全処理委託量_ 優良認定処理業者への	· 汚泥		31.1	
美廃棄物の処理	【前年度(2023年度) 産業廃棄物の種類_ 全処理委託量_ 優良認定処理業者への処理委託量 再生利用業者への	汚泥 477.8 0	t	31. 1	± "
	【前年度(2023年度) 産業廃棄物の種類_ 全処理委託量_ 優良認定処理業者への処理委託量 再生利用業者への処理委託量 認定熱回収業者への	汚泥 477.8 0 477.8	t	31. 1	
	【前年度(2023 年度) 産業廃棄物の種類_ 全処理委託量_ 優良認定処理業者への処理委託へ量 再生利用業者への処理委託 量認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への	汚泥 477.8 0 477.8	t	31. 1	
	【前年度(2023 年度) 産業廃棄物の種類_ 全処理委託量_ 優良認定処理業者への量 再生利用委託 型 認定熱回収委託量 認定熱回収表者により外のの熱回収を行う業託量	汚泥 477.8 0 477.8 0	t t	31. 1 0 31. 1 0	
	【前年度(2023 年度) 産業廃棄物の種類_ 全処理委託量_ 優良認定処理業者への処理委託 型 再生利用業者への量認定熱回収業者よい外のの拠回要委託 量認定熱回収業者以外のの拠回で行う業託 はいかのの処理を行う業託した取組人にれまでに実施した取組人	汚泥 477.8 0 477.8 0	t t	31. 1 0 31. 1 0	
	【前年度(2023 年度) 産業廃棄物の種類_ 全処理委託量_ 優良認定処理業者への処理委託 型 再生利用業者への量認定熱回収業者よい外のの拠回要委託 量認定熱回収業者以外のの拠回で行う業託 はいかのの処理を行う業託した取組人にれまでに実施した取組人	汚泥 477.8 0 477.8 0	t t	31. 1 0 31. 1 0	

(第5面)

	産業廃棄物の種	類_ 廃プラスラ	チック類	動植物性残	査
1-	全処理委託	量_ 165	, t	400	t
	優良認定処理業者 処 理 委 託		t	0	t
	再生利用業者, 処理 委託		t	390	t
	認定熱回収業者, 処 理 委 託		t	10	t
②計画	認定熱回収業者以 熱回収を行う業者 処 理 委 託		t	0	t
	・引き続き再生利用 優良認定処理業者 ・動植物性残渣につ 優良認定業者への	への処理委託も検 いては、可能な限	討する。		<u> </u>

(第5面)

7) 且/			
			AT. MI		State (Ale VIII VIII	
*		産業廃棄物の種類_	汚泥 		液体汚泥	
		全処理委託量_	460	ŧ	0	t
		優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0	t	0	t
	r	再生利用業者への 処 理 委 託 量	460	t	0	t
		認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0	t	0	t
②計画	77	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0	t	0	t
	d	(今後実施する予定の取 ・引き続き再生利用及び 優良認定処理業者への ・動植物性残渣について 優良認定業者への委託	認定熱回収業者へ 処理委託も検討す は、可能な限り種	トる。		施、
12			- E'' -!]			
		-			*	
			±.			
《事務処理欄			All I	75.		

- 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

2024年 6月 14日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿



提出者 〒278-0041

住 所

千葉県野田市蕃昌新田字溜台10番地

氏 名

グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社 旧社名 グリコ千葉アイスクリーム株式会社

千葉工場 工場長 杉本将弘

電話番号

04-7129-2138

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和 5年度の産業廃棄物 処理計画の実施状況を報告します。

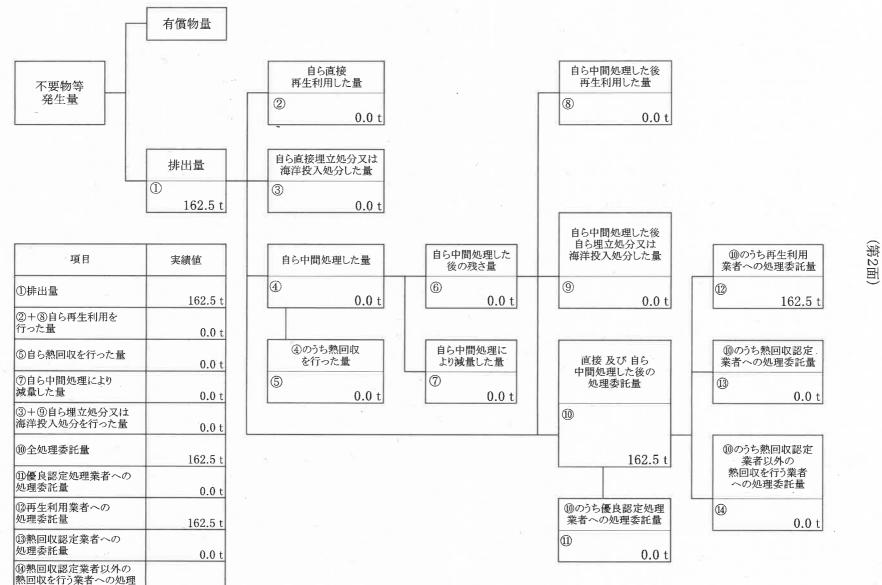
事業場の名称	グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社 千葉工場
事業場の所在地	千葉県野田市蕃昌新田字溜台10番地
事業の種類	大分類:製造業 中分類:食料製造業
産業廃棄物処理計画における 計 画 期 間	2023年4月1日~2024年3月31日

産業廃棄物処理計画における目標値

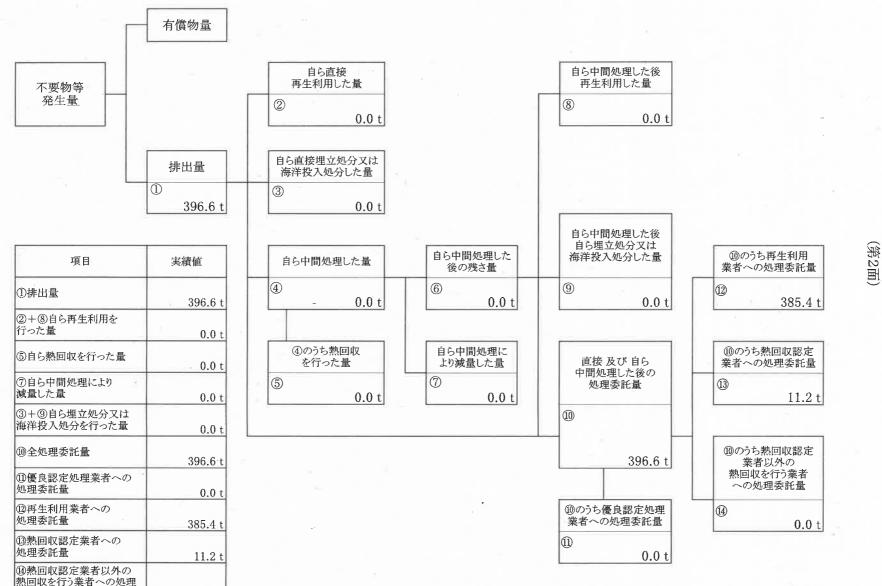
	(III		
項目	目標値	項目	目標値
排 出 量	5534.0 t	全 処 理 委 託 量	1220.0 t
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0.0 t	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0.0 t
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0.0 t	再生利用業者への 処理 委託 量	1210.0 t
自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	4314.0 t	認定熱回収業者への 処理委託量	10.0 t
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0.0 t	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理 委託 量	0.0 t
※事務処理欄			

委託量

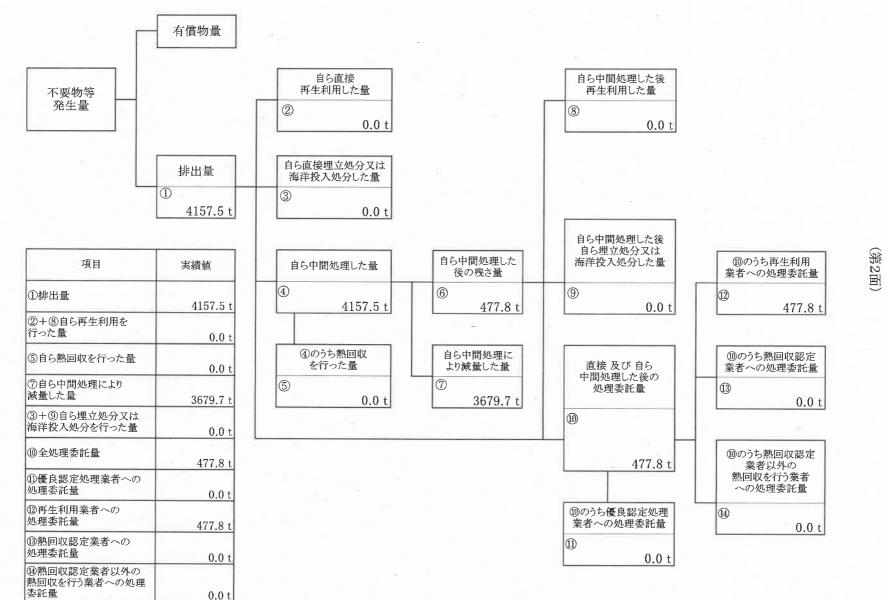




委託量

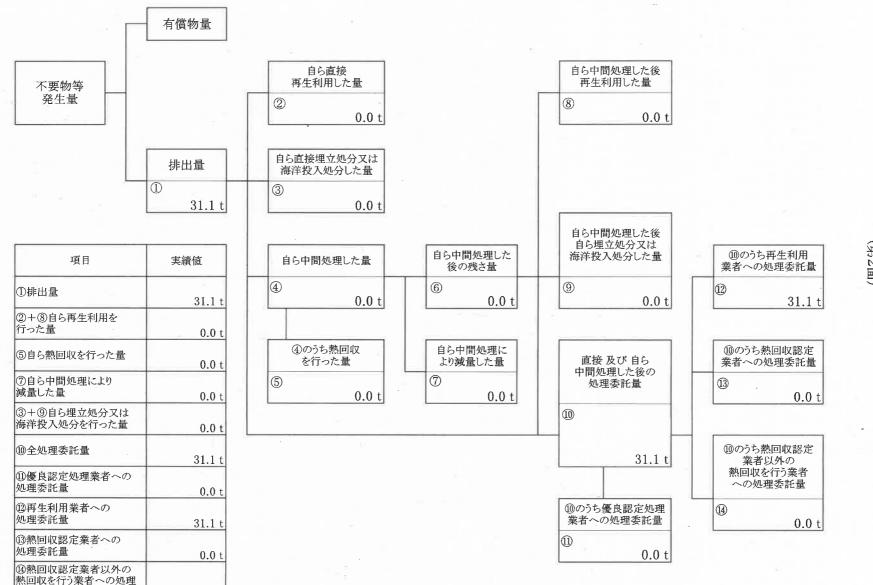






委託量





- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載 した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物処理に関して、①~⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14) に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄(1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄(1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄(1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄(4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) (7)欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄(6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ①欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令 第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ③欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律 第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への 焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。



(第1面)

産業廃棄物処理計画書

2024 年 6 月 14 日

千葉県知事 殿

提出者

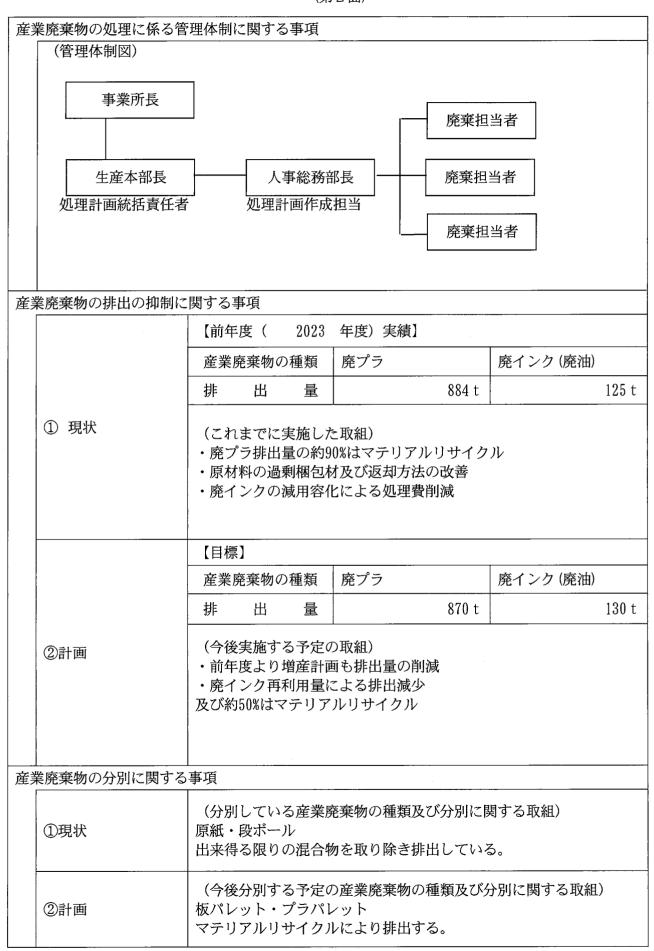
住 所 東京都品川区東品川3-20-17 ((株) サンゲツ東京支社内) 氏 名 クレアネイト株式会社 代表取締役 井上 弘一

電話番号 03 (3474) 1580

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他 その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事	業場の名称	クレアネイト株式会社 成田事業所
事	業場の所在地	千葉県成田市新泉13-1(野毛平工業団地)
計	画期間	2024年4月1日から2025年3月31日
当記	亥事業場において現に行	っている事業に関する事項
	①事業の種類	大分類:製造業 中分類:プラスチック製品製造業 小分類:その他のプラスチック製品製造業
•	②事業の規模	前年の製造品出荷額 4,660百万円
	③従 業 員 数	100人
	④産業廃棄物の一連 の処理の工程	成田事業所 廃プラ類 委託処理 (破砕・焼却) (最終処分) 紙くず類 委託処理 (再生利用業者に排出)

(日本工業規格 A列4番)



自ら行	丁う産業廃棄物の再生	利用に関する事項				
		【前年度(2021	年度)	実績】		
		産業廃棄物の種類				
	D 現状	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量		0	t	0 t
	D 96W	(これまでに実施した	を取組)			
		【目標】				
		産業廃棄物の種類				
	2)計画	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量		0	t	0 t
	少百 四	(今後実施する予定の	の取組)			
自ら行	 テう産業廃棄物の中間	処理に関する事項		···		
		【前年度(2021	年度)	実績】		
		産業廃棄物の種類				
		自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量		0	t	0 t
	D 現状	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量		0	t	0 t
		(これまでに実施し)	を取組)			
		【目標】	_			
		産業廃棄物の種類				
		自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量		0	t	0 t
	2計画	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量		0	t	0 t
		(今後実施する予定の	の取組)			

🗀 '	っ行つ産業廃棄物の埋立	近処分又は海洋投入処分	に関する事項	
		【前年度(2021	年度)実績】	
		産業廃棄物の種類		
		自ら埋立処分又は		
	 ① 現状	海洋投入処分を行った	0 t	0 t
	July	産業廃棄物の量(これまでに実施した	 > 町⁄ 糾)	
		(これなどに天旭した	_ 4x //丘/	
	·			
		【目標】		-
		産業廃棄物の種類		
		自ら埋立処分又は	0.4	0.4
	②計画	海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
		(今後実施する予定の	 D取組)	I
			·	
7.5× 3	 	・問する東西		
Æラ	た 元 未 初 ツ た ユン女 市 に	- 利りる事情		
		724 F F (0000		
		【前年度(2023	年度)実績】	
		【前年度 (2023 産業廃棄物の種類	年度)実績】	廃インク (廃油)
				廃インク (廃油) 125 t
		産業廃棄物の種類	廃プラ	
		産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への	廃プラ 884 t	125 t
	① 現状	産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への 処理委託量 再生利用業者への	廃プラ 884 t 0 t	125 t 0 t
	① 現状	産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への 処理委託量 再生利用業者への 処理委託量 認定熱回収業者への	廃プラ 884 t 0 t	125 t 0 t 0 t

(第5面)

	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラ	廃インク(廃油)
	全処理委託量	870 t	130 t
	優良認定処理業者への 処理 委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
②計画	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の ・前年度より増産計画 ・廃インク再利用量に 及び約50%はマテリア	可も排出量の削減 こよる排出減少	
※事務処理欄			

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
- (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
- (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量とび認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。



(第1面)

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

2024 年 6 月 14日

千葉県知事 殿

提出者

住 所 東京都品川区東品川3-20-17 ((株) サンゲツ東京支社内) 氏 名 クレアネイト株式会社 代表取締役 井上 弘一

電話番号 03 (3474) 1580

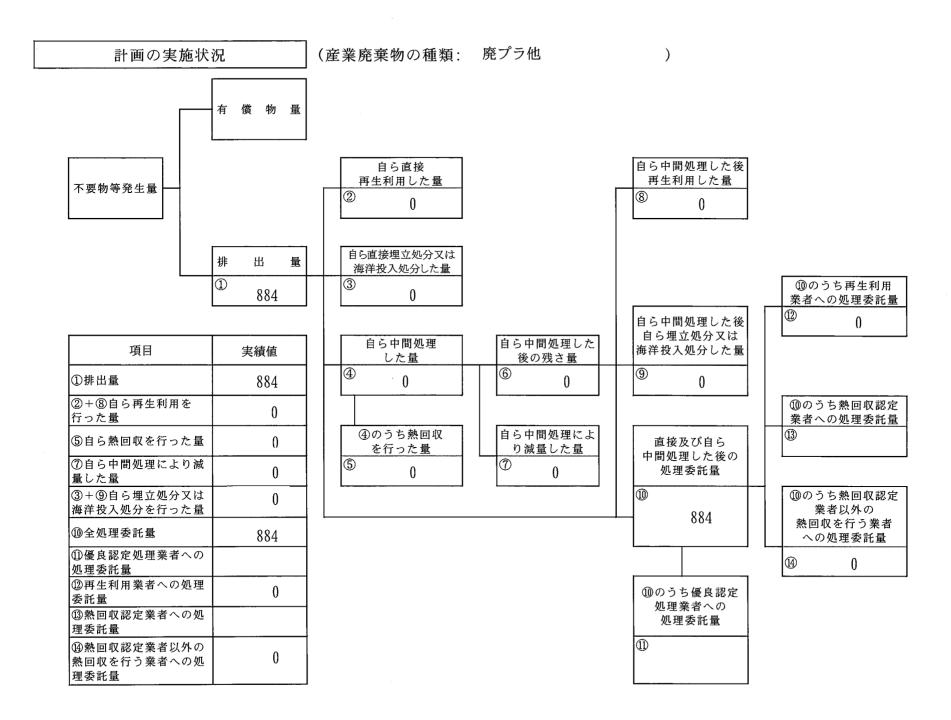
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条第 10 項の規定に基づき、2021 年度の産業廃棄物処理 計画の実施状況を報告します。

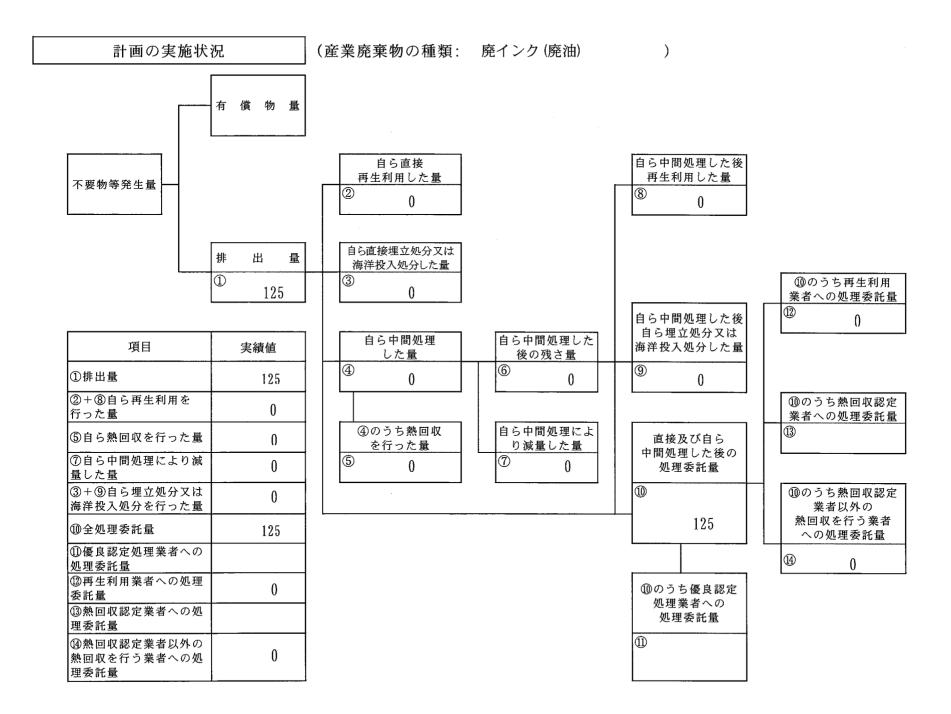
事業場の名称	クレアネイト株式会社 成田事業所
事業場の所在地	千葉県成田市新泉13-1(野毛平工業団地)
事業の種類	大分類:製造業 中分類:プラスチック製品製造業 小分類:その他のプラスチック製品製造業
産業廃棄物処理計画における 計 画 期 間	2023年4月1日から2024年3月31日

産業廃棄物処理計画における目標値

項目	目標値	項目	目標値
排 出 量	1080 t	全処理委託量	1080 t
自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0 t	優良認定処理業者への 処理 委託 量	t
自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	. –	再生利用業者への 処 理 委 託 量	_
自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	0 t	認定熱回収業者への 処理委託量	t
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	_
※事務処理欄	印旛		

(日本工業規格 A列4番)





- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に 記載した目標値を記入すること。
- 4 第 2 面には、前年度の産業廃棄物の処理に関して、①~⑭の欄のそれぞれに、(1) から(14) に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1) の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄 (1) の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4) の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4) の量から(6) の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6) の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6) の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ①欄 (10) の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行 令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10) の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ③欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律 第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10) の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者へ の焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値 を記入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 6年 6 月 14 日

千葉県知事

熊谷 俊人 殿

提出者 〒292-0835

住 所 千葉県木更津市築地7-1

氏 名 黒崎播磨(株)木更津不定形工場 池部哲則

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0438-37-0121

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

<u> </u>							The state of the s		
	事業場の名称						黒崎播磨(株)木更津不定形工場		
	事業場の所在地						千葉県木更津市築地7-1		
	計	画	i :	期	間		令和 6年 4月 1日 ~ 令和 7年 3月31日		
当詞	亥事	業場に	こお	いて	現に	行っ	っている事業に関する事項		
	1	事	業	の	種	類	大分類 製造業 中分類 窯業・土石製品製造業		
	2	事	業	の	規	模	前年度製品出荷額 85億円		
	3	従	Ž	美	員	数	130名(正社員 110名 派遣社員 20名)		
					ぎ物 のコ		製造工程 がれき類 一部内製化使用 委託処理(中間処理) 参託処理(中間処理) 木屑 委託処理(中間処理) その他 委託処理(中間処理)		

(日本工業規格 A列4番)

君津

産業	美廃棄物の処理に係る	管理体制に関す	る事項			
	(管理体制図)					
	工場長			本社環境管理部	3	
	生いただってやに	1				
	製造グループ長			木更津工場製造	ゴ フフント	
		, n	<u> </u>		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
	環境管理担当					
		J		――――――――――――――――――――――――――――――――――――	物担当	
			L			
産業	美廃棄物の排出の抑制	 に関する事項				· , ,,
		【前年度 (令和	年度)			
		産業廃棄物の	の種類	····		····
		排出	量_	->	t	t
	①現状	(これまでに実	施した取剤	1)		
		【目標】			· <u> </u>	
		産業廃棄物の	り種類			
		排 出	量」		t	t
	②計画	(今後実施する	予定の取組	1)		
産当	 	 ·ス事項				
)Æ/	(元来极少) (加代因)			の種類及び分別に	 関する取組)	
	①現状					
		(今後分別する予	定の産業	廃棄物の種類及び	分別に関する取	組)
	②計画					

(第 2 面)

産業廃棄物の排出の	抑制に関する事項			
	【前年度(R5年度)実績】(単位 : トン)			
	産業廃棄物の種類 がれき類 無機汚泥 木屑 管理型建設混合廃棄物 廃プラスチック(有償売却) PH12.5以	上の廃アルカリ 燃えやすい豚	産油 廃油	管理型混合廃棄物
	排出量 967.1 592.3 220.1 32.1 126.4	0.74	0.7 0.1	0.
①現状	(これまでに実施した取り組み)			
	がれき量は、不具合品の解体が減り、昨年比 マイナス320t。無機汚泥は、簿外廃棄品が減り、昨年比	マイナス295tとなった。	o	
@=1 ==				Ψ
②計画	産業廃棄物の種類 がれき類 汚泥 木くず 管理型混合廃棄物 廃プラスチック(有償売却) 廃油			
	排出量 800 500 200 150 30 120	2		l
	(今後実施する予定の取り組み)	ばんも生まり声っ	· 女体 見 / / / / / / / / / / / / / / / / / /	u フ
	がれき量は、不具合品の発生、解体が減る事により産廃量減が見込まれる。無機汚泥については漏れこ	はれ対束を進める争り	*性兇重测1~穷	める
 産業廃棄物の分別に	 朗 _古 ス東百	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
性未洗米物の方別に	以りでする			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)			
J. 30 P.	・木屑については、パレットの分別を進めて売却出来る物については、売却し産廃量を減らす取り組みを使	促進している。		
	木屑買取業者(逆有償)との契約 2社締結。	ACIED CV Wo		
	The state of the s			
·	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)			
②計画	・木屑については、パレットの分別を進めて売却出来る物については、売却量を増やし更に産廃量を減ら	す取り組みを促進して	いる。	
			- •	
	•			

自		再生利用に関する事項 「		
		【前年度 (令和 5 年度)実績】	
		産業廃棄物の種類_	がれき類	
		自ら再生利用を行った 産 業 廃 棄 物 の 量	37. 2 t	t
	①現状	(これまでに実施した取	組)	
		社内で粉砕し少しではあ	るが材料として再生利用	用している
		【目標】		
		産業廃棄物の種類_	がれき類	
		自ら再生利用を行う	50 t	t
	②計画	産業廃棄物の量	 終日)	
			int)	
自	 う行う産業廃棄物のF	 中間処理に関する事項		
		【前年度(令和 年度)実績】	**************************************
		産業廃棄物の種類_		
		自ら熱回収を行った 産業廃乗物の量	t	t
	(C) == 1 (A)	度 未 廃 来 物 の 里 自ら中間処理により減量した 産 業 廃 棄 物 の 量		
	①現状	L	t	t
		(これまでに実施した取)	組)	
		【目標】		
		産業廃棄物の種類_		
		自ら熱回収を行う	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
		産業廃棄物の量	t	t
	②計画	自ら中間処理により減量する 産 業 廃 棄 物 の 量	t	t
		(今後実施する予定の取締	祖)	

自身	っ行う産業廃棄物の埋	立処分又は海洋投入処分に関する事項
		【前年度(令和 年度)実績】
		産業廃棄物の種類_
	OTHAIN	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った t t 産業廃棄物の量
	①現状	(これまでに実施した取組)
ļ		
		【目標】
		産業廃棄物の種類
		自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う t t 産業廃棄物の量
	②計画	(今後実施する予定の取組)
産業	美廃棄物の処理の委託 -	
		【前年度(令和 年度)実績】
		産業廃棄物の種類_
		全 処 理 委 託 量_ t t
		優良認定処理業者への処理委託量t
		再生利用業者への 処理委託量 t
	①現状	認定熱回収業者への 処理委託量 t
		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への
		(これまでに実施した取組)

(第 4 面)産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度	度(令和5年度)実績】						-					
	実績 単位:t					···						
②現状	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥	木屑	管理型建設混合 廃棄物	廃プラスチッ ク(有価売 却)	PH12.5以上の 廃アルカリ	燃えやすい廃油	廃油	管理型混合廃 棄物		
	全処理委託量	929.9	592.3	220.1	32.1	126.4	0.7	0.7 -0.1	0.1	0.1		
	優良認定処理業者への		20				_					
	処理委託量		39									
	再生利用業者への	007.7	010.4	000.1		400.4						
	処理委託量	227.7	313.4	220.1		126.4						
	認定熱回収業者への									,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		
	処理委託量											
	認定熱回収業者への 熱回を行う業者への 処理委託量											
	(これまでに実施した取り組	(これまでに実施した取り組み)木屑については、3月度 6tは有価買取業者への搬出。(逆有償の為、産廃扱い)										
*事務処理欄												

(第5面)

	(,		
	【目標】		
	産業廃棄物の種類_		
	全処理委託量_	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
②計画	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

(第 5 面)

	目標 単位:t								
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥	木屑	管理型混合廃棄物	廃プラスチック(有価売却)	廃油		
	全処理委託量	750 800	500	200	30	120	2		
	優良認定処理業者への								
	処理委託量								
	再生利用業者への	200	200	200		100			
	処理委託量	200	200	200		120	2		
計画	認定熱回収業者への								
	処理委託量								
	認定熱回収業者への 熱回を行う業者への 処理委託量								
	(今後実施する予定の取り組み) 廃プラスチックについては、フレコンバックがメインですがフレコンを圧縮する事で有償買取可能業者への買取を進める計画あり。								

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

(第1面)

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和 6年6月14日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

提出者 〒292-0835 住 所 千葉県木更津市築地7-1 氏 名 黒崎播磨(株)木更津不定形工場 池部哲則 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 0438-37-0121

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和 5 年度の産業廃棄物 処理計画の実施状況を報告します。

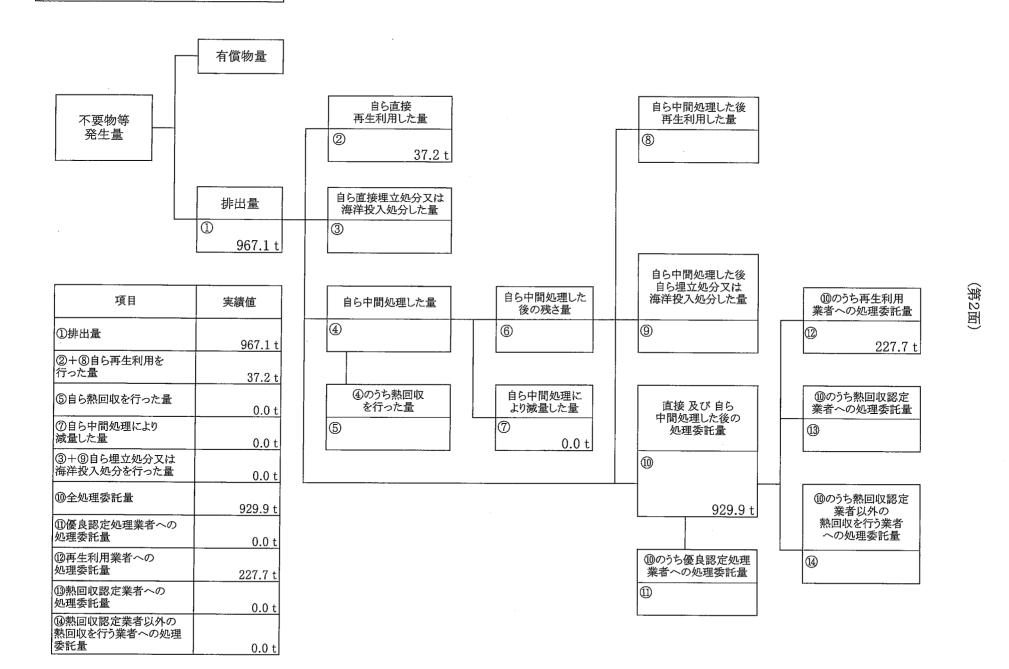
事	業場	の	名	称	黒崎播磨(株) 木更津不定形工場
事	業場	の所	在	地	千葉県木更津市築地7-1
事	業	の :	種	類	大分類:製造業、中分類:窯業・土石製品製造業
産業計	養廃棄物処 画	理計画 期	にお	ける 間	令和 5年 4月 1日~令和 6年 3月31日

産業廃棄物処理計画における目標値

項目			目標値	項目	目標値
排	出	量	2072.0 2172.0 t	全処理委託量	/972 2072 .0 t
	再生利用を 廃棄物 <i>の</i>		100.0 t	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	
自ら産業	熱回収を 廃棄物の			再生利用業者への処理 委託 量	772.0 t
	間処理により減量 廃棄物の			認定熱回収業者への処理 委託 量	
海洋	埋 立 処 分 〕 投 入 処 分 を … 廃 乗 物 <i>0</i>	行う		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理 委託 量	
※事務处	<u></u> 理欄			君津	

地域振典事務所 日本工業規格 A列4番)

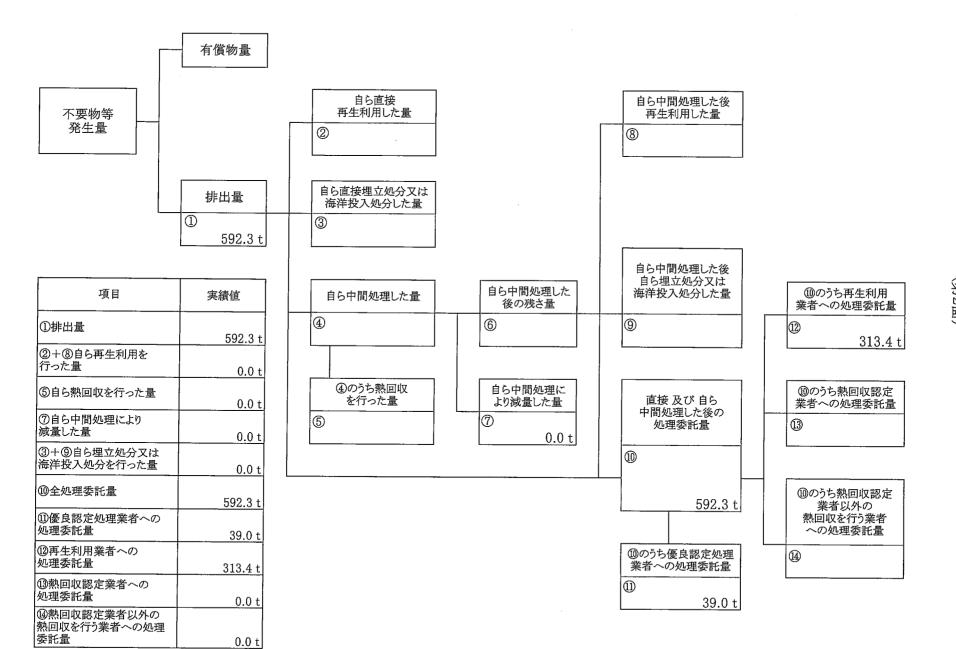
)



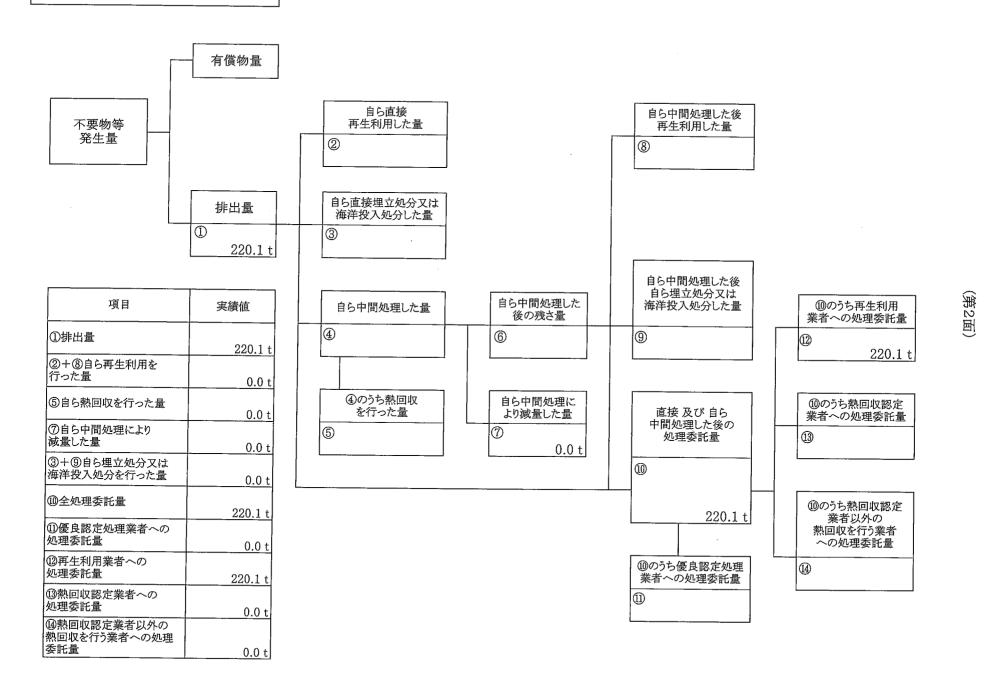
(産業廃棄物の種類:

無機性汚泥

,



(第2面)



<u>(1)</u>

0.0 t

不要物等 発生量

項目

②+⑧自ら再生利用を

⑤自ら熱回収を行った量

③+9自ら埋立処分又は

海洋投入処分を行った量

①優良認定処理業者への

(2)再生利用業者への

(3)熱回収認定業者への

⑩熱回収認定業者以外の 熱回収を行う業者への処理

⑦自ら中間処理により

①排出量

行った量

減量した量

(0)全処理委託量

処理委託量

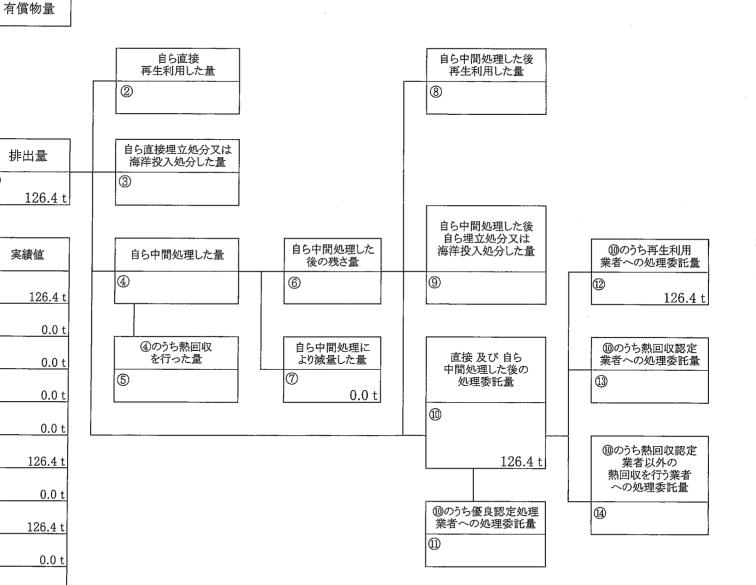
処理委託量

処理委託量

委託量

廃プラスチック

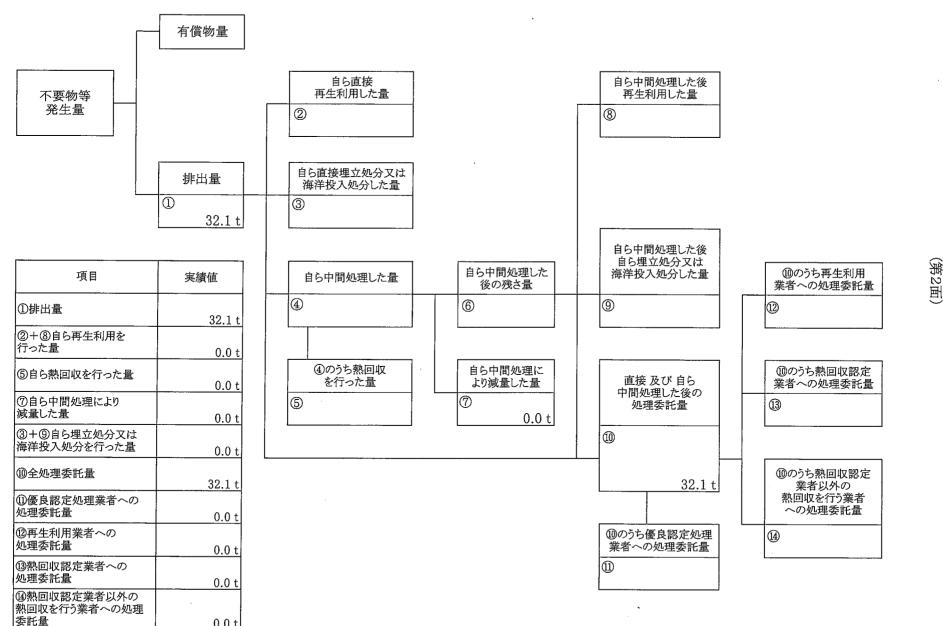
)



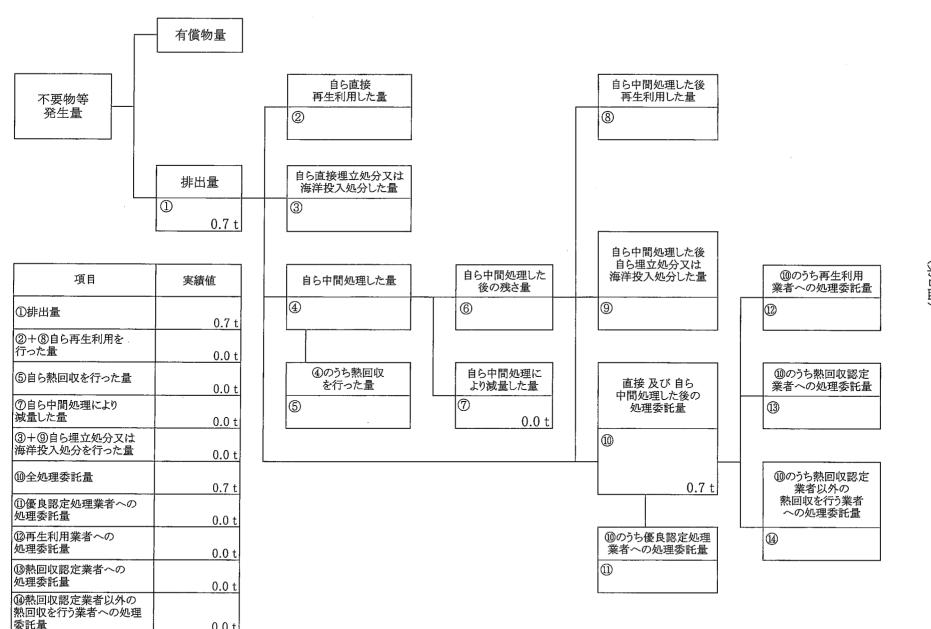
(第2面

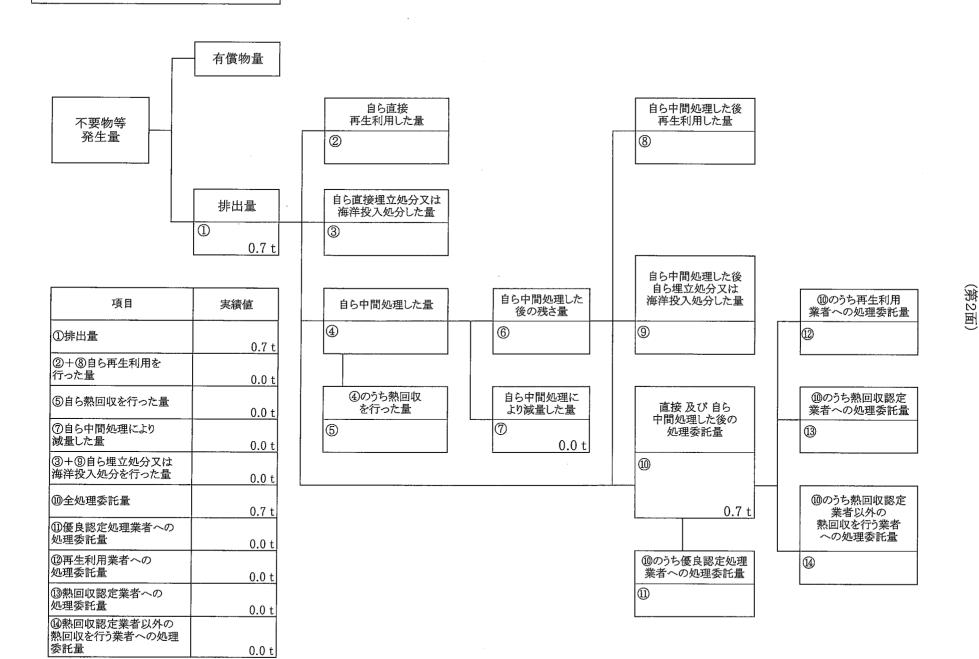
0.0 t

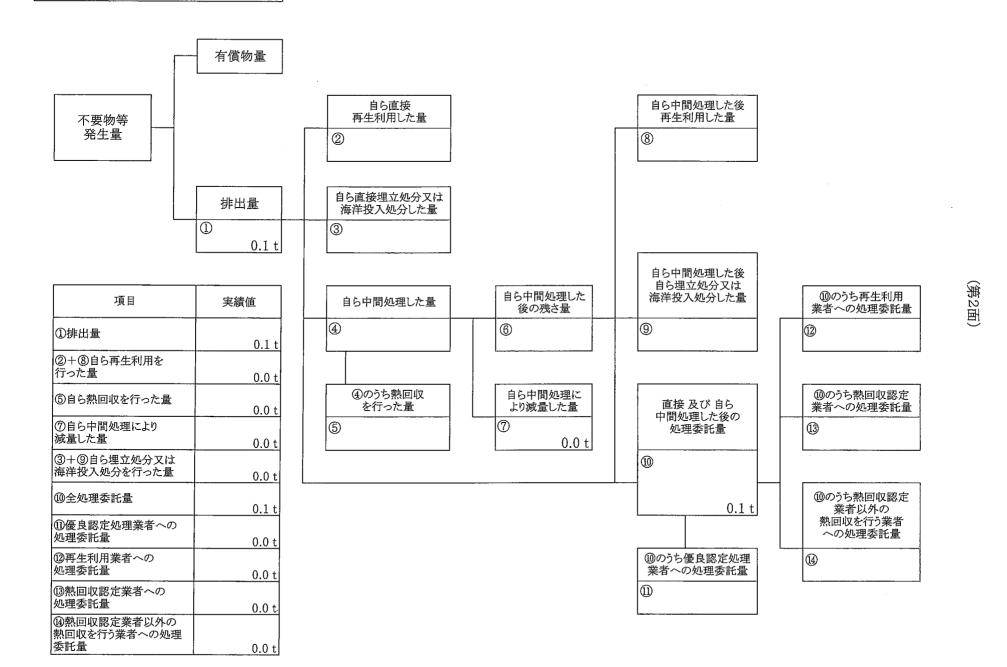
)







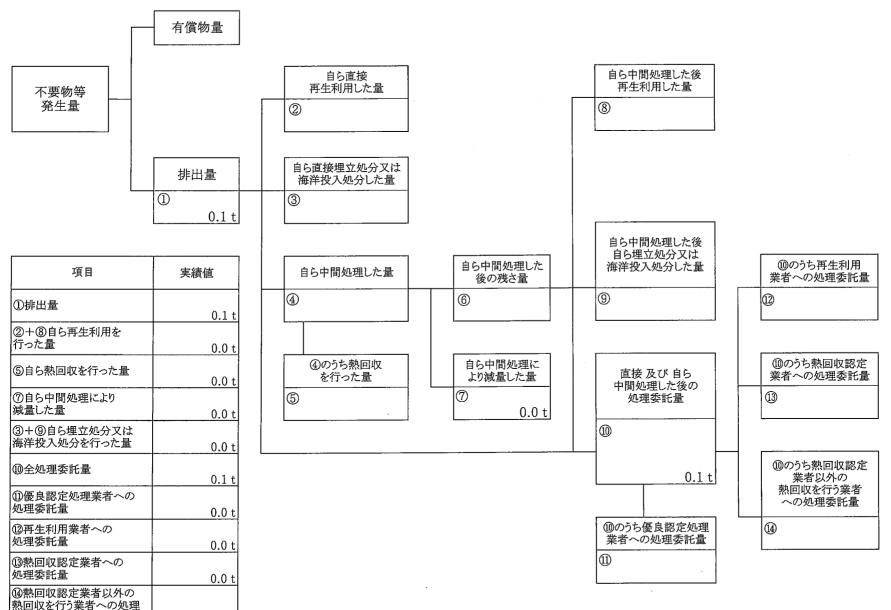




委託量

0.0 t

管理型混合廃棄物



(第2面)

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載 した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物処理に関して、①~⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14) に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄(1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄(1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄(4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄(4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄(6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄(6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令 第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律 第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への 焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物処理計画書

令和 6年 5月 10日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

提出者 〒290-0067

住 所 千葉県市原市八幡海岸通2066番地18

氏 名 京葉アサノコンクリート株式会社

千葉工場長 野口 博史

電話番号 0436-41-3331

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名	称	京葉アサノコンクリート株式会社 千葉工場
事業場の所	在地	千葉県市原市八幡海岸通2066番地18
計画期間]	令和6年4月1日から令和7年3月31日まで
当該事業場におい	て現に行っ	っている事業に関する事項
① 事 業 (の種類	大分類:製造業 中分類:窯業・土石製品製造業 小分類:セメント・同製品製造業
② 事 業 (の規模	前年度の製造品出荷額 4億4339万円
③ 従 業	員 数	9人(当社6人 他 協力会社 運輸:3人)
④ 産業廃一連の処		

(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項 (管理体制図) 公害防止統括者 工場長 経営責任者: 代表取締役社長 処理計画総括責任者:工場長 公害防止統括者の代表者 生産係 処理計画作成機関: 千葉工場規格委員会 処理計画の関与: 規格委員会で議決採決は 工場長 公害防止管理者 副工場長 但し、公害管理資格 尚、立案は生産課長 (一般粉塵、水質、産業廃棄物中 (有資格者) 責任管理 保管管理:生産課長 間処理施設管理技士等)がない場 運搬・処理依頼: 工場長 実務管理者 合は、資格保有者の係長以上の 公害防止管理者の代表 者を工場長が任命する。 運輸会社・骨材納入会社、 一般従業員 その他 騒音関係 粉塵関係 水質関係 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項 年度)実績 】 【前年度(令和 産業廃棄物の種類 コンクリートくず(脱水ケーキ・回収水) 汚泥 20 t 排 出 量 13993 t (4443t·9550t) (これまでに実施した取組) ①現状 ①コンクリートくず a) 余剰コンクリートが発生しない様にユーザーに協力要請 b) 余剰コンクリートが発生した場合は可能な限り分級し、固形分(細租骨材) と汚泥と し、固形分は利用可能な物は、再利用減量化。分級出来ない場合は硬化し、路床材 に再資源化、若しくは産廃処理委託。 泥 脱水機にて「脱水ケーキ」と「回収水」に分別 ②汚泥 a) 脱水ケーキは硬化後、路床材に再利用、又はコンクリートくずとして産廃処理委託 b) 回収水は、100%再利用(減量化)。洗車水並びに練混ぜ水として減量化 【目標】 産業廃棄物の種類 汚泥 コンクリートくず(脱水ケーキ・回収水) 20 t 排 H1 量 14000 t (4000t · 10000t) t. (今後実施する予定の取組) ②計画 ①コンクリートくず a) 余剰コンクリートが発生しない様にユーザーに協力要請 b) 余剰コンクリートが発生した場合は可能な限り分級し、固形分(細租骨材) と汚泥と し、固形分は利用可能な物は、再利用減量化。分級出来ない場合は硬化し、路床材 に再資源化、若しくは産廃処理委託。 泥 脱水機にて「脱水ケーキ」と「回収水」に分別 a) 脱水ケーキは硬化後、路床材に再利用、又はコンクリートくずとして産廃処理委託 b) 回収水は、100%再利用(減量化)。洗車水並びに練混ぜ水として減量化 産業廃棄物の分別に関する事項 (分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ①現状 ①コンクリートくず:余剰コンクリートは可能な限り分級し、固形分と 汚泥とし、可能な限り再資源化が、できるように工程をしている。 (今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ②計画 ①コストが低く再資源化や有効利用が現れれば活用したいし、生コン業 界で良いシステム方法がないか検討したい。

自ら行う産業廃棄物の	再生利用に関する事項		
	【 前年度(令和 5 年	度)実績 】	
	産業廃棄物の種類		コンクリートくず(回収水)
	自ら再生利用を行った 産業廃乗物の量	t	0 t
①現状	(これまでに実施した取 ①コンクリートくず並び 再生している。 ②回収水(上澄水)は、ほ びに原料水として)	に脱水ケーキ硬化後、出	
	【目標】		
	産業廃棄物の種類		コンクリートくず(回収水)
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	0 t
②計画	(今後実施する予定の取 ①コンクリートくず並び 再生している。 ②回収水(上澄水)は、ほ びに原料水として)	に脱水ケーキ硬化後、出	
 日ら行う産業廃棄物の	<u> </u>		
	産業廃棄物の種類		コンクリートくず(回収水)
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	0 t
①現状	自ら中間処理により減量した 産業廃乗物の量	t	9550 t
	(これまでに実施した取 ①コンクリートくず並び 再生している。 ②回収水(上澄水)は、ほ びに原料水として)	に脱水ケーキ硬化後、出	
	【目標】		
	産業廃棄物の種類		コンクリートくず(回収水)
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	0 t
②計画	自ら中間処理により減量する 産 業 廃 乗 物 の 量	t	10000 t
	(今後実施する予定の取 ①コンクリートくず並び 再生している。 ②回収水(上澄水)は、ほ びに原料水として)	に脱水ケーキ硬化後、出	

	717	自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項							
		【 前年度(令和 5 年度	三)実績 】						
		産業廃棄物の種類							
		自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量							
	①現状	(これまでに実施した取組)							
		【目標】							
		産業廃棄物の種類							
		自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う							
	②計画	産業廃棄物の量	1						
		「一位天旭りる」だの収組	,						
産業	É廃棄物の処理の委 言		a)						
		【 前年度(令和 5 年度 	三) 実績 】	【 前年度 (令和 5 年度)実績 】					
		産業廃棄物の種類_	汚泥 	コンクリートくず(脱水ケーキ)					
		産業廃棄物の種類_	汚泥 	コンクリートく ず (脱水ケーキ) 4443 t					
		全処理委託量	20 t	4443 t					
	①現状	全 処 理 委 託 量 優良認定処理業者への 処 理 委 託 量 再生利用業者への	20 t 0 t	4443 t 0 t					
	①現状	全 処 理 委 託 量 優良認定処理業者への 処 理 委 託 量 再生利用業者への 処 理 委 託 量 認定熱回収業者への	20 t 0 t 20 t	4443 t 0 t 4443 t					
	①現状	全 処 理 委 託 量 優良認定処理業者への 処 理 委 託 量 再生利用業者へ 型 変 託 量 認定熱回収業者への 拠 理 委 託 量 認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への	20 t 0 t 20 t 0 t 0 t	4443 t 0 t 4443 t 0 t 0 t					
	①現状	全 処 理 委 託 量 ② と でに実施した取組 ② に 対 でに実施で変 選 で 変 変 変 変 変 変 変 変 変 変 変 変 変 変 変 変 変	20 t 0 t 20 t 0 t 0 t	4443 t 0 t 4443 t 0 t 0 t					
	①現状	全 処 理 委 託 量 ② と でに実施した取組 ② に 対 でに実施で変 選 で 変 変 変 変 変 変 変 変 変 変 変 変 変 変 変 変 変	20 t 0 t 20 t 0 t 0 t	4443 t 0 t 4443 t 0 t 0 t					

(第5面)

	()	
	【目標】		
	産業廃棄物の種類_	汚泥	コンクリートくず(脱水ケーキ)
	全処理委託量	20 t	4000 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	20 t	4000 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
②計画	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取 中間処理業者、産廃運搬 を実施		Eにマニフェスト管理
※事務処理欄			

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和 6年 5月 10日

千葉県知事 熊谷 俊人殿

提出者 〒290-0067

住 所 千葉県市原市八幡海岸通2066番地18

氏 名 京葉アサノコンクリート株式会社

千葉工場長 野口 博史

電話番号 0436-41-3331(代)

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和5年度の産業廃棄物 処理計画の実施状況を報告します。

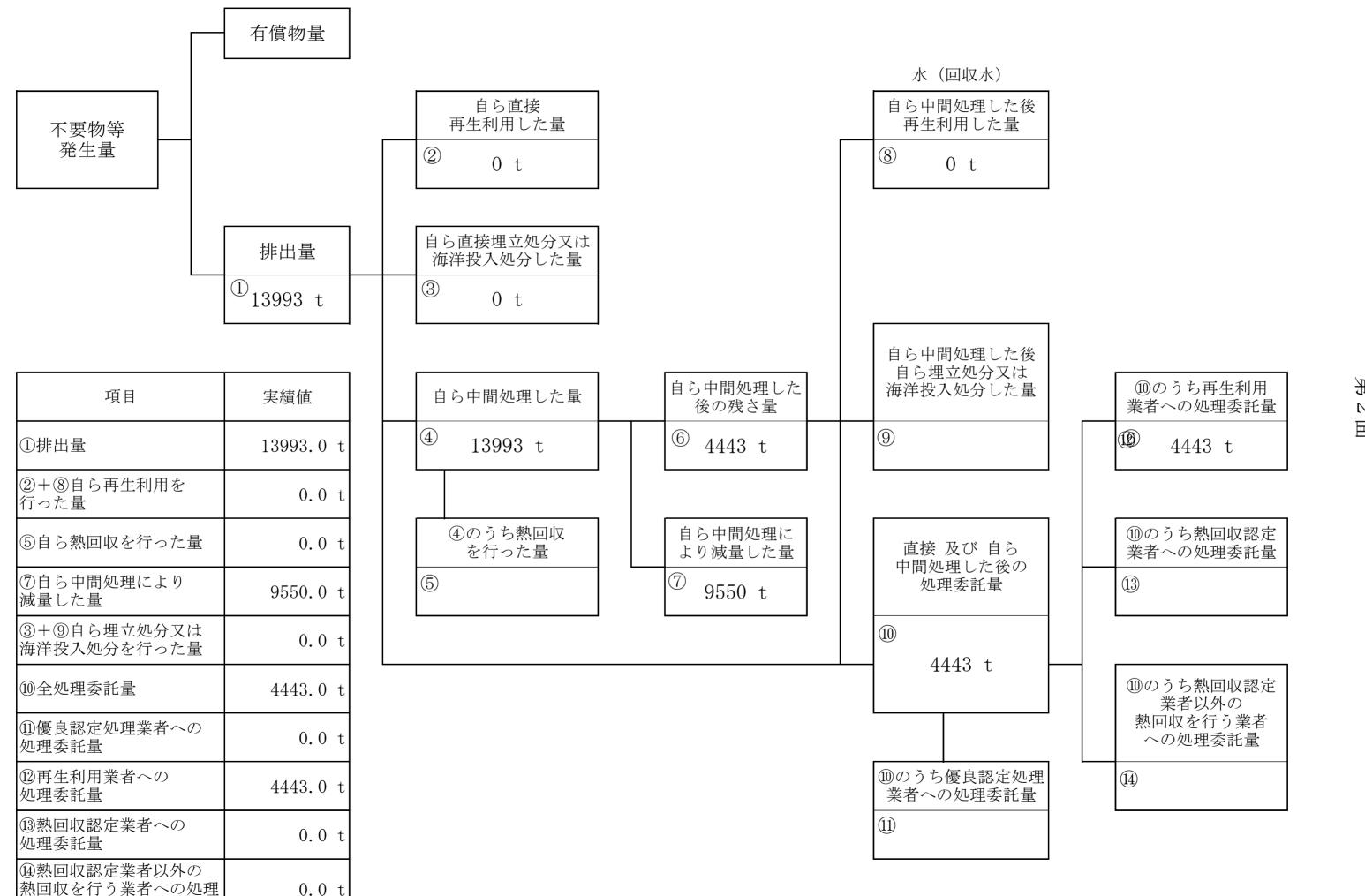
事	業場	景 の	名	称	京葉アサノコンクリート株式会社 千葉工場
事	業場	Ø)	所 在	地	千葉県市原市八幡海岸通2066番地18
事	業	0)	種		大分類:製造業 中分類:窯業・土石製品製造業 小分類:セメント・同製品製造業
産業	廃棄物処		画にお 朝 「	ける 間	令和5年4月1日から令和6年3月31日

産業廃棄物処理計画における目標値

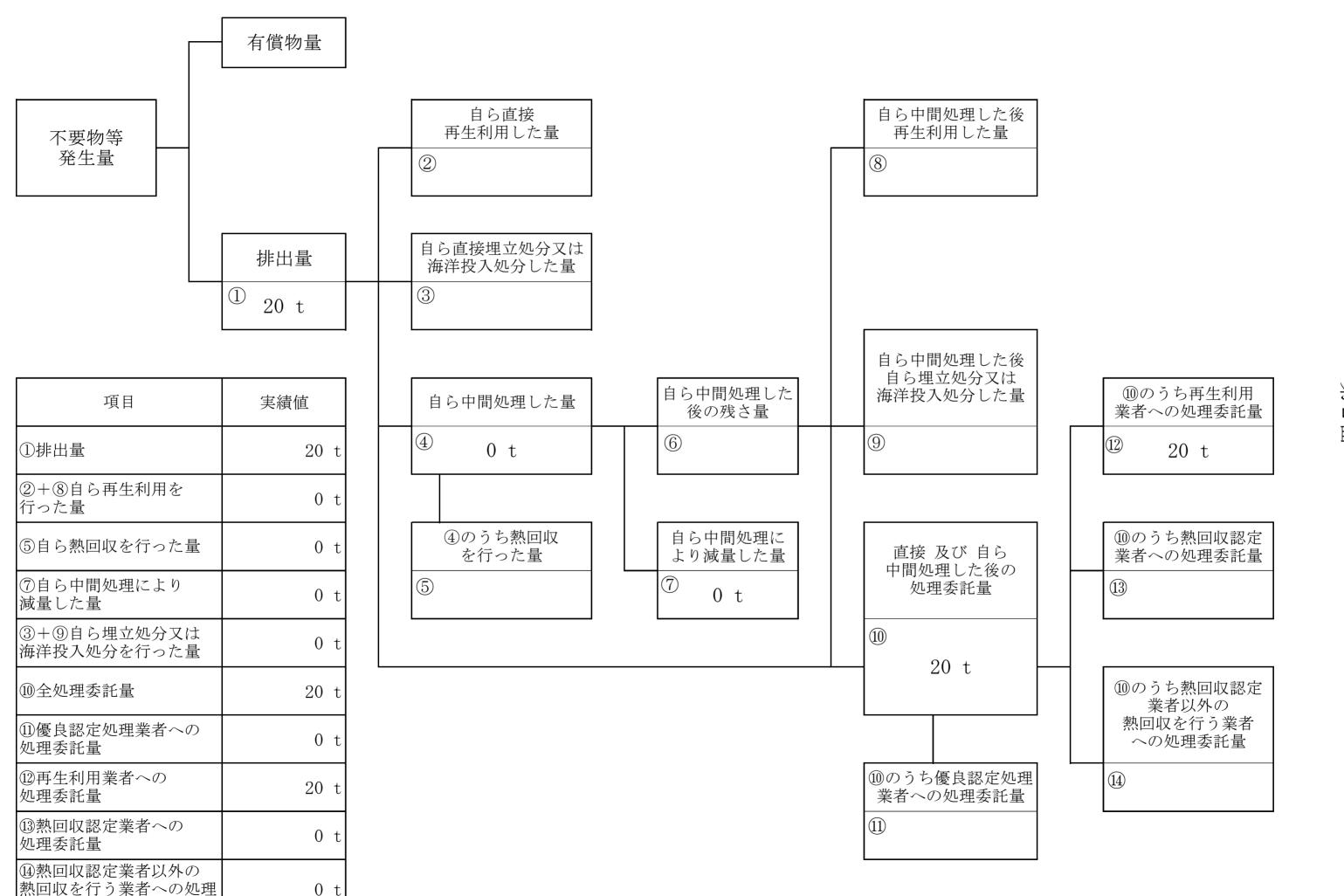
項目	目標値	項目	目標値
排出量	16100 t	全 処 理 委 託 量	5850 t
自ら再生利用を行う 産 業 廃 乗 物 の 量	O t	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	O t
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	O t	再生利用業者への 処理委託量	5850 t
自ら中間処理により減 量 す る 産 業 廃 乗 物 の 量	10200 t	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	O t	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	O t
※事務処理欄			

(日本工業規格 A列4番)

委託量



委託量



- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載 した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物処理に関して、①~⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14) に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者 (廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令 第6条の11第2号に該当する者) への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ③欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律 第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ④欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への 焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記 入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃 棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物処理計画書

2024年6月25日

(日本工業規格 A列4番)

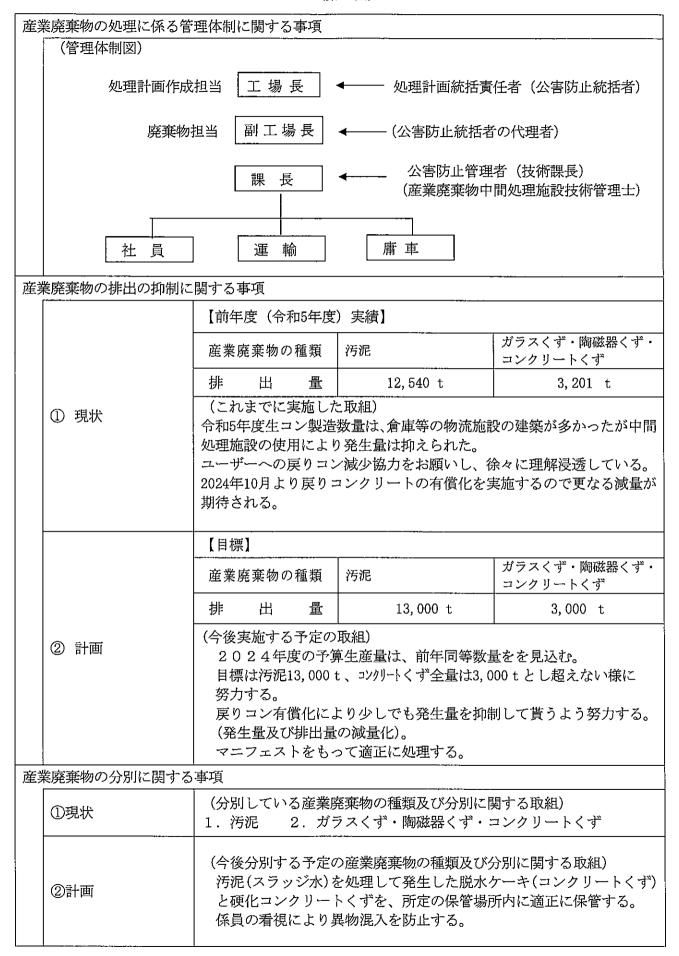
千葉県知事 熊谷 俊人 殿

提出者

住 所 千葉県船橋市日の出二丁目18番1号 氏 名 京葉アサノコンクリート株式会社 代表取締役社長 木伏 正克 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 047-431-7660

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他 その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	京葉アサノコンクリート株式会社 八千代工場
事業場の所在地	千葉県八千代市上高野字野路作1976番8
計 画 期 間	2024年4月1日から2025年3月31日
当該事業場において現に行	「っている事業に関する事項
①事業の種類	大分類 : 製造業 中分類 : 窯業・土石製品製造業
②事業の規模	前年度の製造品出荷額 6億7千万円
③従 業 員 数	6人(正社員 6人)
④産業廃棄物の一連 の処理の工程	自社にて中(残コン) 情報 125m²)



自身	っ行う産業廃棄物の再生	利用に関する事項	該当なし	
		【前年度(令和5年度)	実績】	
		産業廃棄物の種類		
	① 現状	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
		【目標】		77.43-111-1
		産業廃棄物の種類		
	② 計画	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
		In control land to the control of th		
目 9 	っ行う産業廃棄物の中間			
		【前年度(令和5年度))実績】 	
		産業廃棄物の種類	汚泥	
		自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	t
	① 現状	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	11, 462t	t
		(これまでに実施した取組) 発生した汚泥(スラッジ水)を脱水処理し、回収した水は100%再使用 した。 また、社員教育にて発生量の抑制について指導・教育した。		
		【目標】		
		産業廃棄物の種類	汚泥	
		自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	②計画	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	12, 000t	t
		戻りコン有償化により 量化に努める。	○取組) 昼の抑制教育・指導をおる)減量化協力を求め、少し ジ水)を脱水処理し、回り	しでも発生量を抑制し減
		1		

自	自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項 該当なし					
		【前年度(令和5年度))実績】	-		
		産業廃棄物の種類				
		自ら埋立処分又は	VIII (11.1 11.1 11.1 11.1 11.1 11.1 11.1 11.1 11.1 11.1 11.1.			
	① 現状	海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t		
		産来廃来物の量 (これまでに実施した	 : 取組)			
		(=,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	- • · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			
		【目標】	77.			
		産業廃棄物の種類				
		自ら埋立処分又は				
	② 計画	海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t		
		(今後実施する予定の)取組)			
産業	」 業廃棄物の処理の委託に	 関する事項				
		【前年度(令和5年度))実績】			
		 産業廃棄物の種類	汚泥	ガラスくず・陶磁器くず・		
		在未光来初 <i>9</i> 7重频	(脱水ケーキ→コンクリートくず)	コンクリートくず		
		全処理委託量	1,078 t	3, 201 t		
		優良認定処理業者への 処理委託量	Ot	0 t		
		再生利用業者への	1,078 t	3,201 t		
		処理委託量	,	,		
	① 現状	認定熱回収業者への処理 委託 量	O t	0 t		
		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への	0 t	0 t		
		処理委託量	0 t			
		 (これまでに実施した	- 飯組)			
		戻りコン減量化協力を	さ求めた。			
		1 = =	ったが、現場トラブル発生	上、現場担当者の発注誤		
		┃ りなどで減量化は厳し ┃ 処理の委託について~	ンかった。 アニフェストをもって適〕	E処理を確認した。		
				-		
	I					

	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥 (脱水ケーキー→コンクリートくず)	ガラスくず・陶磁器くず・ コンクリートくず
	全処理委託量	1,000 t	3,000 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	O t	0 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	1,000 t	3,000 t
②計画	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	O t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	O t	O t
	に努力する。 戻りコン有償化を周知	の取組) コン減量化協力を諦めず(コし戻りコンの発生を抑制 マニフェストをもって適力	制する。
※事務処理欄		nergi (Arta dala)	

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
- (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成 工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規 模が分かるような前年度の実績を記入すること。
- (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

2024年 6月25日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

提出者

住 所 千葉県船橋市日の出 二丁目-18-1 氏 名 京葉アサノコンクリート株式会社 代表取締役 木伏 正克 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 047-431-7660

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条第 10 項の規定に基づき、令和 5 年度の産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

事業場の名称	京葉アサノコンクリート株式会社 八千代工場
事業場の所在地	千葉県八千代市上高野字野路作1976番8
事業の種類	大分類 : 製造業 中分類 : 窯業・土石製品製造業
産業廃棄物処理計画における 計 画 期 間	令和5年4月 から 令和6年3月

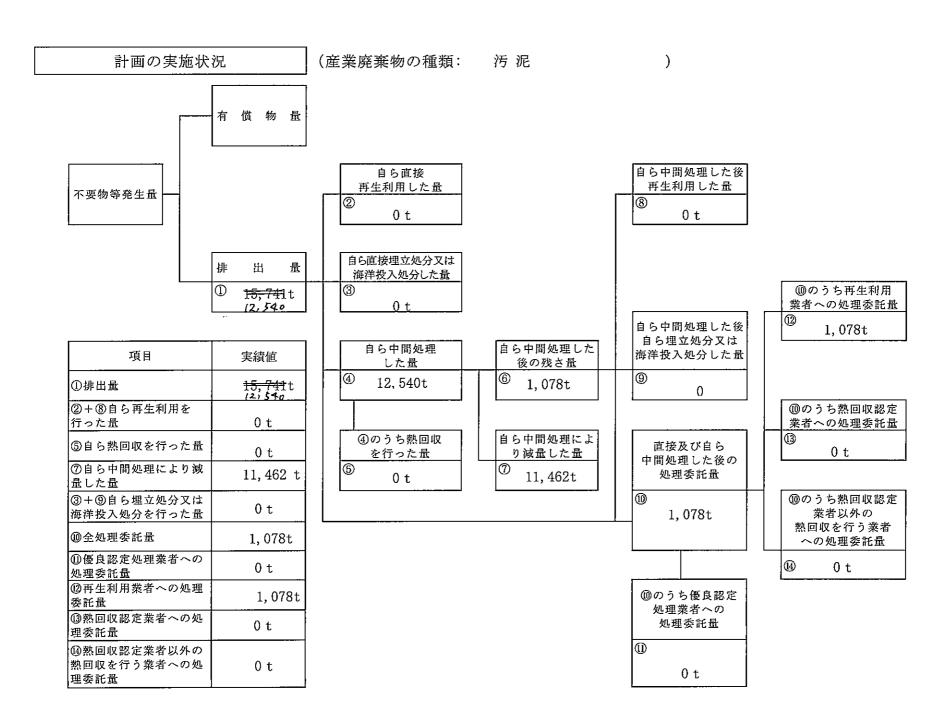
産業廃棄物処理計画における目標値

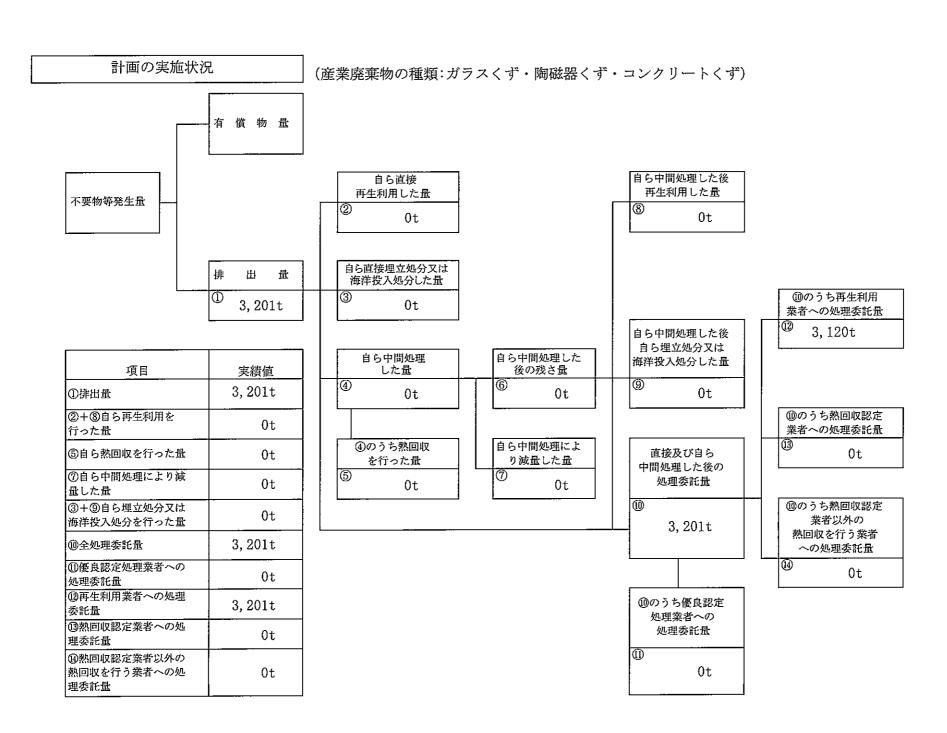
	項目	目標値	項目	目標値
排	出量	16,000 t	全処理委託量	4,000 t
	再生利用を行う 廃 棄 物 の 量	t	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t
1 .	熱回収を行う 廃棄物の量	t	再生利用業者への 処 理 委 託 量	4,000 t
	間処理により減量する 廃 棄 物 の 量	12, 000 t	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t
海洋	埋立処分又は 投入処分を行う 廃棄物の量	t	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t
		1 2		

-6,6,28

※事務処理欄

(日本工業規格 A列4番)





- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に 記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物の処理に関して、①~⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4) の量から(6) の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6) の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑩欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行 令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ③欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律 第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値 を記入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和6年7月22日

千葉県知事

熊谷 俊人 殿

提出者 290-0045

住 所 千葉県市原市五井海岸11-6

法人名 京葉モノマー株式会社

代表者 取締役工場長 川崎 真

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0436-24-8535

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量 その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称		京葉モノマー株式会社本社工場				
	事業場の所在地	千葉県市原市五井南海岸11-6				
	計画期間	令和6年4月1日 から 令和7年3月31日				
当該	逐事業場において現に行	っている事業に関する事項				
	①事業の種類	大分類: 製造業 中分類: 化学工業				
	②事業の規模	前年度の製品出荷額 140億円				
	③従業員数	37人				
	④特別管理産業廃棄 物の一連の処理の工 程	「別紙(処理工程)」				

(日本産業規格 A列4番)

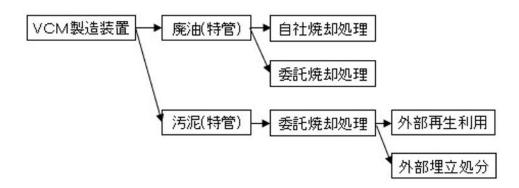
att. m. i fele am ata XIII att. 1 .	(A7 2 III.								
特別管理産業廃棄	物の処理に係る管理体制に関する事	·項 ———————————							
(管理体制図)									
「別紙(管理位	「別紙(管理体制)」								
特別管理産業廃棄	物の排出の抑制に関する事項								
	【前年度(令和5年度)実績】								
	特別管理産業廃棄物の種類 廃油 汚泥								
①現状	排出量	3674 t	60 t						
(1964)((これまでに実施した取組)								
	ス回収設備(燃焼排ガスからの 令和5年年度は例年とおり安全、	VCM製造装置設計段階で特管廃油の自社焼却処理を盛り込み、廃油燃焼炉とガス回収設備(燃焼排ガスからの塩酸回収)を設置、運用している。令和5年年度は例年とおり安全、安定運転に注力し、排出量の抑制に努めた。(前年度比大幅減、運転調整および定期整備による排出量減少)							
	【目標】								
	特別管理産業廃棄物の種類	廃油	汚泥						
②計画	排出量	5500 t	120 t						
	(今後実施する予定の取組)	(今後実施する予定の取組)							
	VCM製造装置の安定運転の継続に VCM製造装置のきめ細かい運転管	VCM製造装置の安定運転の継続による汚泥発生量の抑制。 VCM製造装置のきめ細かい運転管理による廃油発生量の抑制。							
特別管理産業廃棄	物の分別に関する事項								
	(分別している特別管理産業廃	棄物の種類及び分別に関	 引する取組)						
①現状	VCM製造装置の安定運転による? VCM製造装置のきめ細かい運転管	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) VCM製造装置の安定運転による汚泥発生量の抑制。 VCM製造装置のきめ細かい運転管理による廃油発生量の抑制。							
②計画	特別管理産業廃棄物の汚泥が付り洗浄し中間処理の負荷を下げ	着したプラスチック類、	養生シートは可能な限						

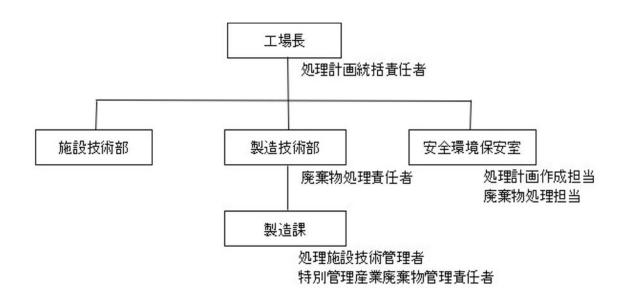
	【前年度(令和5年度)実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃油	汚泥
	自ら再生利用を行った特別管理 産業廃棄物の量	0 t	0
①現状	(これまでに実施した取組)		
	【目標】		
②計画	特別管理産業廃棄物の種類	廃油	汚泥
	自ら再生利用を行う特別管理産 業廃棄物の量	0 t	0
ってつ特別管理	理産業廃棄物の中間処理に関する事項		
	【前年度(令和5年度)実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃油	汚泥
	特別管理産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行った特別管理産 業廃棄物の量	3551 t	0
①現状	特別管理産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行った特別管理産 業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量		
①現状	特別管理産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行った特別管理産 業廃棄物の量	3551 t 3551 t	0
①現状	特別管理産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行った特別管理産 業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組)	3551 t 3551 t	0
①現状	特別管理産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) 廃油処理施設の安定運転による	3551 t 3551 t	0
①現状	特別管理産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行った特別管理産 業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) 廃油処理施設の安定運転による対	3551 t 3551 t 継続的に熱回収を行った。	0
①現状 ②計画	特別管理産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行った特別管理産 業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) 廃油処理施設の安定運転による。 【目標】 特別管理産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行う特別管理産業	3551 t 3551 t 継続的に熱回収を行った。 廃油	0 0 7 7 7 7 7 7 7 0
	特別管理産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) 廃油処理施設の安定運転による。 【目標】 特別管理産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量する特	3551 t 3551 t 継続的に熱回収を行った。 廃油 5250 t	75%

	理産業廃棄物の埋立処分に関する事項				
10117円別官2					
	【前年度(令和5年度)実績】	【前年度(令和5年度)実績】			
	特別管理産業廃棄物の種類	廃油	汚泥		
	自ら埋立処分を行った特別管理 産業廃棄物の量	0 t	0 t		
①現状 	(これまでに実施した取組)				
	【目標】 特別管理産業廃棄物の種	廃油	 汚泥		
	類 自ら埋立処分行う特別管理産業 廃棄物の量	0 t	0 t		
②計画	(今後実施する予定の取組)	•			
別管理産業廃	乗物の処理の委託に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】				
別管理産業廃業	<u> </u>	廃油	汚泥		
別管理産業廃業	【前年度(令和5年度)実績】	廃油 123 t			
別管理産業廃業	【前年度(令和5年度)実績】 特別管理産業廃棄物の種類		60 t		
別管理産業廃業	【前年度(令和5年度)実績】 特別管理産業廃棄物の種類 全 処 理 委 託 量 優良認定処理業者への処理	123 t	60 t		
別管理産業廃業	【前年度(令和5年度)実績】 特別管理産業廃棄物の種類 全 処 理 委 託 量 優良認定処理業者への処理 委託量 再生利用業者への処理委託	123 t 123 t	60 t 60 t 0 t		
	【前年度(令和5年度)実績】 特別管理産業廃棄物の種類 全 処 理 委 託 量 優良認定処理業者への処理 委託量 再生利用業者への処理委託 量 認定熱回収業者への処理委	123 t 123 t 0 t	汚泥 60 t 60 t 0 t 0 t		
	【前年度(令和5年度)実績】 特別管理産業廃棄物の種類 全 処 理 委 託 量 優良認定処理業者への処理 委託量 再生利用業者への処理委託 量 認定熱回収業者への処理委託 認定熱回収業者、の処理委託	123 t 123 t 0 t 0 t	60 t 60 t 0 t		
	【前年度(令和5年度)実績】 特別管理産業廃棄物の種類 全 処 理 委 託 量 優良認定処理業者への処理 委託量 再生利用業者への処理委託 量 認定熱回収業者への処理委託 量 認定熱回収業者への処理委託 量 認定熱の収業者以外の熱の収を行う業者への処理委託 量	123 t 123 t 0 t 0 t 0 t	60 t 60 t 0 t 0 t		

	【目標】					
	特別管理産業廃棄物の種類	廃油	汚泥			
	全処理委託量	250 t	120 t			
	優良認定処理業者への処理 委託量	250 t	120 t			
	再生利用業者への処理委託 量	0 t	0 t			
②計画	認定熱回収業者への処理委 託量	0 t	0 t			
	認定熱回収業者以外の熱回 収を行う業者への処理委託 量	0 t	0 t			
	(今後実施する予定の取組) 処理を委託する場合は優良 調査ならびに社内評価を継	認定処理業者を優先的に利	用できるように、委託先			
	【前年度(令和5年度)実績					
	特別管理産業廃棄物排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)					
電子情報処理組織の 使用に関する事項	(今後実施する予定の取組等)					
	令和元年11月にJWNETに排出事業者として加入し利用している。					

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入する
- (1)①欄には、
- (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。 (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績) 、建設業の場合における元請 完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ 事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること
- (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了 するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入するこ
- 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、 目標及び取組を記入すること。
- 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入するこ
- 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令(以下「令」という。)第6条の14第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用の認定者、認定整旦な扱いのでは、2012年度の2012年度を2012年度の2012年度を2012年度の2012年度の2012年度の2012年度を2012年度を2012年度の2012年度 る法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定 熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実 績、目標及び取組を記入すること。
- 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生 量(ポリ塩化ビフェニル廃棄物(令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。)を除く。)を記入すること。その量が50トン以上の者にあっては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等(情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関 する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。) について記入 すること。
- それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙の とおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理 産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入 し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべ き事項がないときは、「一」を記入すること。





特別	別管理産業	検廃棄物の排出の抑制	に関する事項							1
		【前年度(令和 5年度)実績】)								
	①現状	特別管理産業廃棄物の種類	レンガ耐火材	廃プラスチック	廃アルカリ					
		排 出 量	0 t	0 t	1 t	t	t	t	ť	t
		【目標】								
	②計画	特別管理産業廃棄物の種類	レンガ耐火材	廃プラスチック	廃アルカリ					
		排 出 量	10 t	10 t	10 t	t	t	t	t	t
自	ら行う特別	川管理産業廃棄物の再		事項						
	4	【前年度(令和 5	年度) 実績】)						**************************************	· ·
	①現状	特別管理産業廃棄物の種類	レンガ耐火材	廃プラスチック	廃アルカリ					
		自ら再生利用を行った 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t
		【目標】								
	②計画	特別管理産業廃棄物の種類	レンガ耐火材	廃プラスチック	廃アルカリ					
		自ら再生利用を行う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t
自	ら行う特別	川管理産業廃棄物の中	間処理に関する事	事項						
		【前年度(令和 5	年度) 実績】)							
		特別管理産業廃棄物の種類	レンガ耐火材	廃プラスチック	廃アルカリ					
	①現状	自ら熱回収を行った 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t
		自ら中間処理により減量した 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t
		【目標】					•	•	•	1
		特別管理産業廃棄物の種類	レンガ耐火材	廃プラスチック	廃アルカリ					
	②計画	自ら熱回収を行う 特別管理産業廃棄物の種類	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t
		自ら中間処理により減量する 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t

	【目標】					1			
@#J ==	特別管理産業廃棄物の種類	レンガ耐火材	廃プラスチック	廃アルカリ					
②計画	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t
時別管理産	業廃棄物の処理の委託	に関する事項	**		ė.				V8
13.13	【前年度(令和 5	年度) 実績】)	357		53	52	00	90. 90	ASC
	特別管理産業廃棄物の種類	レンガ耐火材	廃プラスチック	廃アルカリ					6
	全処理委託量	0 t	0 t	1 t	t	t	t	t	t
O.TH.Ah	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0 t	1 t	t	t	t	t	t
①現状	再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t	1 t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t
	【目標】								
	特別管理産業廃棄物の種類	レンガ耐火材	廃プラスチック	廃アルカリ					
	全処理委託量	10 t	10 t	10 t	t	t	t	t	t
@# T	優良認定処理業者への 処理委託量	10 t	10 t	10 t	t	t	t	t	t
②計画	再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	t	t	t	t	t	t

特別管理産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和6年7月22日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

提出者 290-0045

住所 千葉県市原市五井海岸11-6

法人名京葉モノマー株式会社

代表者 取締役工場長 川崎 真

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0436-24-8535

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第11項の規定に基づき、令和 5 年度の特別 管理産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

事	業場の名称	京葉モノマー株式	会社本社工場	
事	¥ 場の所在地	千葉県市原市五井	‡南海岸11-6	
事	業	大分類 製造	b業 中分類 化学	全工業
	管理産業廃棄物処理 における計画期間	令和5年4月1日	から	令和6年3月31日
特別	引管理産業廃棄物処理	里計画における 目標	原値	
	項目	目標値	項目	目標値
	排出量	5650 t	全処理委託量	400 t
	自ら再生利用を行う特別 管理産業廃棄物の量	0 t	優良認定処理業者 への処理委託量	400 t
	自ら熱回収を行う特別管 理産業廃棄物の量	5250 t	再生利用業者への 処理委託量	0 t
	自ら中間処理により減量 する特別管理産業廃棄物 の量	5250 t	認定熱回収業者へ の処理委託量	0 t
	自ら埋立処分を行う特別 管理産業廃棄物の量	0 t	認定熱回収業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0 t

電子情報処理組織の使用に関する事項

特別管理産業廃棄物排出量	全前年度(令和4年度)	4944 t
(ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	前年度(令和5年度)	3735 t

(電子情報処理組織の使用に関して実施した取組)

令和元年11月にJWNETに排出事業者として加入している。

(日本産業規格 A列4番)

N0.1 (第2面)

計画の実施状況

(特別管理産業廃棄物の種類:

廃油(有害)

	有償物	<u>量</u>			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量		®自ら中間処理した後再生 利用した量	
等		0.0 t		0.0 t	
量	①排出量	③自ら直接埋立処 分した量			
	3674.0t	0.0 t			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	⑫ ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	3674.0 t	3551.0 t	0.0 t	0.0t	0.0 t
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	3551.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	3551.0 t	3551.0 t	3551.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	0.0 t
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			123.0 t	
⑩全処理委託量	123.0 t			1	④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
⑩優良認定処理業者への処理委託量	123.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	0.0 t
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t			123.0 t	
④熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t				

N0.2 (第2面)

計画の実施状況

(特別管理産業廃棄物の種類:

汚泥(有害)

)

	有償物	物量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量 0.0 t		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量 0.0 t	
· 発生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分した量		3.0 (
<u> </u>	60.0t	0.0 t			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	60.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0t	0.0 t
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		⑬ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t	0.0 t	0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	0.0 t
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			60.0 t	
⑩全処理委託量	60.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外 の熱回収を行う
⑩優良認定処理業者 への処理委託量	60.0 t				業者への処理委託量
⑫再生利用業者への 処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	0.0 t
^③ 熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t			60.0 t	
個熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				-

N0.3 (第2面)

計画の実施状況

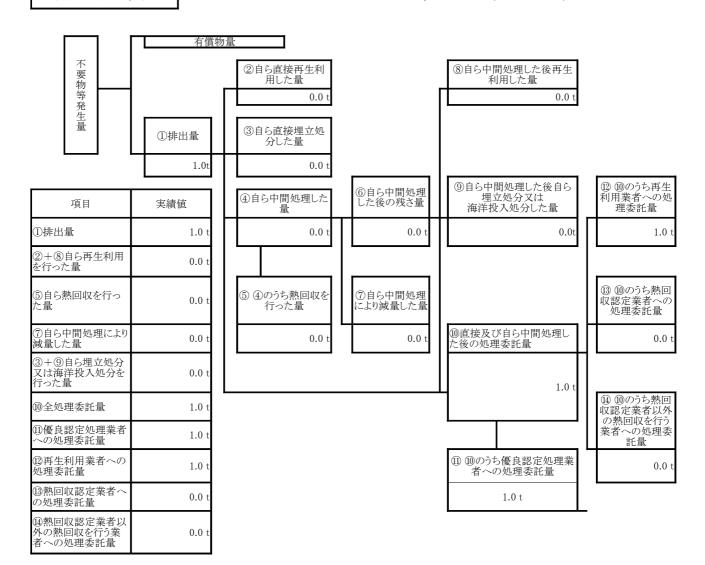
(特別管理産業廃棄物の種類: レンガ・耐火材(有害))

	有償物	7量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生利用した量	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		0.0 t		0.0 t	
里	①排出量	③自ら直接埋立処 分した量			
	0.0t	0.0 t			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	⑫ ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0t	0.0 t
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t	0.0 t	0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	0.0 t
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外 の熱回収を行う
⑩優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	0.0 t
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t			0.0 t	
⑩熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				-

N0.4 (第2面)

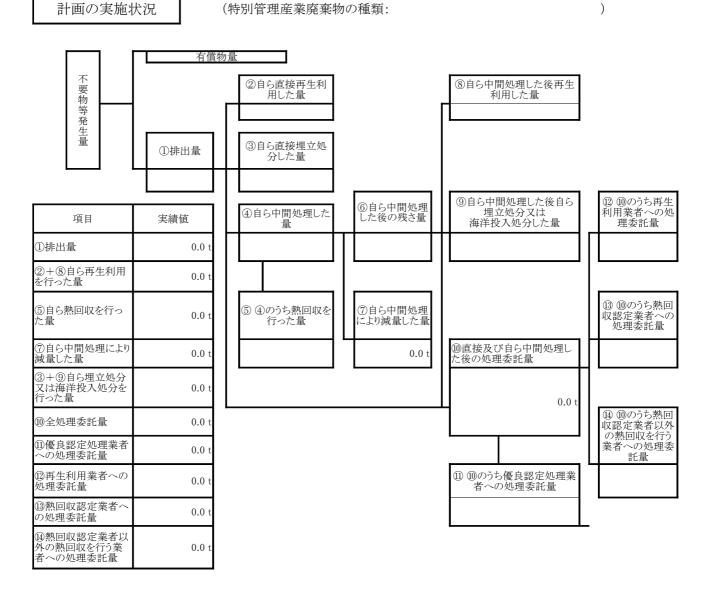
計画の実施状況

(特別管理産業廃棄物の種類: 廃アルカリ(強アルカリ)



N_{0.5} (第2面)

計画の実施状況



N0.6 (第2面)

計画の実施状況

(特別管理産業廃棄物の種類:

	有償物	重			
不 要 物 		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生利用した量	
不 要物 等 発生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分した量			
75 17	(+) (+)	④自ら中間処理した	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は	② ⑩のうち再生 利用業者への処
項目	実績値	量	した後の残さ里	海洋投入処分した量	理委託量
①排出量 ————————————————————————————————————	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理した後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t]
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外 の熱回収を行う
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
②再生利用業者への 処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
^⑬ 熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				_
④熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t				

N0.7 (第2面)

計画の実施状況

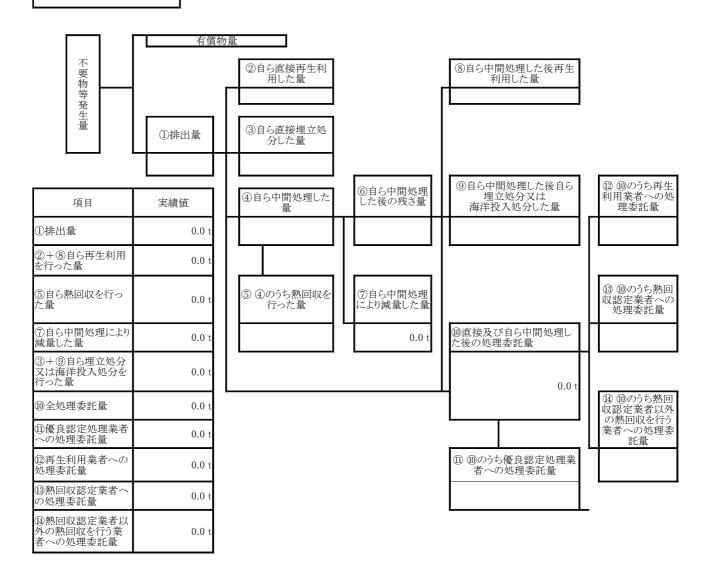
(特別管理産業廃棄物の種類:

	有償物	7量			
不 要 物 		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
不要物等発生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	⑩ ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	5 ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回収認定業者への処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理した後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t]
⑩全処理委託量	0.0 t			7	④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
⑫再生利用業者への 処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
④熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t				

N0.8 (第2面)

計画の実施状況

(特別管理産業廃棄物の種類:



N0.9 (第2面)

計画の実施状況

(特別管理産業廃棄物の種類:

不要物等発生量	有償物 ①排出量	量 ②自ら直接再生利 用した量 ③自ら直接埋立処 分した量	⑧自ら中間処理した後再生 利用した量
項目	実績値	④自ら中間処理した 量 ⑥自ら中間 した後の	間処理 機さ量 ②自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量 ② ⑩ ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t		
②+8自ら再生利用 を行った量	0.0 t		
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量 ⑦自ら中により減量	間処理 した量 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t ⑩直接及び自ら中間処理した後の処理委託量
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t		0.0 t
⑩全処理委託量	0.0 t		④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外 の熱回収を行う
⑩優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t		業者への処理委 託量
⑫再生利用業者への 処理委託量	0.0 t		⑪ ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t		
④熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t		

N0.10 (第2面)

計画の実施状況

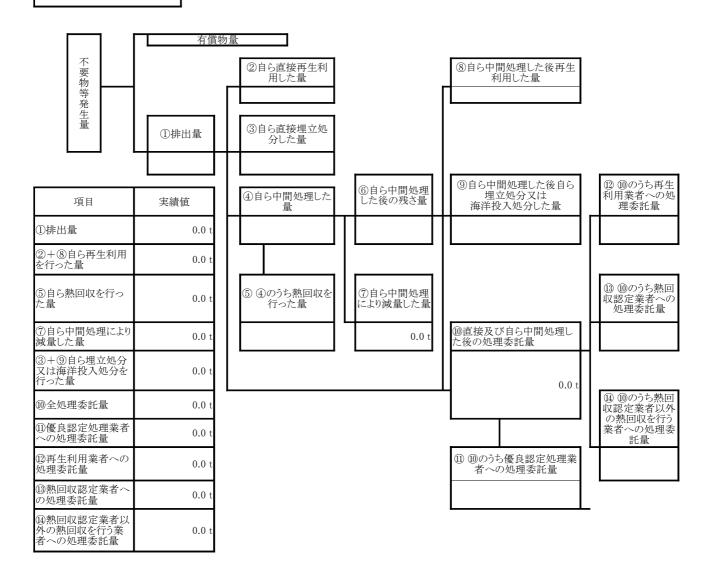
(特別管理産業廃棄物の種類:

	有償物	7量			
不 要 物 		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
不要物等発生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	⑩ ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	5 ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回収認定業者への処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理した後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t]
⑩全処理委託量	0.0 t			7	④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
⑫再生利用業者への 処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
④熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t				

N0.11 (第2面)

計画の実施状況

(特別管理産業廃棄物の種類:



N0.12 (第2面)

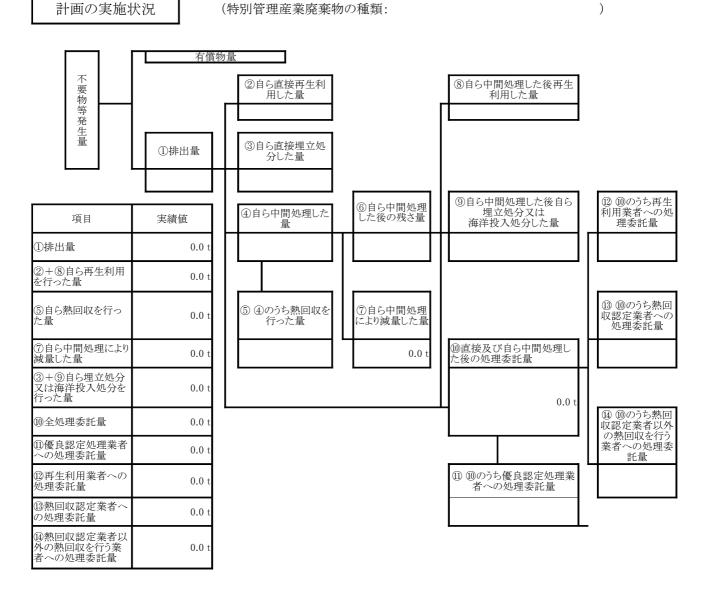
計画の実施状況

(特別管理産業廃棄物の種類:

	有償物	1量			
不 要 物		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
不要物等発生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は	② ⑩のうち再生 利用業者への処
①排出量	夫禎旭 0.0 t	量	した仮りがなる重	海洋投入処分した量	理委託量
①折山里 ②十⑧自ら再生利用					
を行った量	0.0 t		l .———		
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理した後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t			7	④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外 の熱回収を行う
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			⑩ ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
^⑬ 熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				_
④熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t				

N_{0.13} (第2面)

計画の実施状況



N0.14 (第2面)

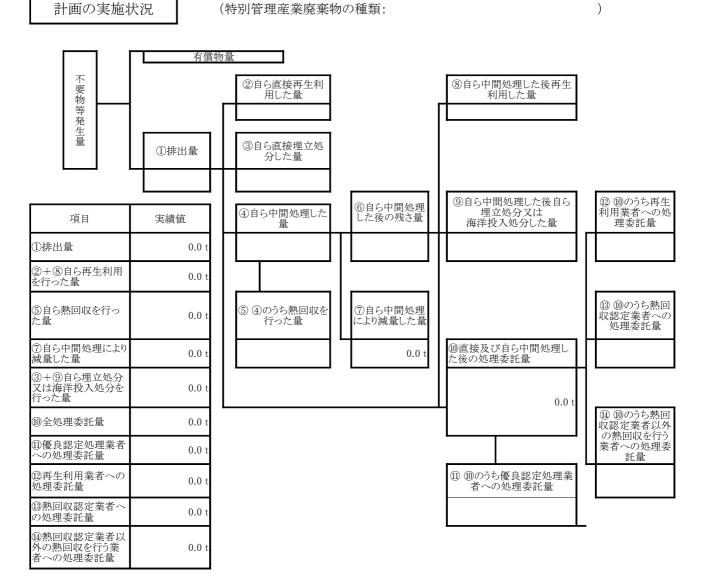
計画の実施状況

(特別管理産業廃棄物の種類:

	有償物	7量			
不 要 物 		②自ら直接再生利 用した量		8自ら中間処理した後再生 利用した量	
不要物等発生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t			1	④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
⑫再生利用業者への 処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
④熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t				

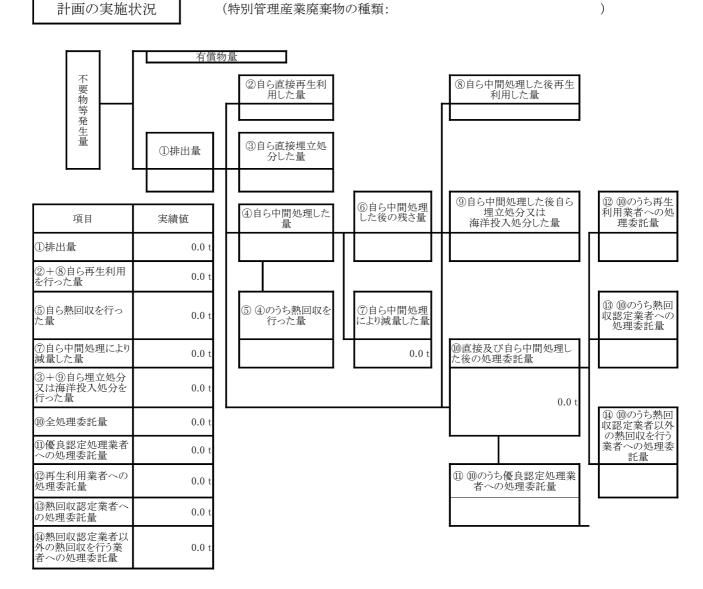
N_{0.15} (第2面)

計画の実施状況



N₀.16 (第2面)

計画の実施状況



N0.17 (第2面)

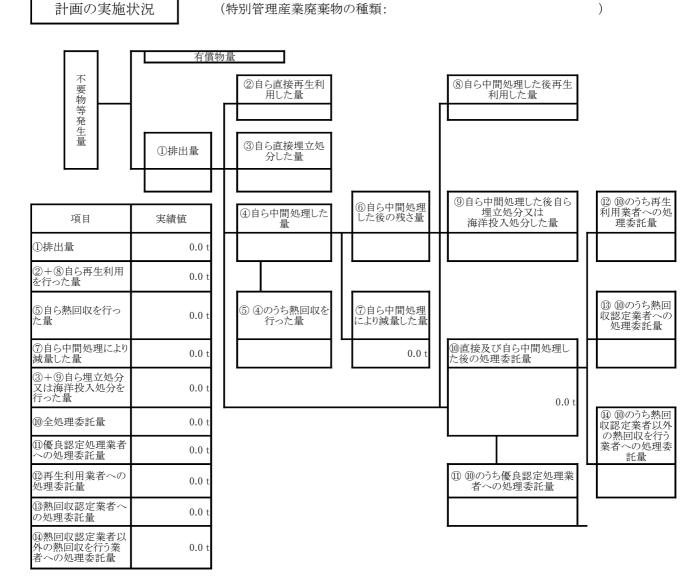
計画の実施状況

(特別管理産業廃棄物の種類:

	有償物	7量			
不 要 物 		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生利用した量	
不要物等発生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	⑩ ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回収認定業者への処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理した後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
⑩優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
⑫再生利用業者への 処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
④熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t				

N_{0.18} (第2面)

計画の実施状況



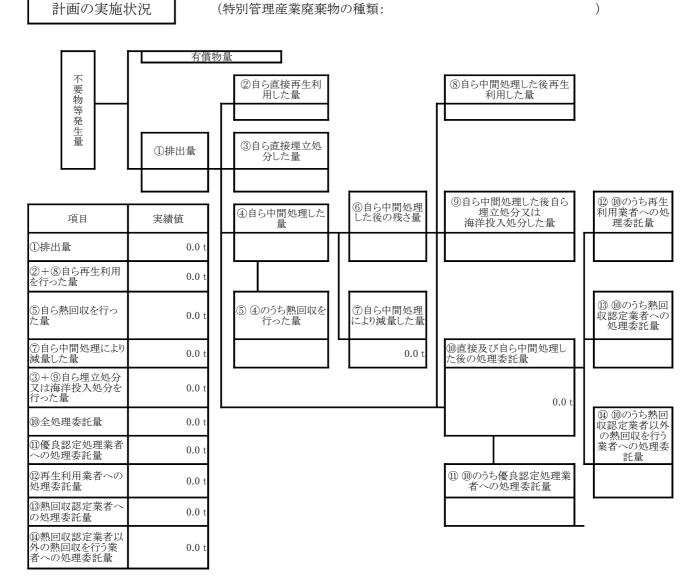
N0.19 (第2面)

計画の実施状況

不要物等発生量	有償物 ①排出量	②自ら直接再生利 用した量 ③自ら直接埋立処 分した量	⑧ 自ら ^に	中間処理した後再生利用した量	
項目	実績値	④自ら中間処理した 量 (6)自した。	の形を具	中間処理した後自ら 里立処分又は 生投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量 ⑦自 により	中間処理 成量した量		③ ⑩のうち熱回収認定業者への処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t ⑩直接及 た後の処	及び自ら中間処理し 型理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
⑩優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t			T	の熱回収を行う 業者への処理委 託量
②再生利用業者への 処理委託量	0.0 t		① ⑩の 者	うち優良認定処理業 への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
④熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t				_

N_{0.20} (第2面)

計画の実施状況



備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。 3 「特別管理産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、特別管理産業廃棄物処理計画に記載 した目標値を記入すること
- 4 第2面には、前年度の特別管理産業廃棄物の処理に関して、①~⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量 を記入すること
- (1) ①欄 当該事業場において生じた特別管理産業廃棄物の量
- (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量(3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分した量
- (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした特別管理産業廃棄物の当該中間処理前の量
- (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
- (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
- (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
- (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量 (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分又は海洋投入処分した量 (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
- (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令(以下「令」という。)第 6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
- (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
- (13) ⑬欄(10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の 認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
- (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、特別管理産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入するこ
- 6 特別管理産業廃棄物の種類が2以上あるときは、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により特別管理産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。 7 「電力・別様の使用に関する事項」の構造は、前々年度及び前年度における特別管理産業廃棄物の排
- 出量(ポリ塩化ビフェニル廃棄物(令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。)を除く。)並びに電子情報処理組織使用義務者にあっては前年度に実施した電子情報処理組織の使用に関する取組(情報処理センターへ の登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当したときは、その 旨及び理由を含む。)について記入すること

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 6年 6月 29日

千葉県知事

熊谷 俊人 殿

提出者 〒290-8560

住 所 千葉県市原市五井南海岸11番地1

氏 名 KHネオケム株式会社 千葉工場

執行役員 千葉工場長 中橋 彰夫

電話番号 0436-23-9111

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	KHネオケム株式会社 千葉工場
事業場の所在地	千葉県市原市五井南海岸11番地1
計 画 期 間	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日
当該事業場において現に行っ	っている事業に関する事項
①事業の種類	大分類:製造業 中分類:化学工業
②事業の規模	前年度製品出荷額:341億円
③ 従 業 員 数	(正社員 138名 業務関連職員 15名)
④ 産 業 廃 乗 物 の 一連の処理の工程	

(日本工業規格 A列4番)



つ仃り医業廃果	物の再生利用に関する事項				
	【前年度(令和 5年度)	実績】			
	産業廃棄物の種類_	汚泥		廃酸	
	自ら再生利用を行った 産 業 廃 乗 物 の 量	0	t	0	
①現状	(これまでに実施した取組)				
	・これまで自社で再生利用に	は行っていない) °		
	【目標】				
	産業廃棄物の種類_	汚泥		廃酸	
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0	t	0	
2計画	(今後実施する予定の取組))	<u>"</u>		
	・今後も自社で再生利用を行	行う予定はない) 0		
 	 物の中間処理に関する事項				
	【前年度(今和 5年度)	実績】			
	産業廃棄物の種類_	汚泥		廃酸	
	自ら熱回収を行った 産業廃乗物の量	0	t	0	
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	2553. 9	t	0	
①現状	生 木 ル 木 ド ジ 重				
①現状	(これまでに実施した取組))	•		
①現状	(これまでに実施した取組) ・ 排水汚泥は汚泥焼却炉の	安全、安定運		る。排水汚泥	の
①現状	(これまでに実施した取組)	安全、安定運		る。排水汚泥	の
①現状	(これまでに実施した取組) ・ 排水汚泥は汚泥焼却炉の	安全、安定運		る。排水汚泥	の
①現状	(これまでに実施した取組) ・ 排水汚泥は汚泥焼却炉の	安全、安定運		る。排水汚泥	の
①現状	(これまでに実施した取組) ・ 排水汚泥は汚泥焼却炉の含水率向上を図り、排水	安全、安定運		る。排水汚泥	の
①現状	(これまでに実施した取組) ・ 排水汚泥は汚泥焼却炉の含水率向上を図り、排水流)安全、安定運 汚泥を減量化さ			
①現状 ②計画	(これまでに実施した取組) ・排水汚泥は汚泥焼却炉の 含水率向上を図り、排水 【目標】 産業廃棄物の種類_ 自ら熱回収を行う)安全、安定運 汚泥を減量化さ 汚泥	・せる。	廃酸	
	(これまでに実施した取組) ・ 排水汚泥は汚泥焼却炉の含水率向上を図り、排水 【目標】 産業廃棄物の種類_ 自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	9安全、安定運 汚泥を減量化さ 汚泥 7汚泥 0 3300	t	廃酸	
	(これまでに実施した取組) ・ 排水汚泥は汚泥焼却炉の含水率向上を図り、排水 【目標】 産業廃棄物の種類_ 自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	9安全、安定運 汚泥を減量化さ 汚泥 7汚泥 0 3300	t t	廃酸 0 0	
	(これまでに実施した取組) ・ 排水汚泥は汚泥焼却炉の含水率向上を図り、排水 【目標】 産業廃棄物の種類_ 自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	か安全、安定運 汚泥を減量化さ 汚泥	t t t	廃酸 0 0	
	(これまでに実施した取組) ・ 排水汚泥は汚泥焼却炉の含水率向上を図り、排水浴 【目標】 産業廃棄物の種類_ 自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量 (今後実施する予定の取組)	か安全、安定運 汚泥を減量化さ 汚泥	t t t	廃酸 0 0	0

ら行う産業廃棄物		関する事項			
	【前年度 (令和 5 年度)				
	産業廃棄物の種類_	汚泥		廃酸	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0	t	0	t
①現状	(これまでに実施した取組) ・これまでに、自社で埋立気		と入処分を行	うたことはス	ない。
	【目標】				
	産業廃棄物の種類	汚泥		廃酸	
②計画	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0	t	0	1
業廃棄物の処理の	の委託に関する事項				
	【前年度(^{令和} 5 年度) : 産業廃棄物の種類_	実績 】 汚泥		廃酸	
	全処理委託量_	89. 3	t	0	1
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	64. 3	t	0	1
		64. 3	t	0	
①現状	処理 委託 量再生利用業者への				1
①現状	処理委託量再生利用業者への処理委託量認定熱回収業者への	44. 4	t	0	1 1

(第5面)

(第3回)							
	【目標】		_				
	産業廃棄物の種類_	汚泥		廃酸			
	全処理委託量_	200	t	2	t		
	優良認定処理業者への 処理 委託 量	200	t	2	t		
	再生利用業者への 処理委託量	130	t	2	t		
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	70	t	0	t		
②計画	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0	t	0	t		
	(今後実施する予定の取 ・引き続き、排水処理の 排水汚泥の含水率向上 を再生利用業者からサ 推進を図る。 ・引続き再生利用業者へ 委託量を増加させる予	安定運転を図り、 を図り、排水汚泥 ンプル評価を得て の委託処理を続け	を減量で、有効を	化させる。汚泥類 利用出来るように			
※事務処理欄							

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

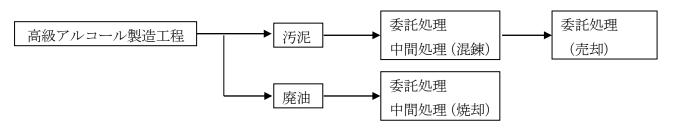
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項									
	【前年度(令和 5年度)実績】)								
①現状	産業廃棄物の種類	金属くず	廃プラスチック	木くず	ガラス・コンクリート・ 陶磁器くず	廃アルカリ	廃油	混合廃棄物	
	排出量	13. 2 t	1.5 t	1.4 t	0 t	0.0 t	0.0 t	12.8 t	
	【目標】								
②計画	産業廃棄物の種類	金属くず	廃プラスチック	木くず	ガラス・コンクリート・ 陶磁器くず	廃アルカリ	廃油	混合廃棄物	
	排出量	70 t	10 t	10 t	50 t	3 t	5 t	10 t	
自ら行う産業	業廃棄物の再生利用に								
	【前年度(令和 5	年度)実績】)	1						
①現状	産業廃棄物の種類	金属くず	廃プラスチック	木くず	ガラス・コンクリート・ 陶磁器くず	廃アルカリ	廃油	混合廃棄物	
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	【目標】								
②計画	産業廃棄物の種類	金属くず	廃プラスチック	木くず	ガラス・コンクリート・ 陶磁器くず	廃アルカリ	廃油	混合廃棄物	
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
自ら行う産業	業廃棄物の中間処理に								
	【前年度(令和 5	年度)実績】)							
	産業廃棄物の種類	金属くず	廃プラスチック	木くず	ガラス・コンクリート・ 陶磁器くず	廃アルカリ	廃油	混合廃棄物	
①現状	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	【目標】								
	産業廃棄物の種類	金属くず	廃プラスチック	木くず	ガラス・コンクリート・ 陶磁器くず	廃アルカリ	廃油	混合廃棄物	
②計画	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の種類	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	

自ら行う産業	業廃棄物の埋立処分又	は海洋投入処分に	こ関する事項							
	【前年度(令和 5 年度)実績】)									
①現状	産業廃棄物の種類	金属くず	廃プラスチック	木くず	ガラス・コンクリート・ 陶磁器くず	廃アルカリ	廃油	混合廃棄物		
(1) 9L/V	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t		
	【目標】									
②計画	産業廃棄物の種類	金属くず	廃プラスチック	木くず	ガラス・コンクリート・ 陶磁器くず	廃アルカリ	廃油	混合廃棄物		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t		
産業廃棄物の	業廃棄物の処理の委託に関する事項 【前年度(令和 5 年度)実績】)									
	産業廃棄物の種類	金属くず	廃プラスチック	木くず	ガラス・コンクリート・ 陶磁器くず	廃アルカリ	廃油	混合廃棄物		
	全処理委託量	13. 2 t	1.5 t	1.4 t	0 t	0.0 t	0 t	12.8 t		
0.71	優良認定処理業者への 処理委託量	0.0 t	0.4 t	0 t	0 t	0.0 t	0 t	0.3 t		
①現状	再生利用業者への 処理委託量	13. 2 t	1.1 t	1.4 t	0 t	0.0 t	0 t	9.3 t		
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0.4 t	0 t	0 t	0.0 t	0 t	0 t		
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0.0 t	0 t	0 t		
	【目標】									
	産業廃棄物の種類	金属くず	廃プラスチック	木くず	ガラス・コンクリート・ 陶磁器くず	廃アルカリ	廃油	混合廃棄物		
	全処理委託量	70 t	10 t	10 t	50 t	3 t	5 t	10 t		
②計画	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	50 t	1 t	5 t	1 t		
少計画	再生利用業者への 処理委託量	70 t	8 t	10 t	50 t	3 t	0 t	10 t		
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	2 t	0 t	0 t	0 t	5 t	0 t		
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t		

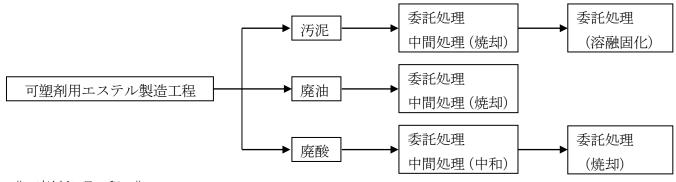
産業廃棄物の一連の処理工程

《製造工程図》

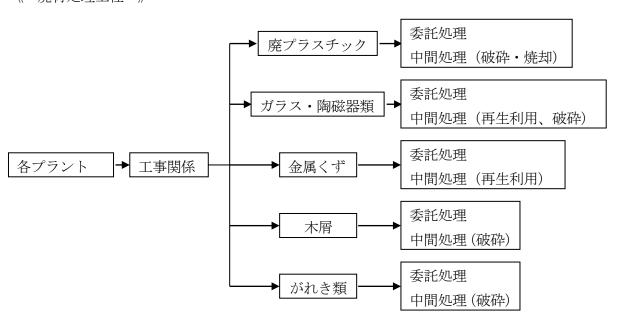
《 高級アルコール製造工程図 》



《 可塑剤用エステル製造工程図 》



《 廃材処理工程 》



《排水処理工程》



(第1面)

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和6年6月29日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

提出者 〒290-8560

住 所 千葉県市原市五井南海岸11番地1

氏名 KHネオケム株式会社 千葉工場

執行役員 千葉工場長 中橋 彰夫

電話番号 0436-23-9111

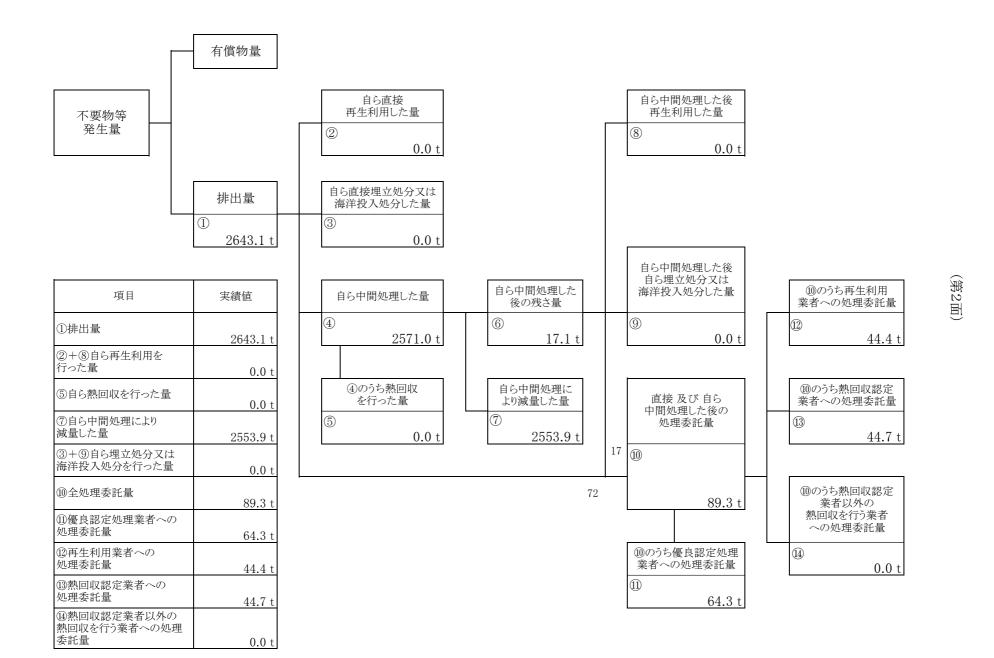
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和 5 年度の産業廃棄物 処理計画の実施状況を報告します。

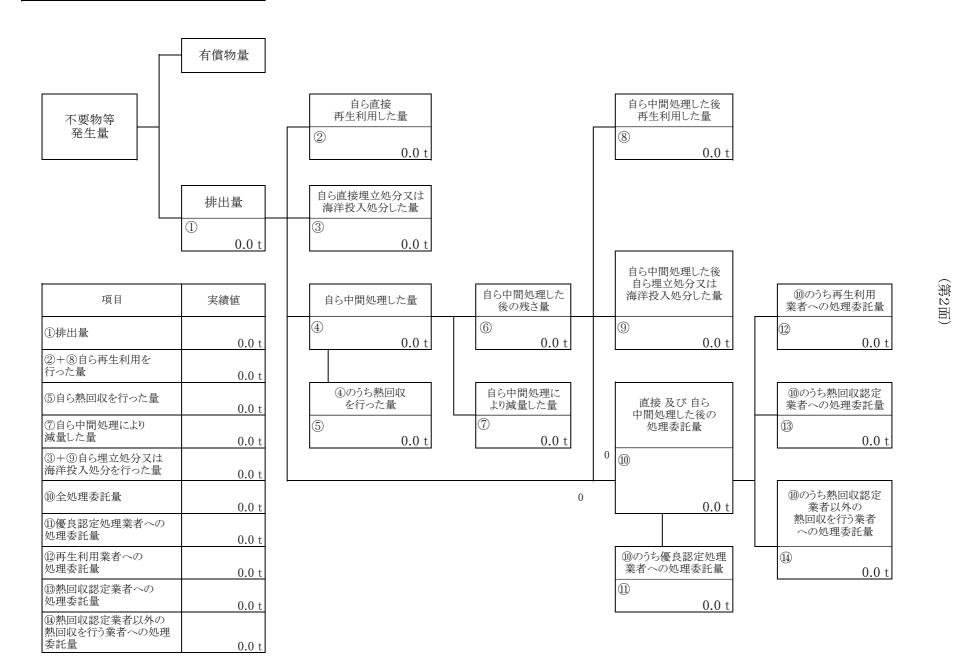
事	業場	· 0	名	称	KHネオケム株式会社 千葉工場
事	業場	の所	在	地	千葉県市原市五井南海岸11番地1
事	業	0	種	類	大分類:製造業 中分類:化学工業
産業廃棄物処理計画における 計 画 期 間					令和5年4月1日~令和6年3月31日

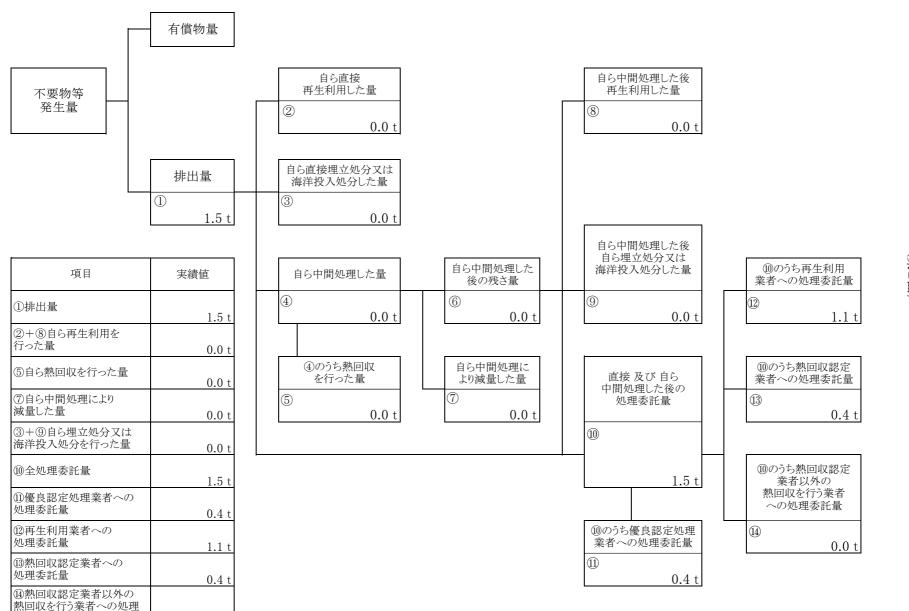
産業廃棄物処理計画における目標値

			-	
項	目	目標値	項目	目標値
排	出量	3660.0 t	全処理委託量	360.0 t
	利用を行う集物の量	0.0 t	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	259.0 t
自ら熱回産業廃	収を行う 乗物の量	0.0 t	再生利用業者への処理 委託 量	288.0 t
自ら中間処理 産 業 廃 勇	により減量する 棄 物 の 量	3300.0 t	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	72.0 t
海洋投入	処 分 又 は 処 分 を 行う 乗 物 の 量	0.0 t	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0.0 t
※事務処理欄				

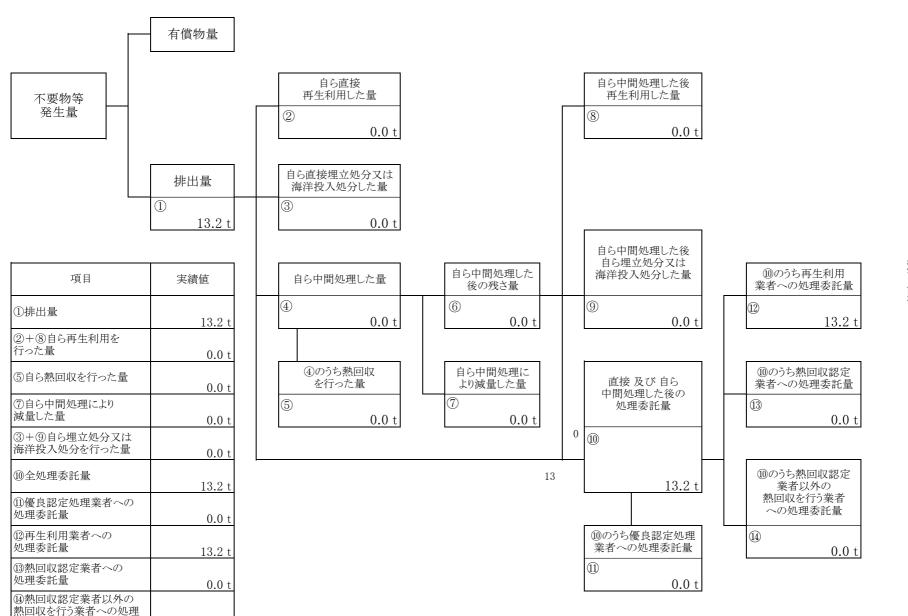
(日本工業規格 A列4番)

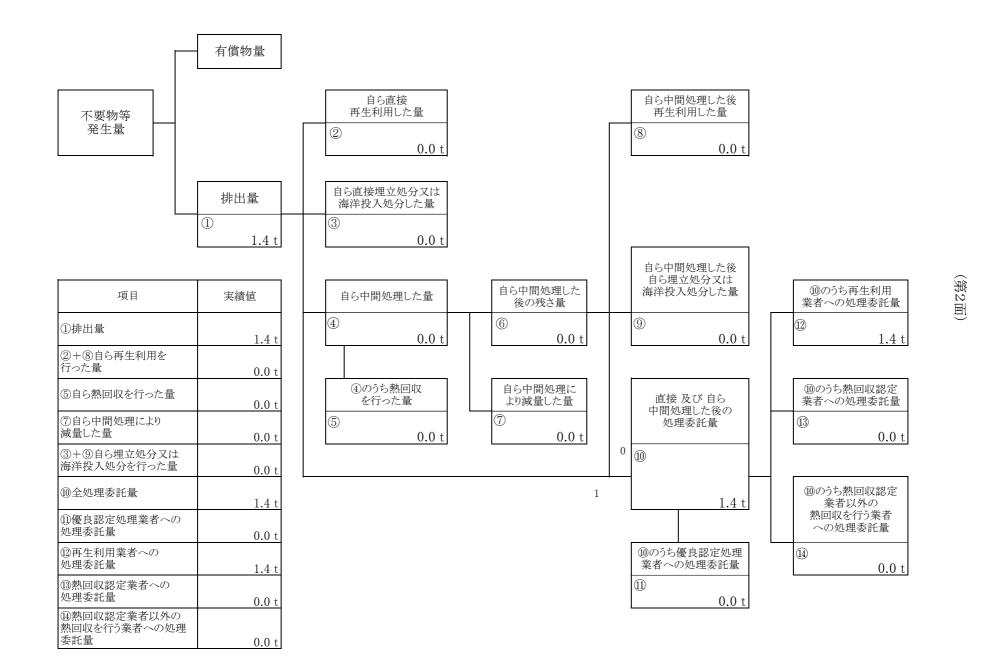


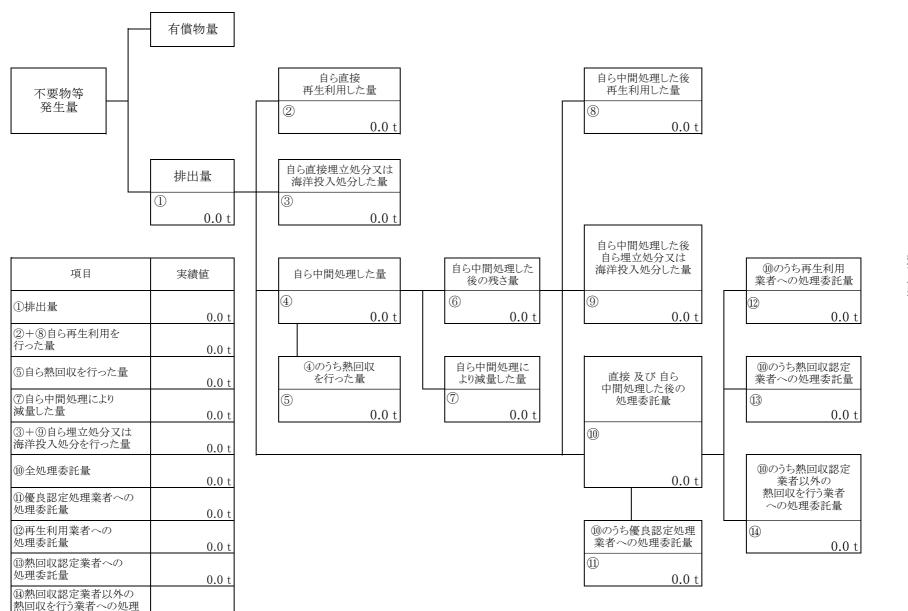




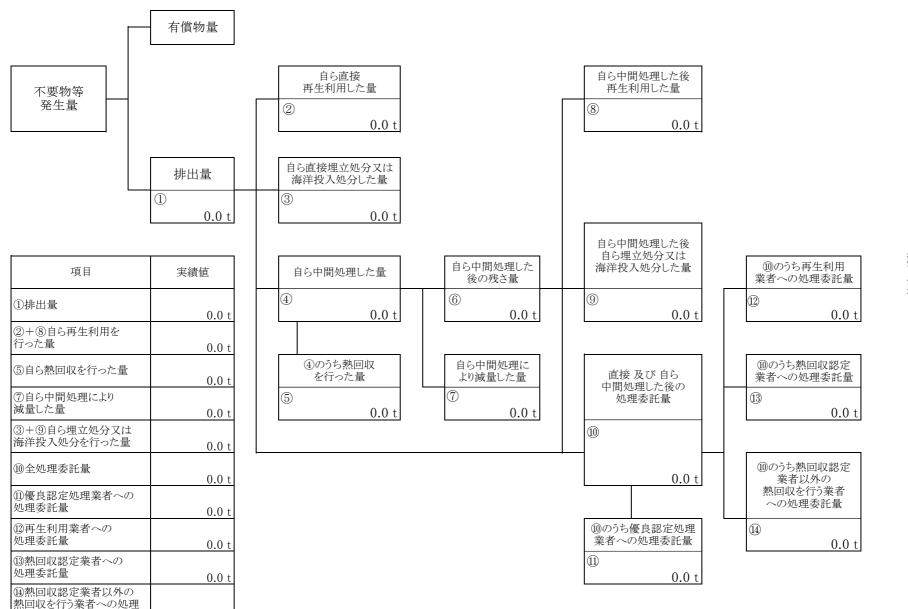






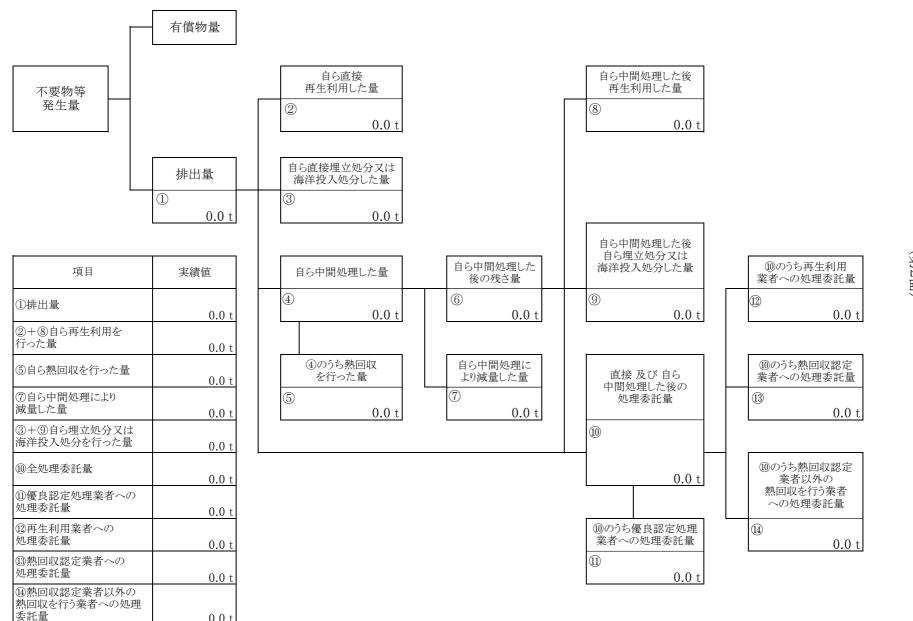




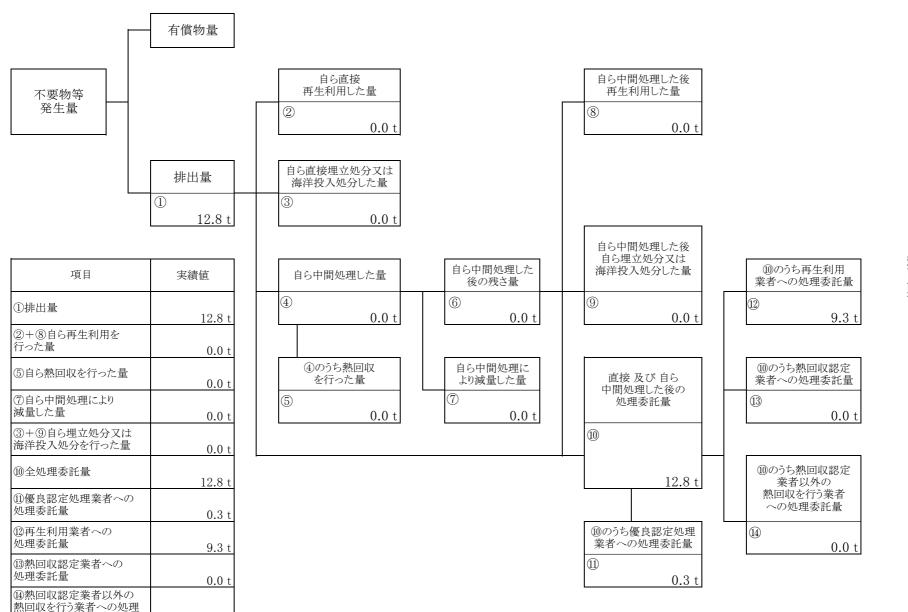


0.0 t





0.0 t



- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載 した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物処理に関して、①~⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14) に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄(1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄(1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄(4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) (7)欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄(6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令 第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ③欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律 第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への 焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記 入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和 6年 6月 29日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

④ 特別管理産業廃棄物

の一連の処理の工程

提出者〒290-8560

住 所 千葉県市原市五井南海岸11番地1

氏 名 KHネオケム株式会社 千葉工場

執行役員 千葉工場長 中橋 彰夫 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0436-23-9111

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

	事業場の名称	KHネオケム株式会社 千葉工場			
	事業場の所在地	千葉県市原市五井南海岸11番地1			
	計 画 期 間	令和5年4月1日 ~ 令和6年3月31日			
当	該事業場において現に行	っている事業に関する事項			
	①事業の種類	大分類:製造業 中分類:化学工業			
	②事業の規模	前年度製品出荷額:341億円			
	③ 従 業 員 数	(正社員 138名 業務関連職員 15名)			

(日本工業規格 A列4番)

別紙に記載



ら行う特別管理	産業廃棄物の再生利用に関する事項	Į.		
	【前年度(今和 5年度)等	 実績		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃油		
	自ら再生利用を行った 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0	t
①現状	(これまでに実施した取組) ・これまで自社で再生利用に	は行っていない。		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃油		
	自ら再生利用を行う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0	t
②計画	(今後実施する予定の取組) ・今後も自社で再生利用は行	テ う予定はない。	1	
 ら行う特別管理院	 産業廃棄物の中間処理に関する事項			
) 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1	【前年度(令和 5年度)等			
	特別管理産業廃棄物の種類	廃油		
	自 ら 熱 回 収 を 行 っ た 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0	t
①現状	自ら中間処理により減量した 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0	t
	(これまでに実施した取組) ・これまで自社で廃油の熱E	回収及び中間処理は	行っていない。	
	【目標】			
	特別管理産業廃棄物の種類	廃油		
	自 ら 熱 回 収 を 行 う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0	t
	自ら中間処理により減量する 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0	t
②計画	(今後実施する予定の取組)	1	
	・今後も自社で廃油の熱回収		う予定はない。	

自ら	自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項							
		【前年度(今和 5年度)実績】					
		特別管理産業廃棄物の種類	廃油					
		自 ら 埋 立 処 分 を 行 っ た 特別管理産業廃棄物の量	0	t	0	t		
	①現状	(これまでに実施した取) ・これまでに、自社で埋		大 处分	を行ったことはない	١,		
		【目標】						
		特別管理産業廃棄物の種類	廃油					
		自 ら 埋 立 処 分 を 行 う 特別管理産業廃棄物の量	0	t	0	t		
	②計画	(今後実施する予定の取得 ・引き続き埋立処分又は)		予定は	けない。			
特別	川管理産業廃棄物の処	l理の委託に関する事項						
		【前年度(今和 5年度)実績】					
		特別管理産業廃棄物の種類	廃油					
		全処理委託量	9.86	t	0	t		
		優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	9.86	t	0	t		
		再生利用業者への 処 理 委 託 量	0	t	0	t		
	①現状	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	9.86	t	0	t		
		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0	t	0	t		
		(これまでに実施した取) ・搬出業者と綿密にスケー後に搬出を行った。 ・混在が起きぬよう、屋	ジュールを組み、			Ź.		

(第5面)

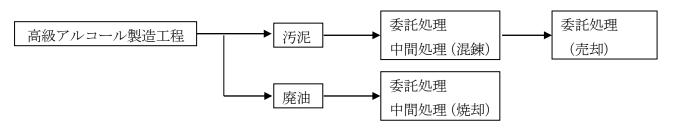
				(第5)			
		【目標】		<u> </u>				
		特別管理	産業廃棄!	物の種類	廃油 			
				託 量	80	t	0	t
		処	理委	業者への 託 量	80	t	0	t
				者への 託 量	0	t	0	t
				美者への 託 量	80	t	0	t
	②計画	熱回り		者以外の 業者への 託 量	0	t	0	t
							が発生する可能性の委託を管理する	
		特 5 排 (ポ	川 管 耳	里産業 出	(三) 実績】(三) 廃 乗 物(量) 量(物を除く。)		0	t
	青報処理組織の使用 する事項			予定の取 報処理組	組等) 織を使用する予	定はない。	•	
*	《事務処理欄							
		_		_				

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
- (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
- (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了 するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入するこ と。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の 種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管 理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、 目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の 種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業 廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入するこ と。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令(以下「令」という。)第6条の14第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量(ポリ塩化ビフェニル廃棄物(令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。)を除く。)を記入すること。その量が50トン以上の者にあっては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等(情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。)について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。

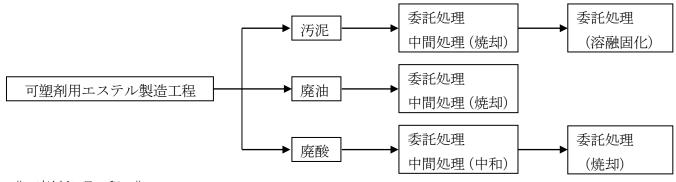
産業廃棄物の一連の処理工程

《製造工程図》

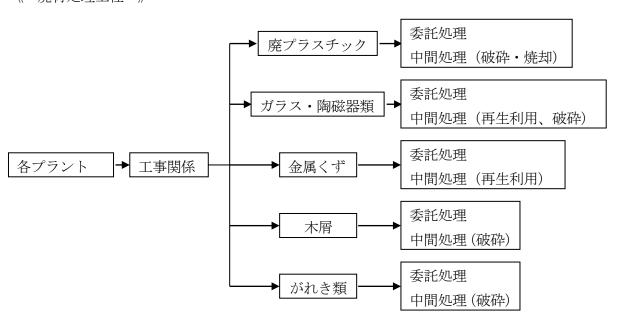
《 高級アルコール製造工程図 》



《 可塑剤用エステル製造工程図 》



《 廃材処理工程 》



《排水処理工程》



特別管理産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和6年6月29日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

提出者 〒290-8560

住 所 千葉県市原市五井南海岸11番地1

氏名 KHネオケム株式会社 千葉工場

執行役員 千葉工場長 中橋 彰夫

電話番号 0436-23-9111

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第11項の規定に基づき、 5 年度の特別管理 産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

事	業場	易 の	名	称	KHネオケム株式会社 千葉工場
事	業場	の所	在	地	千葉県市原市五井南海岸11番地1
事	業	0	種	類	大分類:製造業 中分類:化学工業
特別に	リ管理産業 お け・		処理 町 期	計画間	令和5年4月1日~令和6年3月31日

特別管理産業廃棄物処理計画における目標値

	項目		目標値	項目	目標値
LIII					
排	出	量	11.0 t	全 処 理 委 託 量	11.0 t
	再 生 利 用 を ・理産業廃棄物		0.0 t	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	11.0 t
自 ら 特別管	熱 回 収 を ・理産業廃棄物	行う 勿の量	0.0 t	再 生 利 用 業 者 へ の 処 理 委 託 量	11.0 t
	間処理により減 ・理産業廃棄物		0.0 t	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0.0 t
自 を 特別管	理 立 奴 行 ⁷ 理産業廃棄物	Ď	0.0 t	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理 委託 量	0.0 t

電子情報処理組織の使用に関する事項

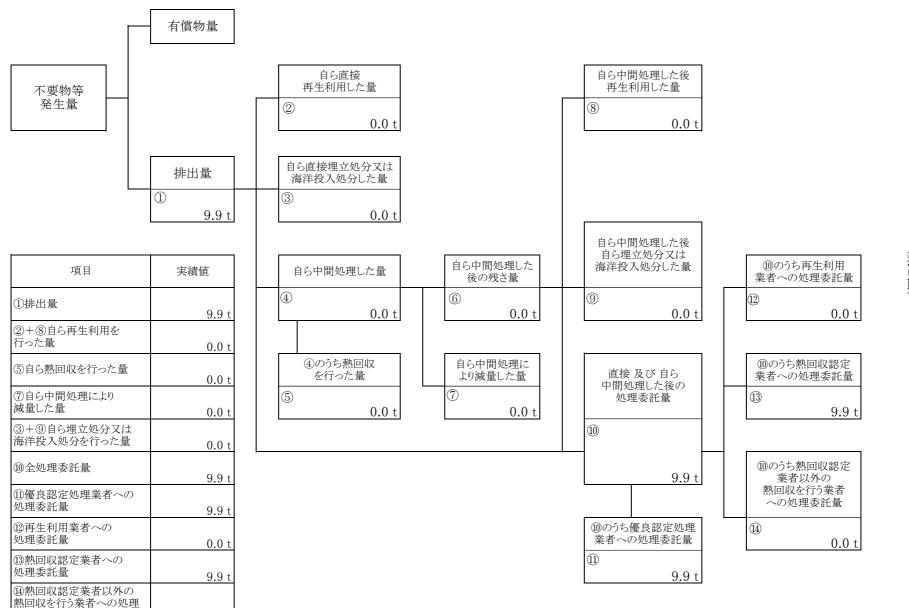
特別管理産業廃棄物排出量	前々年度	71.7 t
(ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	前年度	9.9 t

(電子情報処理組織の使用に関して実施した取組)

・電子情報処理の導入検討のため、他社の導入状況を確認し処分費用と導入コストを比較した。

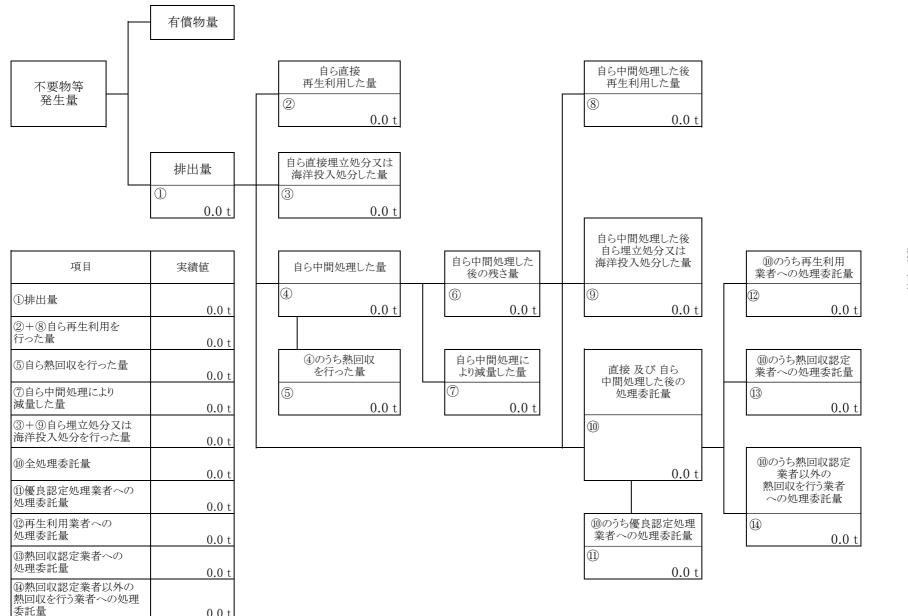
※事務処理欄

0.0 t



(第2面)

0.0 t



(第2面)

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「特別管理産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、特別管理産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の特別管理産業廃棄物の処理に関して、①~⑭の欄のそれぞれに、(1) から (14) に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた特別管理産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした特別管理産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4) の量から(6) の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令 (以下「令」という。)第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ③欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への 焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、特別管理産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 特別管理産業廃棄物の種類が2以上あるときは、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、第2 面の例により特別管理産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面 を添付すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前々年度及び前年度における特別管理産業廃棄物の排出量(ポリ塩化ビフェニル廃棄物(令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。)を除く。)並びに電子情報処理組織使用義務者にあっては前年度に実施した電子情報処理組織の使用に関する取組(情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当したときは、その旨及び理由を含む。)について記入すること。
- 8 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物処理計画書

令和 6年 6月 6日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

> 提出者 〒299-0266 住 所 千葉県袖ケ浦市北袖25番地 氏 名 広栄化学株式会社 千葉事業所 執行役員 千葉事業所長 大山 明 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 0438-63-5739

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他 その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事	業場の名称	広栄化学株式会社 千葉事業所
事	業場の所在地	千葉県袖ケ浦市北袖25番地
計	画 期 間	令和6年4月1日から令和7年3月31日
当記	亥事業場において現に行	っている事業に関する事項
	①事業の種類	大分類:製造業 中分類:化学工業
	②事 業 の 規 模	前年度の製品出荷額 194億円
	③従 業 員 数	388人(正社員 378人、 常勤関係職員 10人)
	④産業廃棄物の一連 の処理の工程	別紙1のとおり

石澤 地域振典事務所 □ 本産業規格 A列4番)

	(管理体制図)					
		事業所長 処理計画統括責任者				
		安全環境部				
		処理計画作成担当				
	製造部	研究所 その他排出部門				
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					

		関する東頂				
		【前年度 (令和 5 年度) 実績】別紙2のとおり	\neg			
			\dashv			
		産業廃棄物の種類	_			
			ĵ.			
	① 現状	(これまでに実施した取組)				
		【目標】				
		産業廃棄物の種類				
		排 出 量 t t	;			
		(今後実施する予定の取組)				
	②計画					
产型						
/ * **	の方とというというという		\dashv			
	①担件	((分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)				
	とうなる	全ての種類の産業廃業物において、再生利用でさるものを分別し 処理している。				
-		-	\dashv			
	① 乳皿	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)				
	②計画	これまでに実施してきた取組を継続する。				
/生未	①現状	((分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 全ての種類の産業廃棄物において、再生利用できるものを分別し				

ら行う産業廃棄物の)再生利用に関する事項		
	【前年度(令和	5 年度)実績】	
	産業廃棄物の種類	廃油	
① 現状	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	5073.9 t	t
₩. 254W	(これまでに実施し) 廃油を焼却炉の燃料	た取組) として再生利用している。	
	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油	
②計画	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	5581.3 t	t
多 印画	(今後実施する予定) これまでに実施して		
∟ っ行う産業廃棄物 <i>0</i>	 >中間処理に関する事項		
	【前年度(令和	5 年度)実績】	
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	t
① 現状	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	10786.7 t	t
	(これまでに実施し) 廃アルカリを自社の!	た取組) 尭却炉にて処分している。	
	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
②計画	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	11865.4 t	t
	(今後実施する予定の これまでに実施してき		

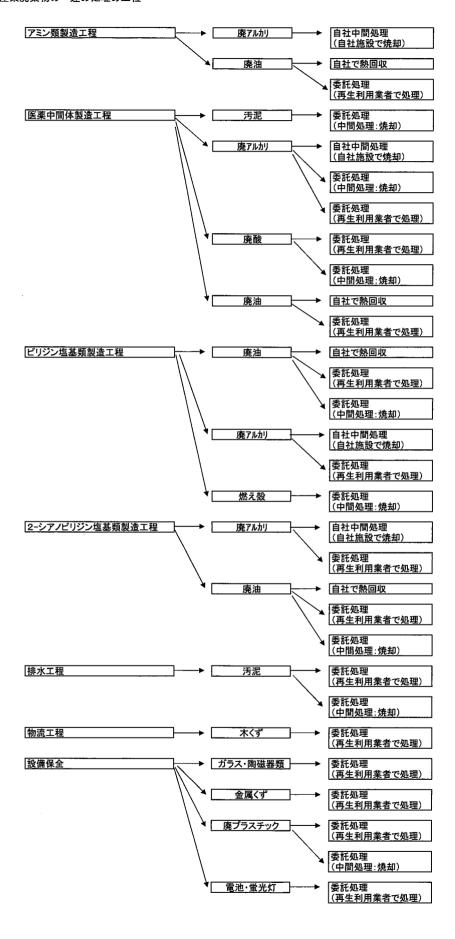
自印	自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項				
		【前年度(令和 ;	5 年度)実績】		
		産業廃棄物の種類			
	① 現状	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量		t	
		(これまでに実施した	こ取組)		
		【目標】			
		産業廃棄物の種類			
		自ら埋立処分又は			
	②計画	海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量		t	
		(今後実施する予定の)取組)		
			·		
産	業廃棄物の処理の委託に	関する事項			
		【前年度(令和 5	年度)実績】 別紙3	のとおり	
			I	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
		産業廃棄物の種類			
		産業廃棄物の種類 全処理委託量		t t	
				t t	
		全処理委託量			
	① 現状	全処理委託量 優良認定処理業者への 処理委託量 再生利用業者への		t t	
	① 現状	全処理委託量 優良認定処理業者への 処理委託量 再生利用業者への 処理委託量 認定熱回収業者への		t t	
	① 現状	全処理委託量 優良認定処理業者への 処理委託量 再生利用業者への 処理委託配 認定熱回収業者、の 処理委託配 認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への		t t t	
	① 現状	全処理委託量 優良認定処理業者への 処理委託量 再生利用業者への 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理を行う業者への 処理委託の		t t t	
	① 現状	全処理委託量 優良認定処理業者への 処理委託量 再生利用業者への 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理を行う業者への 処理委託の		t t t	
	① 現状	全処理委託量 優良認定処理業者への 処理委託量 再生利用業者への 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理委託の 処理を行う業者への 処理委託の		t t t	

(第5面)

		【目標】		
		産業廃棄物の種類		
		全処理委託量	t	t
		優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
		再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	0.11	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	②計画	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
		(今後実施する予定の	取組)	
※ 事	事務処理欄			

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
- (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成 工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規 模が分かるような前年度の実績を記入すること。
- (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の一連の処理の工程



			令和5年度		エ :P	ráz kh	(本 本化	15k = 7 (1 ± 1 1		- 本屋/ ギ	±+= = 745 734 BB 465	+/+	商业 英小社	스타
			の種類	燃え殻	汚泥 245.0	廃油	廃酸		廃プラスチック	金属くず	ガラス・陶磁器類	木くず	電池·蛍光灯	合計
	排	出	量	2.0t	215.9t	5,112.6t	56.0t	11,812.1t	21.8t	0.9t	2.8t	2.8t	0.41t	17,227.
TH LL			実施した耳		·111 1 . 7									
①現状	原	甲位改	雪により廃	アルカリを抑制	別している。									
						•								
	1													
	7 -													
	【目	票】	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·											
			の種類	燃え殻	汚泥		廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック	金属くず	カラス・陶磁器類		電池・蛍光灯	
			の種類									木くず 3.1t	電池・蛍光灯	合計 18.950
	産業排	廃棄物 出	量	2.2t	汚泥 237.5t	廃油 5,623.9t	廃酸 61.6t			金属くず 1.0t		木くず 3.1t	+	
	産業排	廃棄物 出	量	2.2t									+	
∂ -1-1-1-1	産業 排 (今	廃棄物 出 後実施す	量	2.2t 取組)	237.5t								+	
2計画	産業 排 (今	廃棄物 出 後実施す	量	2.2t 取組)	237.5t								+	
2計画	産業 排 (今	廃棄物 出 後実施す	量	2.2t 取組)	237.5t								+	
2計画	産業 排 (今	廃棄物 出 後実施す	量	2.2t 取組)	237.5t								+	
2計画	産業 排 (今	廃棄物 出 後実施す	量	2.2t 取組)	237.5t								+	
2計画	産業 排 (今	廃棄物 出 後実施す	量	2.2t 取組)	237.5t								+	
2計画	産業 排 (今	廃棄物 出 後実施す	量	2.2t 取組)	237.5t								+	
2計画	産業 排 (今	廃棄物 出 後実施す	量	2.2t 取組)	237.5t								+	
	藤棄物の種類 燃え売 出 量 後実施する予定の取組)	量する予定の取組)	取組)	2.2t	237.5t								+	合計 18,950.0
2計画	産業 排 (今	廃棄物 出 後実施す	量	2.2t 取組)	237.5t								+	

	【前年度(令和5年度)実績】				·		1					
	産業廃棄物の種類	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸		廃プラスチック	金属くず	カラス・陶磁器類	木くず	電池·蛍光灯	合計
	全処理委託量 優良認定処理業者への 処理委託量	2.0t 2.0t	215.9t 215.9t	38.7t 38.7t	56.0t 56.0t	,		0.9t 0.9t	2.8t 2.8t	2.8t 0.0t		1,366. 1,353.
	再生利用業者への処理委託量	0.0t	1 46.4 t	0.0t	42.5t	217.9t	18.6t	0.0t	0.0t	2.8t	0.41t	428.
①現状	認定熱回収業者への 処理委託量	2.0t	65.5t	38.6t	13.5t	807.3t	3.2t	0.9t	2.8t	0.0t	0.00t	933.
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0.0t	3.0t	0.0t	0.0t	0.0t	0.0t	0.0t	0.0t	0.0t	0.00t	3.
	【目標】	おっち	T. P	i de site	京		m====================================	Δ E /- μ	L'- a Bayyaga ist	- / - L		A.51
	産業廃棄物の種類	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸		廃プラスチック		カラス・陶磁器類		電池·蛍光灯	合計
		燃え殻 2.2t 2.2t	汚泥 237.5t 237.5t	廃油 42.6t 42.6t	廃酸 61.6t 61.6t	1,127.9t	24.0t	金属<ず 1.0t 1.0t	3.1t	木くず 3.1t 0.0t	0.45t	1,503.
	産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への	2.2t	237.5t	42.6t	61.6t	1,127.9t 1,127.9t	24.0t 13.3t	1.0t	3.1t	3.1t	0.45t 0.00t	1,503.4 1,489.2
②計画	産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への 処理委託量 再生利用業者への	2.2t 2.2t	237.5t 237.5t	42.6t 42.6t	61.6t 61.6t	1,127.9t 1,127.9t 239.7t	24.0t 13.3t 20.5t	1.0t 1.0t	3.1t 3.1t	3.1t 0.0t	0.45t 0.00t 0.45t	合計 1,503.4 1,489.2 471.5 1,027.2
②計画	産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への 処理委託量 再生利用業者への 処理委託量 認定熱回収業者への	2.2t 2.2t 0.0t	237.5t 237.5t 161.0t	42.6t 42.6t 0.0t	61.6t 61.6t 46.8t	1,127.9t 1,127.9t 239.7t 888.0t	24.0t 13.3t 20.5t	1.0t 1.0t 0.0t	3.1t 3.1t 0.0t	3.1t 0.0t 3.1t	0.45t 0.00t 0.45t 0.00t	1,503.4 1,489.5 471.5

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和 6年 6月 6 日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

提出者 〒299-0266 住 所 千葉県袖ケ浦市北袖25番地 氏 名 広栄化学株式会社 千葉事業所 執行役員 千葉事業所長 大山 明

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 0438-63-5739

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和5年度の産業廃棄物 処理計画の実施状況を報告します。

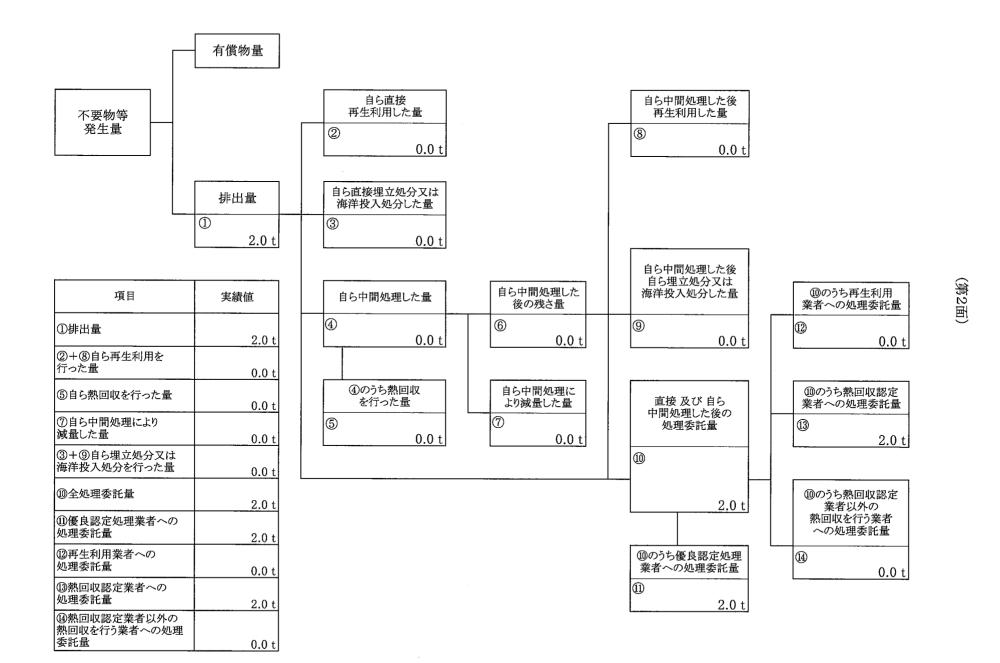
事	業場	ま の)名	称	広栄化学株式会社 千葉事業所
事	業場	の	所 在	地	千葉県袖ケ浦市北袖25番地
事	業	の	種	類	大分類:製造業 中分類:化学工業
産業計	美廃棄物 画		·画にお 期	ける 間	令和5年4月1日から令和6年3月31日

産業廃棄物処理計画における目標値

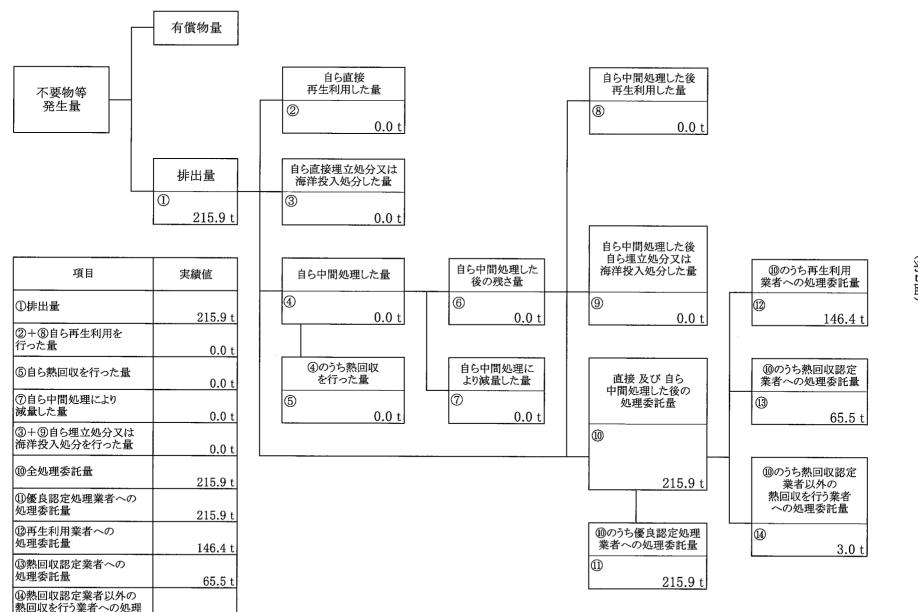
	項目		目標値	項目	目標値
排	出	量	20193.6 t	全 処 理 委 託 量	1322.0 t
	再生利用を 廃棄物の	行う の 量	5178.8 t	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	287.1 t
自ら産業	熱 回 収 を 廃 棄 物 の	行 う の 量	0.0 t	再生利用業者への処理 委託 量	305.9 t
	間処理により減		13692.8 t	認定熱回収業者への処理 委託 量	1002.3 t
海洋	埋 立 処 分 投 入 処 分 を 廃 棄 物 (・行う	0.0 t	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	1.8 t
※事務処	·理欄			君津	

-6,6,10

(日本産業規格 A列4番)

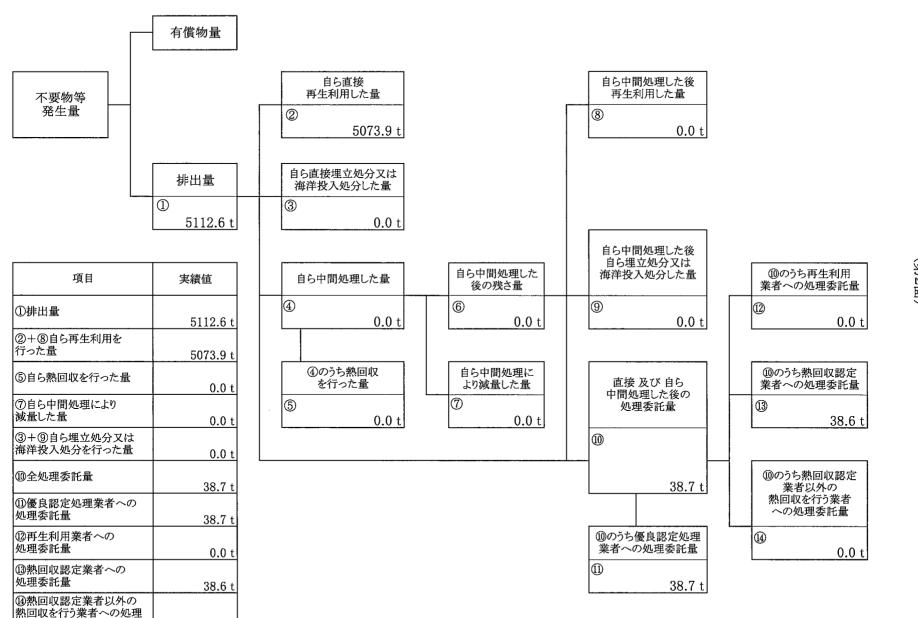


3.0 t



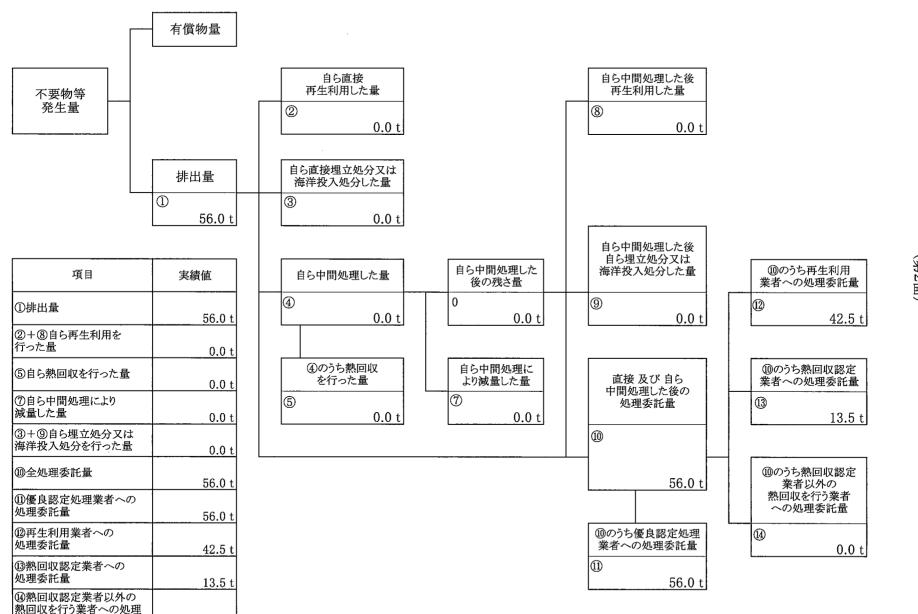
0.0 t



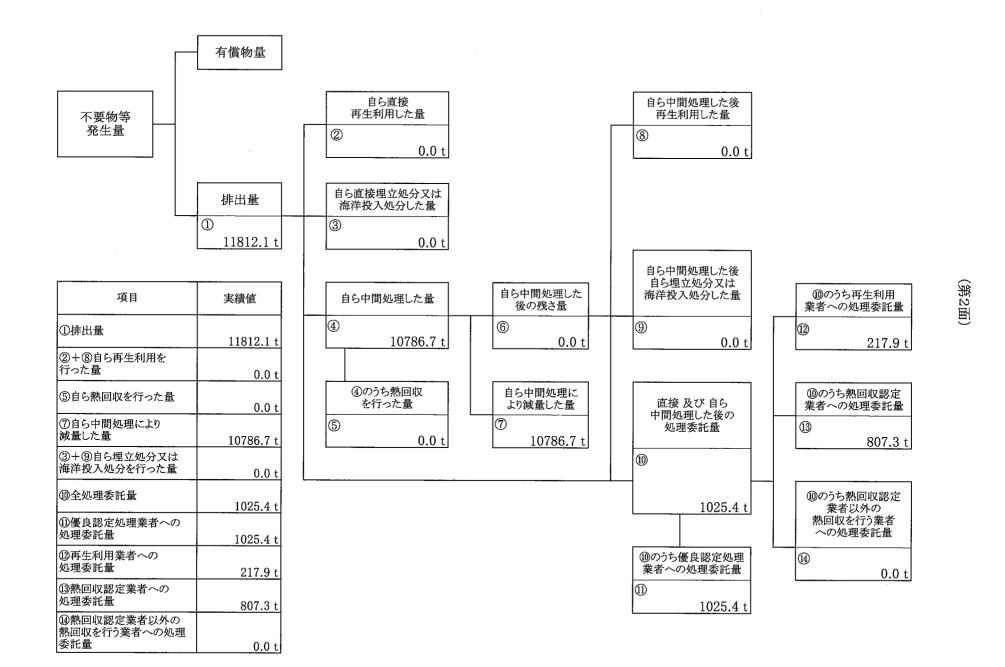


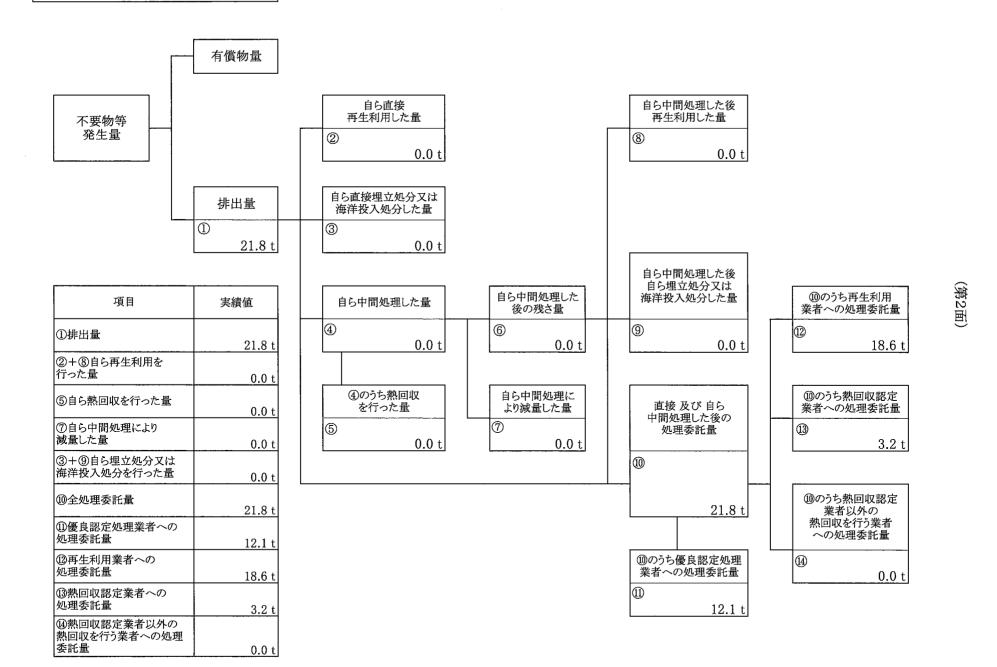
0.0 t

)



(第2面)



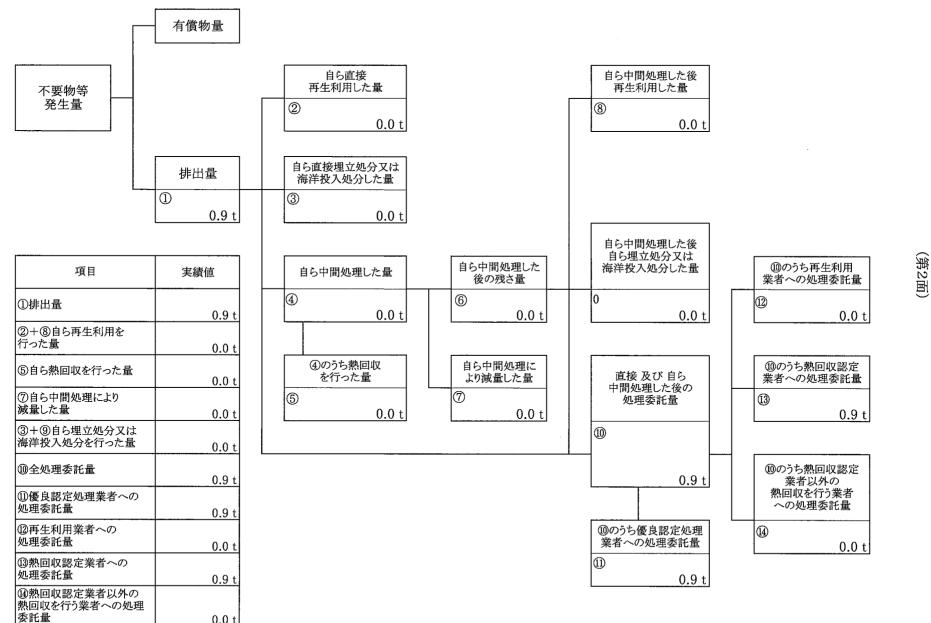


0.0 t

(産業廃棄物の種類・

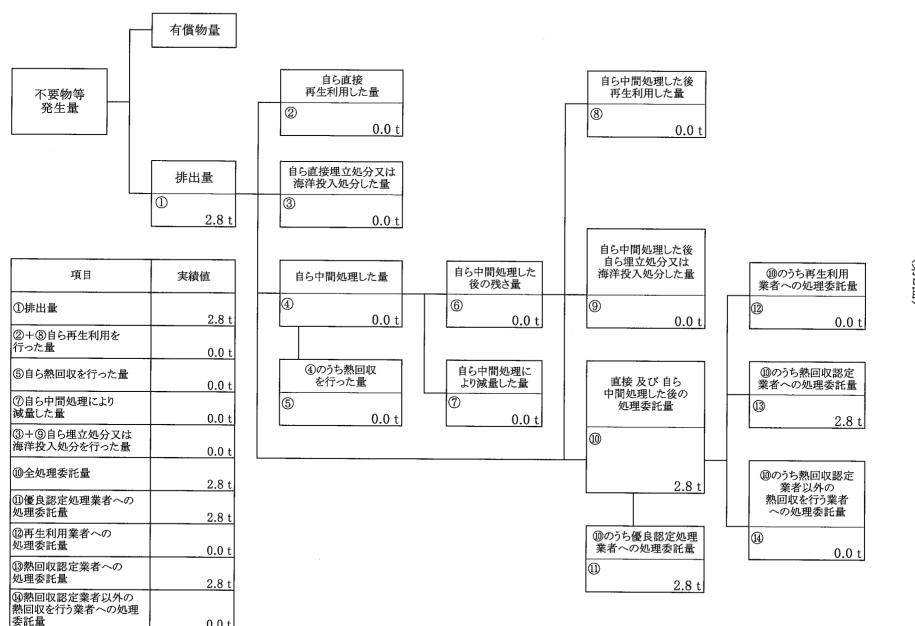
金属くず

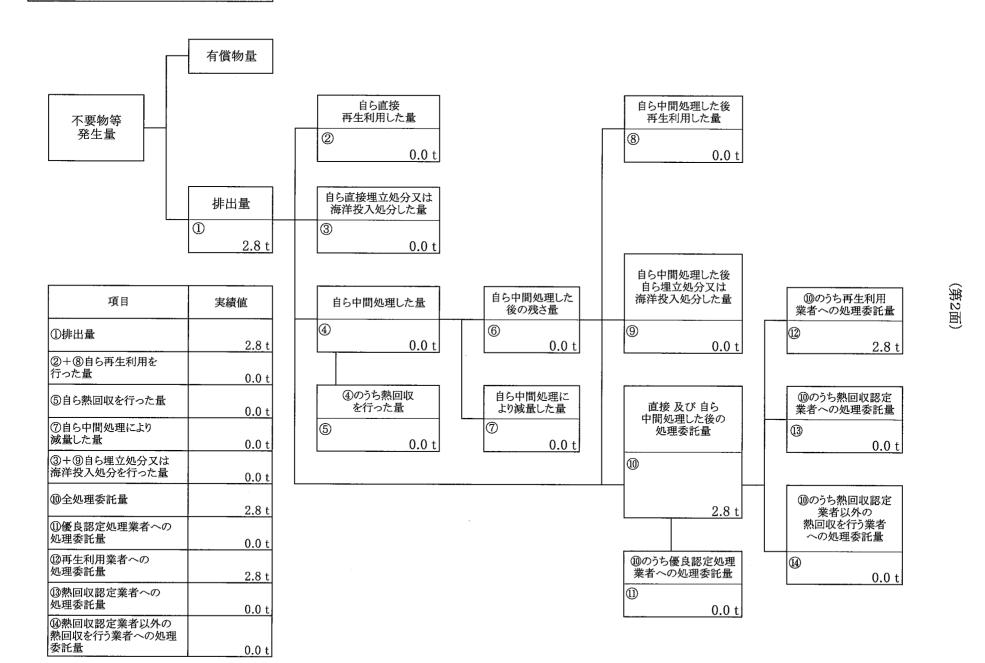
.)



0.0 t

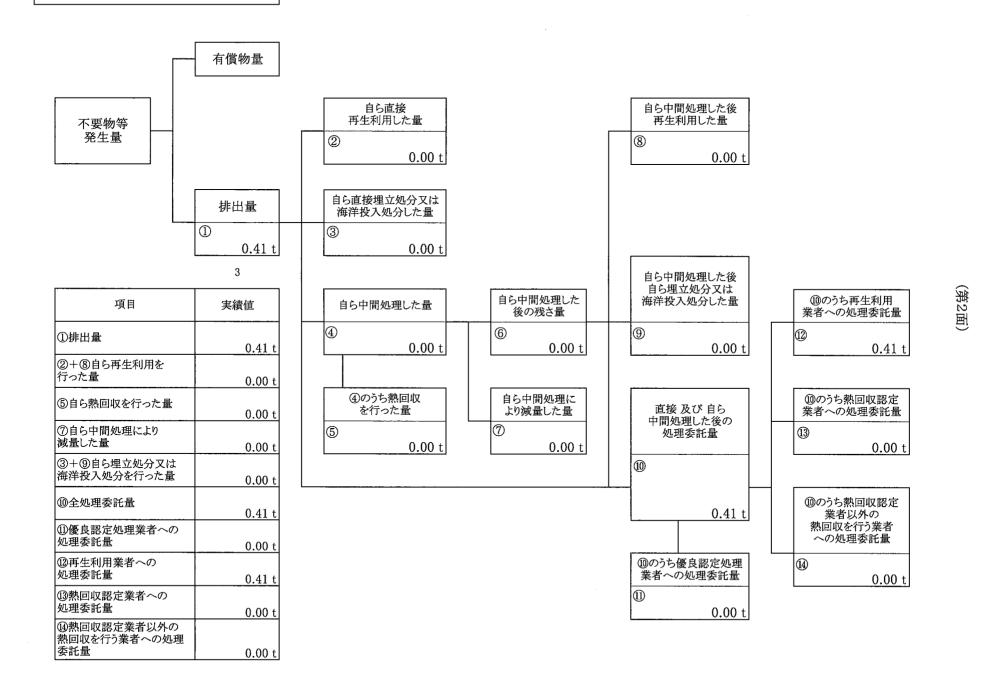
)





雷池•蛍光灯

١



- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載 した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物処理に関して、①~⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14) に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄(1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄(1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) (5)欄(4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄(4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄(6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄(6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令 第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ③欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律 第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への 焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和 6年 6月 6 日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

> 提出者 〒299-0266 住 所 千葉県袖ケ浦市北袖25番地 氏 名 広栄化学株式会社 千葉事業所 執行役員 千葉事業所長 大山 明 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 0438-63-5739

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条の 2 第 10 項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事	業場の名称	広栄化学株式会社 千葉事業所
事	業場の所在地	千葉県袖ケ浦市北袖25番地
計	画 期 間	令和6年4月1日から令和7年3月31日
当該	亥事業場において現に行っ	っている事業に関する事項
	①事業の種類	大分類:製造業 中分類:化学工業
	②事業の規模	前年度の製品出荷額 194億円
	③従 業 員 数	388人(正社員 378人、 常勤関係職員 10人)
	④特別管理産業廃棄物 の一連の処理の工程	別紙1のとおり

君津 地域振興事務所 -6,6,10

特別	別管理産業廃棄物の処理に	係る管理体制に関する事項
	(管理体制図)	
		事業所長 処理計画統括責任者
		安全環境部
		処理計画作成担当
	製造部	研究所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	廃棄物担当	廃棄物担当 廃棄物担当
	 管理産業廃棄物の排出の	抑制に関する東頂
192	11日至是来况来例。5月日5月	【前年度(令和 5 年度)実績】別紙2のとおり
		特別管理産業廃棄物の種類
		排 出 量
	① 現状	(これまでに実施した取組)
<u>.</u>		
		【目標】
		特別管理産業廃棄物の種類
		排 出 量 t
	@31 - F	(今後実施する予定の取組)
	②計画	(可仮夫施する」をの取組)
	川管理産業廃棄物の分別に	リート 東西
1979	当日生生未完未物ップがに	対象
	①現状	全ての種類の特別管理産業廃棄物において、再生利用できるものを
	少元 が	分別し処理している。
		(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関す
	② 乳료:	(一後方別9 3 7年の特別官理座業廃棄物の種類及の方別に関9 る取組)
	②計画	これまでに実施してきた取組を継続する。

自	ら行う特別管理産業廃棄	美物の再生利用に関する事項	
		【前年度(令和 5 年度)実績】	
		特別管理産業廃棄物の種類	
		自ら再生利用を行った はUVが用されられ、0月	+
	① 現状	特別管理産業廃棄物の量	t —
		(これまでに実施した取組)	
		【目標】	
		特別管理産業廃棄物の種類	
		自ら再生利用を行う	
	②計画	特別管理産業廃棄物の量	t
		(今後実施する予定の取組)	
白	 これで	 医物の中間処理に関する事項	
"	クログ 初か日		
		【前年度(令和 5 年度)実績】 	
		特別管理産業廃棄物の種類	
		自ら熱回収を行った は関係現在状態を表現の見	t
		特別管理産業廃棄物の量目的中間処理により減量した目的では、	_
	① 現状	特別管理産業廃棄物の量	t
		(これまでに実施した取組)	
		【目標】	
		特別管理産業廃棄物の種類	
		自ら熱回収を行う	
		特別官理産業廃棄物の量	t
	②計画	自ら中間処理により減量する t 特別管理産業廃棄物の量 t	t
		(今後実施する予定の取組)	
		(つ)(文/)心り(3) (上)(八)(社)	

自	ら行う特別管理産業廃棄	E物の埋立処分に関する事項	
		【前年度(令和 5 年度)実績】	
		特別管理産業廃棄物の種類	
	① 現状	自ら埋立処分 を 行 っ た t 特別管理産業廃棄物の量	t
		(これまでに実施した取組)	
		【目標】	
		特別管理産業廃棄物の種類	
	②計画	自 ら 埋 立 処 分 を 行 う t 特別管理産業廃棄物の量	t
		(今後実施する予定の取組)	
特別	別管理産業廃棄物の処理 「	の委託に関する事項	
		【前年度(令和 5 年度)実績】別紙3のとおり	·
		特別管理産業廃棄物の種類	
		全 処 理 委 託 量 t	t
		優良認定処理業者への 処理委託量 t	t
		再生利用業者への 処理委託量 t	t
	① 現状	認定熱回収業者への 処理委託量 t	t
		認定熱回収業者以外の	t
		(これまでに実施した取組)	
:			

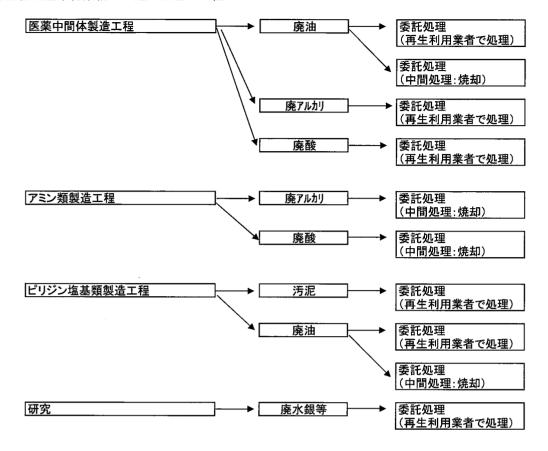
(第5面)

		【目標】		
		特別管理産業廃棄物の種類		
		全処理委託量	t	t
		優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
		再生利用業者への 処理委託量	t	t
	②計画	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
		(今後実施する予定の取組)	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
		 【前年度(令和 5 年度)実		
電子	- 情報処理組織の使用	特別管理産業廃棄物 排 出 量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)		913. 8 t
	する事項	(今後実施する予定の取組等) 既に電子マニフェストを導入済	H	
		7-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1	,	
※ 事	事務処理欄			
※事	系務処理欄			

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
- (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
- (3) ④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令(以下「令」という。)第6条の14第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物(令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。)を除く。) を記入すること。その量が50トン以上の者にあっては、今後の電子情報処理組織の使用に関する 取組等(情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行 規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。) について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。

特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程



(これまでに実施した取組)	(ルカリ) 廃水銀等 413.4t 0.0002	合計 t 913.8
(これまでに実施した取組)	413.4t 0.0002	t 913.8
①現状 原単位改善により廃アルカリの排出を抑制している。		
【目標】		
		-r
特別管理産業廃棄物の種類 廃油(引火性) 汚泥(有害) 廃酸(強酸) 廃アルカリ(強ア	/ルカリ) 廃水銀等	合計
排 出 量 289.8t 0.09t 110.5t	330.7t 0.0002t	t 731.
(今後実施する予定の取組)		
②計画 これまでに実施してきた取組を継続するとともに、新製品の原単位改善を検討する。		
との自 にんように失心してとに収加を経例するとともに、利表的の原単位以告を快引する。		

	【前年度(令和5年度)実績	1					
	産業廃棄物の種類	廃油(引火性)	汚泥(有害)	廃酸(強酸)	廃アルカリ(強アルカリ)	廃水銀等	合計
	全処理委託量	362.2t	0.11t	138.1t	413.4t	0.0002t	913.8
	優良認定処理業者への 処理委託量	362.2t	0.11t	138.1t	413.4t	0.0002t	913.8
	再生利用業者への 処理委託量	156.7t	0.08t	5.9t	1.7t	0.0002t	164.4
①現状	認定熱回収業者への 処理委託量	203.2t	0.03t	132.2t	411.7t	0.0000t	747 .1
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0.0t	0.00t	0.0t	0.0t	0.0000t	0.0
	【目標】						
	【目標】 産業廃棄物の種類	廃油(引火性)	汚泥(有害)	廃酸(強酸)	廃アルカリ(強アルカリ)	廃水銀等	
		廃油(引火性) 289.8t	汚泥(有害) 0.09t	廃酸(強酸) 110.5t	廃アルカリ(強アルカリ) 330.7t	廃水銀等 0.0002t	合計 731.0
	産業廃棄物の種類	289.8t			330.7t		731.0
	産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への	289.8t	0.09t	110.5t	330.7t 330.7t	0.0002t	731.0 731.0
2計画	産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への 処理委託量 再生利用業者への	289.8t 289.8t	0.09t 0.09t	110.5t 110.5t	330.7t 330.7t	0.0002t 0.0002t	合計 731.0 731.0 131.5 597.7
②計画	産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への 処理委託量 再生利用業者への 処理委託量 認定熱回収業者への	289.8t 289.8t 125.4t 162.6t	0.09t 0.09t 0.06t	110.5t 110.5t 4.7t	330.7t 330.7t 1.4t 329.4t	0.0002t 0.0002t 0.0002t	731.0 731.0 131.9

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和 6年 6月6日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

提出者 〒299-0266

住 所 千葉県袖ケ浦市北袖25番地

氏 名 広栄化学株式会社 千葉事業所

執行役員 千葉事業所長 大山 明

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0438-63-5739

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第11項の規定に基づき、令和5年度の特別管理 産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

事	業場	豊 の	名	称	広栄化学株式会社 千葉事業所
事	業場	の	· 在	地	千葉県袖ケ浦市北袖25番地
事	業	の	種	類	大分類:製造業 中分類:化学工業
特別に	川管理産業 おける		が が が が が が が が り り り り り り り り り り り り	計画間	令和5年4月1日から令和6年3月31日

特別管理産業廃棄物処理計画における目標値

	項目		目標値	項目	目標値
排	出	量	1945.6 t	全 処 理 委 託 量	1945.6 t
	再 生 利 用 を 理産業廃棄物		0.0 t	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	293.2 t
自ら 特別省	熱 回 収 を 理産業廃棄物	行 う Jの量	0.0 t	再 生 利 用 業 者 へ の 処 理 委 託 量	194.4 t
	間処理により減 ・理産業廃棄物		0.0 t	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	1646.0 t
自 を 特別管	・ 埋 立 処 行 野理産業廃棄物	う	0.0 t	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	92.0 t

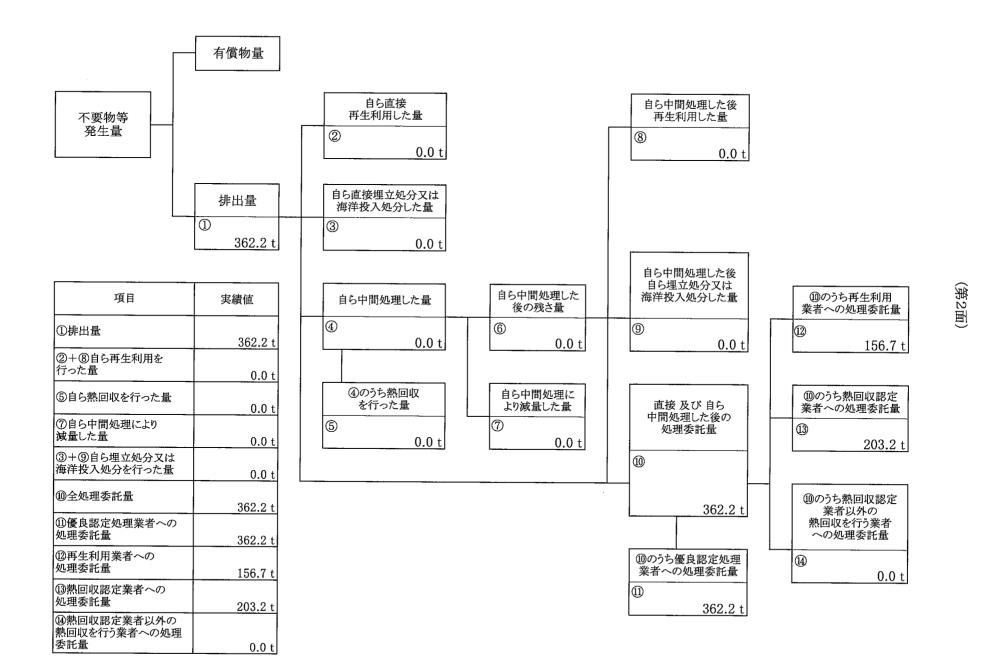
電子情報処理組織の使用に関する事項

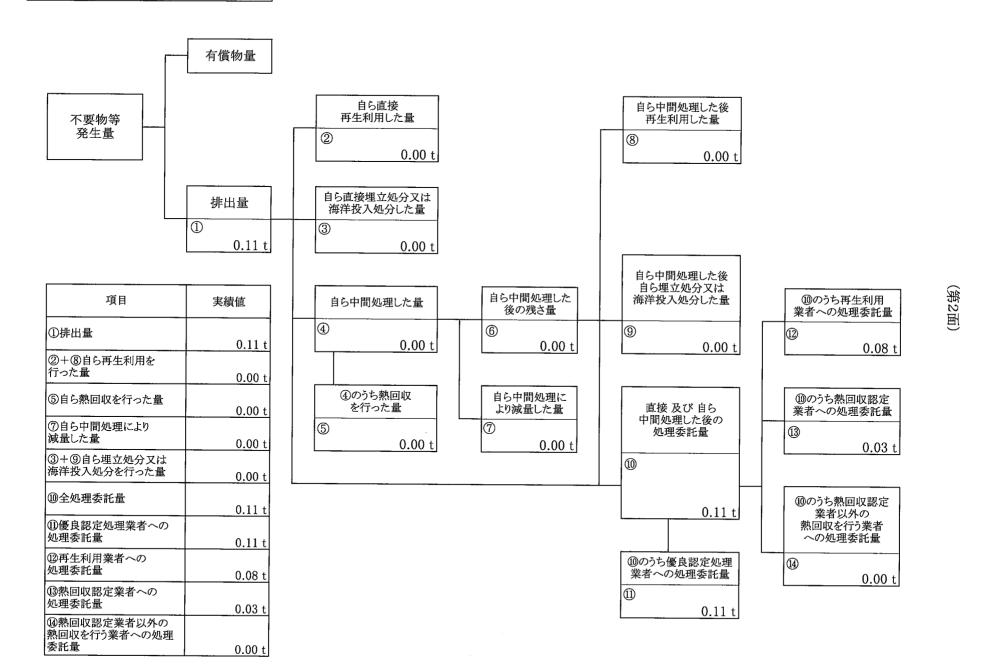
特別管理産業廃棄物排出量	前々年度	1768.7 t
(ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	前年度	913.8 t

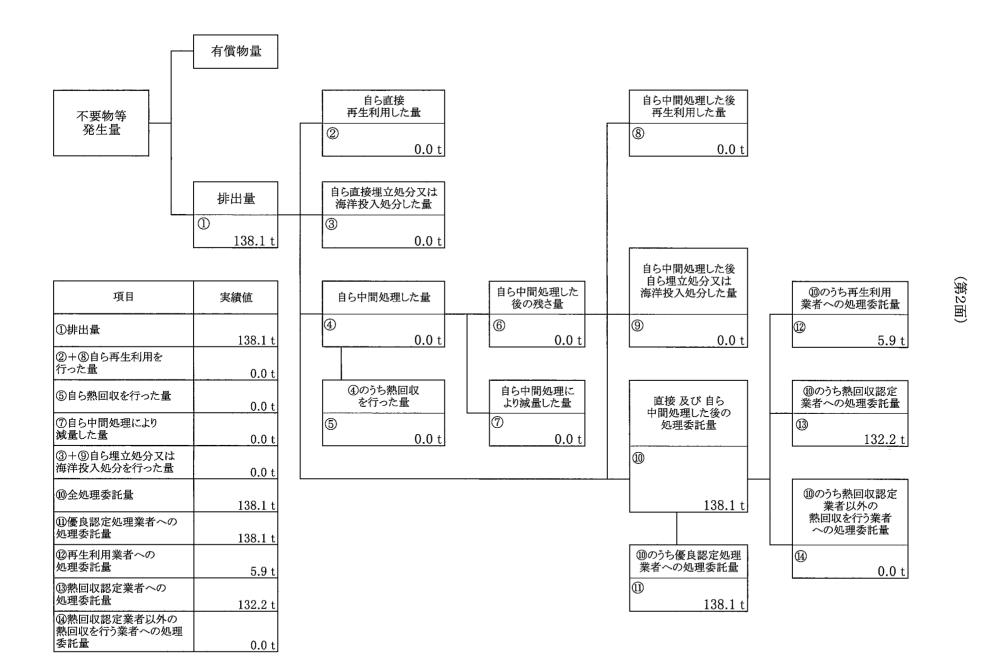
(電子情報処理組織の使用に関して実施した取組)

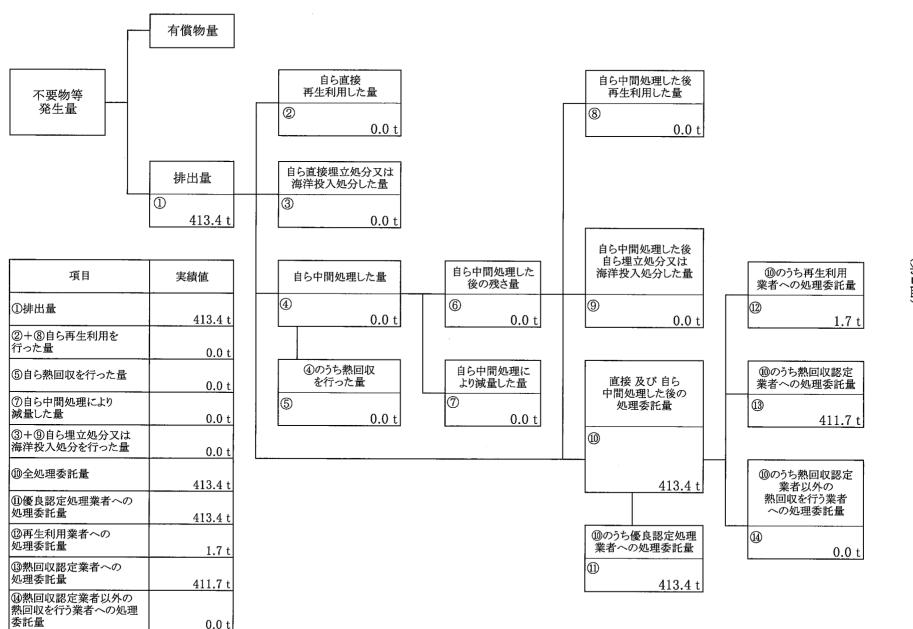
既に電子マニフェスト導入済み

(日本産業規格 A列4番)





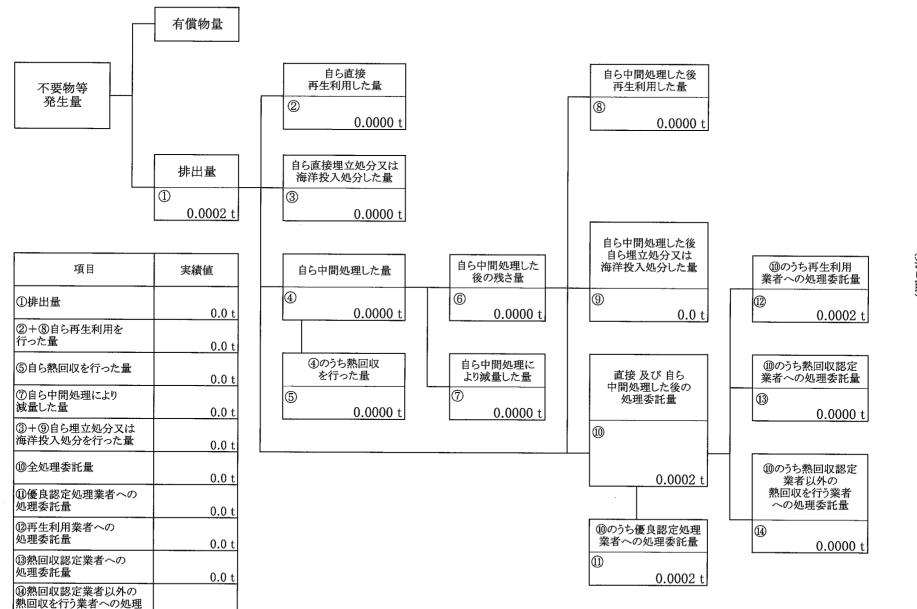




(第2面)

委託量

0.0 t



備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「特別管理産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、特別管理産業廃 棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の特別管理産業廃棄物の処理に関して、①~⑭の欄のそれぞれに、(1) から(14)に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた特別管理産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした特別管理産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者 (廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令 (以下「令」という。)第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ③欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への 焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、特別管理産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 特別管理産業廃棄物の種類が2以上あるときは、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、第2 面の例により特別管理産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面 を添付すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前々年度及び前年度における特別管理産業廃棄物の排出量(ポリ塩化ビフェニル廃棄物(令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。)を除く。)並びに電子情報処理組織使用義務者にあっては前年度に実施した電子情報処理組織の使用に関する取組(情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当したときは、その旨及び理由を含む。)について記入すること。
- 8 ※欄は記入しないこと。

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和6年6月29日

千葉県知事

熊谷 俊人 殿

提出者 289-2504

住 所 千葉県旭市ニー6005

法人名 向後スターチ株式会社

代表者 向後 秀一

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0479-62-0181

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

	事業場の名称	向後スターチ	株式会社		
	事業場の所在地	千葉県旭市ニ	-6005		
	計画期間	令和6年	4月1日	から	令和7年3月31日
当詢	亥事業場において現に行っ	っている事業に関	する事項		
	①事業の種類	大分類:	製造業	中分類:	食料品製造業
	②事業の規模	製造品出荷:	3635百万円		
	③従業員数	40人			
	④産業廃棄物の 一連の処理の工程	・汚泥 → ・	→ 固化 → 脱水 → 発酵 ック類 → 破 さ → 発酵 小・陶磁器くす	择 → 再利用 な砕・圧縮・梱包 → 再利用	→ 埋立

(日本産業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項 (管理体制図) • 産業廃棄物管理組織図 • 産業廃棄物管理責任者 •教育 研修 •情報公開 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 燃えがら 汚泥 排出量 253.2 t 891.7 t ①現状 (これまでに実施した取組) 動植物性残さの堆肥原料化(有償) 【目標】 産業廃棄物の種類 燃えがら 汚泥 排出量 250 t 850 t ②計画 (今後実施する予定の取組) 汚泥のバイオマスボイラーの燃料化計画 産業廃棄物の分別に関する事項 (分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 各産業廃棄物ぎちに分別管理 ①現状 (今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類の再生利用が可能なものと不可能なものでの分別 ②計画

	つ行り産業廃棄物の日	再生利用に関する事項		
		【前年度(令和5年度)実績】		
		産業廃棄物の種類	燃えがら	汚泥
		自ら再生利用を行った産業廃棄 物の量	t	t
	①現状	(これまでに実施した取組)	<u>.</u>	
		産業廃棄物の種類	燃えがら	汚泥
	(a) = 1 = 1	自ら再生利用を行う産業廃棄物 の量	t	t
	②計画	(今後実施する予定の取組)		
白口	 行う産業廃棄物の	┃ 中間処理に関する事項		
	717座来虎来"例"。	【前年度(令和5年度)実績】		
		産業廃棄物の種類	燃えがら	
		自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
		自ら中間処理により減量した産	t	t
	①現状	業廃棄物の量		
		<u> </u>		· ·
		(これまでに実施した取組)	<u>` </u>	· ·
		<u> </u>		· ·
		<u> </u>	<u> </u>	· ·
		<u> </u>	<u> </u>	
		(これまでに実施した取組)	燃えがら	汚泥
		(これまでに実施した取組) 【目標】 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行う産業廃棄物の		
	②卦面	(これまでに実施した取組) 【目標】 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行う産業廃棄物の 量 自ら中間処理により減量する産	燃えがら	汚泥
	②計画	(これまでに実施した取組) 【目標】 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行う産業廃棄物の 量	燃えがら t	汚泥 t
	②計画	(これまでに実施した取組) 【目標】 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行う産業廃棄物の 量 自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	燃えがら t	汚泥 t
	②計画	(これまでに実施した取組) 【目標】 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行う産業廃棄物の 量 自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	燃えがら t	汚泥 t

	物の埋立処分又は海洋投入処分に関す	「る事垻	
	【前年度(令和5年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	燃えがら	汚泥
	自ら埋立処分又は海洋投入処分 を行った産業廃棄物の量	t	t
①現状	(これまでに実施した取組)	•	
	【目標】		
	産業廃棄物の種類	燃えがら	汚泥
	自ら埋立処分又は海洋投入処分 を行う産業廃棄物の量	t	t
②計画	(今後実施する予定の取組)	•	
業廃棄物の処理の			
	【前年度(令和5年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	燃えがら	汚泥
	全処理委託量	253. 2 t	001 7 +
			891.7 t
	優良認定処理業者への処理 委託量	t	t 891.7 t
	優良認定処理業者への処理 委託量 再生利用業者への処理委託 量	t 253. 2 t	t
①現状	委託量 再生利用業者への処理委託		t
①現状	委託量 再生利用業者への処理委託 量 認定熱回収業者への処理委	253.2 t	891.7 t
①現状	委託量 再生利用業者への処理委託 量 認定熱回収業者への処理委託量 認定熱回収業者以外の熱回 収を行う業者への処理委託	253. 2 t	891.7 t

(第5面)

	【目標】						
	産業廃棄物の種類	燃えがら	汚泥				
	全処理委託量	250 t	850 t				
	優良認定処理業者への処理 委託量	t	t				
	再生利用業者への処理委託 量	250 t	850 t				
②計画	認定熱回収業者への処理委 託量	t	t				
	認定熱回収業者以外の熱回 収を行う業者への処理委託 量	t	t				
	(今後実施する予定の取組 現状の委託処理の継続およ 分場を探すことを依頼		上利用の処理ができる処				
※事務処理欄							

- 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 当該年度の6月30日までに提出すること。 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
- (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。 (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前 年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の 実績を記入すること。
- (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理
- の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行う に際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量
- した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当す
- が、その内級として、後民誌足処理業者、廃棄物の処理及び信捕に関する法律施刊や第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- ※欄は記入しないこと。

セルが足りない場合は右側に追加をお願いします。

産業		出の抑制に関する事項								
		【前年度(令和5年度)	実績】							
	①現状	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	動植物性残さ	ガラス・コンクリート・陶磁器くず					
		排出量	14.5 t	32.4 t	2 t	t	t	t	t	t
		【目標】								
	②計画	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	動植物性残さ	ガラス・コンクリート・陶磁器くず					
		排 出 量	10 t	35 t	5 t	t	t	t	t	t
自身	う行う産業廃	棄物の再生利用に関す								
		【前年度(令和5年度)	実績】							
	①現状	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	動植物性残さ	コンクリート ・ 陶磁器					
		自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
		【目標】								
	②計画	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	動植物性残さ	コンクリート ・ 陶磁器					
		自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
自定	っ行う産業廃	棄物の中間処理に関す	る事項							
		【前年度(令和5年度)	実績】							
		産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	動植物性残さ	コンクリート ・ 陶磁器					
	①現状	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
		自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
【目標】										
		産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	動植物性残さ	・ コンクリート・ 陶磁器					
	②計画	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の種類	t	t	t	t	t	t	t	t
		自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t

う行う産業局	廃棄物の埋立処分又は海	洋投入処分に関す	る事項							
	【前年度(令和5年度)	実績】								
①現状	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	動植物性残さ	• コンクリート • 陶磁器						
(1)-5h.4\	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t		
	【目標】									
②計画	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	動植物性残さ	• コンクリート • 陶磁器						
❷前 團	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t		
美廃棄物の	処理の委託に関する事項			•						
	【前年度(令和5年度)	実績】		1						
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	動植物性残さ	ガラス・コンクリート・陶磁器くず						
	全処理委託量	14.5 t	32.4 t	2 t	t	t	t	t		
	優良認定処理業者への 処理委託量	14.5 t	t	2 t	t	t	t	t		
①現状	再生利用業者への 処理委託量	t	32.4 t	t	t	t	t	t		
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t	t	t	t	t	t		
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t	t	t	t	t	t		
	【目標】									
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	動植物性残さ	・コンクリート・陶磁器						
	全処理委託量	10 t	35 t	5 t	t	t	t	t		
② 卦 両	優良認定処理業者への 処理委託量	10 t	t	5 t	t	t	t	t		
②計画	再生利用業者への 処理委託量	t	35 t	t	t	t	t	t		
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t	t	t	t	t	t		
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t	t	t	t	t	t		

(第1面)

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和6年6月29日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

提出者 289-2504

住所 千葉県旭市ニー6005

法人名向後スターチ株式会社

代表者 向後 秀一

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0479-62-0181

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和 5 年度の産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

_	· 4k	18 a	D #7	4k-	白然った	1. HH -H	· ヘ カ1.				
- サ	業	場 () 名	/	回俊スター	句後スターチ株式会社					
事	業場	景の	所 在	地	千葉県旭市	5二一6	005				
事	業	の	種	類	大分類	製造	主業 中分類	食料品製	造業		
産業廃棄物処理計画にお ける計画期間			令和5年	Ĕ4月1日	から	令和	口6年3月31日				
産	業廃棄	物处	埋計	·画にま	おける目標値	İ					
項目			目標値		項目		目標値				
	排出	量			1-	435 t	全処理委託量		14	35	t
	自ら再産業	写生系 廃棄物	川用を 勿の量	:行う 計	t		優良認定処理業者 への処理委託量	首		15	t
	自ら熱産業						再生利用業者への 処理委託量		14	20	t
	自らする量量	中間処る産業	D理に 関発薬	より減 €物の		t	認定熱回収業者へ の処理委託量	/			t
	自らり 海洋 産業	受入 を	処分を	と行う		t	認定熱回収業者以外の熱回収を行う 者への処理委託量	業			t

(日本産業規格 A列4番)

N0.1 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

燃えがら

)

	有償物	<i>m</i> ₽·			
不要物等発生量	上 有領	②自ら直接再生利 用した量	,	⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
· 荣 · 生 · 量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	253.2t 実績値	④自ら中間処理した (③自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は	② ⑩のうち再生 利用業者への処
①排出量	夫稹恒 253.2 t	量	いに仮ぐが及び里	海洋投入処分した量	理委託量 253.2 t
②+8自ら再生利用 を行った量 ⑤自ら熱回収を行っ	0.0 t	(5) 4)のうち熱回収を (1)	7)自ら中間処理		13 ⑩のうち熱回
た量 ⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		こより減量した量 0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	収認定業者への処理委託量
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			253.2 t	
⑩全処理委託量	253.2 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外 の熱回収を行う
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
⑫再生利用業者への 処理委託量	253.2 t			① ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				_
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				_

N0.2 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

汚泥

)

	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量	ſ	⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
	891.7t				0.0.33.=#
項目	実績値	④自ら中間処理した した 量	自ら中間処理 た後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	891.7 t	П			891.7 t
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	自ら中間処理 より減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理した後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			891.7 t	
⑩全処理委託量	891.7 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
⑫再生利用業者への 処理委託量	891.7 t			⑩ ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑩熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				

N0.3 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: **廃プラスチック類**)

	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
	有償物	里
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量 8自ら中間処理した後再生 利用した量
発		
量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量
	14.5t	T
項目	実績値	④自ら中間処理した ⑥自ら中間処理した ●自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量 ② ⑩のうち再生 利用業者への処理委託量
①排出量	14.5 t	
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t	
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	(3) ⑩のうち熱回収を 行った量 (7) 自ら中間処理 により減量した量 (3) ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t	0.0 t ⑩直接及び自ら中間処理した後の処理委託量
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t	14.5 t
⑩全処理委託量	14.5 t	④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
⑩優良認定処理業者 への処理委託量	14.5 t	の熱回収を行う 業者への処理委 託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t	① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t	14.5 t
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t	

N0.4 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 動植物性残さ

)

/4、一座13000/18	1) 130 1)	7750 (1/22. 8	
	有償物	7量	
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量	⑧自ら中間処理した後再生 利用した量
生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量	
	32.4t		
項目	実績値	④自ら中間処理した ⑥自ら中間処 した後の残さ	型理 ⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量 ⑩ ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	32.4 t		32.4 t
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t		
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量 ⑦自ら中間処により減量し7	①理 で量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t ⑩直接及び自ら中間処理した後の処理委託量
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t		32.4 t
⑩全処理委託量	32.4 t		④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
□優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t		の 熱回収を行う 業者への 処理委 託量
②再生利用業者への処理委託量	32.4 t		① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t		
④熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t		

N0.5 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: カ*ラス・コンクリー)

	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
	2.0t			9自ら中間処理した後自ら	② ⑩のうち再生
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	埋立処分又は 海洋投入処分した量	利用業者への処理委託量
①排出量	2.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		(3) ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理した後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			2.0 t	
⑩全処理委託量	2.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外 の熱回収を行う
⑩優良認定処理業者への処理委託量	2.0 t				業者への処理委託量
⑫再生利用業者への 処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t			2.0 t	
④熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t				-

N0.6 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

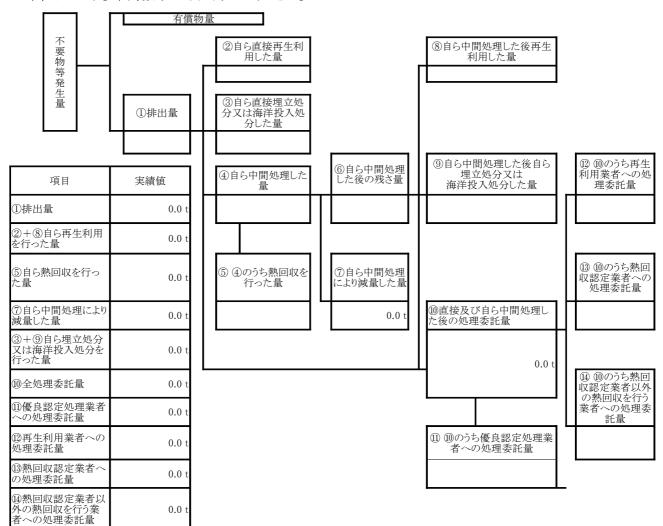
	有償物	勿量			
不 要 物		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
不要物等発生量					
量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
				() 스스 스 HB (III 전II) 그 /// 스스	0 0 0 1 ± ± 4
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外 の熱回収を行う
⑩優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				

N0.7 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)



N0.8 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

	有償物	勿量			
不要物		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
不要物等発生量					
量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
<u> </u>					
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				⑭ ⑩のうち熱回 収認定業者以外 の熱回収を行う
⑩優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				

N0.9 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

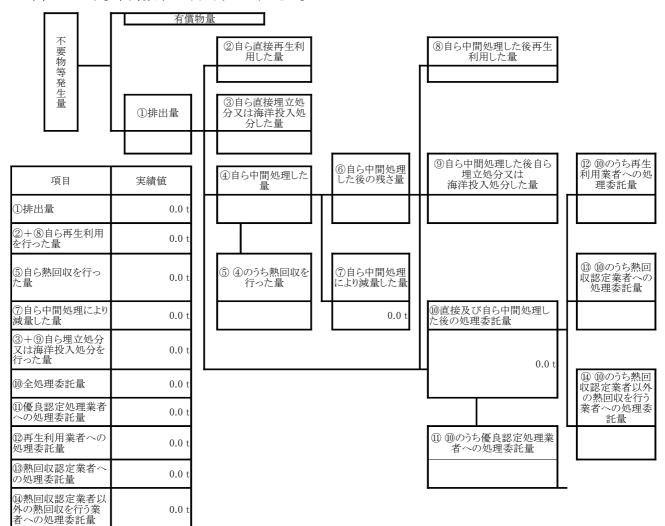
	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
^⑬ 熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				

N0.10 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

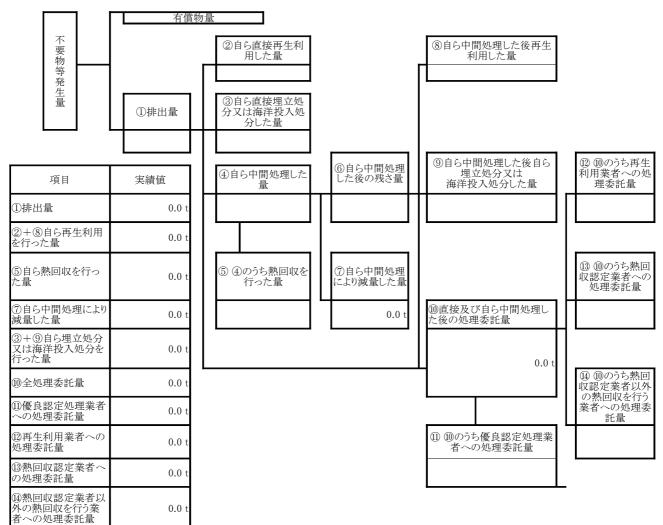


N0.11 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

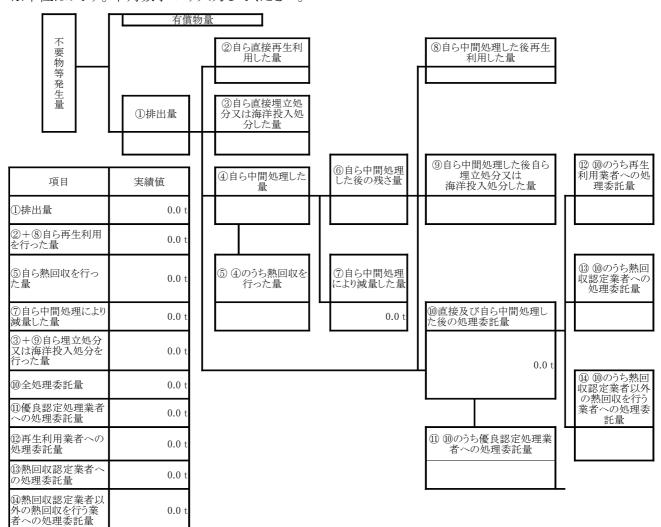


N0.12 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)



N0.13 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

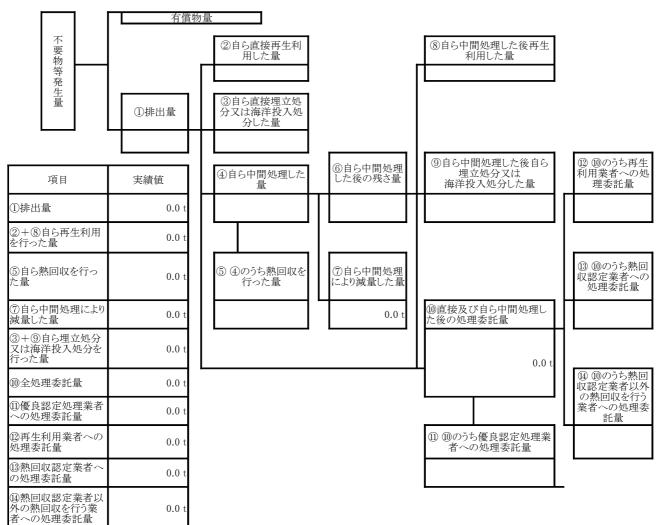
	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
· 発生 生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+8自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				-

N0.14 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

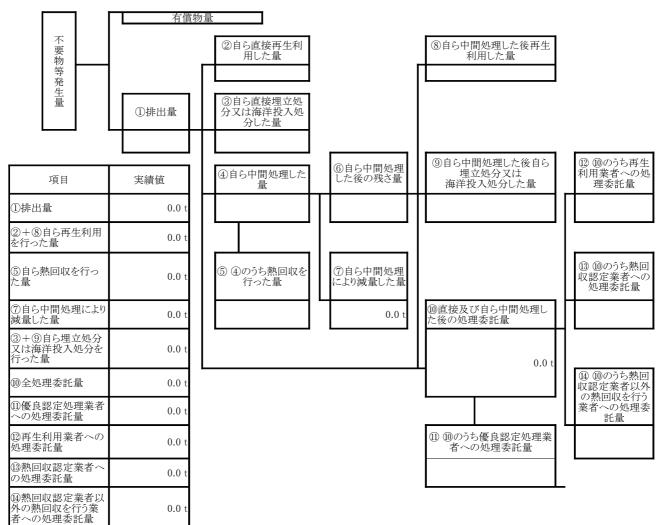


N0.15 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

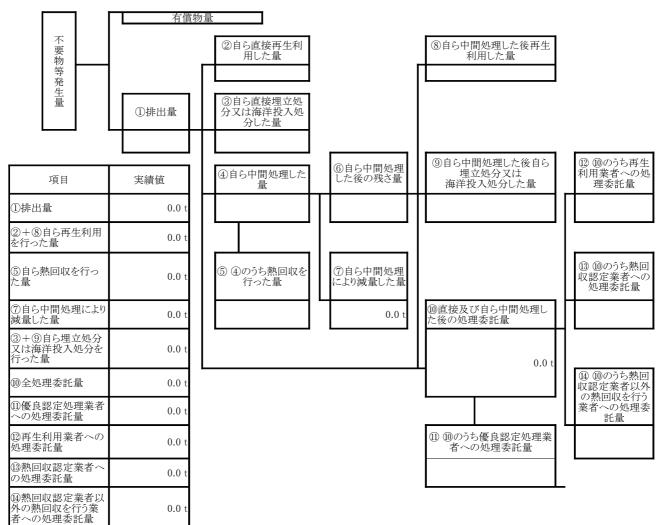


N0.16 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)



N0.17 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

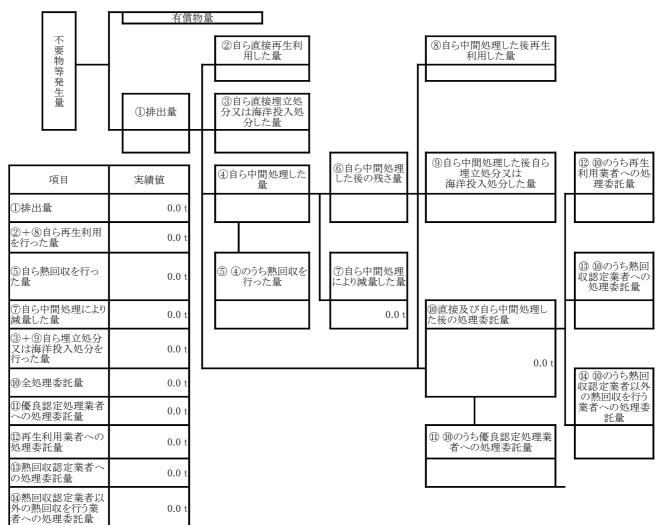
	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外 の熱回収を行う
①優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				-

N0.18 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

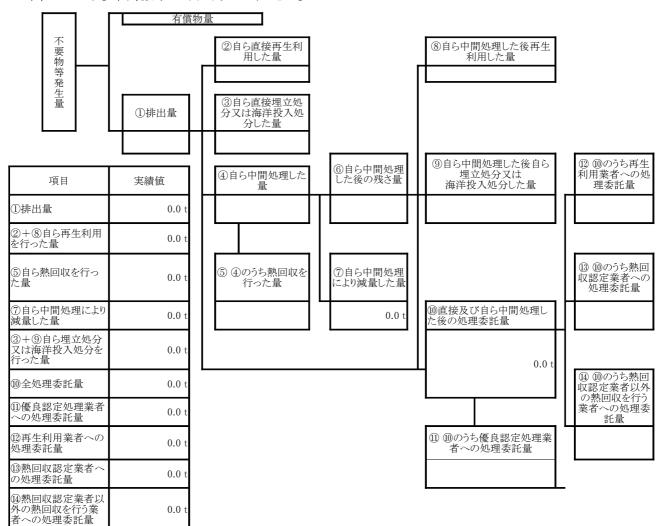


N0.19 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)



N0.20 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生利用した量	
生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		⑬ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
⑫再生利用業者への 処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
^⑬ 熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				_

備考

- 翌年度の6月30日までに提出すること。 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物処理に関して、①~⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入する
- (1)
- (2)
- ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量 (3)
- ④欄(1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量 (4)
- (4)の量のうち、熱回収を行った量 (5)⑤欄
- (6)6)欄 自ら中間処理をした後の量
- (4)の量から(6)の量を差し引いた量 ⑦欄 (7)
- ⑧欄(6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量 ⑨欄(6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量 (8)
- (9)
- (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量 (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に 該当する者)への処理委託量
- (12) ⑫欄(10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量 (13) ⑬欄(10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の 認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量

- 配定を支げた有りてめるた理来有、シルベルで生安に重 (14) ඛ欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実 施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和6年6月21日

千葉県知事

熊谷 俊人 殿

提出者 276-0046

住 所 千葉県八千代市大和田新田130

法人名 興真乳業株式会社

代表者 古谷 恒夫

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 047-450-2121

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

	事業場の名称	興真乳業株式	会社 八千代事	業所	
	事業場の所在地	千葉県八千代	市大和田新田13	30	
	計画期間	令和6年	4月1日	から	令和7年3月31日
当記	亥事業場において現に行っ	っている事業に関	する事項		
	①事業の種類	大分類:	製造業	中分類:	食料品製造業
	②事業の規模	売上高 12,6	75百万円		
	③従業員数	104名(正社員	66名、常勤従	業員38名)	
		「別紙(処理)	工程)」		
	④産業廃棄物の 一連の処理の工程				

(日本産業規格 A列4番)

N/4 - 1 - 1 1	by we below 11. Hall to 12.		
	係る管理体制に関する事項 		
(管理体制図)	dul)		
「別紙(管理体	制)」		
業廃棄物の排出の	抑制に関する事項		
	【前年度(令和5年度)実績		
	産業廃棄物の種類		廃プラスチック類
	排出量	2300.7 t	15. 95 t
①現状	(これまでに実施した取組))	
	・生産効率の向上による排 ・廃液回収による排水負荷 ・工場廃原水の中和による ・分別廃棄の徹底による廃	の平準化。	
	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	排出量	2303.3 t	12 t
②計画	(今後実施する予定の取組))	
	・生産効率向上(液ロス削・前年度実施事項の維持継)	減)による排水負荷の軽 続。	减。
 業廃棄物の分別に 	関する事項		
	(分別している産業廃棄物		
①現状	・環境教育やリサイクル率化を推進している。	目標により、素材別分別	によるリサイクル、資源
	 (今後分別する予定の産業廃		 引する取組)
	・現在の取り組みを継続し		

	【前年度(令和5年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	自ら再生利用を行った産業廃棄 物の量	0 t	0
①現状	(これまでに実施した取組)	•	
	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	自ら再生利用を行う産業廃棄物 の量	0 t	0
②計画	(今後実施する予定の取組)		
っ行う産業廃棄	物の中間処理に関する事項		
	【前年度(令和5年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	to a defend to a second to the fact to the second to the s		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物 の量	0 t	0
①現状	目ら熱回収を行った産業廃棄物 の量 自ら中間処理により減量した産 業廃棄物の量	0 t 1955.6 t	
①現状	の量 自ら中間処理により減量した産		
①現状	の量 自ら中間処理により減量した産 業廃棄物の量	1955.6 t	
①現状	の量 自ら中間処理により減量した産 業廃棄物の量 (これまでに実施した取組)	1955.6 t	
①現状	の量 自ら中間処理により減量した産 業廃棄物の量 (これまでに実施した取組)	1955.6 t	
①現状	の量 自ら中間処理により減量した産 業廃棄物の量 (これまでに実施した取組)	1955.6 t	
①現状	の量 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) ・脱水機にでの汚泥の脱水によ	1955.6 t	
①現状	の量 自ら中間処理により減量した産 業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) ・脱水機にでの汚泥の脱水によ 【目標】	1955.6 t	アプラスチック類
①現状 ②計画	の量 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) ・脱水機にでの汚泥の脱水によ 【目標】 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行う産業廃棄物の	1955.6 t る含水率の削減。 汚泥	の 廃プラスチック類 0
	の量 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) ・脱水機にでの汚泥の脱水によ 間標】 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行う産業廃棄物の 量 自ら中間処理により減量する産	1955.6 t る含水率の削減。 汚泥 0 t	の 廃プラスチック類 0
	の量 自ら中間処理により減量した産 業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) ・脱水機にでの汚泥の脱水によ ・脱水機にでの汚泥の脱水によ 産業廃棄物の種類 自ら熱回収を行う産業廃棄物の 量 自ら中間処理により減量する産 業廃棄物の量	1955.6 t る含水率の削減。 汚泥 0 t 1957.8 t	0

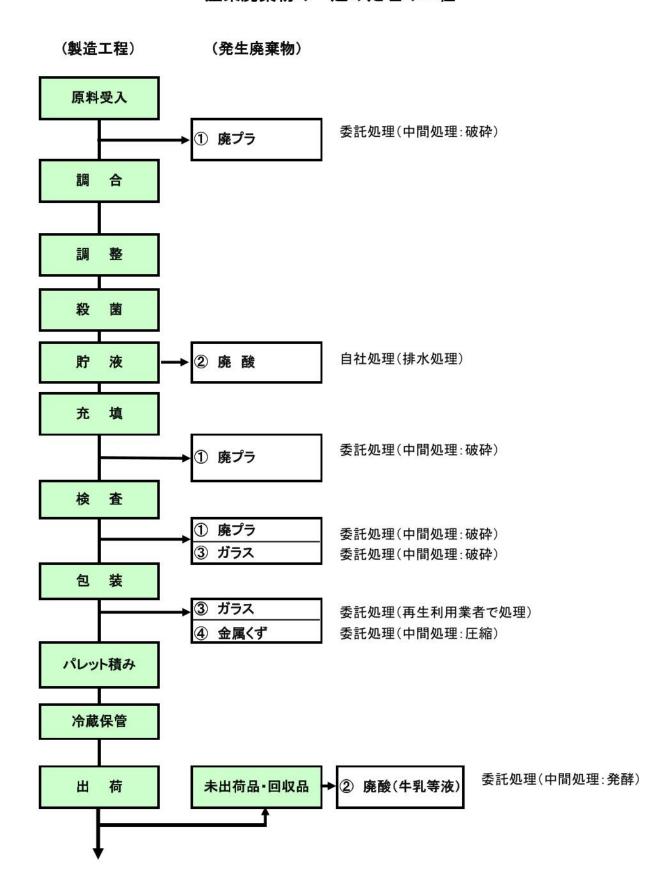
	【前年度(令和5年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	自ら埋立処分又は海洋投入処分 を行った産業廃棄物の量	0 t	0 1
①現状	(これまでに実施した取組)		
	【目標】	Ţ	
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
②計画	自ら埋立処分又は海洋投入処分 を行う産業廃棄物の量	0 t	0
 廃棄物の処理	の委託に関する事項		
廃棄物の処理	の委託に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】		
廃棄物の処理		汚泥	廃プラスチック類
廃棄物の処理	【前年度(令和5年度)実績】	汚泥 345.1 t	
廃棄物の処理	【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 全 処 理 委 託 量 優良認定処理業者への処理 委託量		15. 95
廃棄物の処理	【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 全 処 理 委 託 量 優良認定処理業者への処理 委託量 再生利用業者への処理委託	345.1 t	15. 95
(①現状	【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 全 処 理 委 託 量 優良認定処理業者への処理 委託量 再生利用業者への処理委託	345.1 t 0 t	廃プラスチック類 15. 95 つ 0 つ 10. 59 つ
	【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 全 処 理 委 託 量 優良認定処理業者への処理 委託量 再生利用業者への処理委託 量 認定熱回収業者への処理委	345.1 t 0 t 345.1 t	15. 95 a 0 a

(第5面)

	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	全処理委託量	345.5 t	12 t
	優良認定処理業者への処理 委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への処理委託 量	345.5 t	0 t
②計画	認定熱回収業者への処理委 託量	0 t	11.2 t
	認定熱回収業者以外の熱回 収を行う業者への処理委託 量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) ・生産効率向上による排水負・優良認定処理業者の利用。		
※事務処理欄			

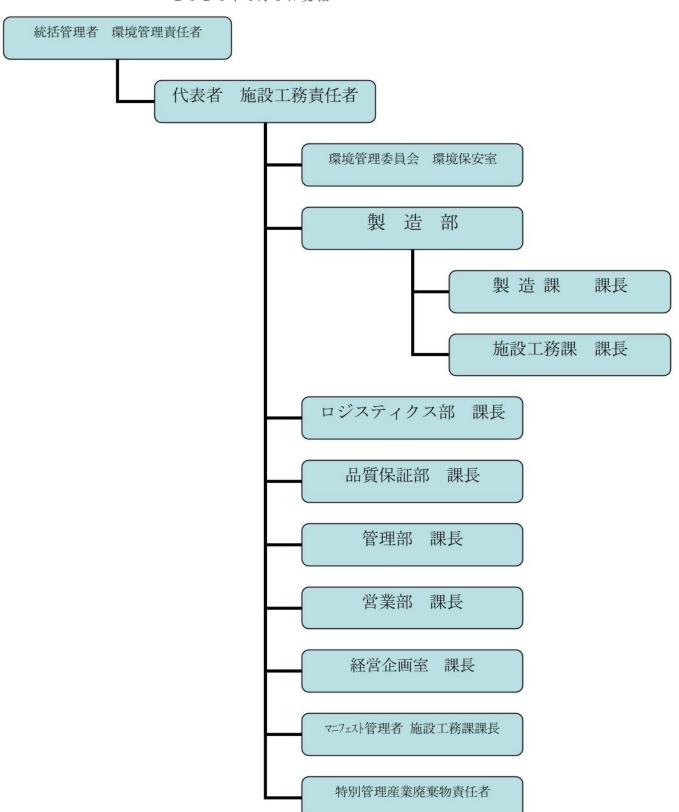
- 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 当該年度の6月30日までに提出すること。 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
- (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。 (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前 年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の 実績を記入すること。
- (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理
- の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行う に際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量
- した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当す
- が、その内級として、後民誌足処理業者、廃棄物の処理及び信捕に関する法律施刊や第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の一連の処理の工程



廃棄物管理組織図

2024年4月1日現在



	「物口は石則に迫加をわ							
産業廃棄物の担	非出の抑制に関する事項							
	【前年度(令和5年度)	実績】	, · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		T		T	T
①現状	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	管理型混合廃棄物	廃電気機械器具(水銀使用製品)	ガラス屑(水銀使用製品)	ガラス・コンクリート・陶磁器くず		
	排 出 量	480.8 t	1.69 t	0.212 t	0.001 t	0 t	t	t
	【目標】	T	Т		I		1	
②計画	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	管理型混合廃棄物	廃電気機械器具(水銀使用製品)	ガラス屑 (水銀使用製品)	ガラス・コンクリート・陶磁器くず		
	排 出 量	605.4 t	1 t	0 t	0 t	1 t	t	t
自ら行う産業原	廃棄物の再生利用に関す	る事項						
	【前年度(令和5年度)	実績】				<u> </u>	•	•
①現状	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	管理型混合廃棄物	廃電気機械器具(水銀使用製品)	ガラス屑 (水銀使用製品)	ガラス・コンクリート・陶磁器くず		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t
	【目標】							
②計画	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	管理型混合廃棄物	廃電気機械器具(水銀使用製品)	ガラス屑 (水銀使用製品)	ガラス・コンクリート・陶磁器くず		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t
自ら行う産業原	廃棄物の中間処理に関す	る事項						
	【前年度(令和5年度)	実績】						
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	管理型混合廃棄物	廃電気機械器具(水銀使用製品)	ガラス屑 (水銀使用製品)	ガラス・コンクリート・陶磁器くず		
①現状	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t
	【目標】							
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	管理型混合廃棄物	廃電気機械器具(水銀使用製品)	ガラス屑 (水銀使用製品)	ガラス・コンクリート・陶磁器くず		
②計画	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の種類	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t
自ら行う産業原	廃棄物の埋立処分又は海	洋投入処分に関す	る事項					
	【前年度(令和5年度)	実績】						
①現状	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	管理型混合廃棄物	廃電気機械器具(水銀使用製品)	ガラス屑 (水銀使用製品)	ガラス・コンクリート・陶磁器くず		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t
	【目標】	-					•	•
②計画	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	管理型混合廃棄物	廃電気機械器具(水銀使用製品)	ガラス屑(水銀使用製品)	ガラス・コンクリート・陶磁器くず		
) H III	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t
産業廃棄物の処	処理の委託に関する事項		·		·		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	•
	【前年度(令和5年度)	実績】						
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	管理型混合廃棄物	廃電気機械器具(水銀使用製品)	ガラス屑 (水銀使用製品)	ガラス・コンクリート・陶磁器くず		
	全処理委託量	480.8 t	1.69 t	0.212 t	0.001 t	0 t	t	t

O THAIL	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t
①現状	再生利用業者への 処理委託量	480.8 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t
	【目標】								
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	管理型混合廃棄物	廃電気機械器具(水銀使用製品)	ガラス屑 (水銀使用製品)	ガラス・コンクリート・陶磁器くず			
	全処理委託量	605.4 t	1 t	0 t	0 t	1 t	t	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t
②計画	再生利用業者への 処理委託量	605.4 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t

(第1面)

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和6年6月21日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

提出者 276-0046

住所 千葉県八千代市大和田新田130

法人名 興真乳業株式会社

代表者 古谷 恒夫

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 047-450-2121

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和 5 年度の産業廃棄 物処理計画の実施状況を報告します。

事	:業場の名称	興真乳業株式会社	具真乳業株式会社 八千代事業所					
事	「業場の所在地	千葉県八千代市力	葉県八千代市大和田新田130					
事	事業の種類	大分類 製造	b業 中分類 食料	1品製造業				
	廃棄物処理計画にお 計画期間	令和5年4月1日	から	令和6年3月31日				
産	業廃棄物処理計画にお	ける目標値						
	項目	目標値	項目	目標値				
	排出量	2620.2 t	全処理委託量	686.7 t				
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0 t	優良認定処理業者 への処理委託量	0 t				
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	再生利用業者への 処理委託量	673.7 t				
	自ら中間処理により減 量する産業廃棄物の 量	2274.7 t	認定熱回収業者へ の処理委託量	11.2 t				
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	認定熱回収業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0 t				

(日本産業規格 A列4番)

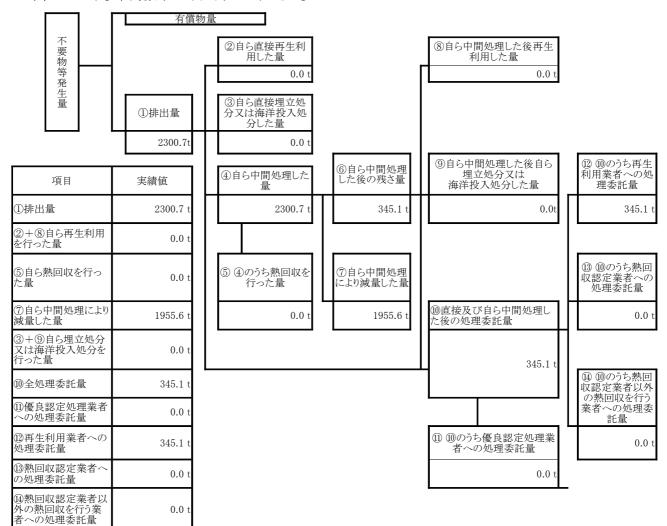
N0.1 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

汚泥

)



N0.2 (第2面)

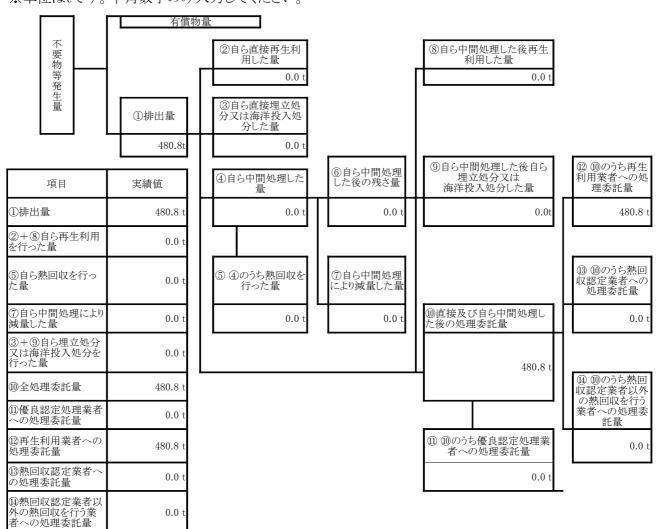
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: 廃プラスチック類)

	有償物	物量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量 0.0 t		⑧自ら中間処理した後再生利用した量 0.0 t	
生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
	16.0t	0.0 t	0.4 > 1.55 / 155 / 155	9自ら中間処理した後自ら	② ⑩のうち再生
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	埋立処分又は 海洋投入処分した量	利用業者への処理委託量
①排出量	16.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0t	0.0 t
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				<u> </u>
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回収認定業者への処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t	0.0 t	0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	10.6 t
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			16.0 t	
⑩全処理委託量	16.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外 の熱回収を行う
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	0.0 t
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	10.6 t			0.0 t	
④熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t				

N0.3 (第2面)

※単位はtです。半角数字のみ入力してください。



動植物残さ

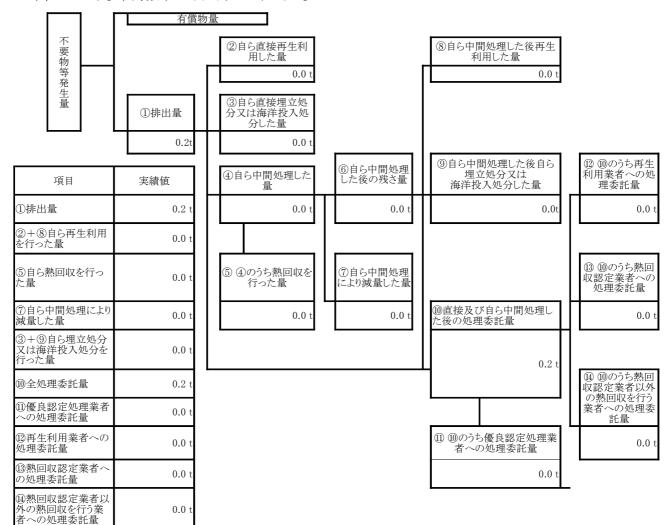
)

N0.4 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

혼電気機械器具(水銀使用製品))



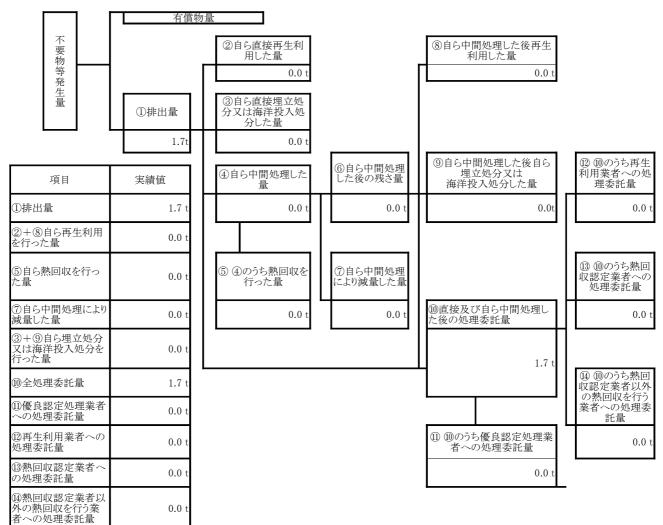
N0.5 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

管理型混合廃棄物

)



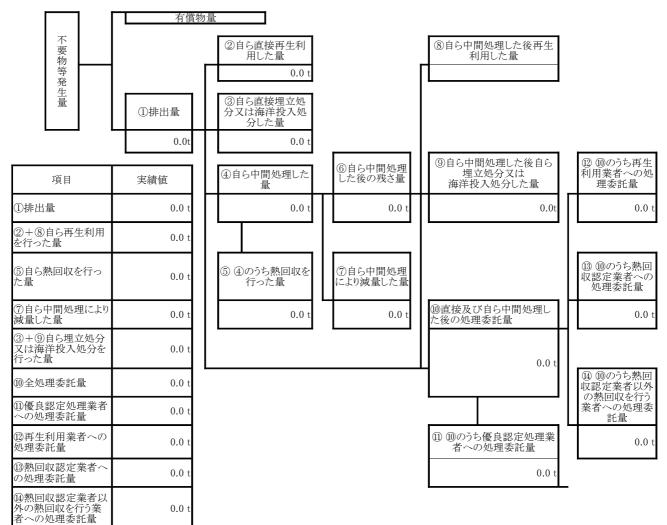
N0.6 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

ガラス屑(水銀使用製品)

)

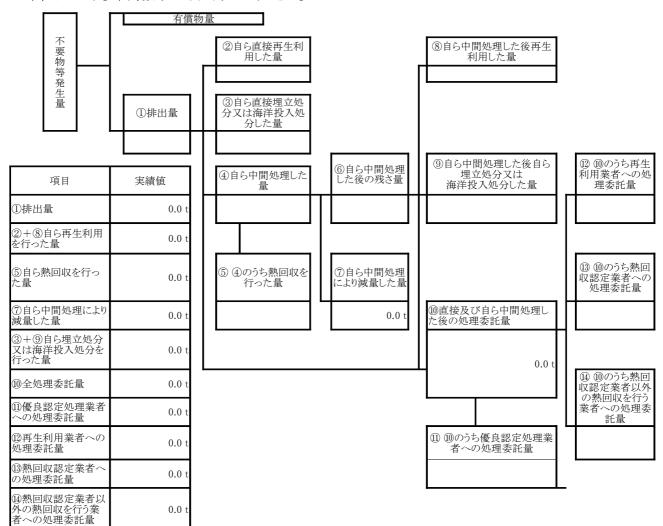


N0.7 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)



N0.8 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

	有償物	勿量			
不要物		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
不要物等発生量					
量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
<u> </u>					
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				⑭ ⑩のうち熱回 収認定業者以外 の熱回収を行う
⑩優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				

N0.9 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

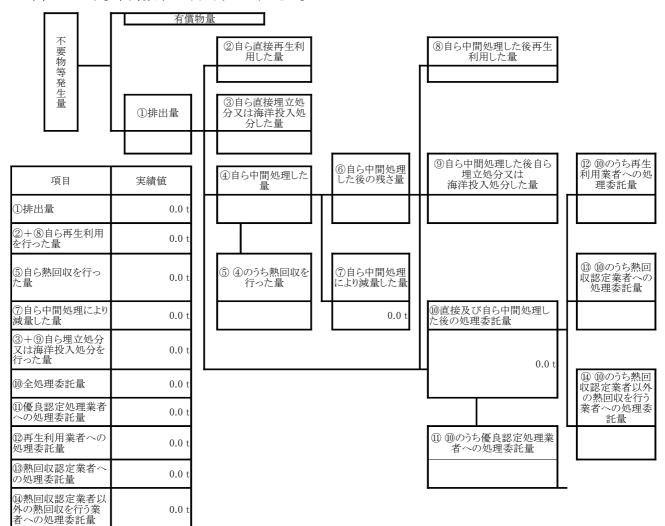
	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利用した量		⑧自ら中間処理した後再生利用した量	
生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回収認定業者への処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
⑫再生利用業者への 処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				

N0.10 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

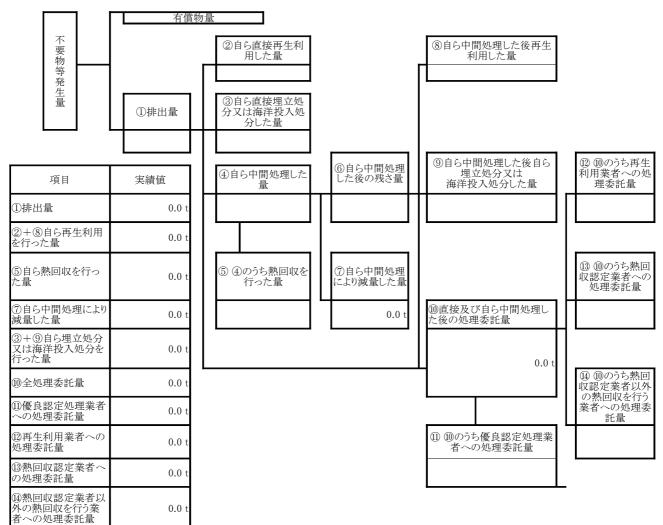


N0.11 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

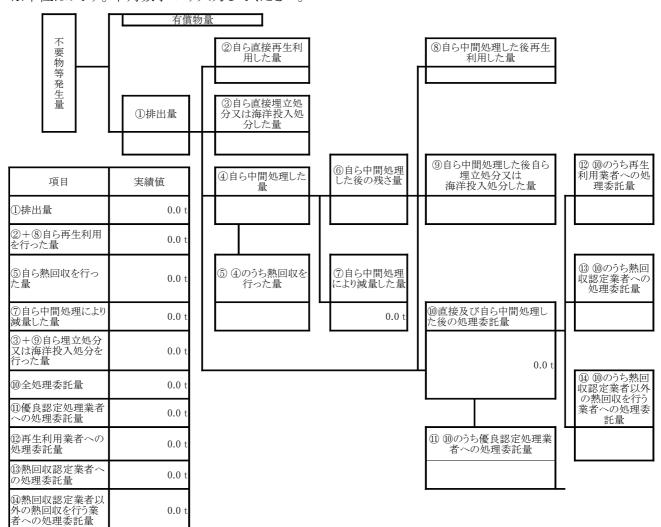


N0.12 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)



N0.13 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

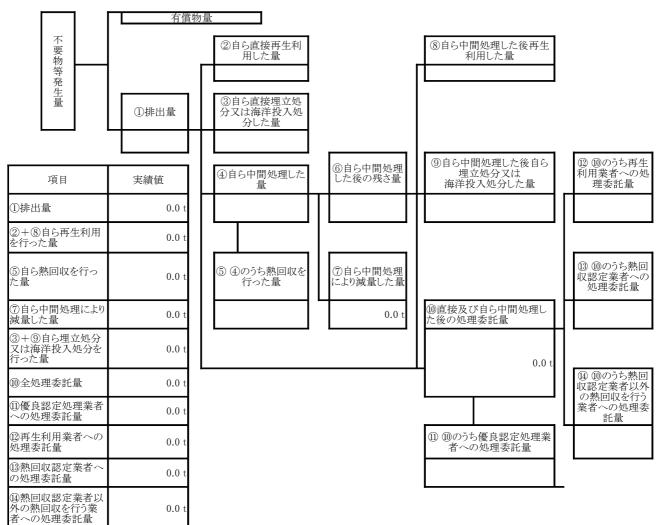
	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
· 発生 生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+8自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				-

N0.14 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

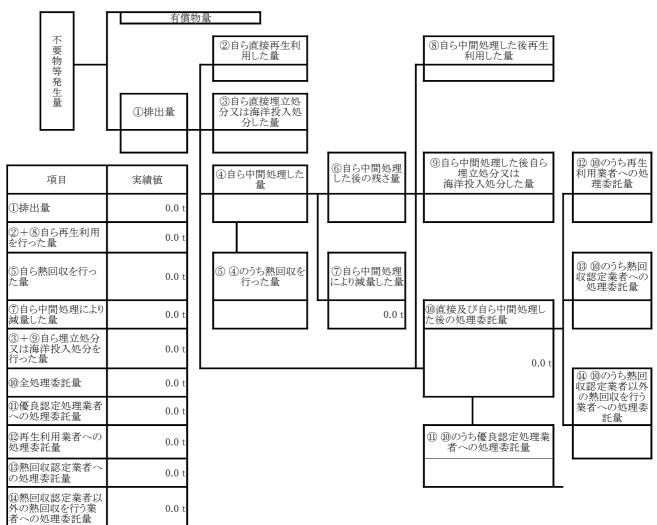


N0.15 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)



N0.16 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量		8 自ら中間処理した後再生 利用した量	
量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	1
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
⑩優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
③熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
④熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t				_

N0.17 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

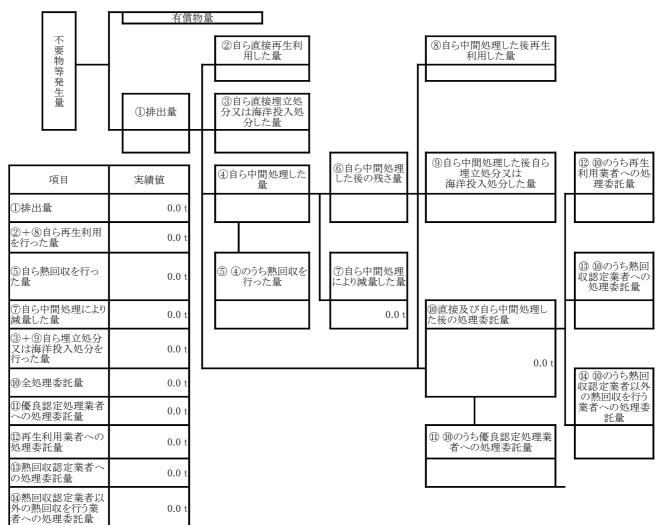
	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利 用した量		⑧自ら中間処理した後再生 利用した量	
生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		③ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う
①優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t				業者への処理委託量
②再生利用業者への処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量	
⑬熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				-

N0.18 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

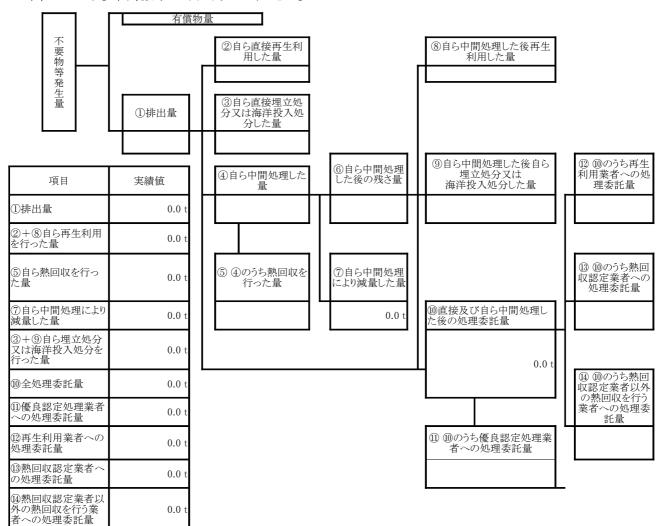


N0.19 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)



N0.20 (第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:

)

	有償物	勿量			
不要物等発生量		②自ら直接再生利用した量		⑧自ら中間処理した後再生利用した量	
生量	①排出量	③自ら直接埋立処 分又は海洋投入処 分した量			
項目	実績値	④自ら中間処理した 量	⑥自ら中間処理 した後の残さ量	⑨自ら中間処理した後自ら 埋立処分又は 海洋投入処分した量	② ⑩のうち再生 利用業者への処 理委託量
①排出量	0.0 t				
②+⑧自ら再生利用 を行った量	0.0 t				
⑤自ら熱回収を行っ た量	0.0 t	⑤ ④のうち熱回収を 行った量	⑦自ら中間処理 により減量した量		⑬ ⑩のうち熱回 収認定業者への 処理委託量
⑦自ら中間処理により 減量した量	0.0 t		0.0 t	⑩直接及び自ら中間処理し た後の処理委託量	
③+⑨自ら埋立処分 又は海洋投入処分を 行った量	0.0 t			0.0 t	
⑩全処理委託量	0.0 t				④ ⑩のうち熱回 収認定業者以外
①優良認定処理業者 への処理委託量	0.0 t				の熱回収を行う 業者への処理委 託量
⑫再生利用業者への 処理委託量	0.0 t			① ⑩のうち優良認定処理業 者への処理委託量	
^⑬ 熱回収認定業者へ の処理委託量	0.0 t				
⑭熱回収認定業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0.0 t				_

- 翌年度の6月30日までに提出すること。 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物処理に関して、①~⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入する
- (1)
- (2)
- ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量 (3)
- ④欄(1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量 (4)
- (4)の量のうち、熱回収を行った量 (5)⑤欄
- (6)6)欄 自ら中間処理をした後の量
- (4)の量から(6)の量を差し引いた量 ⑦欄 (7)
- ⑧欄(6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量 ⑨欄(6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量 (8)
- (9)
- (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量 (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に 該当する者)への処理委託量
- (12) ⑫欄(10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量 (13) ⑬欄(10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の 認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量

- 配定を支げた有りてめるた理来有、シルベルで生安に重 (14) ඛ欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実 施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。

産業廃棄物処理計画書

令和6年6月28日

千葉県知事

熊谷 俊人 殿

提出者 〒290-8558

住 所 千葉県市原市五井海岸2番地

氏 名 コスモ石油株式会社

取締役執行役員千葉製油所長 禰津 知徳

電話番号 0436-23-4116

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その 処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	コスモ石油株式会社 千葉製油所
事業場の所在地	千葉県市原市五井海岸2番地
計 画 期 間	令和6年4月1日から令和7年3月31日まで
当該事業場において現に行っ	ている事業に関する事項
① 事業の種類	E17-石油製品·石炭製品製造業
② 事業の規模	製造品出荷額 8,655 億円 (令和5年実績)
③ 従 業 員 数	702人(従業員542人、関連会社員160人)
④ 産 業 廃 乗 物 の 一連の処理の工程	別紙-1参照

(日本産業規格 A列4番)



自员	自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項						
		【前年度(令和5年度)実統	責】				
		産業廃棄物の種類_	燃え殻	汚泥			
		自ら再生利用を行った 産 業 廃 棄 物 の 量	t	t			
	①現状	(これまでに実施した取組)				
		 自社にて再生利用の実績は 	ない。				
		【目標】					
		産業廃棄物の種類_	燃え殻	汚泥			
		自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t			
	②計画	(今後実施する予定の取組)				
		今後も再生利用の予定はな	٧٠°				
自身	っ行う産業廃棄物の中	『間処理に関する事項					
		【前年度(令和5年度)実統	責】				
		産業廃棄物の種類_	燃え殻	汚泥			
		自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t			
	①現状	自ら中間処理により減量した 産 業 廃 棄 物 の 量	t	7193.0 t			
		(これまでに実施した取組)				
		汚泥脱水機の保守点検を定 を保持し、汚泥減量化に取		脱水性能(85%以上)			
		【目標】					
		産業廃棄物の種類_	燃え殻	汚泥			
		自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t			
	②計画	自ら中間処理により減量する 産 業 廃 棄 物 の 量	t	7444.5 t			
		(今後実施する予定の取組)				
		現在の取り組みを継続する	0				

はなる。	(第4面) 物の押さ加入立は海洋払み加入に関	ナフ 声石	
り行り座兼廃来	物の埋立処分又は海洋投入処分に関 【前年度(令和5年度)実績】	9 の争場	
	産業廃棄物の種類」	燃え殻	 汚泥
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	1
①現状	(これまでに実施した取組) 自社にて埋立処分や海洋投入	処分を行った実績はない。	
	【目標】		
	産業廃棄物の種類	燃え殻	汚泥
②計画	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	
業廃棄物の処理	今後も埋立処分や海洋投入処 の委託に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】		
	産業廃棄物の種類_	燃え殻	汚泥
	全処理委託量_	116.4 t	3655. 5
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0.0 t	2724. 4
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	0.0 t	0.0
①現状	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0.0 t	178. 0
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理 委託 量	0.0 t	0.0
	(これまでに実施した取組) 優良認定処理業者や再生利用 更なる削減に取り組んでいる。		とし、最終処分率の

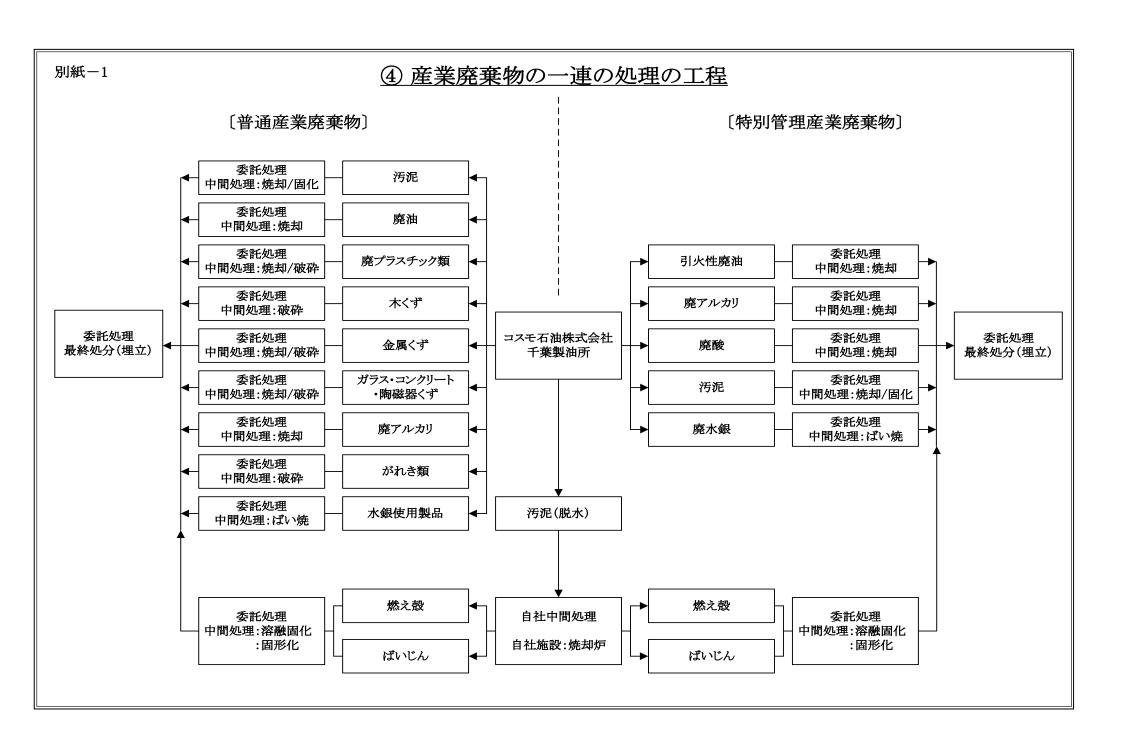
(第5面)

(第5亩 <i>)</i>					
	【目標】				
	産業廃棄物の種類_	燃え殻	汚泥		
	全処理委託量_	150.0 t	4555.5 t		
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0.0 t	3389.3 t		
	再生利用業者への 処理 委託 量	0.0 t	0.0 t		
	認定熱回収業者への 処理委託量	0.0 t	218.7 t		
②計画	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理 委託 量	0.0 t	0.0 t		
	(今後実施する予定の取組)				
	現在の取り組みを継続する。				
※事務処理欄					

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産	業廃棄物の	排出の抑制に関する	事項							
		【前年度(令和5年度	〕実績】							
	①現状	産業廃棄物の種類	廃油	廃プラスチック 類	木くず	金属くず	ガラスくず、コンクリート くず及び陶磁器くず	廃アルカリ	がれき類	水銀使用製品
		排出量	395.9 t	139.8 t	47.9 t	4.8 t	107.6 t	92.9 t	162.4 t	1.2 t
		【目標】								
	②計画	産業廃棄物の種類	廃油	廃プラスチック 類	木くず	金属くず	ガラスくず、コンクリート くず及び陶磁器くず	廃アルカリ	がれき類	水銀使用製品
		排出量	500.0 t	100.0 t	5.0 t	5.0 t	30.0 t	500.0 t	30.0 t	2. 0 t
自	ら行う産業	美廃棄物の再生利用に								
		【前年度(令和5年度	:) 実績】 				_			
	①現状	産業廃棄物の種類	廃油	廃プラスチック 類	木くず	金属くず	ガラスくず、コンクリート くず及び陶磁器くず	廃アルカリ	がれき類	水銀使用製品
		自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
		【目標】								
	②計画	産業廃棄物の種類	廃油	廃プラスチック 類	木くず	金属くず	ガラスくず、コンクリート くず及び陶磁器くず	廃アルカリ	がれき類	水銀使用製品
		自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t	t	¥ t	t	t	t	t
自	ら行う産業	美廃棄物の中間処理に	関する事項							
		【前年度(令和5年度	:)実績】							
		産業廃棄物の種類	廃油	廃プラスチック 類	木くず	金属くず	ガラスくず、コンクリート くず及び陶磁器くず	廃アルカリ	がれき類	水銀使用製品
	①現状	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
		自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
		【目標】			<u></u>		ļ.		<u> </u>	
		産業廃棄物の種類	廃油	廃プラスチック 類	木くず	金属くず	ガラスくず、コンクリート くず及び陶磁器くず	廃アルカリ	がれき類	水銀使用製品
	②計画	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
		自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t

自ら行う産業	業廃棄物の埋立処分又に	は海洋投入処分に	こ関する事項						
	【前年度(令和5年度)実績】							
①現状	産業廃棄物の種類	廃油	廃プラスチック 類	木くず	金属くず	ガラスくず、コンクリート くず及び陶磁器くず	廃アルカリ	がれき類	水銀使用製品
1917V	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
	【目標】								
②計画	産業廃棄物の種類	廃油	廃プラスチック 類	木くず	金属くず	ガラスくず、コンクリート くず及び陶磁器くず	廃アルカリ	がれき類	水銀使用製品
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
産業廃棄物の 「	の処理の委託に関する§ ┃【前年度(令和5年度								
	産業廃棄物の種類	<u>, 天順 』</u> 廃油	廃プラスチック	木くず	金属くず	ガラスくず、コンクリート くず及び陶磁器くず	廃アルカリ	がれき類	水銀使用製品
	全処理委託量	395.9 t	類 139.8 t	47.9 t	4.8 t	107.6 t	92.9 t	162. 4 t	1. 2 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	395. 9 t	105.3 t	47.9 t	4.8 t	104.5 t	92. 9 t	0.0 t	1.2 t
①現状	再生利用業者への 処理委託量	0.0 t	7.9 t	46.2 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	162.4 t	0.0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	179.9 t	0.0 t	0.0 t	0.5 t	2.9 t	0.0 t	0.0 t	0.5 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t
	【目標】		1成プニッチカ			T		1	
	産業廃棄物の種類	廃油	廃プラスチック 類	木くず	金属くず	ガラスくず、コンクリート くず及び陶磁器くず	廃アルカリ	がれき類	水銀使用製品
	全処理委託量	500.0 t	100.0 t	5.0 t	5.0 t	30.0 t	500.0 t	30.0 t	2. 0 t
②計画	優良認定処理業者への 処理委託量	500.0 t	75.3 t	5.0 t	5.0 t	29.0 t	500.0 t	0.0 t	2.0 t
少計画	再生利用業者への 処理委託量	0.0 t	5.6 t	4.8 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	30.0 t	0.0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	227.0 t	0.0 t	0.0 t	0.5 t	1.0 t	0.0 t	0.0 t	0.8 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t



産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和6年6月28日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

提出者 〒290-8558

住 所 千葉県市原市五井海岸2番地

氏 名 コスモ石油株式会社

取締役執行役員千葉製油所長 禰津 知徳

電話番号 0436-23-4116

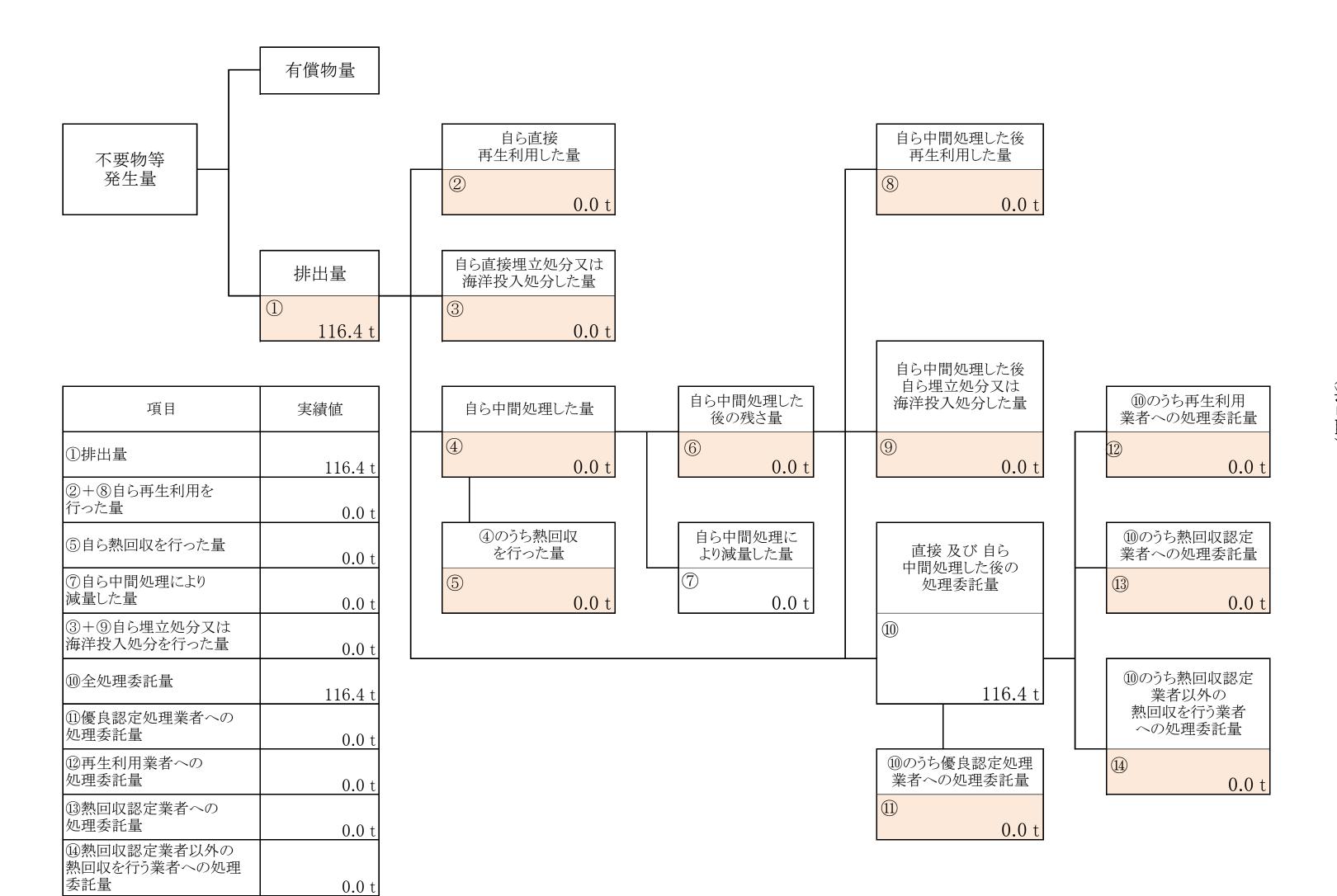
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和 5 年度の産業廃棄物 処理計画の実施状況を報告します。

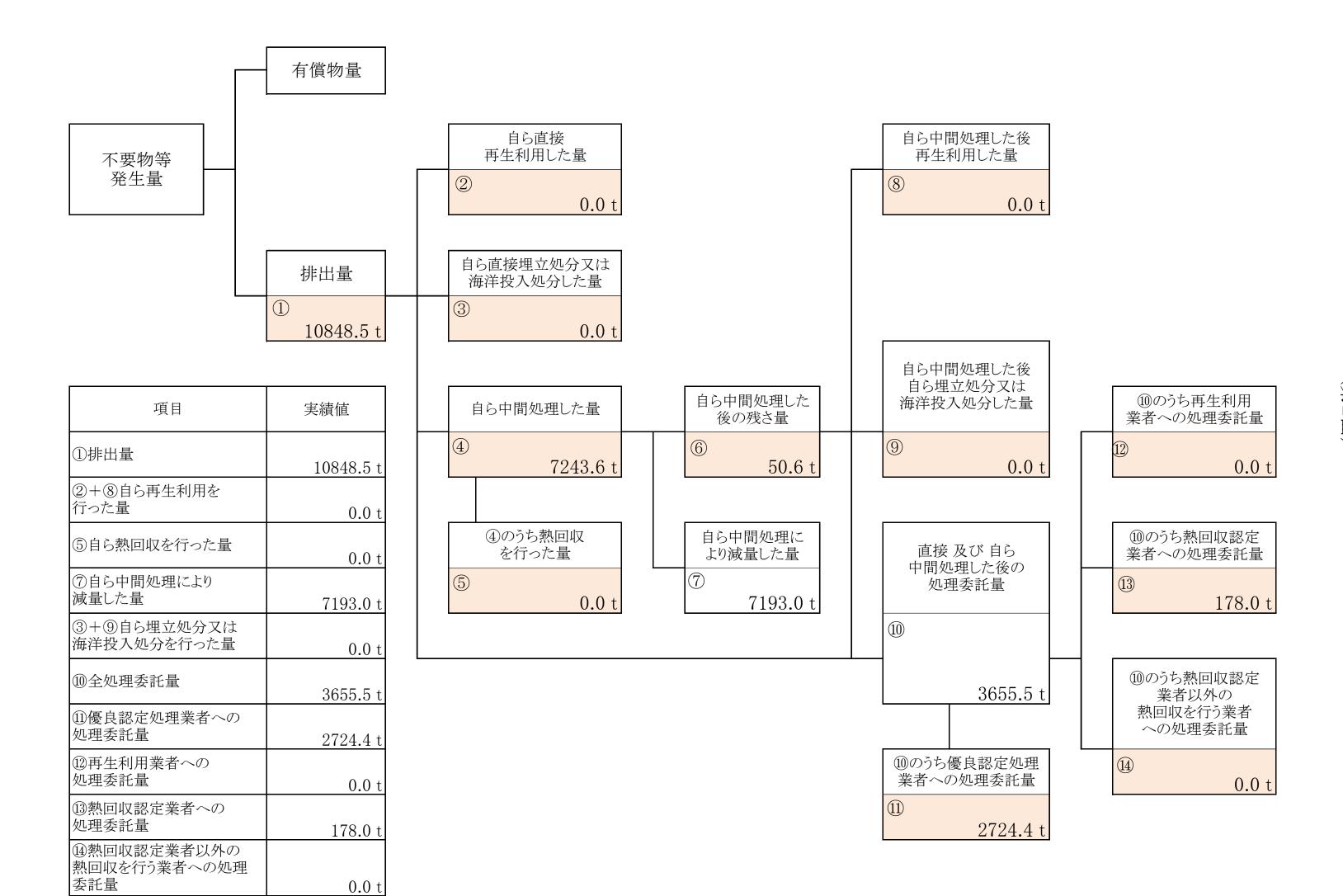
事業場の名称	コスモ石油株式会社 千葉製油所
事業場の所在地	千葉県市原市五井海岸2番地
事業の種類	E17-石油製品·石炭製品製造業
産業廃棄物処理計画における 計 画 期 間	令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

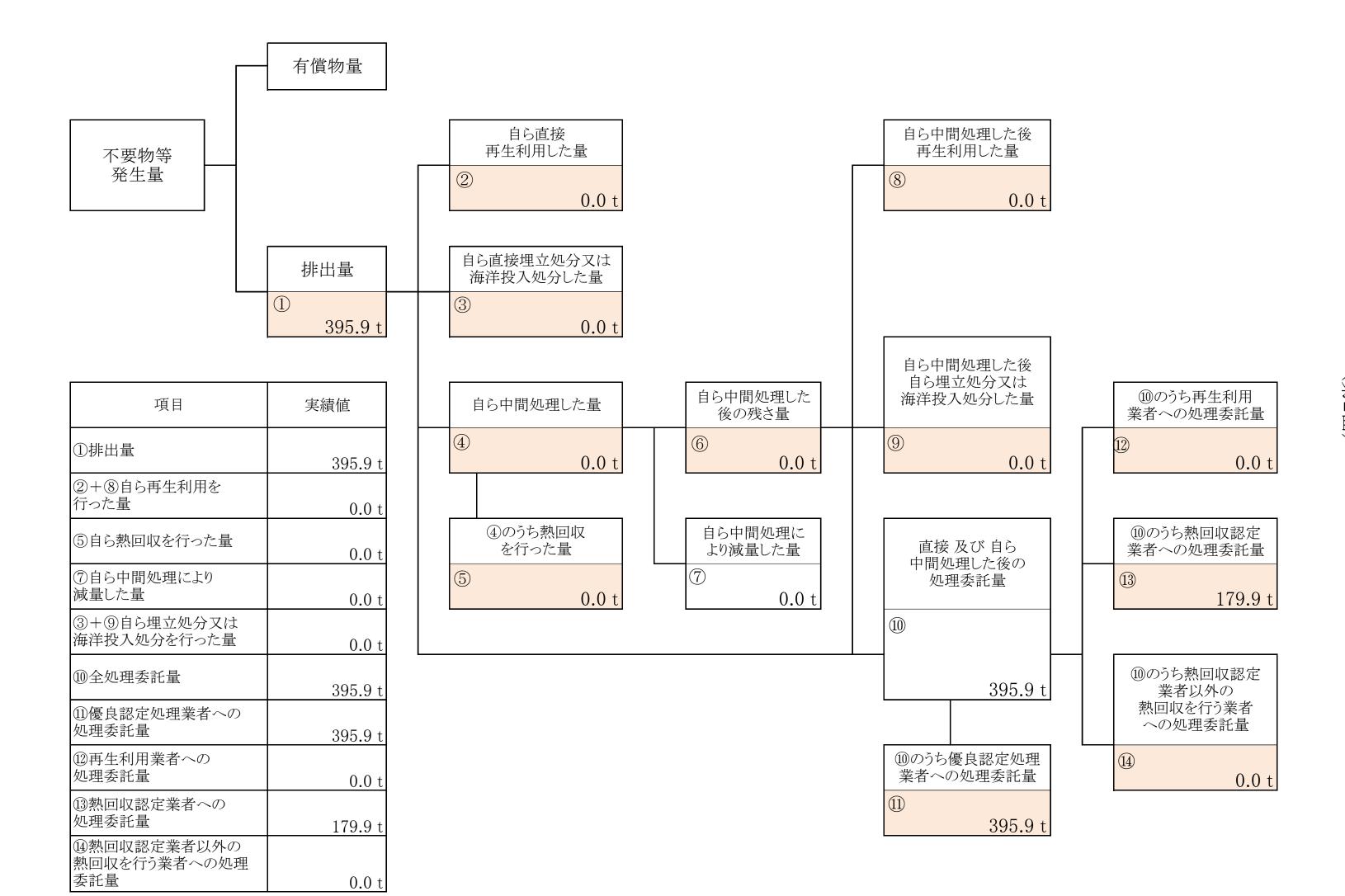
産業廃棄物処理計画における目標値

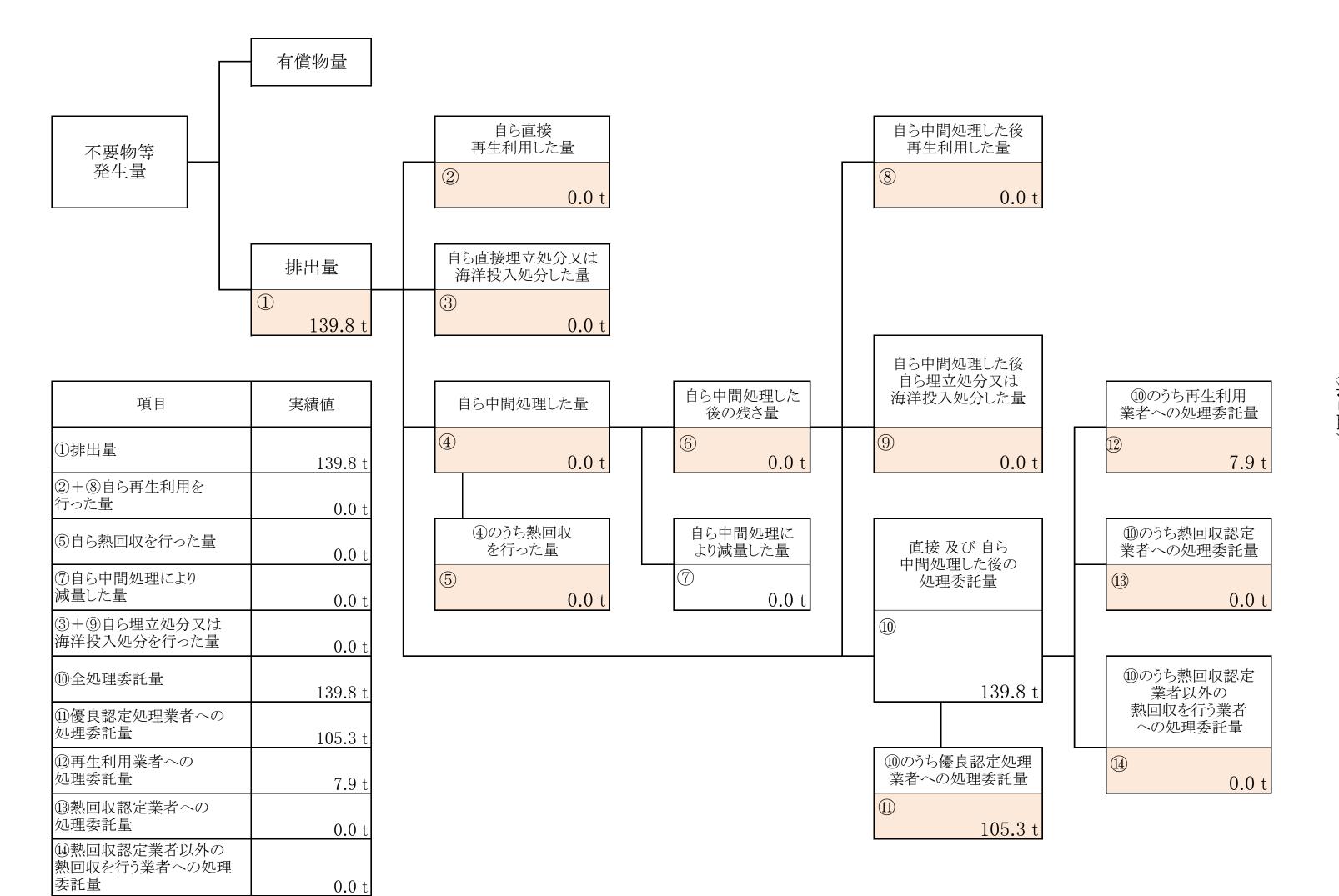
	項目		目標値	項目	目標値
排	出	量	13922.0 t	全処理委託量	4922.0 t
	耳生利用 ā 廃 棄 物	を 行 の 量	0.0 t	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	3482.7 t
自ら産業	熱 回 収 を 廃 棄 物	· 行う の 量	0.0 t	再生利用業者への処理 委託 量	2107.7 t
	引処理により洞 廃 棄 物		10000.0 t	認定熱回収業者への処理 委託 量	490.5 t
海洋	埋 立 処 分 役 入 処 分 ? 廃 棄 物	を行う	0.0 t	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0.0 t
※事務処	理欄				

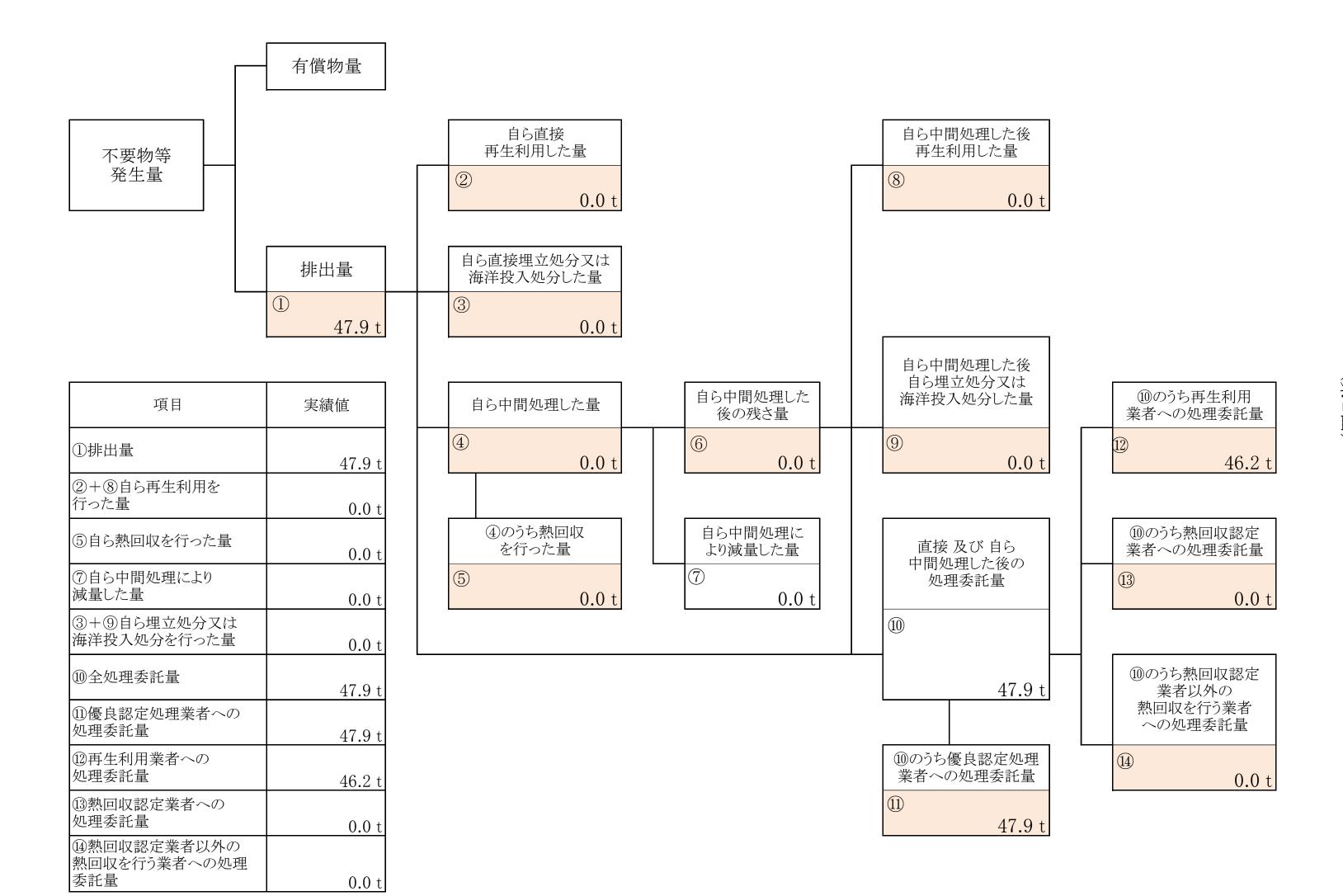
(日本産業規格 A列4番)

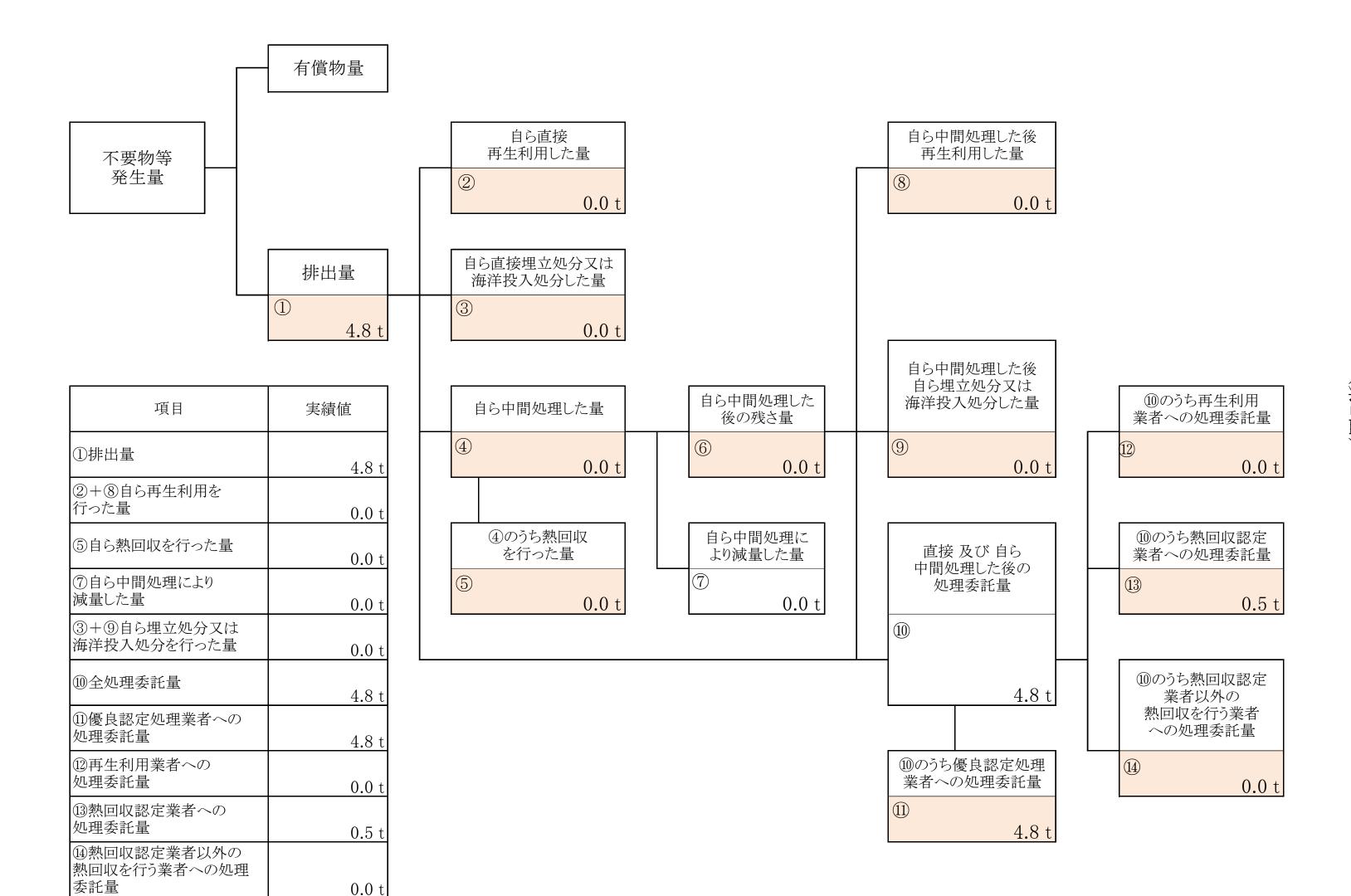






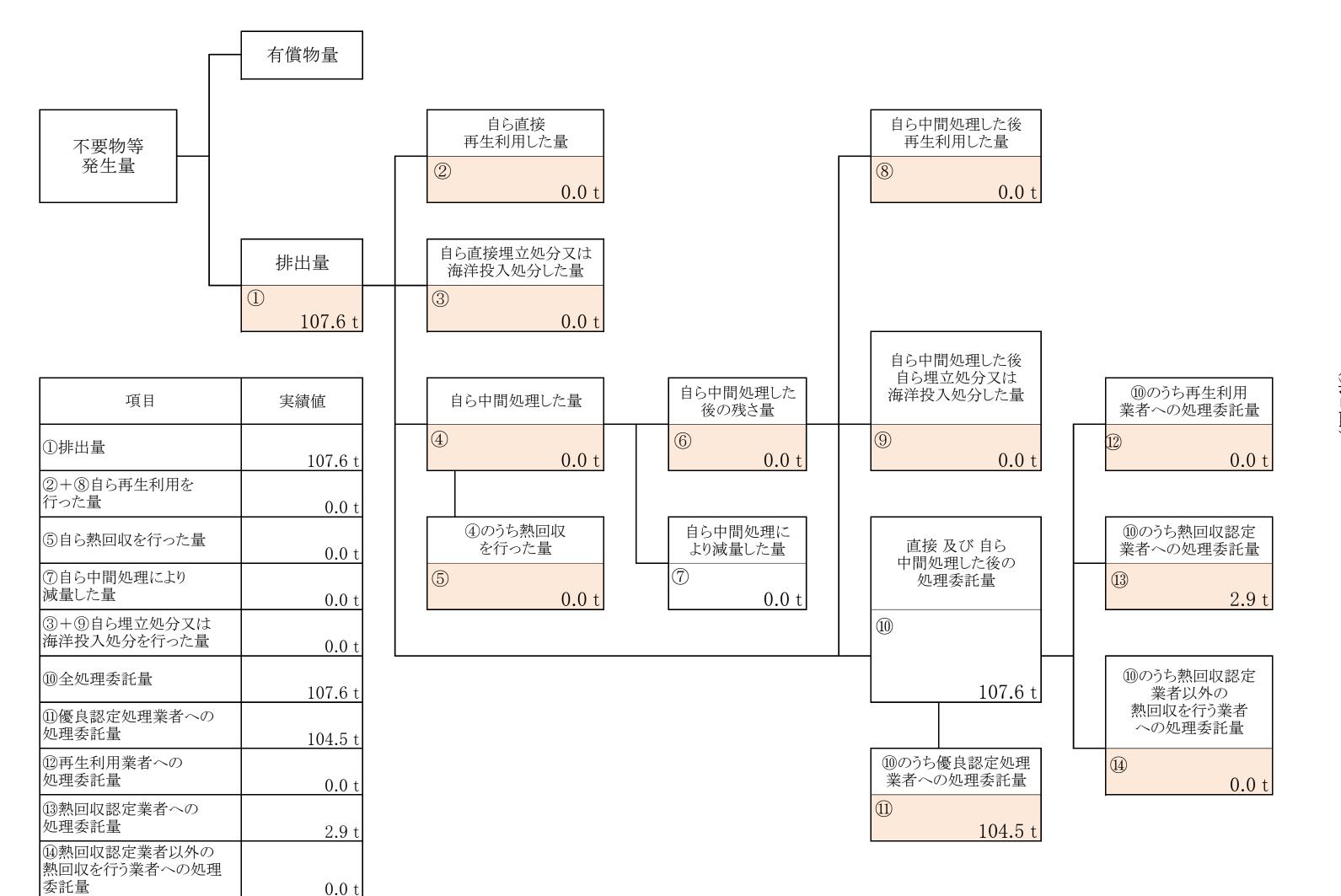


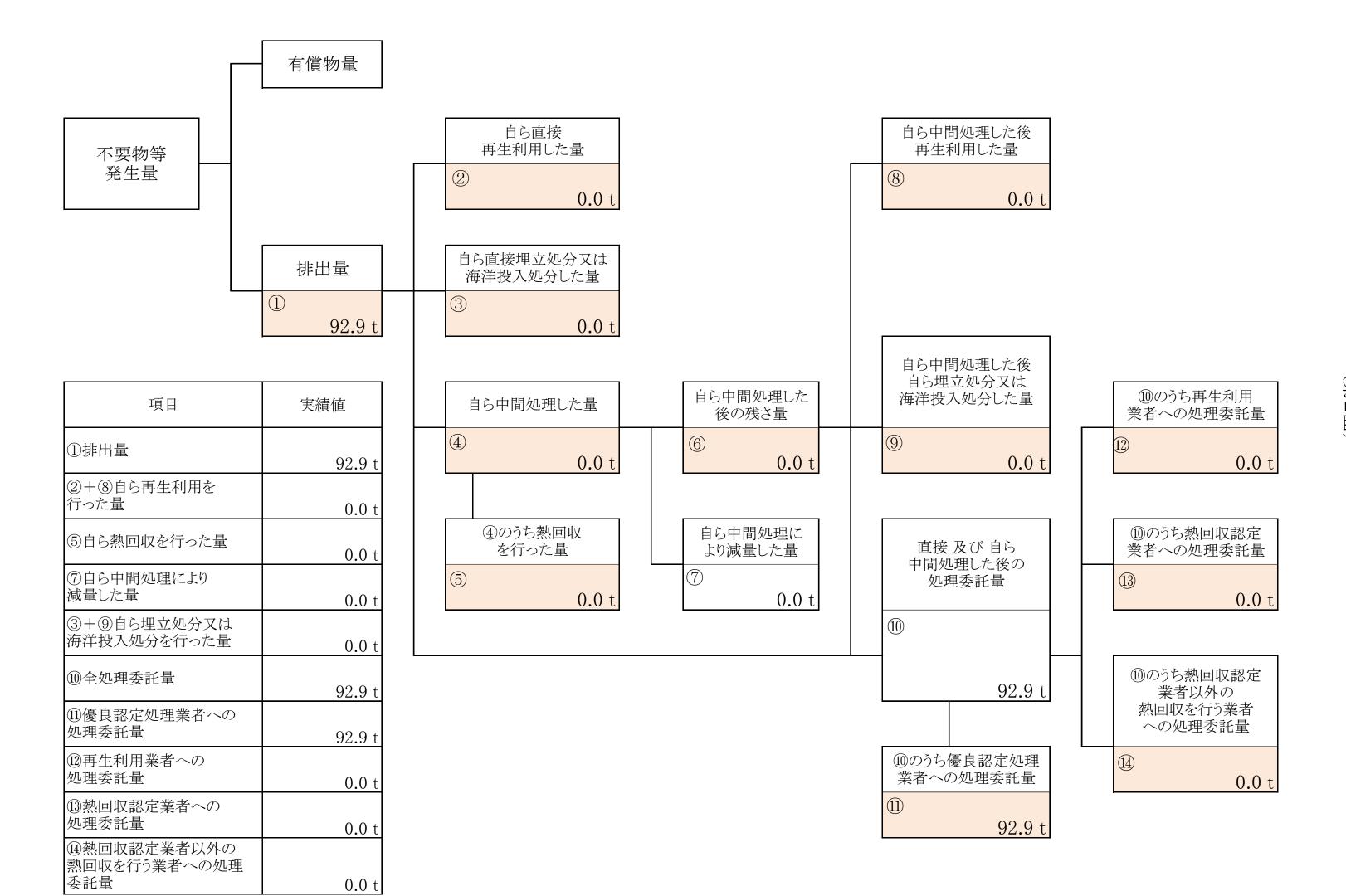


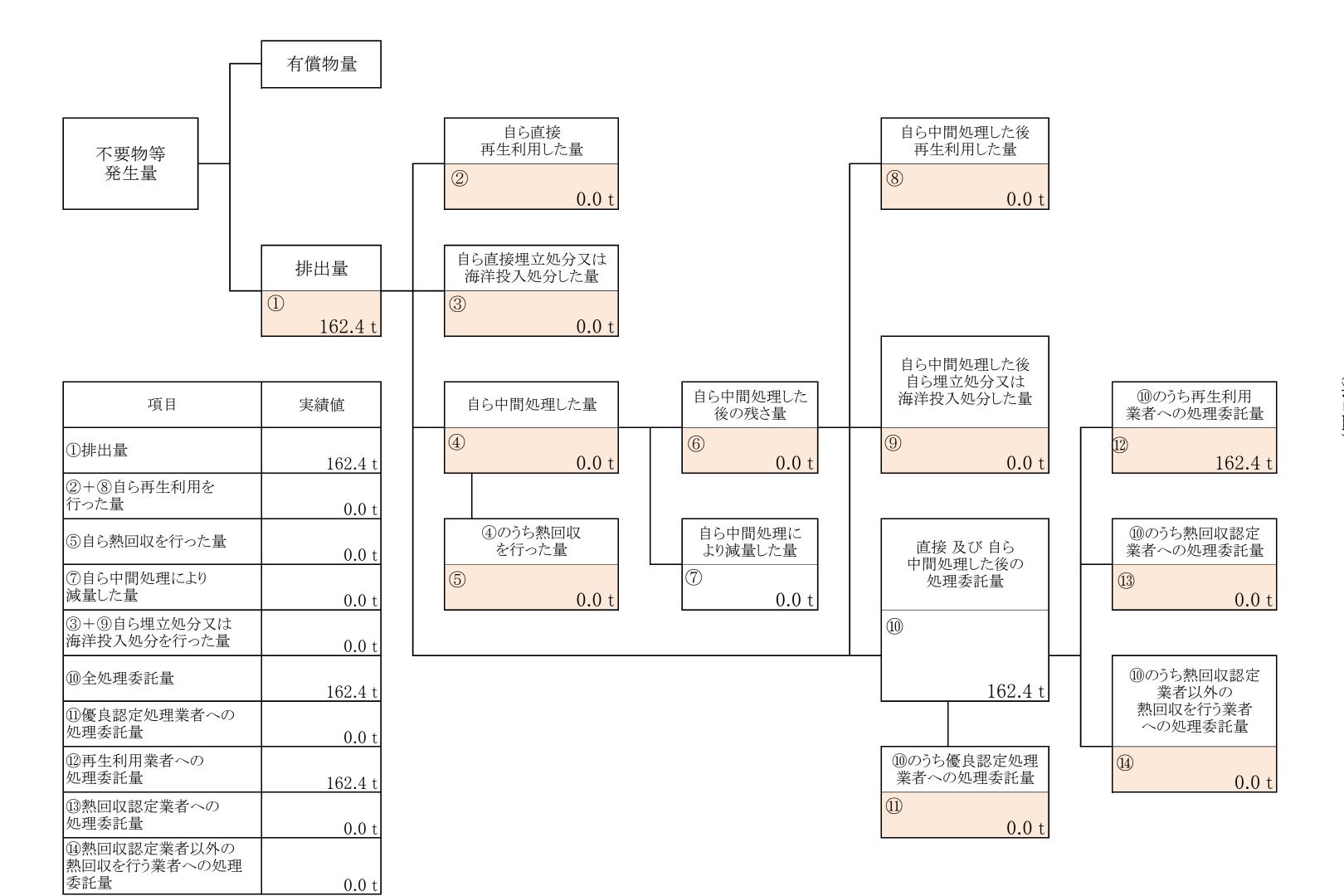


(産業廃棄物の種類:

ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くず







委託量

0.0 t

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載 した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物処理に関して、①~⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14) に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄(1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) (5) 欄(4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄(4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄(6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令 第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律 第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への 焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記 入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和6年6月28日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

提出者 〒290-8558

住 所 千葉県市原市五井海岸2番地

氏 名 コスモ石油株式会社

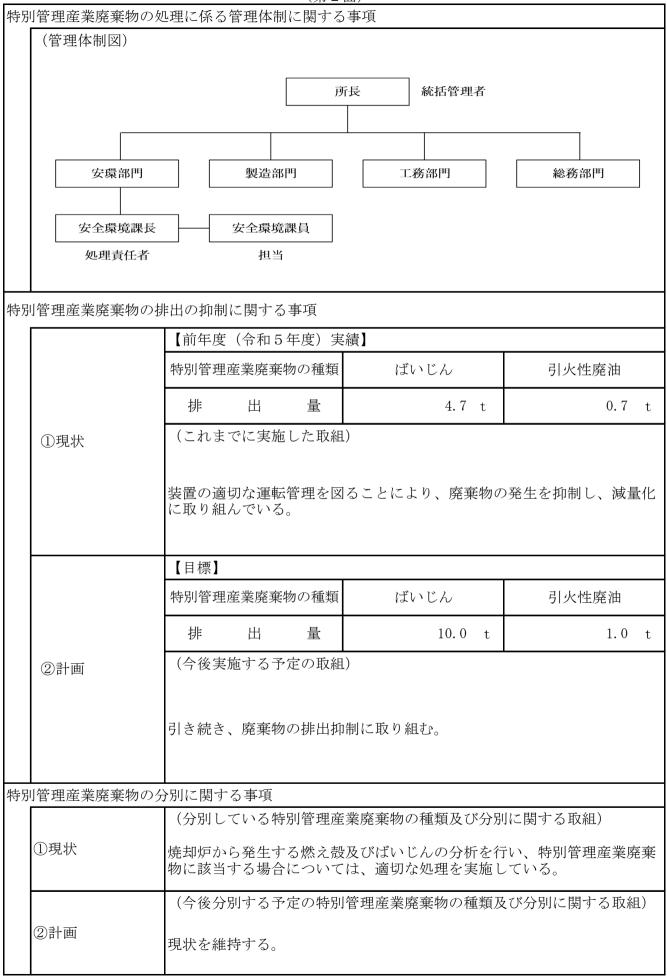
取締役執行役員千葉製油所長 禰津 知徳

電話番号 0436-23-4116

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

	事業場の名称	コスモ石油株式会社 千葉製油所
	事業場の所在地	千葉県市原市五井海岸2番地
	計画期間	令和6年4月1日から令和7年3月31日まで
当	該事業場において現に行	っている事業に関する事項
	①事業の種類	E17-石油製品·石炭製品製造業
	②事業の規模	製造品出荷額 8,655 億円(令和5年実績)
	③ 従 業 員 数	702人(従業員542人、関連会社員160人)
	④ 特別管理 ④ 産業廃棄物の 一連の処理の工程	別紙-1参照

(日本産業規格 A列4番)



<u>(第3面)</u> 産業廃棄物の再生利用に関する事項		
	<u> </u>	
特別管理産業廃棄物の種類	ばいじん	引火性廃油
自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)		
自社にて特別管理産業廃棄物の	の再生利用の実績はない	``o
【目標】		
特別管理産業廃棄物の種類	ばいじん	引火性廃油
自ら再生利用を行う 特別管理産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)		
今後も再生利用の予定はない。		
 産業廃棄物の中間処理に関する事項		
	1	
特別管理産業廃棄物の種類	ばいじん	引火性廃油
自 ら 熱 回 収 を 行 っ た 特別管理産業廃棄物の量	t	t
自ら中間処理により減量した 特別管理産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)	1	
自社にて特別管理産業廃棄物の	の中間処理の実績はない	\` o
 【目標】		
特別管理産業廃棄物の種類	ばいじん	引火性廃油
自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
自ら中間処理により減量する 特別管理産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)	,	
今後も実施する予定はない。		
	特別管理産業廃棄物の種類 自特別管理産業廃棄物の種類 自共産業廃棄物の種類 自社にて特別管理産業廃棄物の種類 自計を要した。 自社にて特別管理産業のの種類 自前ののではない。 一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個で、一個で、一個で、一個で、一個で、一個で、一個で、一個で、一個で、一個で	【前年度(令和5年度)実績】 特別管理産業廃棄物の種類 ばいじん 自ら再生利用を育った特別管理産業廃棄業物の量 (これまでに実施した取組) 自社にで特別管理産業廃棄物の種類 ばいじん 自ら再生利用を行う 特別管理産業廃棄物の量 (今後実施する予定の取組) 今後も再生利用の予定はない。 董業廃棄物の中間処理に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】 特別管理産業廃棄物の種類 ばいじん 自ら 禁回 収を行った特別管理産業廃棄物の量 はいじん 自ら 禁回 埋 を 差 廃棄物の量 (これまでに実施した取組) 自といまでに実施した取組) 自社にで特別管理産業廃棄物の一間処理の実績はない 【目標】 特別管理産業廃棄物の種類 ばいじん 自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の中間処理の実績はない。

引火性廃油
t
1
引火性廃油
t
引火性廃油
t 0.7
t 0.7
t 0.0
t 0.7
t 0.0
没及びばいじんについては
5.
лх

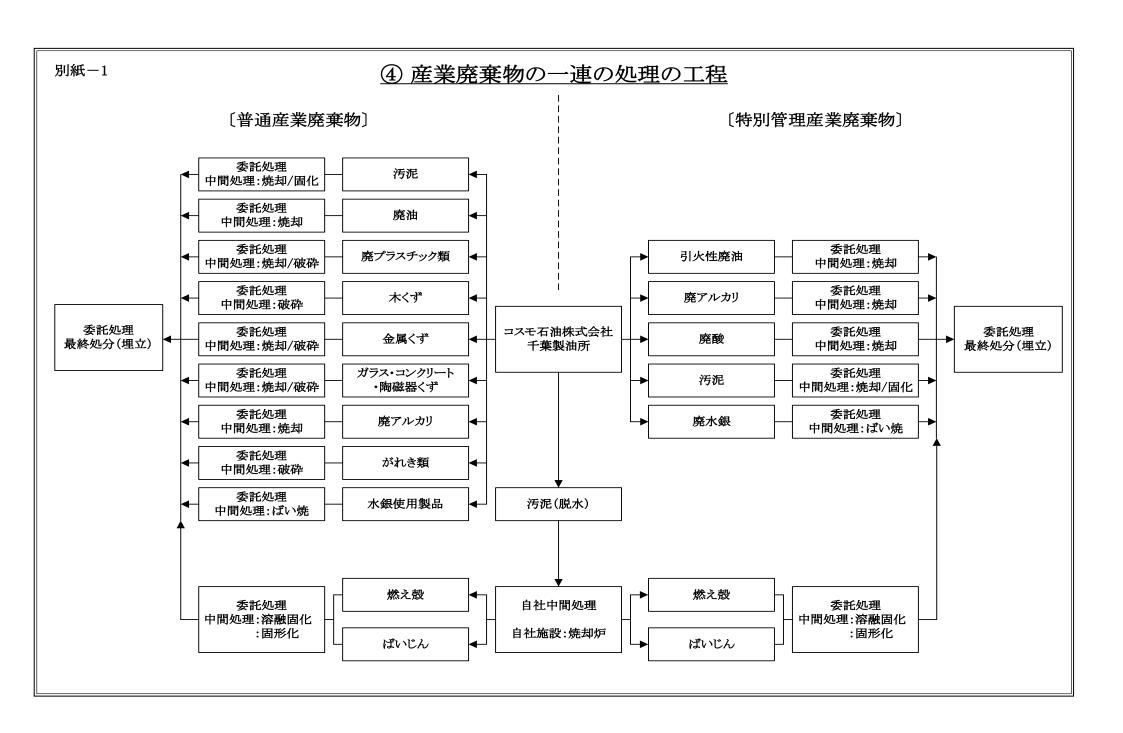
(第5面)

特別管理産業廃棄物の種類 ばいじん 引火性廃油 全 処 理 委 託 量 10.0 t 1.0 t		「	/ ш/	
優良認定処理業者への 処理 委託 量		【目標】 特別管理産業廃棄物の種類	ばいじん	引火性廃油
型 乗 託 量		全 処 理 委 託 量	10.0	t 1.0 t
処理委託量 0.0 t 認定熱回収業者への処理 0.0 t 変託量 0.0 t 認定熱回収者以外の熱回収を行う業者への処理 0.0 t (今後実施する予定の取組) 【前年度(令和5年度)実績】 特別管理産業廃棄物排出 量 (ボリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。) (今後実施する予定の取組等) 既に電子マニフェストを導入している。		処 理 委 託 量	10.0	t 1.0 t
理 委 託 量 0.0 t 認定熟回収業者以外の熱回収を行う業者への建量を充め、量 0.0 t (今後実施する予定の取組) 引き続き、優良認定事業者への委託処理を継続する。 事 別 管 理 産 業 廃 棄 物排 出 量 (ボリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。) (今後実施する予定の取組等) 既に電子マニフェストを導入している。		処 理 委 託 量	0.0	t 0.0 t
②計画				t 1.0 t
(今後実施する予定の取組) 引き続き、優良認定事業者への委託処理を継続する。 【前年度 (令和5年度) 実績】 特 別 管 理 産 業 廃 棄 物 排 出 量 2051.9 t (ボリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。) (今後実施する予定の取組等) 既に電子マニフェストを導入している。		回収を行う業者への処理	0.0	t 0.0 t
【前年度 (令和5年度) 実績】 特 別 管 理 産 業 廃 棄 物 排 出 量 2051.9 t (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。) 電子情報処理組織の使用 に関する事項 (今後実施する予定の取組等) 既に電子マニフェストを導入している。		(今後実施する予定の取組	且)	
特別管理産業廃棄物 排出量 2051.9 t ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。) (今後実施する予定の取組等) 既に電子マニフェストを導入している。				きする。
に関する事項		特 別 管 理 産 業 排 出	度 廃 乗 物 量	2051.9 t
	電子情報処理組織の使用 に関する事項	(今後実施する予定の取組	且等)	
※事務処理欄		既に電子マニフェストを導	算入している。	
	※事務処理欄			

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入する こと。
- (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
- (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の 種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管 理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、 目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の 種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業 廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入するこ と。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令(以下「令」という。)第6条の14第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量(ポリ塩化ビフェニル廃棄物(令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。)を除く。)を記入すること。その量が50トン以上の者にあっては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等(情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。)について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。

特	別管理産業	- 	に関する事項									
	1	【前年度(令和5年月										
	①現状	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ	汚泥	廃水銀						
		排 出 量	0.2 t	1417.7 t	628.6 t	0.0 t	t	t	t	t		
		【目標】										
	2計画	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ	汚泥	廃水銀						
		排 出 量	1.0 t	1800.0 t	700.0 t	1.0 t	t	t	t	t		
自	ら行う特別	川管理産業廃棄物の再		項								
		【前年度(令和5年月	度)実績】				•	T	T	T		
	①現状	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ	汚泥	廃水銀						
		自ら再生利用を行った 特別管理産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t		
		【目標】										
	②計画	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ	汚泥	廃水銀						
		自ら再生利用を行う 特別管理産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t		
自	ら行う特別	川管理産業廃棄物の中		項								
		【前年度(令和5年月	度) 実績】							•		
		特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ	汚泥	廃水銀						
	①現状	自ら熱回収を行った 特別管理産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t		
		自ら中間処理により減量した 特別管理産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t		
		【目標】										
		特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ	汚泥	廃水銀						
		自ら熱回収を行う 特別管理産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t		
		自ら中間処理により減量する 特別管理産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t		

自	ら行う特別	川管理産業廃棄物の埋	立処分に関する事	事項							
	【前年度(令和5年度)実績】										
	①現状	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ	汚泥	廃水銀					
	① 現 扒	自ら埋立処分を 行った特別管理 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	
		【目標】							•		
	②計画	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ	汚泥	廃水銀					
		自ら埋立処分を 行う特別管理 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	
特为	引管理産業	奏 廃棄物の処理の委託 【前年度(令和5年									
		特別管理産業廃棄物の種類	<u> </u>	廃アルカリ	汚泥						
				一 焼 ノ ル カ リ	1776)					
		全処理委託量	0.2 t	1417.7 t	628.6 t	0.0 t	t	t	t	t	
	①現状	優良認定処理業者への 処理委託量	0.2 t	1417.7 t	628.6 t	0.0 t	t	t	t	t	
		再生利用業者への 処理委託量	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	t	t	t	t	
		認定熱回収業者への 処理委託量	0.2 t	747.9 t	628.6 t	0.0 t	t	t	t	t	
		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	t	t	t	t	
		【目標】		I	I		1	I	T		
		特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ	汚泥	廃水銀					
		全処理委託量	1.0 t	1800.0 t	700.0 t	1.0 t	t	t	t	t	
	②計画	優良認定処理業者への 処理委託量	1.0 t	1800.0 t	700.0 t	1.0 t	t	t	t	t	
		再生利用業者への 処理委託量	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	t	t	t	t	
		認定熱回収業者への 処理委託量	1.0 t	948.6 t	700.0 t	0.0 t	t	t	t	t	
				認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	t	t	t



特別管理産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和6年6月28日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

提出者 〒290-8558

住 所 千葉県市原市五井海岸2番地

氏 名 コスモ石油株式会社

取締役執行役員千葉製油所長 禰津 知徳

電話番号 0436-23-4116

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和5年度の特別管理産業

廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

事	業場	· 0	名	称	コスモ石油株式会社 千葉製油所	
事	業場	の所	在	地	千葉県市原市五井海岸2番地	
事	業	0	種	類	E17-石油製品·石炭製品製造業	
特別管理産業廃棄物処理計画 に お け る 計 画 期 間				令和5年4月1日から令和6年3月31日まで		

特別管理産業廃棄物処理計画における目標値

	項目		目標値	項目	目標値
排	出	量	1846 . 0 t	全 処 理 委 託 量	1846.0 t
, , _	再 生 利 用 を う理産業廃棄物	, ,	0.0 t	優良認定処理業者への 処理 委託 量	1846.0 t
自 ら 特別智	熱 回 収 を ぎ理産業廃棄物	行 う 勿の量	0.0 t	再生利用業者への処理 委託 量	1015.0 t
	間処理により減ず理産業廃棄物		0.0 t	認定熱回収業者への処理 委託 量	770.0 t
自 を 特別管	埋立 处行行理産業廃棄物	5	0.0 t	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理 委託 量	0.0 t

電子情報処理組織の使用に関する事項

特別管理産業廃棄物排出量	前々年度	1565.1	t
(ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	前年度	2051.9	t

(電子情報処理組織の使用に関して実施した取組)

既に電子マニフェストを導入している。

※事務処理欄

④熱回収認定業者以外の 熱回収を行う業者への処理

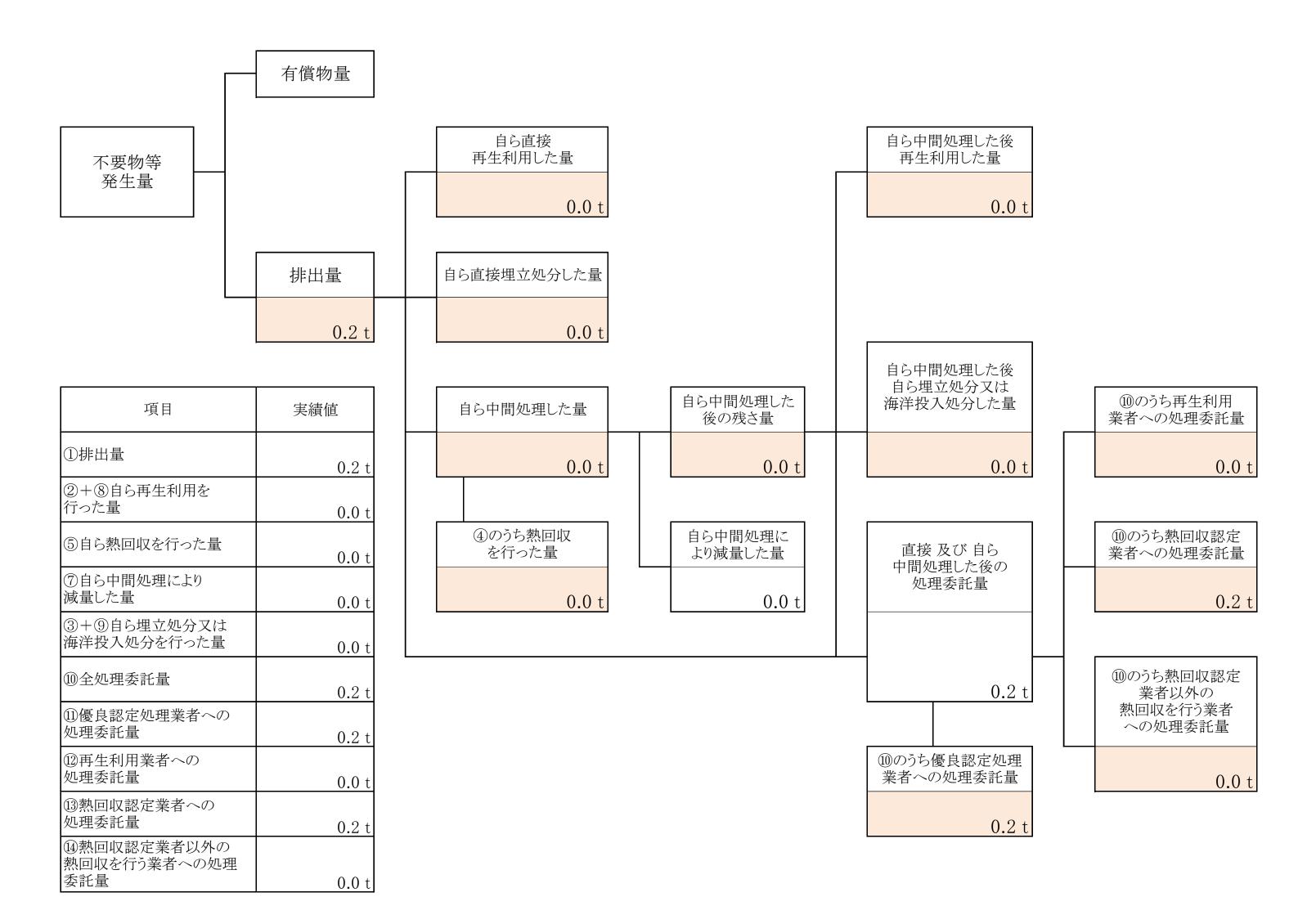
委託量

有償物量

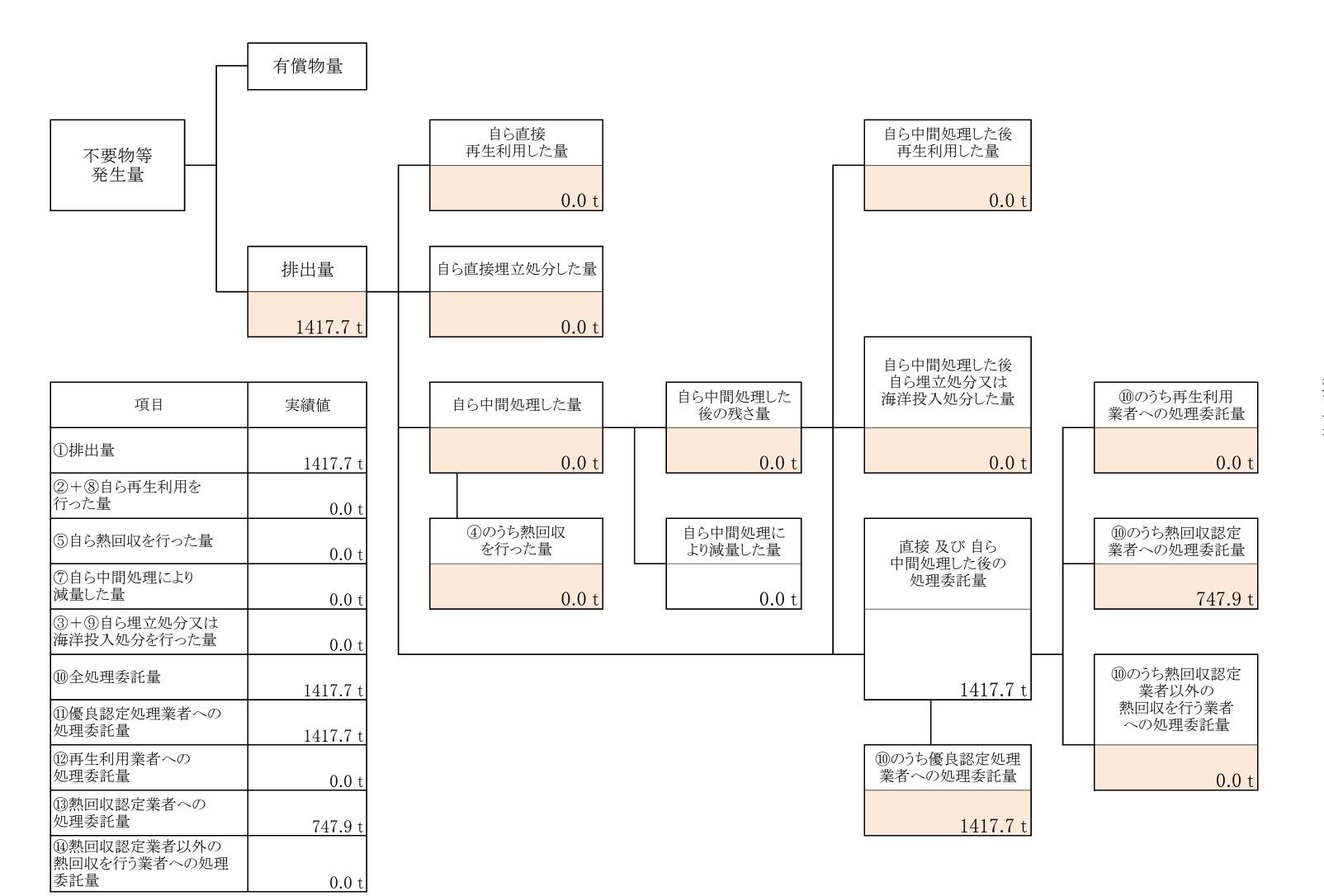
0.0 t

(第2面)





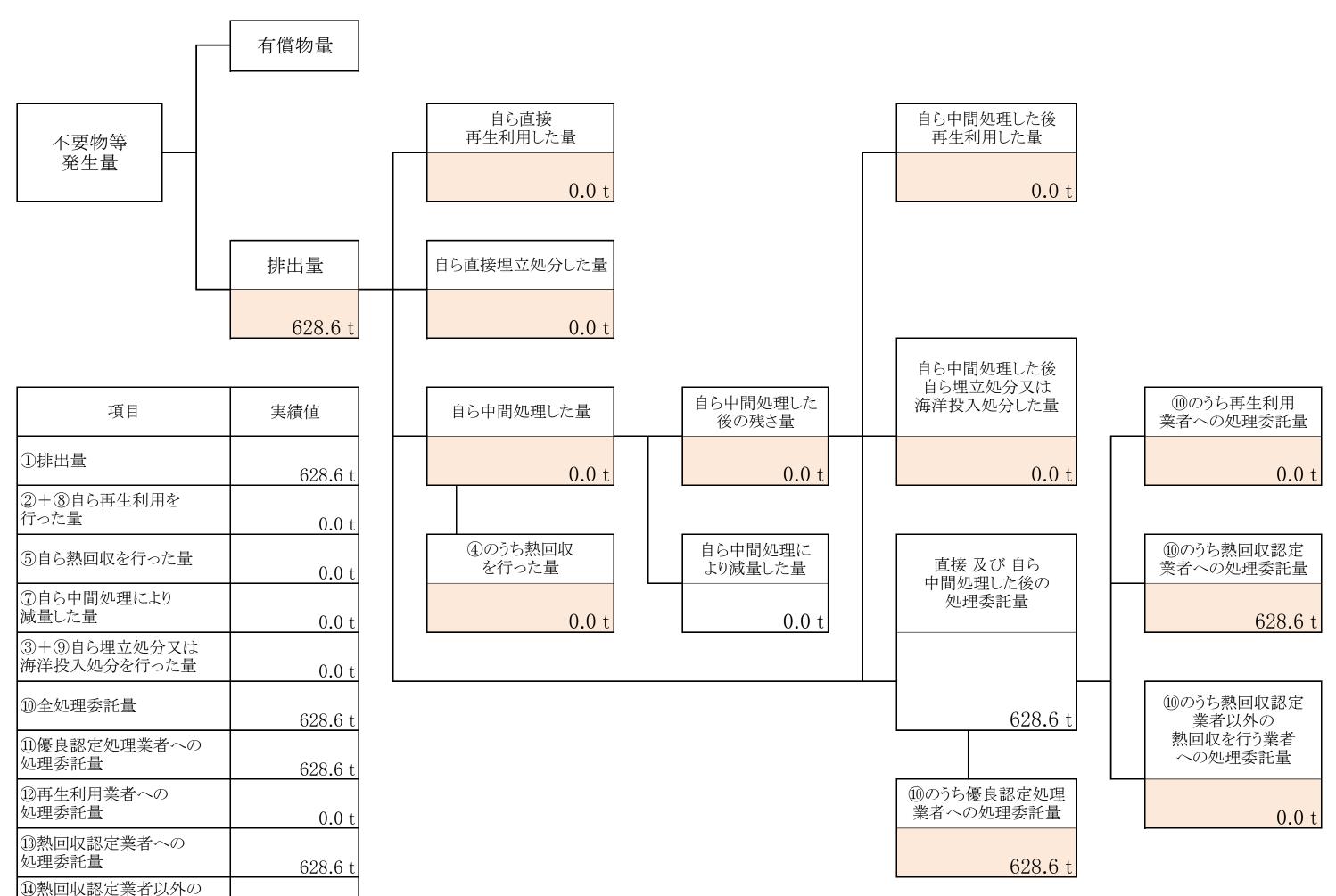




熱回収を行う業者への処理

0.0 t

委託量



- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「特別管理産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、特別管理産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の特別管理産業廃棄物の処理に関して、①~⑭の欄のそれぞれに、(1) から (14) に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた特別管理産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした特別管理産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者 (廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令 (以下「令」という。)第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ③欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への 焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、特別管理産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 特別管理産業廃棄物の種類が2以上あるときは、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、第2 面の例により特別管理産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面 を添付すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前々年度及び前年度における特別管理産業廃棄物の排出量(ポリ塩化ビフェニル廃棄物(令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。)を除く。)並びに電子情報処理組織使用義務者にあっては前年度に実施した電子情報処理組織の使用に関する取組(情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当したときは、その旨及び理由を含む。)について記入すること。
- 8 ※欄は記入しないこと。

(第1面)

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和6年 6月 11日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

提出者 〒143-0003

住 所 東京都大田区京浜島三丁目5番6号 氏 名 小松川化学株式会社 代表取締役 番條貢太 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0475-58-5174

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和 5 年度の産業廃棄物 処理計画の実施状況を報告します。

事業場の名称	小松川化学株式会社 千葉工場
事業場の所在地	千葉県東金市薄島下申新田1072-3他
事業の種類	E16-化学工業
産業廃棄物処理計画における 計 画 期 間	令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

産業廃棄物処理計画における目標値

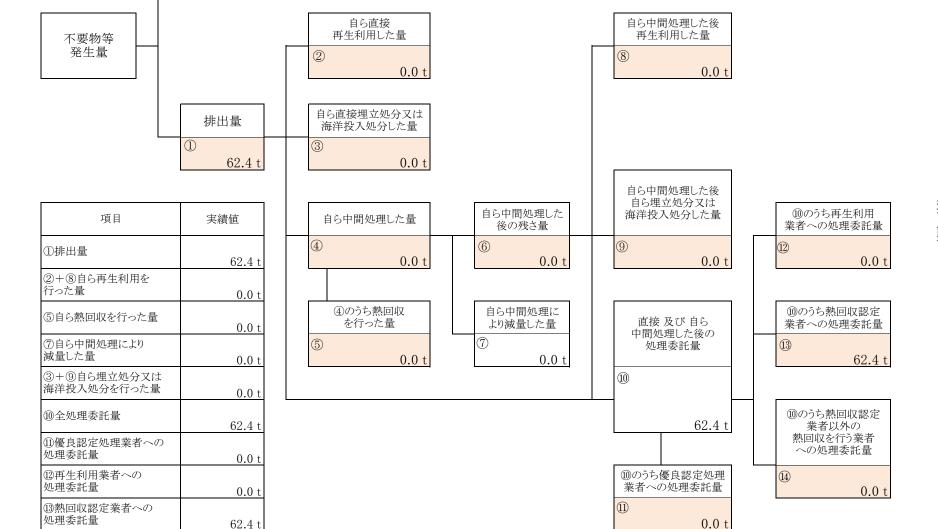
~# H	D 137/	7F 17	D IT /-	
項目	目標値	項目	目標値	
排出量	1580.0 t	全処理委託量	1580.0 t	
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0.0 t	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	180.0 t	
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0.0 t	再生利用業者への処理 委託 量	0.0 t	
自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	0.0 t	認定熱回収業者への処理 委託 量	600.0 t	
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0.0 t	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理 委託 量	100.0 t	
※事務処理欄				

(日本工業規格 A列4番)

委託量

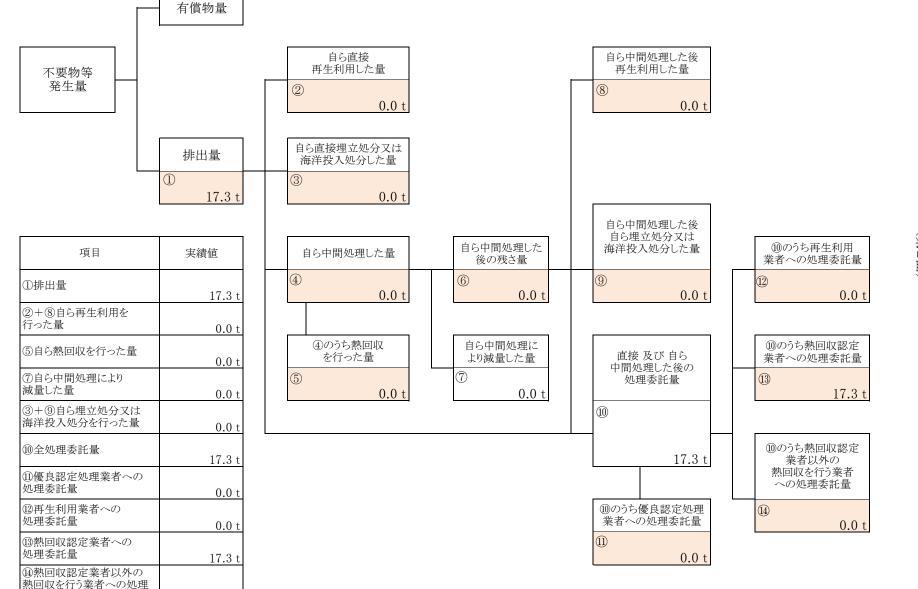
有償物量

0.0 t



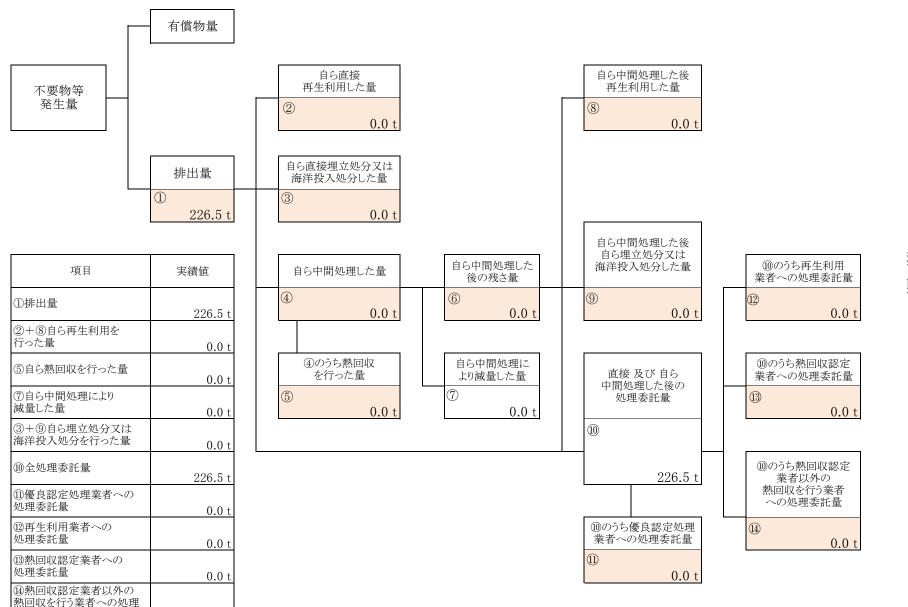
(第2面)

0.0 t

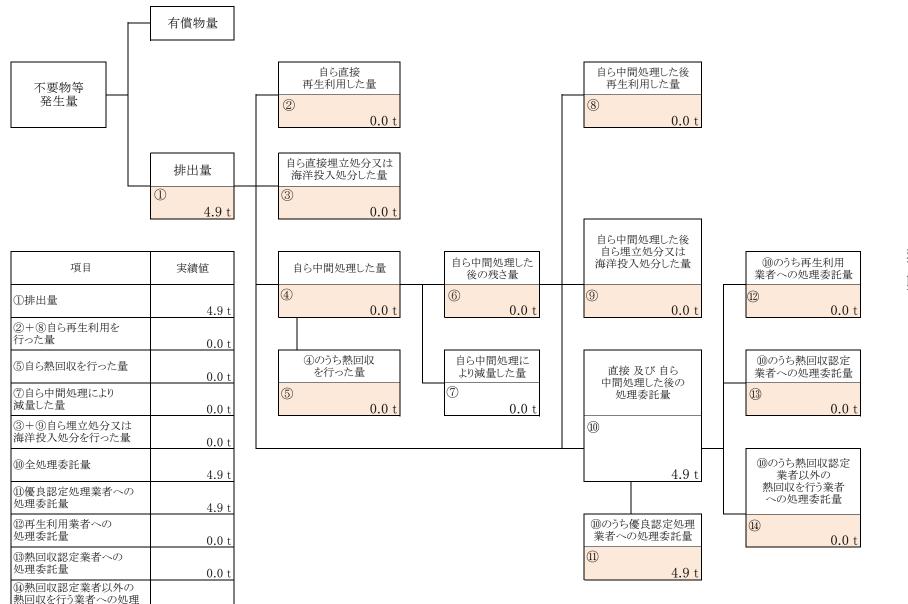


(第2面)

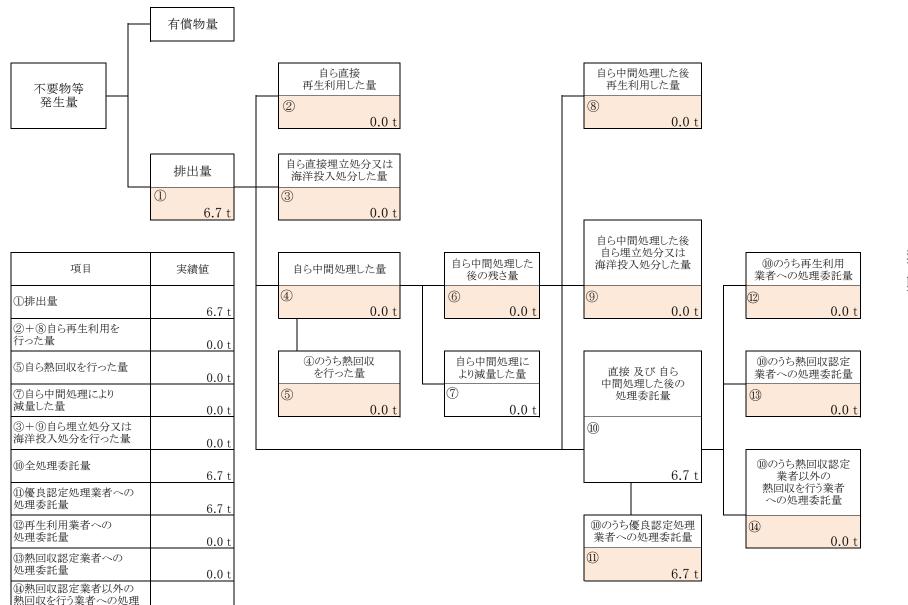




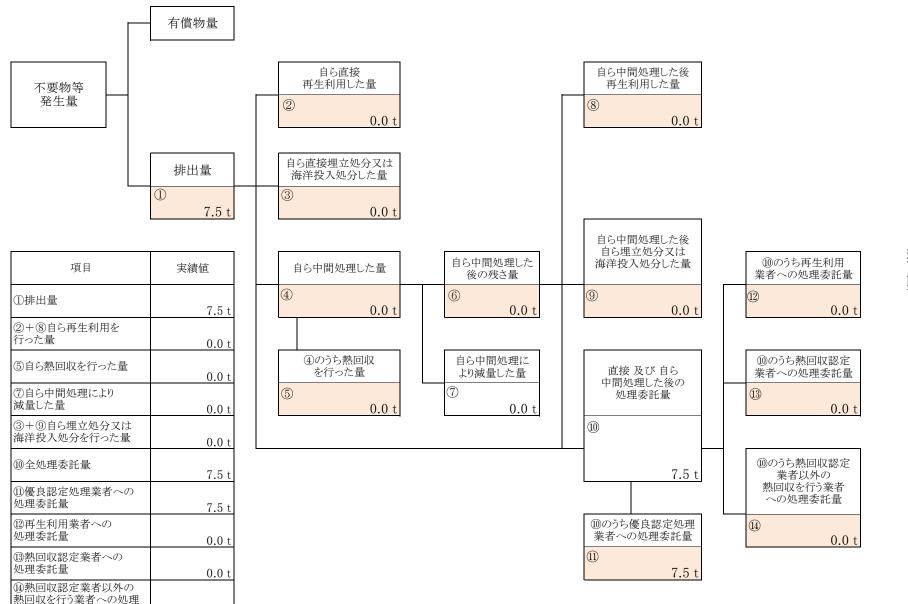












- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載 した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物処理に関して、①~⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14) に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄(1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄(4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) (8)欄(6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令 第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ③欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律 第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への 焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記 入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和 6年 6月 11日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

提出者〒143-0003

住 所 東京都大田区京浜島三丁目5番6号

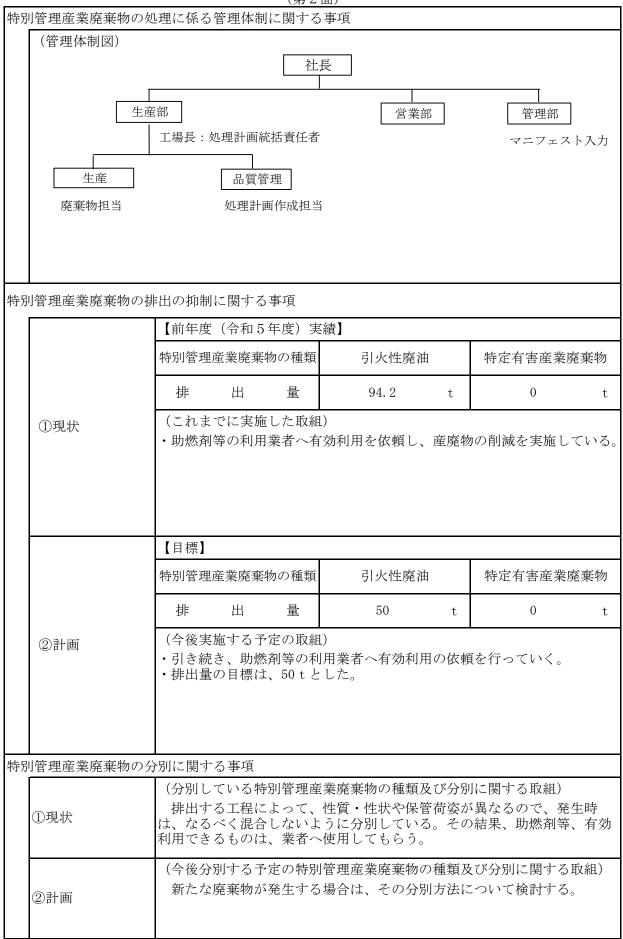
氏 名 小松川化学株式会社 代表取締役 番條貢太 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0475-58-5174

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

	事業場の名称	小松川化学株式会社 千葉工場
	事業場の所在地	千葉県東金市薄島下申新田1072-3他
	計画期間	令和6年4月1日から令和7年3月31日まで
当	該事業場において現に行っ	っている事業に関する事項
	①事業の種類	E16-化学工業
	②事業の規模	前年度の製造品出荷額 10億4百万円
	③ 従 業 員 数	14名(正社員14名)
	④ 特別管理 ・産業廃棄物の 一連の処理の工程	製造工程 有機溶剤製造工程 有機合成品製造工程 引火性廃油

(日本工業規格 A列4番)



(第3面) 産業廃棄物の再生利用に関する事項				
	1			
特別管理産業廃棄物の種類		<u></u> 油	特定有害産業	廃棄物
自ら再生利用を行った	0		0	t
<u> </u>			Ů	
(こればてに美地した収組)				
【目標】				
特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃	油	特定有害産業	廃棄物
自ら再生利用を行う 特別管理産業廃棄物の量	0	t	0	1
(今後実施する予定の取組)				
 産業廃棄物の中間処理に関する事項				
T]			
特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃	油	特定有害産業	廃棄物
自 ら 熱 回 収 を 行 っ た 特別管理産業廃棄物の量	0	t	0	1
自ら中間処理により減量した 特別管理産業廃棄物の量	0	t	0	
(これまでに実施した取組)				
【目標】	نمات ادا ا	/ 由	特定有害産業	皮套物
特別答用充業成棄物の種類	己しルが出収い		付足有音座来	严果 权
特別管理産業廃棄物の種類 自 ら 熱 回 収 を 行 う	引火性廃		0	
自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	列火性廃; 0	t	0	t
自ら熱回収を行う			0	
自 ら 熱 回 収 を 行 う特別管理産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量する	0	t		t
自 ら 熱 回 収 を 行 う特別管理産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	0	t		
自 ら 熱 回 収 を 行 う特別管理産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	0	t		
	産業廃棄物の再生利用に関する事項 【前年度(令和5年度)実績 特別管理産業廃棄物の種類 自別管理産業廃棄物の種類 自別管理産業廃棄物の種類 自別管理産業廃棄物の種類 自身別管理産業廃棄物の取組) (これまでに実施した取組) 産業廃棄物の中間処理に関する事項 (今後実施する予定の取組) 産業廃棄物の中間処理に関する事項 特別管理産業廃棄物の種類 自ら際理産業廃棄物の種類 自りの管理産業廃棄物の種類 自身別管理産業廃棄物の種類 自身別管理産業廃棄物のもしの 特別管理産業廃棄物のもしの 特別では、ないののとののした 特別では、ないののとののした 特別では、ないののとののといる。 は、ないのと、ないのと、ないのと、ないのと、ないのと、ないのと、ないのと、 は、ないのと、ないのと、ないのと、ないのと、ないのと、ないのと、ないのと、ないのと	 産業廃棄物の再生利用に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】 特別管理産業廃棄物の種類 引火性廃されまでに実施した取組) 【目標】 特別管理産業廃棄物の種類 引火性廃されまでに実施した取組) 【目標】 特別管理産業廃棄物の量 の (今後実施する予定の取組) 産業廃棄物の中間処理に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】 特別管理産業廃棄物の種類 引火性廃されまり、禁煙・ 自らり、禁煙・ 自らり、禁煙・ 自らり、対した時別管理産業廃棄物の量 の (これまでに実施した取組) 【目標】 	産業廃棄物の再生利用に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】 特別管理産業廃棄物の種類 引火性廃油 自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の種類 引火性廃油 自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量 0 t (これまでに実施した取組) 【目標】 特別管理産業廃棄物の量 0 t (今後実施する予定の取組) 産業廃棄物の中間処理に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】 特別管理産業廃棄物の量 引火性廃油 自ら熱 回収を行った特別管理産業廃棄物の量 り t しら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量 0 t (これまでに実施した取組)	産業廃棄物の再生利用に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】 特別管理産業廃棄物の種類 引火性廃油 特定有害産業 自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) 【目標】 特別管理産業廃棄物の量 0 t 0 (今後実施する予定の取組) 産業廃棄物の中間処理に関する事項 【前年度(令和5年度)実績】 特別管理産業廃棄物の量 引火性廃油 特定有害産業 自ら熟 回収を行った 会別管理産業廃棄物の量 0 t 0 は の で で の で で の で で の で で の で で の で の で

(第4面)				
		h	烘 完右宝亲类	亥棄 肳
	りが生産す	Ц	村	角果物
日 り 埋 並 処 分を 行 っ た特別管理産業廃棄物の量	0	t	0	t
(これまでに実施した取組)				
【目標】				
特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃洞	Ħ	特定有害産業	廃棄物
自 ら 埋 立 処 分 を 行 う 特別管理産業廃棄物の量	0	t	0	t
(今後実施する予定の取組)				
V. o. [1971] o. 45-22) - 141) - 17 - 17 - 17				
1	1			
			41 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1	
特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃淮	H	特定有害産業	廃棄物
全 処 理 委 託 量	94. 2	t	0	t
優良認定処理業者への 処理 委託 量	10. 52	t	0	t
再生利用業者への 処理 委託 量	0	t	0	t
認定熱回収業者への処理 委託 量	83.68	t	0	t
認定熱回収業者以外の	0	t	0	t
熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量				
処 理 委 託 量 (これまでに実施した取組)	مالد مالد ما			
処 理 委 託 量	いる業者に委割	托する。		
処 理 委 託 量 (これまでに実施した取組)	いる業者に委訂	託する。		
処 理 委 託 量 (これまでに実施した取組)	いる業者に委割	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
	【前年度(令和5年度)実績特別管理産業廃棄物の種類 自を特別管理産業廃棄物の種類 自を特別でまでに実施した取組) 【目標】特別管理産業廃棄物の種類 自を特別で、産業を受験を対したで、産業を受験を対したで、産業を受験を対して、大力を対しでは、大力を対しないっして、大力を対して、大力を対して、大力を対して、大力を対して、大力を対して、大力を対して、大力を対して、大力を対して、大力を対して、大力を対して、大力を対して、大力を対して、大力を対して、大力を対して、大力を対して、大力を対して、力力を対して、大力を対して、大力を対して、大力を対して、大力を対して、大力を対して、大力を対して、大力を対して、大力を対して、力力を対して、大力を対して、大力を対して、対力を対して、大力を対して、大力を対して、大力を対して、力力を対して、力力を対して、力力を対して、力力を対して、力力を対して、力力を対して、力力を対して、力力を対して、力力を対しなりが、対力を対しなりでは、力力を対しなりでは、対力を対しなりでは、力力を対しないなりでは、力力を対しなりでは、力力を対しなりがものでは、力力を対しないなりでは、力力を対しないなりでは、力力を対しなりがものでは、力力を対しなりがものでは、力力を対しなりがものものでは、力力を対しなりがものではなりがものものではなりがものものではなりがものものではなりではなりではなりではなりがものではなりがものではなりがものではなりがものではなりがものではなりがものではなりがものではなりがものではなりがものではなりがものではなりがものではなりがものではなりがものものではなりがものではなりではなりがものではなりではなりがものではなりがものではなりではなりがものではなりがものではなりがものではなりがものではなりではなりではなりがものではなりではなりがものではなりではなりではなりではなりではなりがものではなりがものではな	自	「前年度(令和5年度)実績	Tin年度 (令和5年度) 実績

(第5面)

	(第 5	山/			
	【目標】				
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃	油	特定有害産業廃棄物	
	全 処 理 委 託 量	50	t	0	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0	t	0	t
	再生利用業者への 処理 委託 量	0	t	0	t
	認定熱回収業者への処 理 委 託 量	50	t	0	t
②計画	認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への処理 委 託 量	0	t	0	t
	【关欠应 (公司 [欠应) 生	· (全集】			
	【前年度(令和5年度)実特別管理産業排出 出 (ポリ塩化ビフェニル廃棄)	廃 棄 物 量		94. 2	t
電子情報処理組織の使用 に関する事項	(今後実施する予定の取組 産業廃棄物はすべて電子マ		る業務処	L理を行っている	o
※事務処理欄					

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
- (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
- (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の 種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管 理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、 目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令(以下「令」という。)第6条の14第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量(ポリ塩化ビフェニル廃棄物(令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。)を除く。)を記入すること。その量が50トン以上の者にあっては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等(情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。)について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和6年 6月 11日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

提出者 〒143-0003

住 所 東京都大田区京浜島三丁目5番6号 氏 名 小松川化学株式会社 代表取締役 番條貢太 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号

0475-58-5174

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和 5年度の特別管理産業 廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

事	業	場	の	名	称	小松川化学株式会社 千葉工場
事	業	場の	所	在	地	千葉県東金市薄島下申新田1072-3他
事	業	0,)	種	類	E16-化学工業
特別に	特別管理産業廃棄物処理計画 における計画期間 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで					

特別管理産業廃棄物処理計画における目標値

	項目		目標値	項目	目標値
排	出	量	301.0 t	全 処 理 委 託 量	301.0 t
	再 生 利 用 を ・理産業廃棄物		0.0 t	優良認定処理業者への 処理委託量	0.0 t
自 ら 特別管	熱 回 収 を ・理産業廃棄物	行う	0.0 t	再生利用業者への 処理委託 量	0.0 t
	間処理により減; 理産業廃棄物		0.0 t	認定熱回収業者への処理 委託 量	301.0 t
自 を 特別管	行	Ď	0.0 t	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0.0 t

電子情報処理組織の使用に関する事項

特別管理産業廃棄物排出量	前々年度	336.2 t
(ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	前年度	94.2 t

(電子情報処理組織の使用に関して実施した取組)

産業廃棄物はすべて電子マニフェストによる業務処理を実施している。

※事務処理欄

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「特別管理産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、特別管理産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の特別管理産業廃棄物の処理に関して、①~ Φ の欄のそれぞれに、(1) から(14)に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた特別管理産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした特別管理産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者 (廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令 (以下「令」という。)第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ③欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への 焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、特別管理産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの 実績値を記入すること。
- 6 特別管理産業廃棄物の種類が2以上あるときは、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、第2 面の例により特別管理産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面 を添付すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前々年度及び前年度における特別管理産業廃棄物の排出量(ポリ塩化ビフェニル廃棄物(令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。)を除く。)並びに電子情報処理組織使用義務者にあっては前年度に実施した電子情報処理組織の使用に関する取組(情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当したときは、その旨及び理由を含む。)について記入すること。
- 8 ※欄は記入しないこと。